

第65回

The 65th

# 日本生態学会大会

Annual Meeting of the Ecological Society of Japan

## プログラム

Program

開催期間: 2018年3月14日(水)～18日(日)

会場: 札幌コンベンションセンター

大会HP: <http://www.esj.ne.jp/meeting/65/>



# [ CONTENTS ]

001	大会日程概略
002	大会日程一覧表
005	諸案内
005	注意事項
007	General instruction
007	Notices for participants
008	日本生態学会大会規則
009	アクセス・地図／Access and maps
013	学会賞各賞授賞式・受賞記念講演
013	高校生ポスター発表・みんなのジュニア生態学講座
014	公開講演会
015	シンポジウム概要／Symposia
028	フォーラム概要／Forums
033	企画集会概要／Organized sessions
044	口頭発表一覧／Oral presentations
052	ポスター発表一覧／Poster presentations
083	高校生ポスター発表一覧／Poster presentations by high school students
085	自由集会概要／Workshops
103	発表者・企画者一覧
	協賛一覧・広告
	第66回日本生態学会大会(2019年3月・神戸)のご案内
	大会企画委員会・大会実行委員会名簿

# 大会日程 概略

---

## ●各種委員会 | 3月14日(水) | 札幌コンベンションセンター

生態系管理専門委員会	09:00-11:00	(K会場)	日本生態学会誌刊行協議会	13:30-15:30	(K会場)
外来種問題検討作業部会	09:00-11:00	(102会議室)	キャリア支援専門委員会	13:30-15:30	(102会議室)
大会企画委員会	09:00-11:00	(H会場)	生態学教育専門委員会	13:30-15:30	(103会議室)
将来計画専門委員会	11:15-13:15	(K会場)	Ecological Research刊行協議会	13:30-15:30	(H会場)
自然保護専門委員会	11:15-13:15	(102会議室)	野外安全管理委員会	13:30-15:30	(203会議室)
保全誌刊行協議会	11:15-13:15	(103会議室)	大規模長期生態学専門委員会	13:30-15:30	(205会議室)
大会あり方検討部会	11:15-13:15	(H会場)			
電子情報委員会	11:15-13:15	(205会議室)	代議員会	17:00-20:00	(H会場)

---

## ●総会・授賞式・受賞講演 | 3月17日(土) | 札幌コンベンションセンター S会場 (特別会議場)

総会	09:00-10:00
授賞式 [生態学会賞/宮地賞/大島賞/奨励(鈴木)賞/ 功労賞/ER論文賞/ポスター賞/英語口頭発表賞]	10:20-11:40
総会第二部	11:40-12:30
受賞記念講演 [生態学会賞/宮地賞/大島賞/奨励(鈴木)賞]	14:30-17:00

---

## ●一般講演・シンポジウム・フォーラム・各種集会等

シンポジウム (S)	3月15日(木), 16日(金), 18日(日)
企画集会 (T)	3月15日(木), 16日(金), 18日(日)
自由集会 (W)	3月14日(水), 17日(土)
フォーラム・ランチョンフォーラム (U)	3月15日(木), 16日(金), 18日(日)
一般講演(口頭発表)	3月15日(木), 16日(金)
一般講演(ポスター発表)	3月15日(木), 16日(金), 17日(土)
高校生ポスター発表・ジュニア生態学講座	3月17日(土)

---

## ●懇親会 | 3月16日(金) 18:30-20:30 | 京王プラザホテル札幌

---

## ●公開講演会 | 3月18日(日) 13:00-15:00 | 札幌コンベンションセンター S会場 (特別会議場)

---

## ●エコカップ2018 札幌大会 | 3月19日(月) | 札幌市スポーツ交流施設 コミュニティドーム「つどーむ」

大会サテライト企画として、日本生態学会大会に合わせて開催されてきた親善フットサル大会(5人制のミニサッカー)は、大会翌日の3月19日(月)札幌市スポーツ交流施設 コミュニティドーム「つどーむ」で開催されます。詳細は以下のWebページにてご確認ください。<http://stellaria.lowtem.hokudai.ac.jp/ecocup2018/>

---

3月14日 (水)

March 14 (Wed)

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
<b>Room S</b> 特別会議場												
<b>Room A</b> 中ホールA								W01 画像認識・分類技術の生態学への応用と課題		W10 AIとITの間		
<b>Room B</b> 中ホールB								W02 ダニ媒介感染症		W11 外温動物における生活史形質の緯度クライン		
<b>Room C</b> 104+105								W03 道具としての形態測定学		W12 遺伝的地域性とその保全		
<b>Room D</b> 107								W04 動物の動きが生態系を駆動する		W13 博物館の生態学12「市民参加型調査」		
<b>Room E</b> 108								W05 ビブリオバトル@生態学会		W14 きのこる5-ナメクジ		
<b>Room F</b> 小ホール								W06 いまさら聞けないNGS		W15 続・MIG-seqのすべて		
<b>Room G</b> 204								W07 Rの新しい作図・作表		W16 植物生理生態学の見える化		
<b>Room I</b> 207								W08 行政の生態学2		W17 ポスト愛知目標		
<b>Room J</b> 206								W09 水草モニタリング		W18 生態系機能・サービス・生物多様性リモセン		
<b>Room H</b> 201+202	大会企画委員会		大会あり方検討部会		ER刊行協議会		代議員会					
<b>Room K</b> 101	生態系管理専門委員会		将来計画専門委員会		生態誌刊行協議会							
<b>Room 102</b>	外来種検討作業部会		自然保護専門委員会		キャリア支援専門委員会							
<b>Room 103</b>			保全誌刊行協議会		生態学教育専門委員会							
<b>Room 205</b>			電子情報委員会		大規模長期生態学専門委員会							
<b>Room 203</b>					野外安全管理委員会							
<b>Room P</b> 大ホール	企業展示 搬入・展示の準備が整い次第 -20:00											

3月15日 (木)

March 15 (Thu)

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	
<b>Room S</b> 特別会議場													
<b>Room A</b> 中ホールA	S01 進化と保安全管理					口頭発表 保全/生態系管理				T04 生物多様性の保全計画			
<b>Room B</b> 中ホールB	S02 Beech-Oak Forests in the Temperate Zone					口頭発表 外来種				T05 国内外来種を考える			
<b>Room C</b> 104+105	T01 統計モデリングによる生態学の新展開		U01 男女共同参画「めざせ！仕事の効率アップ」			English Sessions Conservation & Ecosystem Management				T06 新たな脅威と生物群集			
<b>Room D</b> 107	T02 環境DNA分析における技術の進展					口頭発表 菌類・微生物/数理				T07 生態学者による感染症へのアプローチ			
<b>Room E</b> 108	T03 行動学における構成的アプローチ		U02 効率的な論文出版			English Sessions Animal Ecology & Animal-Plant Interaction				T08 島嶼の希少魚リュウキュウアユの保全			
<b>Room F</b> 小ホール	S03 センシティブティマップの普及に向けて					口頭発表 行動				T09 Community assembly process			
<b>Room G</b> 204	S04 Phenological diversity and communities					口頭発表 進化/生物多様性				T10 枯死木分解と生物群集			
<b>Room H</b> 201+202						English Sessions Biodiversity				T11 シカ植生指標			
<b>Room I</b> 207	S05 琵琶湖の生物の進化史					口頭発表 植物生理生態/植物繁殖				T12 New insights from digital tools			
<b>Room J</b> 206	S06 アミノ酸栄養段階と生態学					口頭発表 動物生活史/動物個体群				T13 里地里山のアグロエコロジカル駆動因			
<b>Room P</b> 大ホール	Poster			Poster Core Time			Poster						
	企業展示 9:00-20:00												

3月16日 (金)

March 16 (Fri)

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
<b>Room S</b> 特別会議場												
<b>Room A</b> 中ホールA	S07 北海道-東北アジア国際共同 植物研究・保全					口頭発表 保全						
<b>Room B</b> 中ホールB	S08 Ecology and Functional Traits					口頭発表 生態系管理						
<b>Room C</b> 104+105	T14 思いの多型		U03 キャリア支援フォーラム			English Sessions Evolution						
<b>Room D</b> 107	S09 えこえびの展開				U04 野外調査の安全講習	口頭発表 植物個体群 / 物質循環						
<b>Room E</b> 108	T15 環境保全型農業と水 田の生物多様性		U05 Future Earthにおける 生態学者の役割			English Sessions Plant Ecology & Nutrient Cycling						
<b>Room F</b> 小ホール	S10 統計教育					口頭発表 進化 / 行動						
<b>Room G</b> 204	S11 Biodiversity					口頭発表 生物多様性						
<b>Room H</b> 201+202						English Sessions Behavioral Ecology						
<b>Room I</b> 207	S12 河川景観ネットワークの時 空間変化					口頭発表 動物と植物の相互作用						
<b>Room J</b> 206	S13 系統地理学と地質学からせ まる生物多様性					口頭発表 動物群集						
<b>Room P</b> 大ホール	Poster 企業展示 9:00-20:00			Poster Core Time		Poster						
<b>大会会場 エントランス</b>	ポスター賞受賞ポスター掲示											
<b>京王プラザホテル札幌</b>											懇親会 Banquet	

3月17日 (土)

March 17 (Sat)

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
<b>Room S</b> 特別会議場	総会	授賞式	総会 第二部				受賞講演会					
<b>Room A</b> 中ホールA						ジュニア生態学講座・ 高校生ポスター授賞式				W19 個性研究のすすめ		
<b>Room B</b> 中ホールB											W20 動く・動かない	
<b>Room C</b> 104+105											W21 性が駆動する進化 と生態	
<b>Room D</b> 107											W22 外来植物が在来昆 虫に与えるインパクト	
<b>Room E</b> 108											W23 生物多様性と資源 利用	
<b>Room F</b> 小ホール											W24 アイデアの共有と idea paper	
<b>Room G</b> 204											W25 人・自然・都市計 画の相互作用	
<b>Room H</b> 201+202											W26 ディープラーニン グが革新する生態学	
<b>Room I</b> 207											W27 野生生物の管理ユ ニット	
<b>Room J</b> 206											W28 間接効果を通して 見る世界	
<b>Room K</b> 101											W29 サケの保全活動	
<b>Room P</b> 大ホール	Poster 高校生 ポスター掲示			Poster Core Time		Poster						
	高校生 ポスター掲示		高校生ポスターコアタイム		高校生ポスター掲示							
	企業展示 9:00-20:00											
<b>大会会場 エントランス</b>	ポスター賞受賞ポスター掲示											

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
<b>Room S</b> 特別会議場					公開講演会							
<b>Room A</b> 中ホールA	S14 Vegetation under stress											
<b>Room B</b> 中ホールB	S15 生物多様性の未来											
<b>Room D</b> 107	T16 南硫黄島2017自然 環境調査			U06 アクティブ・ラーニン グと生態教育								
<b>Room E</b> 108	T17 21世紀のダム建設 ブームと生物多様性保全			U07 企業と生物多様性								
<b>Room F</b> 小ホール	S16 海洋生態学へのいざない											
<b>Room G</b> 204	S17 Fire ants											
<b>Room I</b> 207	S18 A new paradigm of adaptive evolution											
<b>Room J</b> 206	S19 AIと機械学習の可能性											
<b>Room P</b> 大ホール	企業展示 9:00-12:00											
<b>大会会場 エントランス</b>	ポスター賞受賞ポスター掲示											

## 諸案内

**受付** 2018年2月9日(金)までに参加費支払いを終了した方で、参加申込時に国内住所を登録された方には、3月8日(木)までに名札や領収書が送付されますので、その名札を持参してください。名札を持参された方の受付は不要です。●送付された名札を忘れた方、紛失した方は、下記の受付にて名札の再発行の手続きを必ず行って下さい。●それ以外の方は、受付で所定の手続き(名札などを受け取る)を済ませてください。●受付は、札幌コンベンションセンターにて、3月14日(水)は16:00以降、15日(木)から18日(日)の間は、当該日最初のセッション開始の30分前から開設しています。詳細は会場地図をご覧ください。●会場では必ず名札をつけてください。●大学の学部生以下(中・高校生を含む)の大会参加費は、聴衆としての参加に限り無料にします(高校生ポスター発表は無料)。ただし、参加費無料は大会当日受付に限ります。大会公式ホームページからの事前申し込みは行わず、当日大会の受付に学生証提示のうえお申し出ください。●講演要旨集は、2月中にインターネットで閲覧できる予定です(<http://www.esj.ne.jp/meeting/abst/index.html>)。インターネット接続機能を持った携帯電話等でもご覧頂けます。

**駐車場** 有料駐車場をご利用ください。料金他利用方法は以下のサイトをご覧ください(<http://www.sora-scc.jp/guide/parking.html>)。

**会場へのアクセス** 大会会場(札幌コンベンションセンター)の最寄り駅は地下鉄東西線札幌駅で、会場までは徒歩で

約8分です。その他詳細は大会公式ホームページ(<http://www.esj.ne.jp/meeting/65/access/>)をご覧ください。

**総会・受賞記念講演** 総会は、3月17日(土)9:00から特別会議場で開催します。総会への参加は会員に限られます。●総会に引き続き、各賞の表彰式及び受賞記念講演も同会場で行われます。

**懇親会** 懇親会は、3月16日(金)18:30から京王プラザホテル札幌で開催します。●会場へのアクセス、当日受付有無など詳細は大会公式ホームページをご覧ください。

**託児室** 大会会場内に、託児室(3月14日~18日)を設けます。ただし、利用は事前に申込・支払いをされた方に限ります。●開設時間・利用料金及び申し込み方法は、大会公式ホームページに掲載しています(<http://www.esj.ne.jp/meeting/65/nursery/>)。各締め切りは、申し込みが2018年2月13日(火)17:00、支払いが2018年2月28日(水)です。●ご不明の点がある場合は、大会実行委員会託児室担当(nursery@mail.esj.ne.jp)へお問い合わせください。

**ファミリー休憩室** 乳幼児や小学生連れの大会参加者向けのファミリー休憩室(3月14日~18日)を設けます。●お子様と一緒に食事や休憩、授乳などにご利用ください。●詳細は大会公式ホームページをご覧ください。

**宿泊・昼食** 大会中の宿泊は各自での手配をお願いします。札幌には様々な

宿泊施設がありますが、大会会場は札幌中心部から若干離れており、大会前後の他のイベント開催や春休み時期で混雑すると予想されます。宿泊の予約は早めにされることをお勧めします。●会場内および周辺には食事場所が少ないため、限られた時間の中で昼食を取れなくなる場合が考えられます。事前申込・支払い(振込)にてお弁当の予約販売をいたします。詳細は大会公式ホームページをご覧ください。

**ネットワーク接続** 会場では札幌市が提供するSapporo City Wi-Fiのサービスがご利用になれます。利用料金は無料です。接続には利用登録が必要で、一回の接続時間は30分です。詳細は大会公式ホームページをご覧ください。

**大会期間中の問い合わせ** 本大会に関する大会期間中の問い合わせは、大会本部に直接お越しいただくか、ホームページの問い合わせフォーム(<http://www.esj.ne.jp/meeting/forms/inquiry/index.cgi>)よりお尋ねください。

**公開講演会** 3月18日(日)に特別会議場にて一般市民向け講演会「極限に棲む生物の生き様 - 身近な生態系の成り立ちを知るヒント」を開催します。どなたでも自由に参加出来ますので、是非ご来場ください。

**みんなのジュニア生態学講座 - 高校生と研究者の交流会** 3月17日(土)に、気鋭の生態学者3名による高校生向けのトーク(話題提供)と高校生と研究者の交流会を行います。詳細は、大会公式ホームページ・本冊子をご覧ください。

## 注意事項

### 【参加者の皆様へ】

**大会規則** 本大会は、日本生態学会大会規則(本冊子に掲載)に基づいて実施されます。大会期間中、参加者はこの規則および下記の注意事項を遵守し、大会実行委員、座長、会場係の指示に従ってください。

**撮影について** 会場での講演・ポスターの撮影は、発表者の了承を得た場合に限り認められます。また、発表者に了承を得て撮影する場合でも周囲の方に迷惑がかからないようにしてください。

**会場での飲食、喫煙等** 会場内には、休憩室や休憩スペースを設けていますので、昼食等にご利用ください。F会場(2F小ホール)とS会場(1F特別会議場)は飲食禁止です。ゴミはできる限り持ち帰るよう、ご協力をお願いいたします。館内で購入されたものや個人のごみは分別の

上、館内ゴミ箱を利用可能です。●建物内は全館禁煙です。喫煙の際は、屋外に設置されている喫煙コーナー(合計3ヶ所)をお願いします。携帯灰皿を持参される場合でも所定の喫煙場所以外での喫煙はご遠慮ください。●その他、会場の利用案内に従っていただきます。

### 【発表者・企画者の皆様へ】

**キャリアエクスプローラマーク(CEマーク)の表示** 発表者である学生・ポスドクは、本人が希望する場合、求職中であることを示すキャリアエクスプローラマークを口頭発表やポスター発表の際に表示することができます。(社)応用物理学会HP(<http://www.jsap.or.jp/activities/annualmeetings/CEmark.html>)からダウ

ンロードし、口頭発表のタイトルページやポスターのタイトル付近に表示してください。CEマークの使用許可は取得済みです。

**一般講演(口頭発表)** 口頭発表は、会場備え付けのパソコン(OSはWindows10)と液晶プロジェクターを使用したマイクロソフトパワーポイント(Windows版PowerPoint2016)あるいはアドビリーダー(PDFファイル)による発表に限ります。持ち込んだパソコンを使用しての発表はできません。●講演時間は、発表12分、質疑応答3分の合計15分です。一鈴10分、二鈴12分、三鈴14分30秒です。時間を厳守してください。●パソコンの操作は、最初のスライドを表示するところまではオペレーター(会場係)が行います。その後の操作(スライドの進行)は、講演者自身で行うこと

も、会場のオペレーター（会場係）に指示することも可能です。●講演の終了した講演者は、次の講演の座長を務めてください。最初の座長は、大会実行委員会が対応します。

●発表用ファイルの作成方法：上記の使用機器に充分留意してください。また、「事前にお送りいただいた発表用ファイルを各会場のパソコンのハードディスクにあらかじめコピーしておく」ことをふまえ、発表用ファイルを作成してください。特に以下の点にご注意ください。●パワーポイントファイルは、Windows版 PowerPoint2016 で動作可能なことを確認してください。文字化けを避けるため、標準的なフォントを使用するか、ファイルにフォントを埋め込むことをお勧めします。液晶プロジェクターとスクリーンは、ワイド対応ではありませんので、縦横比 3:4 サイズでスライドを作成して下さい。●MacOS でファイルを作成した場合には、必ず Windows ファイルに変換し、Windows 機での動作確認を発表者の責任でおこなってください。●口頭発表用の\*.ppt、\*.pptx あるいは\*.pdf 形式ファイルのファイルサイズは 20MB 以下まで、かつ 1 ファイルのみにしてください。写真を多用される方は、解像度（あるいは画素数）を落とすなどの工夫をしてこの制限に対処してください。このファイルサイズの範囲内におさまるのであれば、ファイル内うめこみ動画再生など上記ソフトウェアの諸機能の利用は可能ですが、発表者が意図したとおりの動作を必ずしも保証するものではありません。●**発表用ファイルの提出期限：3月7日（水）23:59 まで**。大会参加登録システム(<https://iap.jp/org/esj/conf/logi.n.php>)にて登録してください。各自のファイル名は自動で作成されます。●期限までに発表用ファイルが登録されない場合には、プロジェクターを利用した発表はできません。なお、パソコンと液晶プロジェクターを使用しないで発表される場合は、**3月7日（水）23:59 までに esj\_program@mail.esj.ne.jp** へその旨をご連絡ください。発表用ファイルの登録がなく、ご連絡をいただけない場合には、発表ができませんので、ご注意ください。

**英語口頭発表賞** 広島大会（ESJ61）以来、大会における英語による研究発表を振興し、留学生や国外からの参加者との議論の場をより多く作るために、英語口頭発表賞の審査を実施しています。この賞には、大会での英語を用いた「科学コミュニケーション」を振興する目的があります。応募者は聴衆の多くが必ずしも英語を母国語とはしないこと、また、さまざまな研究背景を持つことを前提に、自身の研究成果をより多くの人にわかりやすく伝えるよう努力してください。●

英語口頭発表賞は一般講演（口頭発表）と基本的に同じ運営方法で実施されますので「一般講演（口頭発表）」の説明を確認のうえ、発表用ファイルのフォーマットや提出期限などにご注意ください。●受賞者リストは、確定次第、ポスター発表案内デスク付近とホームページにて掲示されるとともに、総会で発表されます。●表彰式は行いません。受賞者には賞状（電子ファイル）と副賞案内をメールでお送りいたします。英語口頭発表賞の詳細は、ホームページ(<https://sites.google.com/site/esj65engpresenaward/>)にも掲載しますのでご覧ください。●英語口頭発表賞セッションの座長は企画委員が務めます。

#### 一般講演（ポスター発表）

**ポスター会場** 3月15日（木）、16日（金）、17日（土）にポスター会場（P会場）で行います。●発表番号は、展示日（P1が15日、P2が16日、P3が17日）、および通し番号で構成されています。●展示案内地図は、大ホール入口に設置してあります。ご不明の点については、ポスター発表案内デスクのスタッフまでお問い合わせください。

**展示および発表時間** ポスター賞に応募した方の発表日は3月15日または16日、それ以外の方は3月16日または17日です。ポスター賞に応募している方は、発表前日17:30から発表当日9時までの間に展示を完了してください。展示が遅れた場合は、審査が受けられない可能性があります。賞に応募していない方は、ポスターの展示を発表前日17:30から発表当日の10時までの間に完了してください。●ポスターは90cm×210cm（縦長）の範囲内で作成してください。ポスター貼り付け用のピンや画鋏は各自でご用意下さい。●それぞれの発表日にコアタイム（15日：12:00-14:00、17日：12:30-14:30）を設けておりますので、発表者の方はポスター前にて説明をしてください。●ポスターの撤去は、当日の17:15までに完了してください。撤去されず残されたポスターは大会本部で預かりますが、会期終了後まで（18日15時まで）残っていたポスターは処分させていただきます。

**ポスター賞** 日本生態学会では、若手研究者の奨励のために優秀なポスター発表に賞を贈ります。選考上重視されるポイントは、ポスターの情報伝達能力と研究の質です。また審査の結果、同点であったポスターについては英語による理解が可能なポスターの順位を上とします。ポスター賞の運営方法や選考基準の詳細については、大会案内(<http://www.esj.ne.jp/meeting/65/over>

view/)の「ポスター賞」に記載されています。●受賞者リストは、確定次第、ポスター発表案内デスク付近にて掲示・発表します。●3月17日の学会各賞授賞式の際に受賞者の発表をします。受賞者には賞状（電子ファイル）を後日、メールでお送りいたします。●「最優秀賞」受賞ポスターは、3月18日12:00まで、大会会場エントランスにて特別展示されます。最優秀賞にノミネートされたポスターには、3月15日、16日の17:00までに最優秀賞の札を貼りますので、ポスターをお貸しください。特別展示終了時（3月18日12:00）より前にポスターを持ち帰る受賞者は、「大会受付」に申し出たうえ、お持ち帰りください。特別展示終了後、受賞者は各自でポスターを撤去してください。3月18日14:00までに撤去されず残されたポスターは大会本部で預かりますが、会期終了後まで残っていたポスターは処分させていただきます。

**高校生ポスター発表** 高校生のポスター発表（3月17日9:00～）に関する案内は、事前に世話人（栗和田隆）から引率教員あてに別途送付します。

**各種集会（シンポジウム、フォーラム、企画集会、自由集会）** 設定された時間内に終了してください。時間延長はできません。●発表には会場に設置されている液晶プロジェクターが使用できます。ただし、液晶プロジェクターに接続するパソコンおよび発表用ファイルは、企画者側で準備してください。パソコンと液晶プロジェクターをつなぐケーブルは、アナログのD-Sub15Pです。Macを使用する場合は、変換アダプタを持参して下さい。液晶プロジェクターとスクリーンは、ワイド対応ではありませんので、縦横比 3:4 サイズでスライドを作成して下さい。●企画集会と自由集会会場には会場係がつきません。問題がありましたら大会本部までご連絡ください。

**チラシ・パンフレット類** プロジェクト広報や案内等のチラシ・パンフレット配布を希望する団体や企業は、エントランスホールの一角に配架機を設けますので、そこに置いて会員が自由に持っていただけるようにして下さい。●配架は自由ですが、スペースに限りがありますので譲り合いの配架をお願いします。ただし、生態学会として相応しくないと判断されるチラシ・パンフレットは撤去することがあります。●パンフレット類の残部回収は大会最終日（3月18日）13:00までに行ってください。それ以後に残されていたチラシ・パンフレット類は廃棄いたしますので、ご了承下さい。

# General Instruction

**Check in:** Participants, who completed the payment before Friday, February 9, 2018 and registered the address in Japan will receive a name tag and a receipt by Thursday, March 8, 2018. Please bring the name tag to the conference. Participants with name tag do not need to check in on site. ●Participants, who lost their name tag, should be reissued the tag at the reception desk. ●Other participants should finish the prescribed processes and receive name tags at the reception desk. ●The reception desk will be open at the Sapporo Convention Center from 16:00 on Wednesday, March 14, and from 30 minutes before the first session of each day during March 15-18. You can check the place of the reception desk in the site map. ●Please wear a name tag in the venue. ●Undergraduate and younger students (including high school and junior high school students) who participate in the meeting as audiences (not as presenters) are exempt from registration fees. Applicants should not apply for prior registrations but the claim for the exemption on site, showing student ID cards at the reception desk. ●Abstracts will be available through the website (<http://www.esj.ne.jp/meeting/abst/index.html>) in February as HTML files. It is also accessible through mobile phones with Internet access.

**Parking:** A pay parking lot is available at the Sapporo Convention Center. For details, please visit the Web page at <http://www.sora-scc.jp/guide/parking.html>.

**Access to the Venues (Sapporo Convention Center):** It takes about 8 minutes on foot from Higashi-Sapporo Sta., Tozai Line. For details, please refer to the official website (<http://www.esj.ne.jp/meeting/65/en/access/>).

**General Meeting and Laureates' Lectures:**

General Meeting will be held from 9:00 AM on Saturday, March 17 at the Conference Hall. Participants are limited to ESJ members. ●Awards ceremony and Laureates' Lecture will follow the General Meeting at the same Hall.

**Banquet:** Banquet will be held on Friday, March 16 at Keio Plaza Hotel Sapporo (18:30-20:30). ●For details (e.g. access and/or participation etc.), please see the website of ESJ 65.

**Nursery:** A Nursery for babies and infants will be available during March 14-18. Application and payment are required beforehand. ●Details on the available time, costs, and application process are shown on the official website (<http://www.esj.ne.jp/meeting/65/en/nursery/>). The deadline for application is Tuesday, February 13, 2018, 17:00 (JST) and the deadline for the payment is Wednesday, February 28, 2018. ●If you have any questions, please ask the Nursery Charge in Organizing Committee of ESJ65 ([nursery@mail.esj.ne.jp](mailto:nursery@mail.esj.ne.jp)).

**Break room for parents and children:** A break room for parents accompanying babies, infants, and/or elementary school students will be available during March 14-18. ●The room can be used for having lunch, nursing and breast-feeding by parents with their children. ●Details will appear on the website of the ESJ65.

**Accommodation:** Participants are responsible for booking accommodation by themselves. There are a lot of accommodations in Sapporo, but the venue is located a little away from the city center. Most hotels are expected to be full before and after ESJ65

because of the other meetings, events and the spring vacation for students. We recommend to book as soon as possible.

**Cafeteria:** There are few restaurants and stands inside and around the venue. You may be unable to get lunch within the limited break time. We plan lunch sale at the venue with advance reservation and payment. Details will appear on the website of the ESJ65.

**Network Connections:** Free Wi-Fi service (Sapporo City Wi-Fi) is available in the venue. Registration is required for each connection, and Wi-Fi is available for up to 30 minutes each time you connect. Details will appear on the website of the ESJ65.

**Inquiry during the Annual Meeting:** If you have any questions at the ongoing ESJ65, please come to the head office or use the inquiry form on the website (<http://www.esj.ne.jp/meeting/forms/inquiry/index.cgi?E-page>).

**Public Lecture:** We have a public lecture "Life history of organism in extreme environment –hints to understand your neighborhood ecosystem–" at Conference Hall on Sunday, 18 March. The ESJ members and non-members are welcome and free to join the public lecture.

**Public Lecture for High School Students:** We have a public lecture "Junior Ecology Lecture" for high school students, and an exchange meeting between students and three energetic researchers on Saturday, 17 March. Details are shown at the official website and the program book.

## Notices for Participants

**[Notice to all participants]**

**Meeting bylaws:** The ESJ65 meeting will be held subject to the rules written in the bylaws for the ESJ meetings (printed in the program in Japanese). All the participants should keep to the bylaws and notices below, and follow instructions by members of the organizing committee, chairpersons, and session managers.

**Caution for copyrights and portrait rights:** Permission by presenters is required for taking photographs or video images of oral and poster presentations. Be careful not to disturb other audience members when taking photographs or videos.

**Food, Drinks and Smoking in the venue (Sapporo Convention Center):** There are Break Rooms and Rest Corners, that you can use for having lunch etc. Eating and drinking are not allowed in the Room F (2F) and Room S (1F). We ask you to take your trash back with you. Items purchased at the venue can be separated and thrown away trash can in the venue. ●Smoking is prohibited inside the whole venue, even if you have portable ashtray. Smoking is permitted in designated areas outside the building. ●Regulations set by Sapporo Convention Center

should also be observed.

**[Notices to presenters]**

**Career Explorer Mark:** If you are a student or a postdoctoral fellow searching for a research job, you may indicate "Career Explorer Mark" on your oral or poster presentation. Download Career Explorer Mark file from The Japan Society of Applied Physics Website (<http://www.jsap.or.jp/activities/annualmeetings/CEmark.html>) and indicates it at the title page of your oral presentation or near the title of your poster. The permission to use the mark has been accorded to the participants of the ESJ65.

**Oral presentation:** Session rooms are equipped only with an LCD projector and a personal Computer (OS: Windows 10), and Microsoft PowerPoint 2016 (Windows) and Adobe Reader (for PDF file) are installed on the PC. The use of your own PC is not acceptable. ●Each presentation at the oral sessions should be 15 minutes long (12 minutes for presentation followed by a 3 minute question and answer). Sounds of a bell will inform you of elapsed times from the start of your presentation; first at 10 minutes, second at 12 minutes and finally at 14.5

minutes. Please be strictly punctual. ●At the start of your presentation, an operator in your session room will operate the PC and show the first slide of your presentation. Then, either you can operate the PC by yourself or you can ask him/her to operate the PC. ●Each presenter should chair the next presentation after his/her presentation. A member of the organizing committee will take the chair of the first presentation in a session.

**Instructions for preparing presentation file:** Please pay full attention to the aforementioned equipment. In preparing presentation files, you should understand that your presentation file will be registered in advance and preloaded on the PC in your presentation room. You should also follow the instructions below. ●Your PowerPoint file should be compatible to Microsoft PowerPoint 2016 on Windows 10. To use only the standard font sets on this OS or embed fonts into the file are recommended. Projector and screen are not compatible with widescreen. Please make the slide size a 4:3 aspect ratio. ●A file made on Mac OS should be converted to a Windows file and its validity should be confirmed on a Windows PC before registration. ●Your presentation file (in the form of \*.ppt, \*.pptx, or \*.pdf) should be united

to a single file of less than 20 megabytes. Make sure to avoid including high-resolution photos or graphics. It is possible to insert movie clips or so into your presentation file, if the resultant file size does not exceed the limitation. However, we do not guarantee it works as you intended.

●Deadline for submission of your presentation file is 23:59 (JST), Wednesday, March 7, 2018. Please upload your file through the online registration system (<https://iap-jp.org/esj/conf/login.php>) before the deadline. The name of each file will be automatically generated. ●If your presentation file is not submitted by the deadline, you will not be able to use the projector in your presentation. If you need not use a PC and an LCD projector in your presentation, please notify the planning committee ([esj\\_program@mail.esj.ne.jp](mailto:esj_program@mail.esj.ne.jp)) by 23:59 (JST), Wednesday, March 7, 2018. Without the notification, your presentation will be canceled.

**English Presentation Award:** The English Presentation Award (EPA) was launched at ESJ61 and has been used to promote scientific communication in English at ESJ annual meetings, and to provide an opportunity to share scientific ideas with international students and visiting researchers in Japan. Each speaker is expected to pay serious effort to give a presentation effectively communicating the science to the audience. It is assumed that most of audience members are not native speakers of English, and that they have diverse scientific backgrounds. The effort should be made to make it easy for such an audience to clearly understand the research content and significance. ●The EPA sessions will be organized in the same methods as those for “oral presentation”. Therefore, please pay full attention to the above notices in “oral presentation”, e.g., the format of presentation file and the deadline for submission of your presentation file. ●The list of awarded presentations will be posted near the Poster Information Desk and at the website soon after the list is fixed while announced at General meeting. ●We do not hold an award ceremony. Award winners will receive the certificate and

extra prize by email. For details, please visit the [website](https://sites.google.com/site/esj65engpresenawarden/home). (<https://sites.google.com/site/esj65engpresenawarden/home>). ●A member of the planning committee will take the chair of all presentations in a session.

**Poster presentation:** Poster presentations will be held at the hall P on March 15 and 16 (for prize applicants) and 16 and 17 (for other presenters). ●The position of your presentation will be indicated by the presentation ID (Presentation date: P1, 15; P2, 16; P3, 17) on the exhibition board. ●The location of each poster is shown on the Poster Presentation Map at the entrance of the hall. If you cannot find the place of your presentation, please ask a staff at the information desk.

You can mount your poster after 17:30 on the previous day of the presentation. Those who have applied for the poster prize should mount their posters by 9:00 on the presentation day. Posters mounted later than this time may lose eligibility for the selection process. Those who have not applied for the prize should mount their posters on the board before 10:00 on the presentation day. ●Size of usable area is 90 cm width and 210 cm height. Each presenter should prepare pins or thumbtacks necessary for sticking his/her poster on the board. ●During the core time of poster presentation (March 15 and 16: 12:00-14:00, March 17: 12:30-14:30), speakers are requested to make a presentation in the front of their own posters. ●Posters should be taken down before 17:15 of the presentation day. The remaining posters will be kept at the head office until the end of the meeting (15:00 on March 18), and will be disposed afterward.

**Poster prize:** The Ecological Society of Japan (ESJ) awards Poster Prize to excellent poster presentations for encouraging young scientists. The key criteria for the selection are clarity of the poster and quality of the study. The details of the policy and the criteria for the selection process are available on “Poster Award” of

Overview

(<http://www.esj.ne.jp/meeting/65/en/overview/>) of the official website. ●The list of awarded posters will be posted near the Poster Information Desk soon after the list is fixed. ●Although the award ceremony for the prize will not be held, we will introduce the winners at the awards ceremony on March 17. Award winners will receive the certificate by email. ●The best prize winning poster will be honorably displayed on the special boards at the entrance of the hall until 12:00, March 18. We will notify the potential best prize winners by 17:00 on March 15 and 16 to leave their posters. The best prize winners who want to take down their posters before 12:00, March 18 should ask a staff in the reception desk. Those posters remaining after the end of the meeting will be disposed.

**Symposia, Forums, Organized Sessions, and Workshops:** The organizers of these sessions should manage the sessions to conclude within the scheduled time. No extension of time is granted. ●The Organizing Committee provides only an LCD projector. The organizers should bring a PC which preloads presentation files of all the speakers. If Mac will be used, please prepare a conversion adapter (for analog terminal D-Sub 15P). Projector and screen are not compatible with widescreen. Please make the slide size a 4:3 aspect ratio. ●No operator will stand by for Organized Sessions and Workshops. If any trouble occurs, please inform the head office.

**Flyers and pamphlets:** The desks in the Entrance hall can be used to place flyers and pamphlets of the project publicity or information by organizations and companies, as the ESJ members feel free to take them. ●Placing is free, but please harmonize with each other, since the desk space is limited. However, flyers and pamphlets that are not suitable for the ESJ will be removed. ●The remaining flyers and pamphlets should be collected by 13:00 on March 18. Otherwise, they will be disposed.

## 日本生態学会大会規則

**目的** 第1条 この規則は、一般社団法人日本生態学会(以下「本法人」)が開催する学術集会である年次大会(以下「大会」)について必要な事項を定める。大会は生態学の振興に寄与するためにその研究成果を発表する場とするとともに生態学研究者の交流の場を広く提供することを目的とする。

**名称** 第2条 大会の名称は「日本生態学会大会」とする。  
2. 本法人の成立に伴い、大会実施に関する円滑な移行を図るために、以下の条項を適用する。

①大会の回数については、1953年に開催された大会を第1回とし、法人成立後も年次ごとに回数を加える。  
②各大会の名称は回数を冠して、「第60回 日本生態学会大会」などとし、略称を「ESJ60」などとする。

**周期** 第3条 大会は年1回開催する。

**運営** 第4条 大会は本規則第10条で定める大会企画委員会(以下、企画委員会)と第11条で定める大会実行委員会(以下、実行委員会)によって運営される。

**開催地区** 第5条 大会の開催地区は、理事会の議を経て総会で決定する。  
2.大会会場は実行委員会が企画委員会との協議のもとに定め、理事会の承認を得る。

**日程** 第6条 大会日程は実行委員会が企画委員会との協議のもとに定め、理事会の承認を得る。

**参加費** 第7条 大会参加費と懇親会費は実行委員会が代表理事・企画委員会と協議し、理事会に意見を求めたうえで定める。

**行事** 第8条 大会開催期間中に以下の各号に掲げる行事を

実施する。

2. 本法人正会員(以下、正会員)による学術論文の一般講演(口頭発表及びポスター発表) 3. シンポジウムをはじめとする研究集会 4. 定時代議員総会(以下「総会」) 5. 各種専門委員会 6. 本法人が定める各賞の授与式 7. 懇親会 8. その他、理事会が必要と認めたもの

**参加者、発表者** 第9条 大会には本大会の目的を理解し、所定の手続きを経たすべての者が参加できる。会員資格は問わない。

2. 一般講演、研究集会(以下、一般講演と研究集会を合わせて「学術セッション」という)の論文発表者は、正会員に限る。ただし、企画委員会、実行委員会が認めた場合、発表者の会員資格は問わない。

**大会企画委員会** 第10条 大会の準備および運営のため、本法人は常設専門委員会である大会企画委員会を設ける。大会企画委員会は、主に学術セッションの準備・運営を担当する。

**大会実行委員会** 第11条 大会開催の準備および運営のため、開催地となる地区会は大会実行委員会を組織する。大会実行委員会は、会場管理・会計事務等大会運営に必要な事項を担当する。

**会計** 第12条 大会の会計は本法人会計の事業関係係費として処理される。

**参加者の義務** 第13条 大会参加者は大会参加費を支払わなければならない。ただし、企画委員会、実行委員会が認めた場合、大会参加費の支払いは免除される。大会参加者は「大会規則」・「注意事項」等の大会運営に関わる諸規定を遵守し

なければならない。

**退場** 第14条 実行委員会委員長あるいは企画委員会委員長が大会の運営に支障をきたすと判断した場合は、会長の了承を得て、参加者に大会会場からの退去を求めることができ、過去に退去を求められた者の大会への参加を拒否することができる。

**プログラム、要旨集** 第15条 企画委員会はプログラムおよび要旨集を編集する。プログラムおよび要旨集の著作権は本法人に帰属する。投稿された原稿に、公序良俗に反する内容が含まれると判断した場合、企画委員会は著者に内容の修正を求めることができる。著者が修正に応じない場合は掲載を差し止めることができる。

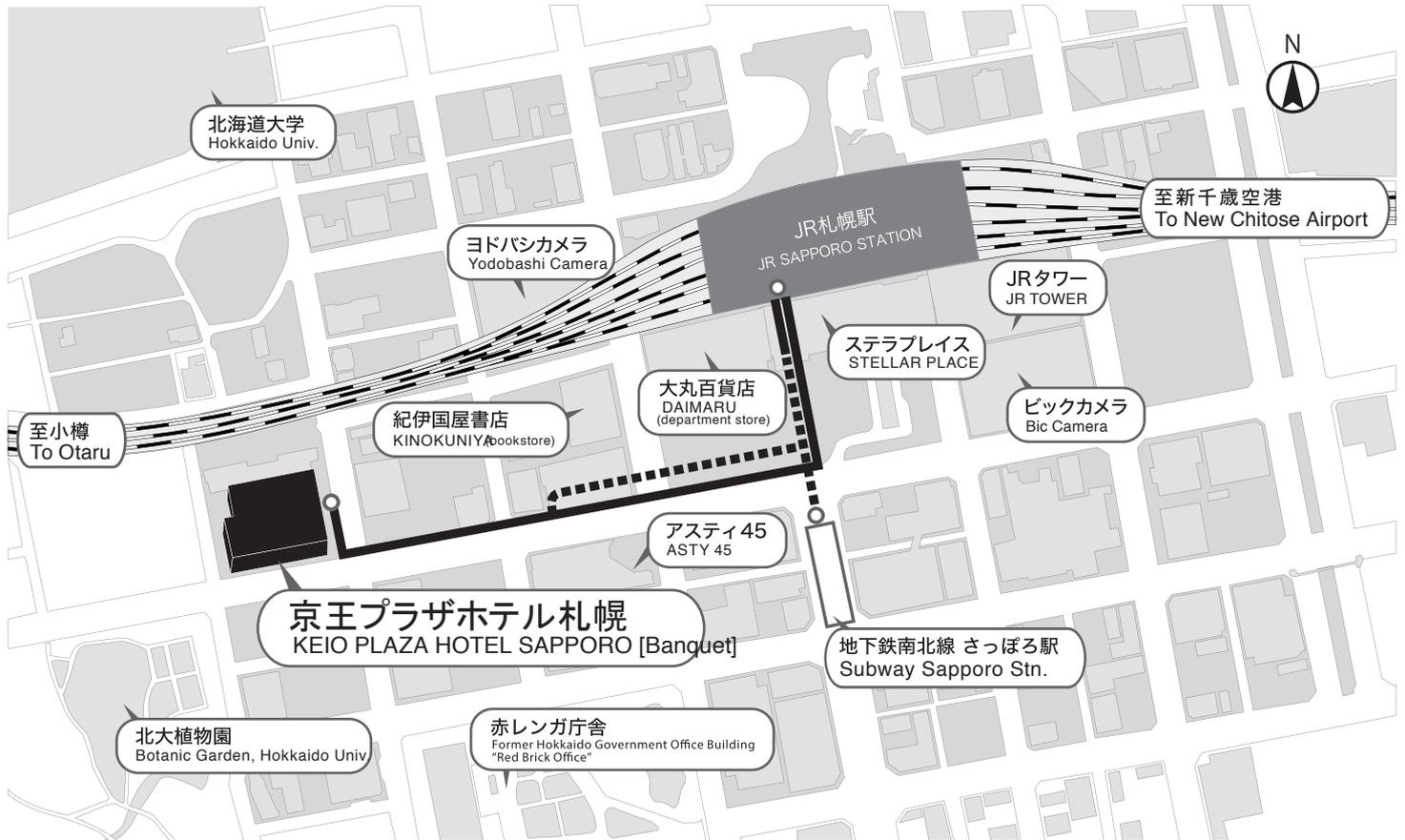
**改正** 第16条 この規則の改訂は理事会の承認を得なければならない。

**別規則** 第17条 この規則の施行に必要な事項については、企画委員会の議決を経て別に定める。

**附則** 1. この規則は、2018年第65回大会から適用する。

京王プラザホテル札幌 KEIO PLAZA HOTEL SAPPORO (TEL: 011-271-0111)

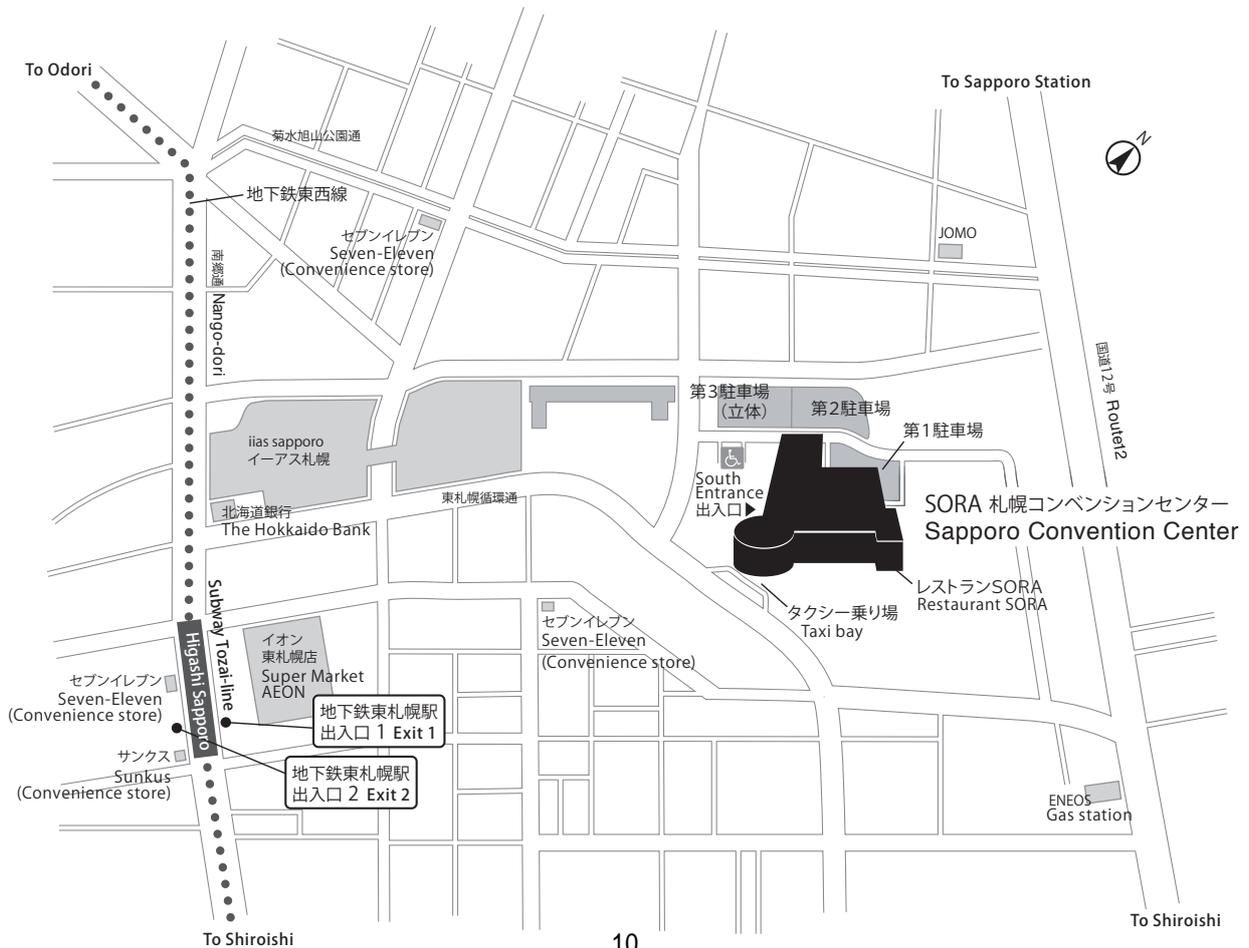
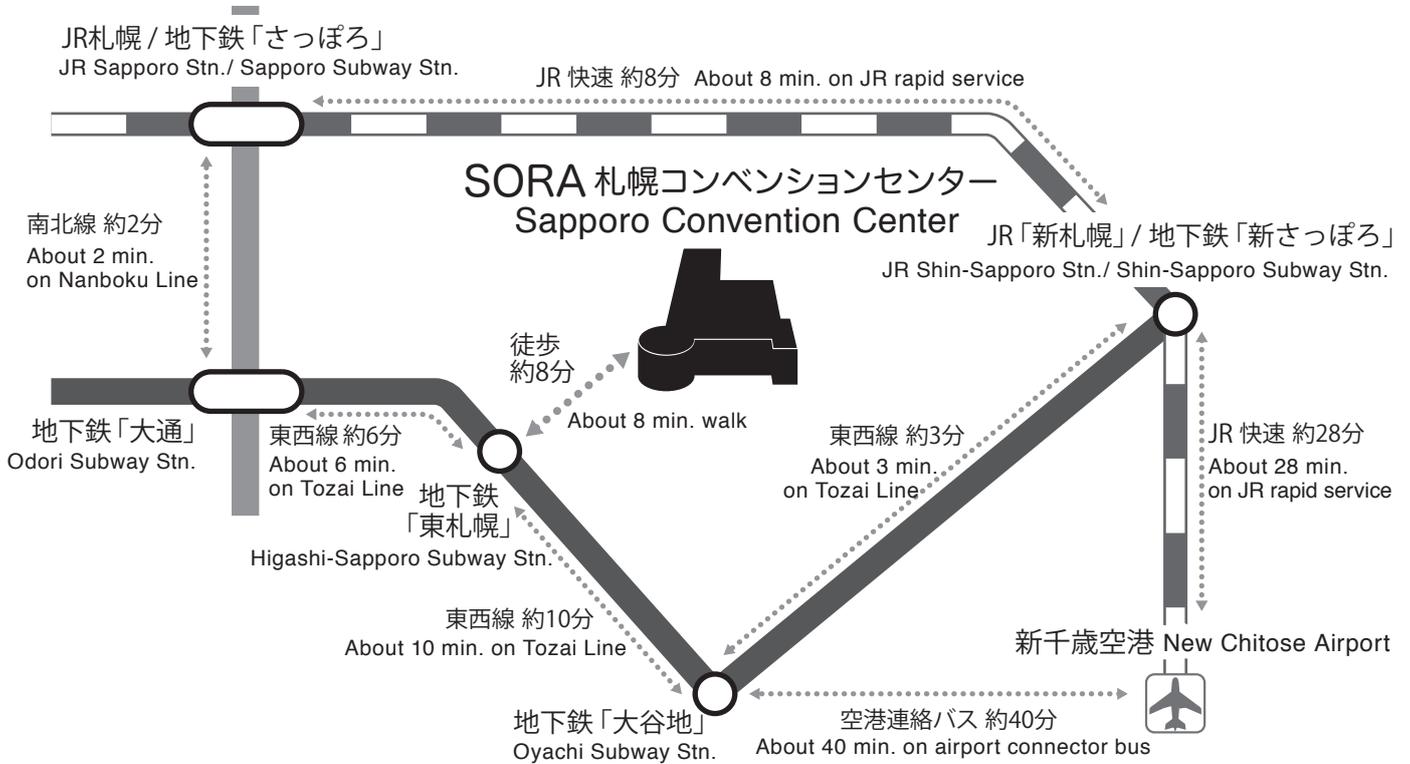
JR「札幌駅」、地下鉄南北線「さっぽろ駅」から徒歩約5分  
5 minutes walk from JR Sapporo Station / Subway Sapporo Station

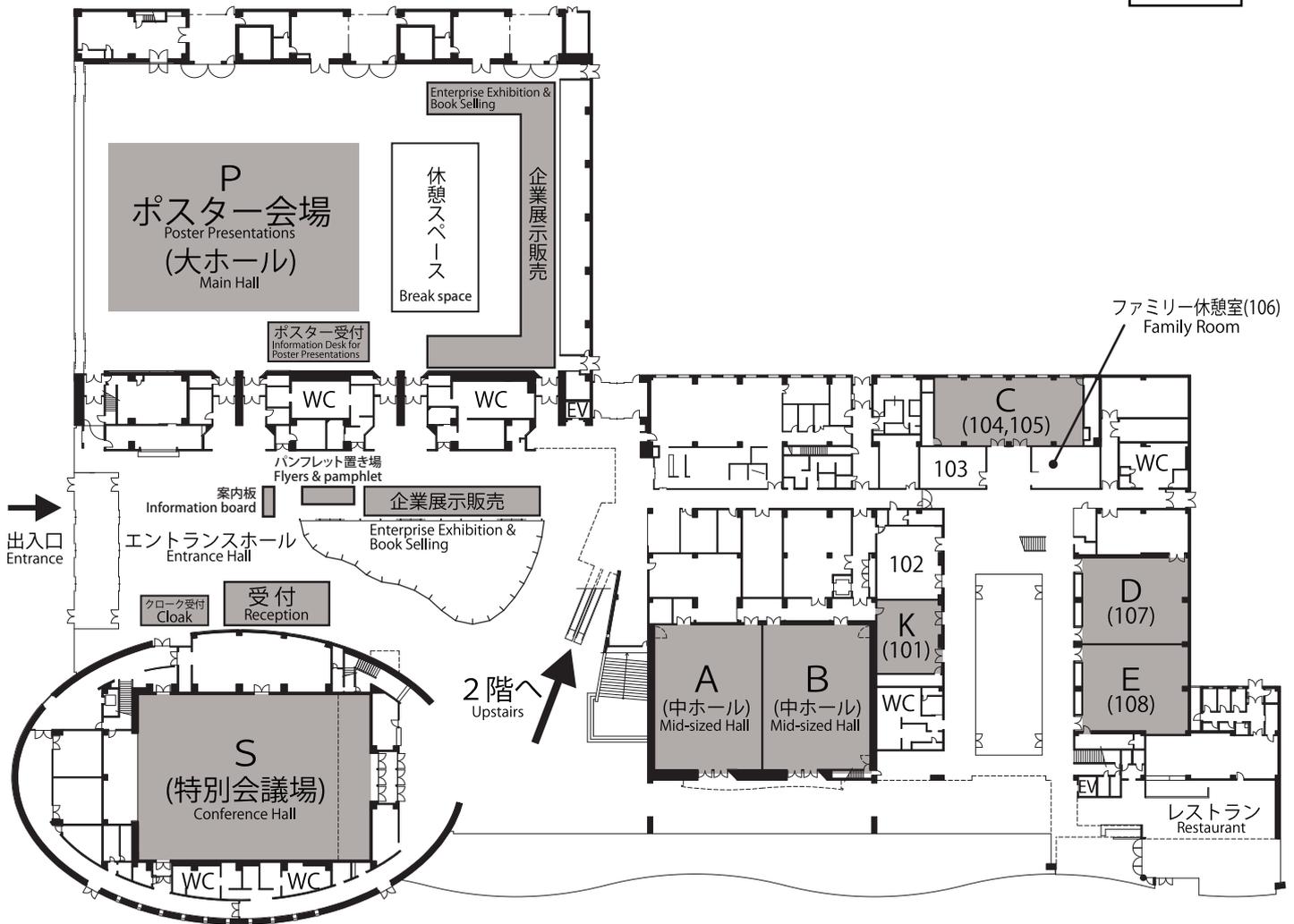


- ・ 懇親会場までは部分的ですが地下通路(破線部分)を利用できます
- ・ Underground walkways (broken lines in the above map) are available for getting to the banquet hall.

札幌コンベンションセンター Sapporo Convention Center

地下鉄東西線「東札幌」駅下車徒歩約8分  
 About 8 min. walk from Higashi-Sapporo Subway Stn.





- 受付(1階エントランスホール)

3月14日(水)

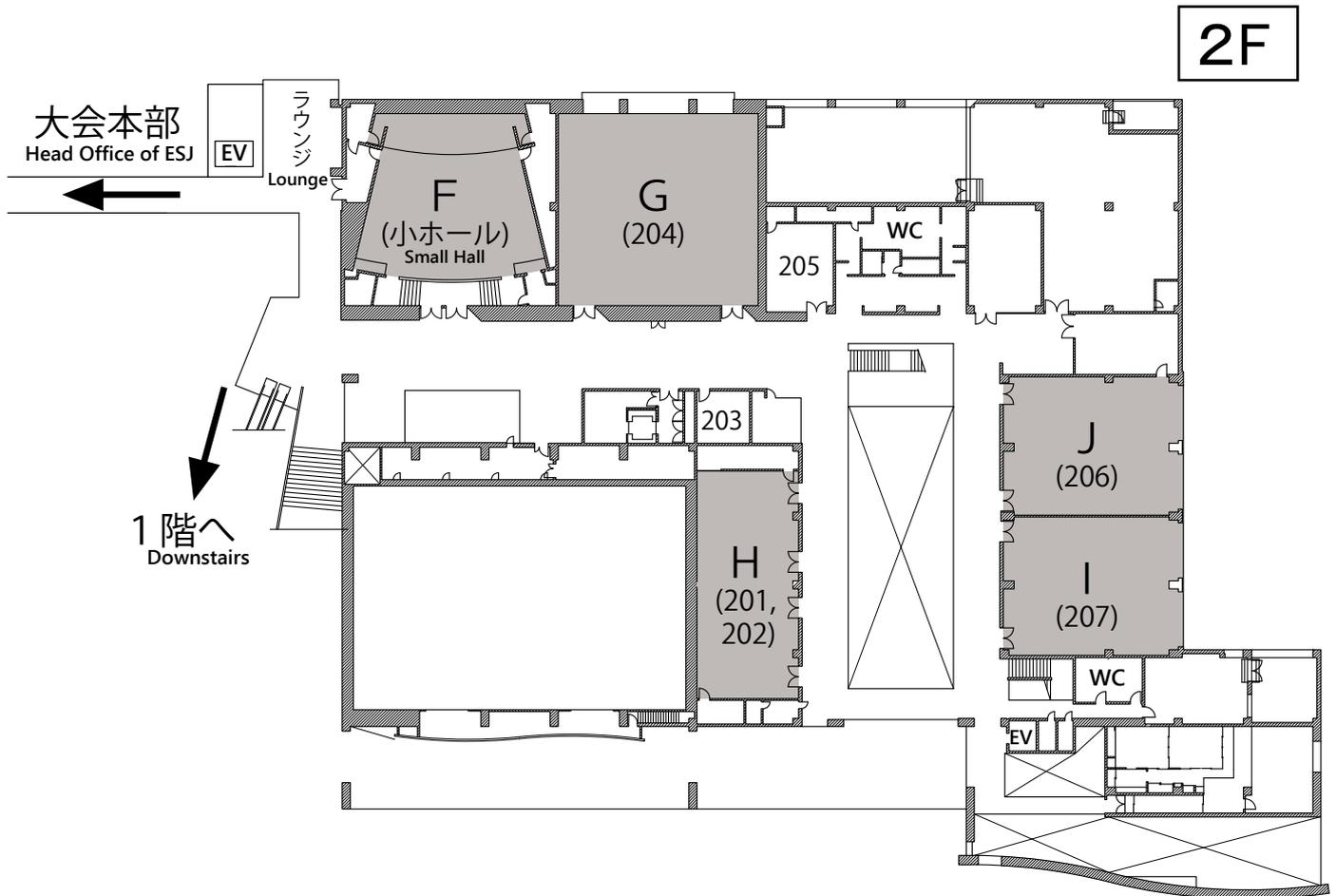
午後 4時から

3月15日(木)から18日(日) 午前 8時30分から

- S会場(特別会議場)は総会、受賞講演、公開講演会に使われます
- その他のアルファベット表記会場はシンポジウム、口頭発表、企画集会、フォーラム、自由集会に使われます

- The reception desk will be open at the entrance hall on the first floor:  
from 16:00 on 14 March  
from 8:30 on 15–18 March

- The Room S (Conference Hall) will be used for the general meeting, ESJ awards ceremony and lectures, and a public lecture
- The other rooms with alphabets are for symposia, forums, organized sessions, and workshops



## 各種委員会は以下の会議室にて開催されます

Comittee meetings will be held at:

大会企画委員会	H	会場
生態系管理専門委員会	K	会場
外来種検討作業部会	102	会場
大会あり方検討部会	H	会場
将来計画専門委員会	K	会場
自然保護専門委員会	102	会場
保全生態学研究刊行協議会	103	会場
電子情報委員会	205	会場
Ecological Research刊行協議会	H	会場
日本生態学会誌刊行協議会	K	会場
キャリア支援専門委員会	102	会場
生態学教育専門委員会	103	会場
大規模長期生態学専門委員会	205	会場
野外安全管理委員会	203	会場
代議員会	H	会場

# 学会各賞授賞式・受賞記念講演

3月17日(土) S会場 (特別会議場)

授賞式	10:20～11:40
第16回 日本生態学会賞 受賞記念講演 大串 隆之 (京都大学名誉教授)	14:30～14:45
第22回 日本生態学会宮地賞 受賞記念講演 潮 雅之 (科学技術振興機構/京都大学生態学研究センター) 「複雑な生態系動態の理解と予測に向けた野外調査・実験・理論の協働」	14:45～15:05
小林 真 (北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター) 「寒冷地の植生遷移を制限するものは何か？ Natural gradient と大規模野外操作実験から迫る」	15:05～15:25
鈴木 俊貴 (京都大学生態学研究センター) 「鳥の鳴き声と言語の進化～行動生態のその先へ～」	15:25～15:45
第11回 日本生態学会大島賞 受賞記念講演 大園 享司 (同志社大学理工学部環境システム学科) 「環境変化と菌類群集：熱帯から極域まで」	15:55～16:15
第6回 日本生態学会奨励賞 (鈴木賞) 受賞記念講演 佐橋 玄記 (東京大学大学院農学生命科学研究科) 「回遊すべきか、せざるべきか：サケ科魚類を用いて考える生活史多型の分岐機構」	16:15～16:30
曾我 昌史 (東京大学大学院農学生命科学研究科) 「都市化時代の保全生態学 ―自然体験の消失スパイラル―」	16:30～16:45
角田 智詞 (German Centre for Integrative Biodiversity Research (iDiv) Halle-Jena-Leipzig) 「植物を支える根系の防御戦術：草本と植食性昆虫の関係に着目して」	16:45～17:00

## 高校生ポスター発表会「みんなのジュニア生態学」

3月17日(土) P・A会場

高校生ポスター発表会「みんなのジュニア生態学」は、生態学の社会への普及のため、日本生態学会によるアウトリーチ活動の一環として企画します。大会会期中に高校生(中学生も歓迎です)にポスター発表をしていただき、生態学に関連する諸分野の研究者や学生との交流を通して、生態学全般への関心をもっていただくのが本企画のねらいです。生き物の生態や環境に関わる生物学の内容であれば、どのような分野や題材の発表でも歓迎しています。「みんなのジュニア生態学講座―高校生と研究者の交流会」も今年で4年目を迎えます。気鋭の生態学者による高校生向けのトーク(話題提供)と高校生と研究者の交流会を行います。

ポスター発表:P会場 交流会・表彰式:A会場	
開場	9:00
発表コアタイム(発表・審査)	10:00～12:00
交流会:みんなのジュニア生態学講座	14:00～16:00
成績発表・表彰式	16:30～17:00

### みんなのジュニア生態学講座―高校生と研究者の交流会

日本生態学会で現在大活躍中の研究者3名に、ご自身の研究内容だけでなく、生態学の研究を目指したきっかけや中学～高校の様子を語っていただきます。高校生以外の参加者もご参加いただけますが、席が少ない場合高校生を優先して下さい。

講演 文法を操る鳥類の発見	鈴木俊貴 (京都大学生態学研究センター)
田んぼの魚を追いかけて	金尾滋史 (滋賀県立琵琶湖博物館)
ヤマネコ「も」住める地域を作ろう	川口(木村) 幹子 (対馬グリーン・ブルーツーリズム協会)

第 21 回 日本生態学会 公開講演会

# 極限に棲む生物の生き様 - 身近な生態系の成り立ちを知るヒント

2018 年 3 月 18 日（日）13 時 00 分～15 時 00 分

札幌コンベンションセンター特別会議場

今回の公開講演会は、寒さが厳しく、開拓精神あふれる土地—北海道での開催であることから、極限環境の生物を対象としたフィールド研究をテーマに企画しました。極限環境に棲む生物は、ユニークな形態や生活様式を持ったものが多いです。それは、厳しい環境を生きる上で効率的な生き方をしていることの現れですが、その生態特性の意味については、一般にはよく理解されていません。また、極限環境では、微妙な環境条件のバランスの上に生物活動が成り立っており、近年問題となっている気候変動など大きな環境変化に対して脆弱です。この講演では、極地から深海まで、普段は目にすることのない極限環境に暮らす生物の適応様式を一挙に紹介するとともに、それらに忍び寄る気候変動の脅威について講演を行います。

司会 日浦 勉（北海道大学）

1. **はじめに：なぜ私たちは極限環境に棲む生物を研究するのか？**

小林 真（北海道大学）

2. **鯨が支える深海底のオアシス**

藤原 義弘（海洋研究開発機構）

3. **ペンギンとサメが教えてくれた極地の暮らし方**

渡辺 佑基（国立極地研究所）

4. **カビが映し出す北極と南極の極限環境**

大園 享司（同志社大学）

5. **短い季節で生き延びる高山植物の生存戦略**

工藤 岳（北海道大学）

6. **生物多様性の役割をモンゴルの草原で考える**

佐々木 雄大（横浜国立大学）

主催：一般社団法人日本生態学会 後援：札幌市教育委員会 参加費無料  
本講演会は、平成 29 年度文部科学省研究促進費の支援により開催されます

**S01 進化を考慮した応用生態学の展開：理論と実践**

企画者：門脇浩明（京大・生態研），内海俊介（北大・FSC）

進化とは、現在みられる生物多様性を生み出してきた原動力であり、今後もその原理は普遍である。しかし、人間活動による環境負荷によって生物多様性が減少し、それを食い止めるため保全管理をしようとする結果、予期せぬ新たな進化を引き起こし問題が複雑化することが明らかになってきた。一般に、生物多様性の損失の多くは進化速度と環境変化速度の不整合の問題としてとらえることができ、生物多様性保全の実践の方法は、環境変化に対する生物の迅速な適応の理解に基づいて検討することが不可欠である。とくに、近年、土地利用、天然資源の過剰搾取、気候変動など多くの人間活動に関連する環境変化が一層深刻さを増していることから、それらの変化に呼応した急速な進化を予測・管理しなければならない。このように、進化生態学と保全生態学はきわめて深い関係にあるにもかかわらず、日本国内において、そのような理解は十分浸透しているわけではない。本シンポジウムでは、生物多様性の保全や生態系管理・再生における適切な戦略を決定するうえで、進化を考慮することが重要になってくる様々な側面をまとめる。進化を生かした保全とはどのような状況において有効なのか。それを実現するためには具体的にどのようなデータを収集すべきなのか。これまでにない一歩踏み込んだ議論を展開したい。

コメンテータ：横溝 裕行（国立環境研究所）

**S01-1 趣旨説明：進化を考慮した応用生態学の展開**

門脇 浩明（京大大学生態研センター）

**S01-2 種内変異と環境変動、そのモニタリング**

三村 真紀子（玉川大学農学部）

**S01-3 絶滅か、進化か：進化的救助と遺伝的救助**

山道 真人（東京大学大学院総合文化研究科）

**S01-4 進化を考慮した外来種管理の枠組みを検討する**

深野 祐也（東京大学大学院農学生命科学研究科）

**S01-5 適応進化を考慮した林業の展開と挑戦**

石塚 航（北海道立総合研究機構 林業試験場）

**S01-6 水生植物の保全・管理における適応進化の視点**

西廣 淳（東邦大学理学部）

**S01-7 進化と応用：さらなるフィードバックに向けて**

内海 俊介（北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター）

**S02 Phylogeographical Approach to understanding Beech-Oak Forests in the Temperate Zone**

企画者：Yukito Nakamura (Tokyo University of Agriculture) Yuhide Murakami (IGES-JISE)

Beech-oak forests are major representative summergreen broad-leaved forests of the temperate zone of the Northern Hemisphere. We want to compare Asian, European and North American beech-oak forests, including history, species combinations, distribution and climatic factors. If we approach this study phylogeographically, from both a hemispheric and more local perspective, we can gain new insights. Through this we will summarize commonalities and differences.

- S02-1 Climatic limiting factors of North-American beech-oak forests.  
Elgene Box (University of Georgia, Geography Department)
- S02-2 Development of European beech forest after the Last Glacial Age.  
Richard Pott (Leibniz Universität Hannover, Institut für Geobotanik)
- S02-3 Phytosociological hierarchy of beech-oak forests in Germany.  
Joachim Hueppe (Leibniz Universität Hannover, Institut für Geobotanik)
- S02-4 Phytosociological study on Japanese beech-oak forests.  
鈴木 伸一 (Tokyo University of Agriculture)
- S02-5 Distribution of *Quercus mongolia* and *Quercetia mongolicae* and stability of ranges under climatic and anthropogenic influence.  
Pavel Krestov (Botanical Garden-Institute Vladivostok)
- S02-6 Phytosociological approach for beech-oak forests in East Asia  
藤原 一繪 (Yokohama City University)

シンポジウム                      3月15日    9:00-12:00                      会場 F

### S03 鳥衝突を未然に防ぐセンシティブティマップの普及に向けて

企画者：関島恒夫・望月翔太（新潟大・農）,綿貫豊（北大院・水産）,河口洋一（徳島大・理工）

風力発電は温暖化の抑制効果があると期待される一方で、鳥衝突事故による地域生態系への悪影響が強く懸念されている。特に、全国の中でも北海道や東北地方は、稀少鳥類の国内有数の生息地域であるにも拘わらず、発電に適した風況にあることから多数の風力事業が進められているが、それらは必ずしも稀少鳥類に配慮した事業計画とはなっていない。このことから、風力発電施設の立地段階で鳥衝突リスクを低減する配慮が不可欠であり、潜在的な鳥衝突の発生を予測するセンシティブティマップの整備が強く求められている。本シンポジウムでは、生態及び生息地特性が異なり、かつ高い衝突リスクをはらむ3つの代表的な鳥種、オオシクイ、ウミネコ、およびオジロワシを取り上げ、それぞれの特性に応じたセンシティブティマップとその有用性について紹介する。加えて、環境省と野鳥の会から今現在作成を進めるセンシティブティマップの概要を説明いただくことにより、鳥衝突を未然に防ぐセンシティブティマップの整備方針と普及の可能性について議論したい。

- S03-1 大型水禽類のセンシティブティマップをつくる ー有用性とその課題ー  
関島 恒夫（新潟大・農）
- S03-2 トラッキングデータによる風発リスクマップの可能性とその課題  
綿貫 豊（北大院・水産）
- S03-3 オジロワシのセンシティブティマップの可能性と課題 ー環境アセスメントにおける利用を目指してー  
河口 洋一（徳島大・理工）
- S03-4 センシティブティマップの概要について  
有山 義昭（環境省野生生物課）
- S03-5 野鳥と風力発電のセンシティブティマップにおける海外および日本野鳥の会の作成事例の紹介  
浦 達也（日本野鳥の会）

## S04 Landscape-scale phenology and ecological community: temporal and spatial resource availability mediated by phenological diversity

企画者：佐藤拓哉（神戸大院・理）、瀧本 岳（東大院・農）

Phenology, recurring seasonal life-history events such as animal emergence/migration and plant foliation/flowering, is one of the most fundamental features of environmental adaptation by organisms in nature. While phenology of individual organisms piles up to determine population dynamics, population-level phenological attributes (e.g., timing and duration) and their seasonal shifts (potentially driven by climate change) can have profound effects on species interactions. However, our understanding of the community context of phenological species interactions is still limited to a few tightly interacting species (e.g., the match/mismatch hypothesis).

This symposium aims to explore the emergent property of the diversity of phenology within and among species on landscape scales. We present studies using conceptual, empirical, and/or mathematical approaches to examine (1) how phenological diversity of flowering or emergences of arthropods can synergistically determine temporal features of resource availability for generalist consumers, and (2) what are ecological consequences of collective dynamics of the phenological resources on consumer dynamics, species co-existence/evolution, and ecosystem-linkage dynamics. Throughout the symposium, we will discuss how studying the community context of phenological species interactions will help us better understand impacts of climate changes on community dynamics within and across ecosystems.

- S04-1 Phenology in a community context: why timing matters  
Louie H. Yang (Department of Entomology University of California, Davis)
- S04-2 Spatial and temporal heterogeneities in water temperature drive asynchronous phenology and prolong species interactions  
宇野 裕美 (The Center for Ecological Research, Kyoto University)
- S04-3 Shortened floral season in high mountains brings simple community structure of bumblebees and specialization of flowers to the high mountain bees  
江川 信 (Interdisciplinary Graduate School of Science and Technology, Shinshu University)
- S04-4 Emergent effects of phenological diversity on community and disease dynamics in stream and riparian ecosystems  
佐藤 拓哉 (Graduate School of Science, Kobe University)
- S04-5 Community consequences of phenologically-diverse across-habitat movements of resources and consumers  
瀧本 岳 (Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo)

## S05 化石記録とDNA情報からせまる琵琶湖の生物進化

企画者：平野尚浩（東北大）、三浦収（高知大）

琵琶湖は日本のみならず、世界でも有数の歴史を持つ古代湖である。その水系の歴史は約400万年と古く、貝類や魚類を中心に、固有種を含めた多くの生物種が生息することが知られる。これまで、琵琶湖はそのような生物の化石が産出することから、古生物学的視点から生物進化を研究する上で良いモデルとなってきた。また、近年の分子遺伝学的手法の発達により、現在琵琶湖に生息する生物の進化史が徐々に明らかになりつつある。そこで本講演では、これまで乖離しつつも発展してきた古生物学・分子遺伝学という2つの立場から、琵琶湖に生息する貝類・魚類の進化研究の現状について紹介する。最後に、古生物学・分子遺伝学双方での研究成果を統合し、琵琶湖の貝類・魚類の進化史について、議論を行う。

コメンテーター：千葉聡（東北大）

- S05-1 コイ科魚類咽頭歯化石からみた琵琶湖の魚類相の起源  
中島 経夫（岡山理科大学）
- S05-2 琵琶湖の固有魚類の起源と適応：分子的アプローチ  
渡辺 勝敏（京都大学）
- S05-3 古琵琶湖層群を中心としたカワニナ・タニシ類の鮮新-更新世の変遷  
松岡 敬二（豊橋市自然史博物館）
- S05-4 タニシ科貝類の遺伝的分化と琵琶湖における形態的变化  
平野 尚浩（東北大学）
- S05-5 地史・化石・ゲノム情報から琵琶湖固有カワニナ属の多様化の歴史を紐解く  
三浦 収（高知大学）

シンポジウム 3月15日 9:00-12:00 会場 J

## S06 アミノ酸の窒素安定同位体比がせまる栄養段階研究の最前線

企画者：石川尚人（海洋研究開発機構）

捕食・被食関係を通じたエネルギーの流れを明らかにすることは、水産資源の持続的利用、外来種や絶滅危惧種の個体数管理、生物による汚濁物質濃縮などの諸問題に対して、その解決に資する重要な知見を提供する。一次生産者が作った有機物がある生物へ届くまで、平均  $x$  回の捕食・被食イベントを経た場合、その生物の栄養段階（または栄養位置、栄養ポジション）は  $x+1$  と定義される。栄養段階は、その生物が食物網の中で占めるニッチ、または群集や生態系の構造を理解するための基礎的な指標として、古くから研究されてきた。栄養段階を推定する最新の方法論が、アミノ酸の窒素安定同位体比測定法である。生体内で起こる代謝反応は、タンパク質を構成する20種類のアミノ酸ごとに、あるいは生物ごとに、特徴的、あるいは普遍的な窒素同位体分別を引き起こす。この生化学的な現象を利用することで、さまざまな生物の栄養段階を、驚くほど正確に推定できることが、近年明らかになってきた。しかし、生態学研究への本手法の本格的な応用例は、まだまだ少ないのが現状である。そこで本シンポジウムは、本手法の原理と応用に関する研究において、第一線で活躍する演者を招き、生態学会で広く周知することを目的とする。そして、本手法を用いた新しい生態学研究の可能性について、聴衆の皆さんと議論を交わしたい。

- S06-1 アミノ酸の窒素安定同位体比を用いた「生物の栄養段階」推定法  
力石 嘉人（北海道大学）
- S06-2 捕食-被食におけるアミノ酸窒素安定同位体比変化の定量的理解  
後藤(桜井) 晶子（金沢大学）
- S06-3 アミノ酸窒素安定同位体比から見る生態系におけるエネルギーフロー  
滝沢 侑子（北海道大学）
- S06-4 陸域-水域混合系の食物網で生物の栄養段階を推定する  
石川 尚人（海洋研究開発機構）
- S06-5 歴史標本から読み取る魚類の食性の長期変遷  
加藤 義和（総合地球環境学研究所）

S06-6 アミノ酸窒素同位体比とアイソスケープを活用した、海産魚類の移動履歴推定  
松林 順 (海洋研究開発機構)

S06-7 栄養段階の情報を生態学者はどのように使えば良いか？  
陀安 一郎 (総合地球環境学研究所)

シンポジウム 3月16日 9:00-12:00 会場 A

## S07 国際協力で推進する、北海道-東北アジアの植物多様性の成立過程解明と希少種保全

企画者：中村剛 (北大・FSC・植物園)，富士田裕子 (北大・FSC・植物園)

日本最北の北海道には、北半球高緯度地域に起源する北方系の日本稀産種・固有種や高山植物が多く生育する。一方で、北海道は日本で最も絶滅危惧種の分布密度が高い4地域の1つである(他は南西諸島、小笠原諸島、中部山岳地域)。そのため、日本の植物多様性の成立過程を明らかにし、また、その保全を図るうえで、北海道の植物研究の発展が不可欠である。しかし、北海道と植物相の関連が強い北東アジア(とくに極東ロシア)との間には、学术交流の不足に起因する植物分類の混乱や、野外調査・研究試料の入手に関する障壁がある。また、国境という非生物学的な枠組みにより北海道(国内)のみを対象として希少性の評価と保全活動が行われ、グローバルな枠組みによる種の希少性の評価と効果的な保全がほとんど行われていない。これらの課題に対応するには、北海道と北東アジア諸国の間で、国際共同研究の体制を確立することが不可欠である。

本シンポジウムの目的の一つは、北海道および極東ロシア、中国東北部、朝鮮半島、アリューシャンなどの北方系植物を対象とした、分類や生物地理などの植物多様性研究と保全研究・実践の現状と課題を明らかにすることである。二つ目の目的は、極東ロシア、中国東北部、韓国、北米のカウンターパートとなる研究機関や当地のフィールドワークの様子を紹介し、北東アジアの北方系植物について国境を越えた研究の推進を図ることである。

S07-1 日露中韓の国際共同による、北海道希少種の分類・生物地理研究と保全  
中村 剛 (北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園)

S07-2 北海道において高山植生の分布型組成が示唆すること  
佐藤 謙 (北海学園大学)

S07-3 日本の北方の植物相ー北海道・千島・カムチャツカ  
福田 知子 (三重大学教養教育機構)

S07-4 分子データから見えてきた東北アジアにおける高山植物の生物地理  
池田 啓 (岡山大学資源植物科学研究所)

S07-5 夕張岳をはじめとした生物多様性ホットスポットに分布する高山植物の研究  
村井 良徳 (国立科学博物館植物研究部)

S07-6 韓国における北方系植物・希少種研究と国際共同研究について  
Chan-Ho Park (National Institute of Biological Resources, Korea)

シンポジウム 3月16日 9:00-12:00 会場 B

## S08 Advances in Ecology with Functional Traits

企画者：Yusuke Onoda (Kyoto University), Hiroko Kurokawa (FFPRI) & Kouki Hikosaka (Tohoku University)

Diverse sets of species compose and characterize ecosystems on the earth. Each species has some unique combination of phenotypic traits. Quantifying and analyzing those functional traits enable us to deepen our functional understanding of biodiversity and ecosystems. In the last two decades, functional trait data have been gathered widely and used for multiple purposes such as discovering general principles in ecological strategy, community assembly processes, biogeographic patterns, ecosystem functions and global vegetation modeling. In this symposium, several active scientists will talk about how functional traits are used to advance ecology.

本シンポジウムでは、機能形質に着目して研究を行っている国内外の活発な研究者を集め、機能形質を用いたアプローチにより、これまで何が明らかになってきたか、そして生態学がどう進歩してきたかを紹介したい。扱うテーマは、ゲノム、生活史戦略、群集構造、地理的変異、生態系機能と幅広く、機能形質アプローチの今後の方向性についても議論したい。

S08-1 Functional trait ecology: overview  
Ian Wright (Macquarie University)

S08-2 Towards understanding and prediction of variations in plant functional traits from ecogenomics  
彦坂 幸毅 (Tohoku University)

S08-3 Diversity of functional traits and its consequence on forest primary production along Japanese archipelago  
小野田 雄介 (Kyoto University)

S08-4 Connecting community ecology theory to traits  
William Cornwell (University of New South Wales)

S08-5 Variations in functional traits and decomposition processes  
Hiroko KUROKAWA (Forestry and Forest Products Research Institute)

S08-6 Exploring "hidden" ecosystem functions of plant-microbiome linkages  
東樹 宏和 (Kyoto University)

シンポジウム 3月16日 9:00-12:00 会場 D

## S09 Ecological Epidemiology(えこえび)の展開：データドリブンモデリング

企画者：岩見真吾 (九大・理), 立木佑弥 (シェフィールド大・動植物)

これまでの感染症研究はヒトが興味を中心であり、ウイルスや病原菌、寄生虫はその中心ではなかった。一方、分子生物学の隆興とともに、ウイルスや病原菌を理解する研究が躍進したが、そこに「生態」という言葉はなかった。しかしながら、ウイルス学では急速な進化が問題視され、進化学や生物情報学の手法を用いて詳しく研究されるようになってきた。また、昆虫媒介性の感染症については、媒介生物自体の生態学研究も行われ、その手法はフィールド生態学のそれと類似している。今、まさに、生態学や進化学と感染症疫学の境界があいまいになりつつある。現在、世界的には、野生生物の感染症や寄生虫研究が生態学の対象として捉えられているが、日本の生態学ではその限りではない。本シンポジウムではこの様な国内外の現状を受けて、特に、[病原ウイルス(菌)や寄生虫]-[媒介生物や中間宿主]-[宿主やヒト]というように、複数の種の間でおこる相互作用のもとで展開される研究に注目する。生態学の世界では進化と群集、そして生態系を繋いでいく階層間アプローチの研究が進められているにも関わらず、感染症疫学の研究ではこれらの視点が欠けているからである。私達は、この様な研究領域を"Ecological Epidemiology"、略して「えこえび」と呼び、積極的に展開していく(<http://ecoepi.jp/>)。

S09-1 感染症と生態系機能：生物多様性および食物網を考慮にいれたプランクトン感染症動態  
鏡味 麻衣子 (東邦大学・理学部)

- S09-2 Cell-to-cell感染は多剤耐性ウイルスの出現を促進するか？  
佐々木 顕（総合研究大学院大学・先端科学研究科）
- S09-3 ヒト集団の免疫により変化する適応度地形のもとでのウイルス進化動態  
立木 佑弥（シェフイールド大学・動植物科学科）
- S09-4 都市化と人為的な遺伝子流動: デング熱媒介蚊の集団分化予測  
山口 諒（首都大学東京・理工学研究科）
- S09-5 二部グラフ型ホスト-パラサイトモデルからホスト間相互作用のあるえこえびモデルへ  
時田 恵一郎（名古屋大学・大学院情報学研究科）
- S09-6 Virtual ECOSYSTEMを用いた群集動態の理解  
岩見 真吾（九州大学大学院理学研究院・生物科学部門）

シンポジウム                      3月16日    9:00-12:00                      会場 F

## S10 生態学における統計教育：計算より概念と考え方

企画者：島谷健一郎（統計数理研究所）

今日の生態学会において、データに基づく発表では統計解析を伴わないものはほぼないくらい、統計は普及しました。しかし、せっかく精確にデータを収集し統計解析を施したのに、いざ成果を発表しようと研究全体を俯瞰したとき、統計解析の部分が浮いている、噛み合っていない、統計解析の部分だけブラックボックスと化していて思考が飛んでいる、そんな違和感を残したまま発表している会員は少なくないのではないのでしょうか。

肝心な部分にあいまいな理解が残ってしまう一つの理由は、統計教育において計算が先行し、考え方の基礎がおろそかになっている点が挙げられます。

確かに、会員のパソコンを用いる統計計算力は進歩しています。しかし、計算作業は、統計解析の中の1部でしかありません。計算に用いた統計手法の考え方や概念は、数値結果に基づく議論や解釈、さらにはデータ収集法や仮説の立て方、研究目的にまで関係してきます。

そこで、このシンポジウムでは、まず、今日の統計解析の2つの主流といえるモデルベース統計とP値を用いる統計について、焦点をその考え方や基礎概念に置いた解説から始めます。続いて、そうした基礎事項を踏まえ計算を先行させると陥りやすい誤り事例を紹介しながら、概念理解の重要性を考え直します。そして、そもそもどうして生態学に統計が必要なのかについて、科学哲学的視点から「集団」を扱う生態学という根源に立ち返って考えます。その後、生態学における統計教育に関して意見をもらい、議論を広げます。

- S10-1 シンポジウム趣旨及び例題：なぜAICはぴったりパラメータ数を引くのか  
島谷 健一郎（統計数理研究所）
- S10-2 P値とは何だったのか  
大久保 祐作（北海道大農）
- S10-3 統計の誤用を解剖する  
粕谷 英一（九州大理）
- S10-4 統計学のコペルニクスの転回：集団的思考を禁じるものはなにもない  
森元 良太（北海道医療大）

**S11 Biodiversity: linking biogeographic pattern and process**

企画者 : Nicholas R. Friedman (OIST), Nao Takashina (OIST), Francisco Hita Garcia (OIST)

Understanding patterns of biodiversity and the processes that produce them is a key goal of research in ecology and evolution. This symposium aims to link biogeographic patterns observed in nature with evolutionary and ecological processes. In particular, we compare the relative role of geological and evolutionary history vs. contemporary species distributions and interactions in explaining broad patterns of diversity. We first introduce two studies exploring the evolution of morphological divergence in isolated radiations. Then, we examine macroecological patterns of species distributions and propose novel theoretical models to explain them. We also explore the role of historical evolutionary processes in driving diversification on continents and islands. Lastly, we stimulate scholarly debate among our participants in an attempt to derive a research agenda for future biodiversity studies.

- S11-1 Functional diversity and evolution of beak shape across elevational and climatic gradients  
Friedman Nicholas (OIST)
- S11-2 A biogeographic tale of two ant genera: how reproductive mode and evolution of defensive trait suites shape pathways for two very different radiations in Madagascar  
Francisco Hita Garcia (OIST)
- S11-3 Species-based co-occurrence analysis for inferring macro-ecological processes: a case study of the East Asian islands flora  
Buntarou Kusumoto (Ryukyu Univ.)
- S11-4 Geometric approach to understand macroecological patterns in ecosystems  
Nao Takashina (OIST)
- S11-5 Evolution at the periphery: The role of islands in generating avian diversity in Australia and the Indo-West Pacific  
Michael J. Andersen (Univ. New Mexico)

**S12 河川景観ネットワークの時空間変化 -湧水と氾濫原の変化が生物群集に与える影響に注目して-**

企画者 : 中村太士、石山信雄 (北大・農)

生息環境の連結性と時空間的な異質性は、河川ならびに氾濫原生態系の健全性を支える重要な要素である。しかし近年、様々な治水・利水対策が実施され、河川および周辺氾濫原域はその姿を大きく変えつつある。これまで河川生態学術研究会十勝川グループ (代表: 中村太士) は、水域、陸域、そして両生態系のつながりに注目し、河川景観ネットワークの時空間変化と生物相の応答を評価してきた。なかでも特に着目してきたのが、「湧水 (地下水と河川水 の つながり) が生む環境異質性」と「河川および氾濫原の景観構造」がもたらす生物多様性と生態系機能への影響である。本シンポジウムでは、遺伝子〜群集まで多様なレベルを扱った5年間の研究成果を報告し、「地下水-河川-氾濫原」を一つのシステムとして捉えた河川管理の重要性を議論する。

- S12-1 プロジェクト全体説明  
中村 太士 (北海道大学)

- S12-2 十勝川水系の成立過程と水生生物群集への影響  
小泉 逸郎 (北海道大学)
- S12-3 河川地形が支える多様なサケ産卵群  
卜部 浩一 (北海道立総合研究機構・さけます・内水面水産試験場)
- S12-4 河畔に対する河床間隙由来資源量の時空間変化  
根岸 淳二郎 (北海道大学)
- S12-5 湧水・非湧水河川における餌資源量とコウモリ類の活動量の季節変化  
赤坂 卓美 (帯広畜産大学)
- S12-6 氾濫原の樹林化がもたらす鳥類分布変化  
藪原 佑樹 (徳島大学)
- S12-7 改変氾濫原における湖沼ネットワークの重要性  
石山 信雄 (北海道大学)

シンポジウム                      3月16日 9:00-12:00                      会場 J

### S13 系統地理学と地質学からせまる日本列島の生物多様性形成史

企画者：井坂友一 (北大・FSC) , 岩崎貴也 (神奈川大・理)

日本列島は高い種多様性と固有性の両方がみられ、地球上での生物多様性ホットスポットのひとつとして知られている。この多様性の形成要因を解明するため、種内及び種間の遺伝的地域性・遺伝的分化を明らかにし、それらを形成した歴史的過程を明らかにする系統地理・系統進化学的研究が、日本列島や近隣地域に生息する生物を対象に行われてきた。解明しようとしている生物の分布の分断や接続、拡大・縮小といった歴史的過程を考察する際には、現在の日本列島をかたちづくるプレートの運動に起因した大陸-日本列島の分裂や造山運動、大陸-日本列島陸橋やレフュジア形成に影響を及ぼした気候変動などに焦点が当てられてきており、地史が日本列島における生物の種多様化ならびに進化を考える上で重要であることは間違いない。しかしながら、系統地理・系統進化学的研究を行う生態学者と地学者との連携は未だ不十分なままである。

近年、昆虫や哺乳類、魚類、植物などで、国内の複数分類群の成果をまとめた総説や著書が報告されたように、様々な分類群の生物系統地理学的研究の成果は飛躍的に蓄積されつつある。このシンポジウムでは、中新世～鮮新世、更新世にかけての化石や環境史を研究している地学者と生態学者の間の連携及び知識の共有をすすめる、これまでの系統地理・系統進化学的研究の成果を改めて見直すとともに、生態学と地学が密接に連携した形での将来的な当分野の発展を目指す。

- S13-1 日本列島を舞台とした系統地理・系統進化学研究における現状と残された課題  
岩崎 貴也 (神奈川大・理)
- S13-2 日本列島形成史と古地理の変遷  
磯崎 行雄 (東京大・広域)
- S13-3 日本列島の温帯林はいつ成立したか？-汎世界的気候変動と日本列島の形成から-  
矢部 淳 (国立科博)
- S13-4 哺乳類食肉目の種多様性と生物地理的歴史  
増田 隆一 (北海道大・理)
- S13-5 複雑な日本列島の地史の影響を強く受けた昆虫類の遺伝構造と遺伝的多様性創出機構  
東城 幸治 (信州大・理)

S13-6 第四紀の大型植物化石相の地理分布から紐解く日本の植物地理形成過程  
百原 新 (千葉大・園芸)

S13-7 ゲノム系統学的手法から浮かび上がる地域固有植物種・個体群の分化史  
奥山 雄大 (科博・植物園)

シンポジウム 3月18日 9:00-12:00 会場 A

## S14 Changing environment, plant stress and their ecological implications

企画者 : Evgenios Agathokleous (Hokkaido Research Center, FFPRI)

This English symposium will deal with the effects of changing environment on vegetation and plant ecosystems. The effects of air pollutants, warming, drought, and any other environmental factors will be examined along with the mechanisms of the resulting oxidative stress. This session will particularly welcome new insights on dose response relationships with emphasis on low-level stress and preconditioning, i.e. the role of a low-level exposure in the biological response to a subsequent more massive exposure. Methodologies for protecting vegetation against adverse effects, derivation of critical levels, and risk assessment are also of interest. Studies presented in this session should relate to potential ecological implications. Priority will be given to studies where the effects of changing environment are studied under the influence of interacting abiotic or biotic factors like inter- or intraspecific competition and herbivory.

- S14-1 The role of springtime photoinhibition in the regeneration of *Abies sachalinensis* at the forest floor after removing canopy trees  
Mitsutoshi Kitao (Forestry and Forest Products Research Institute (FFPRI))
- S14-2 Forest declining of mountain birch in northern Japan: Examination of effect of the elevated ozone on birch  
Takayoshi Koike (Hokkaido University)
- S14-3 Responses of container-grown Japanese larch to ectomycorrhizal inoculation, fertilization and ozone  
Evgenios Agathokleous (Forestry and Forest Products Research Institute (FFPRI))
- S14-4 Nitrogen deposition impacts on a hybrid larch and the role of soil phosphorus abundance  
Saki Fujita (Hokkaido University)
- S14-5 Non-linear responses of two larch species exposed to four ozone levels  
Tetsuto Sugai (Hokkaido University)
- S14-6 Growth of three larch species treated with soil salinization at elevated ozone  
Yannan Wang (Hokkaido University)
- S14-7 BVOC emissions of Japanese white birch under high ozone concentration  
Noboru Masui (Hokkaido University)
- S14-8 Evaluation of photosynthetic activities of three larch species treated with simulated soil salinization and elevated ozone in open-top chambers  
Natsumi Tsubo (Hokkaido University)

**S15 2030年における生物多様性政策の未来像**

企画者：西田貴明（三菱UFJ）、大澤剛士（農環研）

2010年に生物多様性条約締約国会議で採択された愛知目標の目標年は2020年であり、これまでの日本の生物多様性政策や、生態学の成果や課題を振り返りつつ、2020年以降の政策や研究の在り方を議論する時期に来つつある。2010年から国内外の社会的な情勢も変わりつつあり、特に人口減少・少子高齢化による未利用地の拡大や担い手の不足、さらには気候変動に伴う災害リスクの高まり、さらには、国内経済の需給の変化や、AI・ICTなどの情報技術の革新は、日本社会に大きな影響を与えている。これらの社会的な変化を踏まえながら、2030年までに中期的なスケールにおいて、生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた政策や研究の方向性や、あり方を多様な視点から議論をしていきたい。まず、日本の愛知目標の達成状況と、生態学会の展望を紹介した上で、愛知目標の合意から10年後である2020年から、さらに10年後である2030年の姿を若手～中堅が展望することで、創造的かつ、現実的なアプローチを模索し、さらには、生物多様性の政策展開に関わる研究課題の探索に向けた情報提供を行いたい。また、2020年以降のポスト愛知目標における、日本の政策目標、または国際的に発信すべき情報を整理しつつ、生物多様性政策に関する研究者からの多様な意見をもとにして、生態学の各分野からの展望を踏まえて2030年に向けた方向性を考えたい。なお、2013年度から生態学会大会のシンポジウムにおいて継続的に企画されてきた「経済社会と生態学の政策統合」の議論を発展させる場としても開催する。

**S15-1 趣旨説明**

大澤 剛士（農研機構・農環研センター）

**S15-2 愛知目標の達成状況とその後**

尼子 直輝（環境省）

**S15-3 生態学の展望・Eco-DRR・グリーンインフラ**

吉田 丈人（東京大学・地球研）

**S15-4 ツーリズム分野における生物多様性：取り組みと課題**

沼田 真也（首都大・都市環境）

**S15-5 外来植物のリスクとベネフィット：持続的な産業利用に向けた課題**

江川 知花（農研機構・農環研センター）

**S15-6 人口減少が進行する社会に適応可能な野生動物管理を模索する**

角田 裕志（埼玉県環境科学国際センター）

**S15-7 里地の生物多様性を保全するための、自然・市民・行政の距離感**

白川 勝信（北広島町立 芸北 高原の自然館）

**S15-8 今後の展望とまとめ**

西田 貴明（三菱UFJリサーチ&amp;コンサルティング(株)）

**S16 厳しくも素晴らしき世界を学ぶ～海洋生態学へのいざない～**

企画者：森田健太郎（水研機構・北水研）

海洋は陸域とは異なる独特な環境条件に支配される世界である。そのため、海洋生態系に特有の、言い換えれば、海洋生物に普遍的な、個体群過程、行動様式、群集構造、そして物質循環過程が形成されてきたと

考えられる。これらの諸現象を一般化して捉える事は、基礎生態学の発展にも大いに貢献するであろう。しかし、海洋生態学に関する研究は、日本では水産学や海洋学との関連性が深い学会で発表されることが多く、日本生態学会においては海洋生態学に関する研究発表は総じて少ない。生態学を冠する日本生態学会において、海洋生態学に係わる研究発表が活発に行われることは、海洋生態学のみならず生態学全体の飛躍に資するのではないだろうか？本シンポジウムでは、これまで海洋生態学との係わりが無かった方々にも興味をもって頂けるよう、海洋生態学が扱う諸分野について概観しながら、海洋生物に特有の諸現象を紹介する。そして、日本生態学会における海洋生態学分野のブレークスルーになることをめざす。

- S16-1 趣旨説明：海洋生態学へのいざない  
森田 健太郎（水産研究・教育機構北海道区水産研究所）
- S16-2 超貧栄養海域におけるプランクトンの役割  
齊藤 宏明（東京大学大気海洋研究所）
- S16-3 海底生態系における生物群集構造の変動  
河村 知彦（東京大学大気海洋研究所）
- S16-4 捕食-被食関係と水産資源動態  
山村 織生（北海道大学大学院水産科学研究院）
- S16-5 密度効果と水産資源管理 - MSY概念の変遷 -  
市野川 桃子（水産研究・教育機構中央水産研究所）
- S16-6 分子生物学を用いた海洋生態学の展開  
津田 敦（東京大学大気海洋研究所）
- S16-7 海洋酸性化に対する低次生態系の応答  
鈴木 光次（北海道大学大学院地球環境科学研究院）
- S16-8 海洋生物多様性の現状と将来予測、保護区選定  
仲岡 雅裕（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所）

シンポジウム                      3月18日    9:00-12:00                      会場 G

## S17 What we, ecologists, have to do against the invasion of the red imported fire ant?

企画者：Kazuki Tsuji (Univ. Ryukyus), Ching-Cheng Yang (Kyoto Univ.), Hiromune Mitsuhashi (Univ.Hyogo)

In 2017, the red imported fire ant (RIFA), *Solenopsis invicta*, was discovered for the first time in Japan at several locations, mainly ports and harbors. While “killer ants” were widely spoken about in the major media causing panic, the Ecological Society of Japan has promptly responded to this problem by releasing two public statements from a scientific point of view. The aim of this symposium is, first of all, to share the correct information on the biology and invasion status of RIFA in Japan more widely to Japanese ecologists. Then we review and compare previous eradication and control projects abroad. Finally, we predict potential future impacts by this pest in Japan and propose countermeasure through discussions between foreign and Japanese experts. We have invited Dr. Ross Wylie, who is the leading researcher on RIFA management in Australia, to speak at the symposium. The co-organizer, Prof. Ching-Cheng Yang, is also an expert with a long time involvement on invasive ants including RIFA in Taiwan and the USA. Although the official language of this symposium is English, we will be presenting in both Japanese and English with bilingual slides for Japanese speakers, as this issue should widely attract public interest.

- S17-1 Australia's fire ant war: tools and lessons  
WYLIE Francis（Biosecurity Queensland Control Centre）

- S17-2 The Fire Ant Countermeasure by the Ministry of the Environment and National Institute for Environmental Studies  
Goka Kouichi (National Institute for Environmental Studies)
- S17-3 What can we learn from bridgehead invasion of the fire ant *Solenopsis invicta*?  
YANG Chin-cheng scotty (Research Institute for Sustainable Humansphere, Kyoto University)
- S17-4 Controlling invasive ant species: theoretical background for efficient monitoring in the early stage of invasion  
Ujiyama Shumpei (School of Environment and Society, Tokyo Institute of Technology)
- S17-5 Fire ant panic in Japan : now and future  
Mitsuhashi Hiromune (Museum of Nature & Human Activities, Hyogo)
- S17-6 Debunking Japanese urban legends of fire ants  
Tsuji Kazuki (Department of Agro-Environmental Sciences, University of the Ryukyus)

シンポジウム 3月18日 9:00-12:00 会場 I

### S18 適応進化の永続性パラダイム -ダーウィニズム・ビヨンド-

企画者：長谷川 英祐 (北海道大学大学院 農学研究院 基盤研究部門 生物生態・体系学講座 動物生態学研究室)

生物の適応進化はC. Darwinが1859年に提唱した、「集団中で増殖率の高い物が頻度を増し、集団を占める」という「増殖率最大化原理」で説明されている。だが、全生物は有限な生物・物理環境を資源として利用しており、資源が枯渇しても適応進化は止まらないので、理論的には資源を使い果たして必ず絶滅する。しかし、生物は誕生以来40億年間絶滅していない。この矛盾を説明するために我々は、適応進化における新しい上位原理を提案する。生物が有限環境を資源として利用する以上、適応は、資源との関係が長期的に持続可能なパラメータ領域までしか進化できない。それを越える「過適応」は関係を消滅させ、その生物は絶滅して淘汰されるからである。また、群集をその内部の生物間相互作用の総体として捉えるならば、群集にしか定義できない表現型である関係性と生起頻度のセットは、「遺伝」「変異」「選択」を備えた、適応進化する「もの」である。しかし、群集は原理的に自己複製しないので、その「選択」は増殖率の差ではない。生物が40億年滅びずに生き延びてきたことを鑑みれば、各群集は「長く存在し続ける競争」を行っている」と解釈でき、「どれだけ長く続けるかの差(永続性の差)」を「選択」として定義すれば、群集の適応進化を科学的に記述・理解出来ると考えられる。増殖率最大化による個体の適応は、群集の永続性を破壊しない限界までにしか進化できない。限度を超えれば関係や群集ごと崩壊して淘汰されるからである。これが、増殖率最大化による進化が起きていても、生物が絶滅せず生物多様性が維持される事を保証する、進化プロセスの力学「永続性パラダイム」である。今回のシンポジウムでは、これについて説明し、いくつかの事例を元に、生物の現状を説明するには増殖率最大化では不十分で「永続性パラダイム」が必要であることを示したい。

- S18-1 ここより永遠に -適応進化の永続性パラダイム-  
長谷川 英祐 (北海道大学大学院、農学研究院、基盤研究部門、環境資源学専攻、生物生態・体系学講座、動物生態学研究室)
- S18-2 「効率か？存続か？それが問題だ！-生物は何に対して最適化されているのか？」  
小林 和也 (京都大学フィールド科学教育研究センター)
- S18-3 「「だが、君なら続くんだろうな？」「...。そのためのモルフです。」-増殖効率最大化による永続共生系の進化-」  
渡邊 紗織 (北海道大学大学院、農学院)

S18-4 「永続性に進路を取れ！-遺伝子群集としてのメス鳥はなぜ浮気するのか？-」  
吉村 仁（静岡大学大学院創造科学技術研究部）

シンポジウム 3月18日 9:00-12:00 会場 J

**S19 機械学習が切り開く新しい生態学の世界**

企画者：大野ゆかり（東北大・生命科学）、河田雅圭（東北大・生命科学）

近年、機械学習の分野では、ディープラーニング（深層学習）の発展により、第3次AI（人工知能）ブームが巻き起こっている。ディープラーニングをするニューラルネットワークは非常にパワフルなツールであり、生態学の分野においても、重要な役割を果たすことが期待される。

しかし、機械学習はニューラルネットワーク以外にも様々な手法があり、計測データによって適した解析方法を選択することで、より正しい解釈ができるようになる。現在は、どのような計測技術がどのような計測データを収集できるのか、そして、その計測データはどのような解析方法で解析すべきなのか、理解する必要がある。

これまで、新たな学術領域は、新しい計測技術と解析技術が、まだ解かれていない問題と出会うことで発展してきた。まずは、現在の計測技術や機械学習でできることを知ることが、新しい生態学の世界を切り開くための1つの方法になると考える。

そこで本シンポジウムでは、生態学の他に情報科学でご活躍されている研究者の方々をお招きし、ご講演していただく。新しい計測技術と解析技術を知ること、生態学において新たに解かれる問題が発見できることを期待している。

以下敬称略

司会：大野ゆかり（東北大）

講演者：河田雅圭（東北大）、大野和則（東北大）、岩山幸治（滋賀大・科技振）、菅沼雅徳（東北大）、竹内一郎（名工大・理研・物材研）

コメンテーター：近藤倫生（龍谷大）

**S19-1 生態学・進化学に機械学習は必要か？**

河田 雅圭（東北大学・生命科学研究科）

**S19-2 ロボット技術と機械学習を使用したイヌの行動計測・解析・誘導**

大野 和則（東北大学・未来科学技術共同研究センター）

**S19-3 トピックモデルを用いた野外トランスクリプトームデータの解析**

岩山 幸治（滋賀大学・データサイエンス教育研究センター、国立研究開発法人科学技術振興機構・さきがけ）

**S19-4 深層学習の基礎と応用**

菅沼 雅徳（東北大学・情報科学研究科）

**S19-5 機械学習によるバイオリギングデータ分析**

竹内 一郎（名古屋工業大学大学院・情報工学専攻・情報科学フロンティア研究院、理化学研究所・革新知能統合研究センター、物質材料研究機構・情報統合型物質・材料研究拠点）

フォーラム 3月15日 12:00-13:30 会場 C

**U01 男女共同参画ランチョンフォーラム「めざせ！仕事の効率アップ&スマートなラボ運営～ワークとライフの狭間で～」**

企画者：主催：キャリア支援専門委員会 責任者：木村恵（森林総研）、曾我昌史（東大）、鈴木智之（東大）、三宅恵子（名古屋大）

多くの会員がワーク（研究活動）とライフ（趣味、育児、介護etc.）を両立するために日々悩んでいることと思います。あふれるタスクを出来るだけ楽にこなし、どうにか減らす術はないのでしょうか？今回のフォーラムでは、研究室の運営に関わる立場の方から、ライフイベントとの両立を可能にするための工夫と心がけていること、周囲に望むことをお話いただきます。また、組織を運営する立場から、個人の努力に依存しない支援の取り組み事例について紹介いただきます。

日本生態学会キャリア支援専門委員会は2014年以降毎年フォーラムを開催し、研究活動と様々なライフイベント（結婚、妊娠・出産、育児、介護）を両立するうえでの様々な難しさや課題について取り上げ、その解決に向けての議論を重ねてきました。本フォーラムでは話題提供から会場全体での議論を通して、楽になるタスク管理を目指します。未婚、既婚、PI、PD、学生、性別問わず、どなたでもお気軽にご参加ください。子連れ参加も歓迎します。ランチは各自持参してください。

1. 男女共同参画関連の情報提供（委員）
2. 「めざせ！仕事の効率アップ&スマートなラボ運営～ワークとライフの狭間で～」  
講演予定者（敬称略, 追加・変更の可能性があります）  
東樹 宏和（京都大学・准教授）  
半場 祐子（京都工芸繊維大学・教授）  
田中 浩（森林総研・理事）
3. 全体討論 参加者全員

#### 男女共同参画関連の情報提供

キャリア支援専門委員会

めざせ！仕事の効率アップ&スマートなラボ運営～ワークとライフの狭間で～  
各話題提供者

#### 全体討論

参加者全員

フォーラム 3月15日 12:15-13:15 会場 E

### U02 効率的な論文出版のために：査読にかかわるあれこれ

企画者：Ecological Research 編集委員会 責任者：仲岡雅裕（北海道大学）

公募（あるいは研究費申請、または博士論文審査申請）のメ切が近づいているのに、投稿中の論文の査読結果がいつになっても返ってこなくてイライラする、という経験は多くの方がされていると思います。まさか忘れて放っておかれているのでは、とか、自分のアイデアが査読者に盗用されているのでは、とか疑心暗鬼になって夜も眠れない日々を送っていたりしませんでしょうか？皆さんが待っている間、雑誌編集の裏側ではいったい何が起きているのでしょうか？

Ecological Researchの投稿から採択までの平均日数は160日程度で、投稿者にとっては長いですが、60日以内で採択される論文もあります。編集現場では、査読者がなかなか見つからない、引き受けた査読者がメ切を過ぎて何度督促しても査読レポートを返してくれない等の問題は日常茶飯事に起こっています。査読者がすぐ見つかって、すぐ査読結果を返してくれるようになる秘策などはあるのでしょうか？一方、オープンアクセス、オープンサイエンスの流れに伴い、査読制度にもさまざまな変化が起こりつつあります。今回のERフォーラムでは、学術誌の査読に焦点を当て、投稿者、査読者、編集者がそれぞれ異なる立場から問題を提起し、共有することにより、論文投稿から掲載に向けたプロセスをどのように効率的にできるかを考えてみたいと思います。

なお、本フォーラムはシュプリンガー・ジャパン株式会社の協賛によりランチョンセミナーとして開催します。

オープンサイエンス時代の査読制度：査読プロセスの可視化、プレプリントサーバーの活用、査読評価など

仲岡雅裕（Ecological Research編集長、北大）

## Ecological Researchの査読期間を決める要因をひもとく

奥崎穰 (Ecological Research Managing Editor、北大)

## Ecological Research編集委員メンバーに聞く良い原稿、悪い原稿：こんな原稿ならすぐ査読しちゃうのになあ

中村祥子 (Ecological Research Managing Editor、森林総研)

フォーラム 3月16日 11:15-13:45 会場 C

### U03 キャリア支援フォーラム「多様な職場で自然を研究する」

企画者：キャリア支援専門委員会 宮下 直、鈴木 牧(東京大学)、沼田真也(首都大学東京)、西田貴明(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)、上野裕介(石川県立大)

博士課程に進学した場合のキャリアパスについては不透明な部分が少なくない。近年の博士課程への進学者の減少は、そうしたことが一因になっていると思われる。大学教員などの研究職が狭き門であり続ける限り、そうした不安はぬぐえないかもしれない。しかし、本人の意思次第で好きな生物や自然の研究を続けられ、査読付きの論文を發表し、学術に貢献することができる職種も存在している。本フォーラムでは、そうした分野で活躍されている以下の方々(予定)をお招きして、仕事と研究の両立の仕方や関連職種の紹介などのお話を頂く。

また、フォーラム終了後に1時間程度の時間を使い、株式会社グレイスによる「環境に関わる就職ガイダンス」を開催する予定である。

未定

植田睦之 (NPO法人バードリサーチ)

未定

山野井貴浩 (白鷗大学)

未定

宮田理恵 (神戸女学院中学・高校)

未定

宮脇成生 (建設環境研究所)

フォーラム 3月16日 12:30-13:30 会場 D

### U04 野外調査に初めて行く人のための安全講習

企画者：野外安全管理委員会

生態学の研究において野外調査は非常に重要であり、多くの研究者が野外調査に従事しています。しかし、野外調査には危険が常に伴い、生命を失うような事故が調査中に起こる可能性もあります。実際に、生態学の調査中にも死亡事故が起きています。そこで、野外調査の初心者をおもな対象に、野外調査を安全に行う方法の講習を実施します。

講習では、野外調査に従事する研究者が、自分と自分の周りの人の安全を確保するために知っておかなければならないことを厳選して紹介します。紹介するのは、調査に際しての心構え、調査に行く前にしておかなければならないこと(計画、保険、装備など)、調査中に注意すべきこと(健康、天候など)、事故への対処法などです。卒研生やM1の方など野外活動の経験に乏しい方の参加を特に歓迎します。参加者の皆さんからの質問をいただく時間も設けます。

さらに、野外調査をより安全に行うために注意すべき点をまとめたポスターを、ポスター会場で展示し、野外安全管理委員が質問に答える時間も設ける予定です。

皆さんの参加をお待ちしています。

安全な野外調査のために  
野外安全管理委員会

フォーラム 3月16日 11:45-13:45 会場 E

**U05 Future Earthという活動、そこでの生態学者の役割とは**

企画者：大手信人（京大・情報学）、日浦勉（北大・フィールド研）、石井励一郎（地球研）

Future Earth という国際的な研究プログラムが動いています。このプログラムは、自然科学、人文社会科学や、それらの応用を目指す工学、農学、医学、地域研究等にまたがる学際的研究により、地球規模・地域規模の環境問題に関する理解を深め、問題解決に向けた知の創出に挑みます。また、それだけではなく、研究者コミュニティと社会の様々なステイクホルダー（行政、研究資金提供者、産業界、教育関係者、メディア、市民）との超学際的な連携（協働）を通じて、社会を持続可能な方向へと転換していくことを目指しています。

大規模長期生態学専門委員会では、Future Earthの活動として進められているプロジェクトのなかで、現在研究を進めている方々に登壇いただいて、生態学がどのように必要とされ、位置づけられているかを紹介いただきます。

また、このFuture Earthという活動に生態学のコミュニティが参画する経緯を理解するために、そのルーツとなっている大規模長期的研究プロジェクト（IGBP、DIVERSITAS、DIWPAなど）の意義や機能について、中心となって来られた方々に語っていただき、それを踏まえて今後の生態学者のFuture Earthへのコミットの仕方を考えたいと思います。

講演：

仲岡雅裕（北大・フィールド研） Belmont Forum による TSUNAGARI project について（予定）

村上貴弘（九大・決断科学センター） JST/RISTEX による環境・災害・健康・統治・人間科学の連携による問題解決型研究について（予定）

パネルディスカッション：

日浦勉（北大・フィールド研）

中静透（東北大学・生命科学、地球研）

石井励一郎（地球研）

矢原徹一（九大・決断科学センター）（予定）

モデレーター： 大手信人（京大・情報学）

**Belmont Forum による TSUNAGARI project について（予定）**

仲岡雅裕（北大・フィールド研）

**JST/RISTEX による環境・災害・健康・統治・人間科学の連携による問題解決型研究について（予定）**

村上貴弘（九大・決断科学センター）

フォーラム 3月18日 12:00-14:00 会場 D

**U06 アクティブ・ラーニングと生態教育－効果編**

企画者：西脇亜也（宮崎大学）、畑田 彩（京都外国語大学）、平山大輔（三重大学）

過去2回の生態教育フォーラム「アクティブ・ラーニング」での話題提供と議論によって、参加した生態学会員の理解が深まりました。その際、生態教育におけるアクティブ・ラーニングについて、さらに多くの実践や効果の事例から学ぶ必要があるとの意見が多かったことを受けて、今回の「効果編」を企画いたしました。

今回のフォーラムでは、大学や高校での様々な科目での実践例「生態教育におけるアクティブ・ラーニ

ングの多様性」から学びたいと思います。

話題提供では、まず、京都外国語大学の畑田彩氏による大人数講義「生活と環境」におけるアクティブ・ラーニング事例報告をしていただきます（20分）。次に、多治見高校の佐賀達矢氏に、大学と高校生物におけるアクティブ・ラーニングをとり入れた授業の実践と評価についてご講演いただく予定です（20分）。最後に、公立はこだて未来大学の美馬のゆり（ミマ・ノユリ）氏に大学生の学びや21世紀型スキルの理論や実践などのお話をいただきます（30分）。5分間の休憩後、後半は、フロアとの質疑応答も交えた討議を行う予定です。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

#### 趣旨説明・大人数講義「生活と環境」におけるALとその効果

畑田 彩（京都外国語大学）

#### 学生はアクティブ・ラーニングをどう思っているか—東大初年次ゼミアンケート調査結果と高校でのAL事例

佐賀達矢（多治見高校）

#### 大学生の学びにおける21世紀型スキルの理論と実践

美馬のゆり（公立はこだて未来大学）

フォーラム

3月18日 12:00-14:00

会場 E

### U07 生態学者よ、街に出よ！Part 14 企業と生物多様性フィナーレ～生態学と企業はどう変わったのか、変わっていくのか？～

企画者：可知直毅（首都大）、足立直樹（(株)レスポンスアビリティ）、石川真一（群馬大）

2004年の釧路大会で自由集会として始まった「生態学者よ街に出よ！」は、今回で14回目を数えます（※）。この企画は、社会には今どのような課題があり、解決が求められているのかを知ることで、生態学が社会、特に企業が直面する課題の解決にどう貢献できるかを考えることを意図したものでした。つまり、これに参加することを通じて、まずはバーチャルに「街に出て」社会の課題を知り、そしてそれがきっかけとなって、より多くの研究者が課題解決のために実際に「街に出る」ことに期待をしたのです。

この14年の間に、2010年10月には名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されたこともあり、生物多様性という言葉が社会でも話題になり、また真剣に考える企業も増えてきました。そしてこれまでの一般的な意味での「自然は大切」という理解から、経済活動や社会そのものが存続するためには「自然は基盤であり不可欠の資本」という理解が深まりつつあります。

生態学の研究者と企業が課題解決のために協働したり、生態学を学んだ若手が企業や行政に就職して活躍することも珍しくなくなりました。こうしたことから、生態学会における「生態学者よ街に出よ！」シリーズも一定の役割を果たしたと考え、今回で一旦締めることにしました。そこで、今回は、これまで14年間の社会の変化を振り返り、またこれからについて参加者全員で展望します。

※2008年福岡大会においては学会執行部主催として開催したため、Part \*という番号を付けませんでした。これを含めると今回で15回となります。

#### これまで14年をふりかえって -企業と生態学の関係はどう変わったのか？-

足立直樹（株式会社レスポンスアビリティ）

#### 生物多様性を保全する企業の土地利用

三輪 隆（株式会社竹中工務店・技術研究所／JBIB持続的土地利用WG）

#### 「食」を入口に、企業が考えた生物多様性の取り組み

高田あかね（株式会社アレフ・エコチーム）

## 持続可能な社会の実現～イオンの取り組み

金丸治子（イオン株式会社・グループ環境・社会貢献部）

## パネルディスカッション

講演者全員、西田将人（環境省・生物多様性主流化室）ほか

企画集会 3月15日 9:00-11:00 会場 C

### T01 生態学研究の突破口をもたらす統計モデリング

企画者：深谷肇一（統計数理研究所）、長田穰（総合地球環境学研究所）

観測技術や分子生物学的手法の革新、統合データベースの充実化、市民モニタリングネットワークの発達などによって、生態学分野で利用可能なデータは質・量ともに目覚ましい向上を遂げている。これらは、従来観測が困難であった対象の直接的な計測やデータ収集の労力・費用・規模などの劇的な改善を実現して、生態学研究を強く駆動するものと考えられる。一方、実証研究においてデータと両輪をなすものが統計的推測である。データ利用可能性の向上は、生態学の統計モデリングの発展にも大きく影響している。データの背景にある本質的な情報を抽出できるかどうかは、問題の定式化次第であるからだ。計算機性能や推定アルゴリズムの進歩とも相まって、統計モデル開発の機運はかつてないほど高まっていると言ってよいだろう。

本集会では、日本の生態学者によって提案された独創的な統計モデルを紹介する。どの統計モデルも生態学の重要な問題に切り込むものばかりである。なぜ生態学者が新たな統計手法を開発するのか？そもそも生態学者自身の手で統計手法を開発する必要はあるのだろうか？生態学と統計学の交点において生態学者が果たし得る役割と、そこで新しく拓けるかもしれない生態学の展開について議論したい。

#### T01-1 企画主旨の説明：統計モデリングの新しさとは何か

長田 穰（総合地球環境学研究所）

#### T01-2 自動撮影カメラによる地上性動物の密度推定—個体識別を必要としない手法の開発と検証

中島 啓裕（日本大学生物資源科学部）

#### T01-3 動物の行動プロセスを野外データと流体力学で理解する

深澤 圭太（国立環境研究所）

#### T01-4 生態学的大規模データの統合によるマクロスケールでの種個体数分布推定

深谷 肇一（統計数理研究所）

#### T01-5 経路データから海鳥のナビゲーション能力を明らかにする：バイオロギングにおける逆問題アプローチ

後藤 佑介（東京大学大気海洋研究所）

企画集会 3月15日 9:00-11:00 会場 D

### T02 環境DNA分析技術展示会：環境DNA分析でどこまでできる？

企画者：山中裕樹（龍谷大・理工）、徐寿明（神戸大・院・発達）

2008年のFicetola et al. に始まる環境DNA分析をもちいた大型水棲生物の検出手法は、その誕生から今年で10年を迎える。この間、日本を含めた世界各国で新たな分析技術の開発と洗練が進み、リアルタイムPCRによる種特異的な検出系やユニバーサルプライマーをもちいたメタバーコーディングなどの環境DNA分析系が多く発表されて、学术界のみならず、環境アセスメント等の実務の場面で実際に利用されるようになってきた。環境DNA分析の利用者が増えて応用面への期待がさらに高まる中で、「生息種がわかる」という以上の

情報を得られないかという期待や、「水だけではなく他の環境試料は分析できないのか」、はたまた「その場での分析はできないのか」という要望も出てきている。研究ツールとして、そして実務的な環境調査ツールとしての環境DNA分析の利用の広がり、いかに多くの情報を環境中から簡便に取り出せるようになるか、にかかっている部分が多い。本企画集会では、環境DNA分析の新たな利用方法、新規技術、そして技術的進展を考えるうえで重要な、環境DNAの存在状態（正体）についての基礎的知見、に関連する5件の研究例を紹介し、「環境DNA学」における最新の進捗を報告する。

- T02-1 趣旨説明：近年の環境DNA分析の進展と応用可能性  
山中 裕樹（龍谷大・理工）
- T02-2 環境DNA分析による母貝中イタセンパラ仔魚の個体数推定  
多田 眞証（龍谷大・理工）
- T02-3 1. 環境DNAで繁殖期や繁殖場所を特定する  
源 利文（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）
- T02-4 堆積物中の環境DNAで過去の魚の個体数変動を捉えられるか  
加 三千宣（愛媛大学沿岸環境科学研究センター）
- T02-5 環境DNAによる現場抽出・分析への展開  
土居 秀幸（兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究科）
- T02-6 環境DNA分析手法における基礎研究の現状と展望  
徐 寿明（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）

企画集会 3月15日 9:00-11:00 会場 E

### T03 構成的アプローチによる行動進化の仮説検証

企画者：水元 惟暁（京都大・農）、鈴木 俊貴（京都大・生態研）

動物は周囲の環境に適応し、非常に巧みな行動形質を獲得してきた。なかでも、信号を組み合わせた情報コミュニケーションや、多数の個体が協力する生物の集団行動などは、複数の要素が組み合わせられることで初めて機能するという性質を持つ。では、これら複雑な行動形質はどのような認知機構によって制御され、どのような進化プロセスを経て獲得されたのだろうか？このような、直感的に分析対象を絞ることが困難な複雑系を理解する上では、「構成的アプローチ（constructive approach）」が有用である。これは、現象に必要なと思われる要素を抽出あるいは作成し、実際にシステムを作って動かしてみることで、よりよく理解しようとする手法である。本集会では、この構成的アプローチを用いて、行動の認知機構や進化プロセスに関する仮説を生成、検証した研究成果を紹介する。これらの研究では、行動現象から要素を抽出し、それらに変化を加えたうえで、計算機・対象動物・ロボットを用いて実際に動作させてみることで、複雑系を再現する試みを行っている。演者らによる様々な研究例を通じて、構成的アプローチが生態学や進化学において、どのように貢献できるか議論したい。

- T03-1 複雑な形質のマクロ進化プロセス：多要素構造、系統比較法、進化順序推定  
鈴木 誉保（農研機構）
- T03-2 シジュウカラの文法能力：人工音列の作成による構成的理解  
鈴木 俊貴（京都大・生態研）
- T03-3 建設アルゴリズムから臨むシロアリの構造物の進化プロセス  
水元 惟暁（京都大・農）

T03-4 神は細部に宿る: フェロモンを用いたロボット群の採餌効率を左右する行動規則  
土畑 重人 (京都大・農)

企画集会 3月15日 17:30-19:30 会場 A

T04 生物多様性の保全計画: 空間的優先順位付けの方法論と実践例

企画者: 中臺亮介 (琉球大・理学部/一財沖縄県環境科学C)

生物多様性の保全に費やすことのできるリソースは有限であり、限られたコストの下で、生物多様性を最も効果的に保全するように保護区を配置することが重要である。このような背景を受けて、社会経済的な負担と保全効果のトレードオフ関係の最適化を目指した「システム化保全計画 (Systematic conservation planning: SCP)」の枠組みで優先保全地域の特定に関する議論が再定義され、より実務的な研究として発展している。

初期の生物多様性の保全研究では、「1つの大きな保護区と多数の小さな保護区のどちらが生物多様性の保全に有効か」というSLOSS論争をはじめとして、個々の種個体群に着目するものではなく、その地域の生物多様性を俯瞰した保護区の設置が議論された。その後、このような全体論的な視点はすべての種の分布を調査し、情報を収集するということの難しさから、次第に個々の種個体群の保全を計れば、その総体である生物多様性の損失は回避されることになるといった還元論的な見方にシフトしていくこととなる。

しかしながら、近年、生物多様性に関する大規模データの蓄積と統計手法の発展により、世界的に全体論的な見方であるシステム化保全計画の枠組みの中で、保護区の設置問題が再び議論されるようになっていく。本集会では、システム化保全計画の概念や方法論を解説した上で、日本初の大規模な実践例である「生物多様性おきなわブランド発信事業」について、日本全体・都道府県単位など異なる行政区で解析を行った際の優先保全地域の違いについて、対象とする分類群・多様性サロゲート (代替指標) がもたらす結果の違いとその解釈について、発表を行う。最後に生物多様性の情報が急速に増加していく中での生物多様性の保全の展望について議論したい。

コメンテーター: 久保田康裕 (琉球大学)

T04-1 保全優先度指標の概念とアルゴリズム: かけがえのない地域をどう特定するか  
藤沼 潤一 (琉球大・熱生研)

T04-2 生物多様性から神奈川県自然保護エリアを考察  
竹野内 正寿 (富士通研究所)

T04-3 保全計画立案プロジェクトの実践: 生物多様性おきなわブランド発信事業  
中臺 亮介 (琉球大・理学部/一財沖縄県環境科学C)

T04-4 保全計画における国と地方自治体の役割: 国・都道府県ごとの空間的保全優先地域の特定  
塩野 貴之 (琉球大・理学部)

企画集会 3月15日 17:30-19:30 会場 B

T05 国内外来種を考える

企画者: 岸田治 (北大・北方圏FSC), 佐伯いく代 (筑波大・人間総合)

外来種といえば何を思い浮かべるでしょうか? 湖沼で猛威を振るうブラックバス、空き地を埋め尽くすセイタカアワダチソウ、白いお尻のセイヨウオオマルハナバチ、そして昨夏に大ニュースにもなったヒアリなどなど、ほとんどの人は、異国の地から海を越えて日本にもたらされた種を真っ先に挙げると思います。しかし当たり前ですが、外来種は外国から来たものだけではありません。日本国内において本来の分布域とは異なる地域へと移入された種は数多くあります。一般に、人や物資の往来は国と国との間より国内

において盛んです。また外国の種に比べ、より親しみのある自国の種については、たとえ自生分布域の外であっても、それを野外に放逐することに心理的な抵抗が小さいことが考えられます。そのため、国外種よりも国内種のほうが移入のリスクは高いと予想され、その影響には注意を払う必要があります。ところが、国内外来種を対象とした研究は国外外来種と比べると少なく、ほとんどの場合影響の全体像は明らかになっていません。さらに、外来生物法において国内外来種が規制対象となっていないことから明らかなように、行政レベルでの具体策があまり講じられていないのが実情です。本集会では、これまでの国内外来種の研究で得られている知見を共有し、国内外来種ならではの問題点を整理することで、今後どのような取り組みが必要かを議論します。

コメンテーター： 小池文人（横浜国大・環境情報）

**T05-1 見落とされてきた脅威を暴く～北海道に定着したアズマヒキガエルのインパクト～**  
岸田 治（北大・北方圏FSC）

**T05-2 富士箱根伊豆国立公園伊豆諸島における国内外来種問題**  
長谷川 雅美（東邦大・理）

**T05-3 見えない外来種：淡水魚における遺伝子浸透**  
河村 功一（三重大・生物資源）

企画集会 3月15日 17:30-19:30 会場 C

## **T06 新たな脅威と生物群集：広域影響をどう捉えるか**

企画者：小出大（国立環境研）,先崎理之（国立環境研）,熊谷直喜（国立環境研）

温室効果ガス排出に伴う急速な気候変動、経済のグローバル化に伴う外来種の蔓延、モータリゼーションの進行によって広範化する交通騒音など、生物はかつて遭遇してこなかった新たな脅威に直面している。しかし広域化するこれらの脅威が生物群集に対して与える相対的・複合的な影響力に関する理解は未だに乏しい。また生物間相互作用を通して複雑に絡み合う反応系の解明も充分ではない。これらを明らかにすることは、今後も増大が予測される生物多様性への人為的インパクトを低減し、保全戦略や適応策を議論する上でますます重要になると言える。そこで、本企画集会では、様々な生態系や生物を対象に行われたいくつかの事例研究を通して、人為的・生物的要因が広域的な生物群集に与える影響と、その根底にあるメカニズムを理解するためにはどのようなアプローチが必要かを考える。

**T06-1 騒音の広域的生物影響：鳥類群集を事例に**  
先崎 理之（国立環境研究所）

**T06-2 環境変動に対する多種間相関をもつ群集の応答：水生生物群集を事例に**  
角谷 拓（国立環境研究所）

**T06-3 温暖化・外来種・雲霧帯の複合影響：ハワイにおける植物群集の移動**  
小出 大（国立環境研究所）

**T06-4 気候変動下でのコネクティビティと生物間相互作用：植食者と藻場・サンゴ群集**  
熊谷 直喜（国立環境研究所）

企画集会 3月15日 17:30-19:30 会場 D

## **T07 生態学者による感染症へのアプローチ**

企画者：松橋彩衣子（森林総研）,内井喜美子（大阪大谷大・薬）

感染症は、自然環境や社会に深刻な影響をもたらす問題の一つであるが、それをとりまく生態学的視点は

実に多様である。対象スケールはマイクロからマクロ、研究目的は基礎から応用と、非常に様々な切り口からアプローチされているユニークな研究対象であると言える。感染症の発見、原因の特定、分布・動態の調査、そして予測といった種々の過程の中で、生態学はどのように関わっているのだろうか。本集会では、近年生態学で開発・利用されている手法、特に分子生物学的手法、同定・分類法、調査技術、解析方法を活用しながら感染症をめぐる様々な問題に挑んだ研究を紹介する。それらを通して、現代ではどのような問題が改善されたのか、何をどこまで明らかにできるようになったのか、どのように発展させていくことができるのかを整理すると同時に、生態学にどのように貢献させていくことができるのか、その萌芽性について議論していきたい。

- T07-1 環境DNAを用いて宿主と病原生物の動態を探る  
内井 喜美子 (大阪大谷大・薬)
- T07-2 珪藻寄生性ツボカビの多様性および生態学的機能 -分類学的研究から動態解析へ-  
瀬戸 健介 (東邦大・理)
- T07-3 植物ウイルスの生態学：RNA-Seqを用いた検出と宿主-ウイルス相互作用解析  
神谷 麻梨 (京都大・生態研、龍谷大・食農研)
- T07-4 外来病マツ枯れの危険域を推定する：種分布モデルを用いた予測と気候変動の影響評価  
松橋 彩衣子 (森林総研)

企画集会 3月15日 17:30-19:30 会場 E

## T08 島嶼の希少魚リュウキュウアユの保全を考える：生態学、遺伝学、社会学の包括的視点から

企画者：武島弘彦 (東海大海洋)，安房田智司 (大阪市大院理)

昨今の環境破壊により絶滅の危機に瀕した水圏生物が加速度的に増加するなか、生態学、遺伝学、社会学等の包括的な研究から保全策を提案することは非常に重要である。奄美大島のように自然集団が存続するリュウキュウアユは、日本の淡水魚の中でも、最も絶滅の危機に瀕している種の一つである。これまで多くの研究者が本種の保全のために知見を集積し、また、島民とともに保全活動を行ってきた。近年、演者らによる多方面の研究アプローチから新規の成果が得られている。本集会では、まず生態学の視点から、不明な点が多かった本種の生息場所や産卵場所の選択、初期生活史と食性、遡上生態について紹介する。次に、遺伝学的手法から明らかになったメタ個体群構造についての話題を提供する。最後に、社会学の視点から、保全活動の主体となるべき島民の意識に映るリュウキュウアユをとりあげる。これらをもとに、今後の保全の進め方や新規の研究展開について議論したい。リュウキュウアユの命名者である西田睦氏 (琉球大) にコメントをいただく予定である。

- T08-1 奄美大島の河川環境とリュウキュウアユの生息地・産卵場所選択  
安房田 智司 (大阪市立大学)
- T08-2 リュウキュウアユの初期生活史と摂餌生態  
久米 元 (鹿児島大学)
- T08-3 個体群を隔てる初期分散と成長パターン  
井口 恵一郎 (長崎大学)
- T08-4 生態調査と大規模DNA分析から明らかとなったリュウキュウアユのメタ個体群構造  
小黒 環 (新潟大学)

T08-5 地域の「守られるべき自然」とリュウキュウアユ  
黒田 暁 (長崎大学)

企画集会 3月15日 17:30-19:30 会場 F

**T09 Methodological challenge for disentangling biodiversity patterns and community assembly processes**

企画者：久保田康裕 (琉球大学・理学部)

生物多様性パターンと群集集合プロセスの生態学的分析における問題点

生物群集のガンマ多様性、アルファ多様性、ベータ多様性のような生物多様性の定量は、進化生態学における古典的かつ基本的なテーマである。また、様々な生物多様性指標を組み合わせることで、多様性パターンの背後にある群集形成のプロセス（環境フィルター効果や分散制限など）を推論することができる。したがって、生物多様性パターンと群集集合プロセスの分析は、今後も生態学においてチャレンジングなテーマであり続けるだろう。この企画集会では、群集の多様性分析における方法論上の問題点、例えば、多様性指標の相互依存性やアンダーサンプリングに焦点を当てる。

T09-1 Bridging the variance and diversity decomposition approaches to beta diversity via similarity and differentiation measures  
Chao Anne (National Tsing Hua University)

T09-2 Importance of environment evaluated by constrained ordination depends on the completeness of sampling  
ZELENY David (Institute of Ecology and Evolutionary Biology, National Taiwan University)

T09-3 A crisis is a chance: standardized sampling area leads to bias in comparing diversities.  
LI Ching-feng (School of Forestry and Resource Conservation, National Taiwan University)

T09-4 Internal tides affect benthic community structure in an energetic submarine canyon off SW Taiwan  
WEI Chih-lin (Institute of Oceanography, National Taiwan University)

T09-5 Phylogenetic beta diversity reveals global-scale diversification of forest biomes  
久保田 康裕 (University of the Ryukyus)

企画集会 3月15日 17:30-19:30 会場 G

**T10 森林生態系の枯死木分解に関わる生物群集**

企画者：深澤遊 (東北大・農)、鈴木智之 (東大・農)

枯死木は炭素の巨大な貯蔵庫であると共に、菌類やバクテリア、植物や無脊椎動物など多様な生物の生息場所となっており、森林生態系の物質循環・生物多様性に重要な役割を果たしている。枯死木に生息する生物群集は複雑な相互作用の中で枯死木を物理的・化学的に分解し、分解によって生じた材の物理化学的な変化は逆に生物群集の遷移を促す。こういった生物群集と材質の間のフィードバック関係は、枯死木分解の根幹をなすメカニズムと考えられる。しかしながら、生物群集と材分解の関係についての理解は、いまだ十分とは言えない。この集会では、生物群集と材分解の関係に着目して研究を行っている5人の方々に話題提供をいただく。トピックは、節足動物群集と材分解の関係から、樹病を含む節足動物と菌類の関係、さらに枯死木に関わる食物網と多岐にわたる。また時間スケールも、1年から数年の研究から50年前のイベントの影響を扱ったものまで幅広い。集会での議論を通じて枯死木分解とそれに関わる生物群集についての最新の情報を共有するとともに、今後の方向性について考えたい。(コメンテーター：小林真)

- T10-1 林床の枯死木が支えるトビムシ群集の機能の多様性  
藤井 佐織 (アムステルダム自由大学)
- T10-2 都市化による枯死木依存性節足動物群集の変化と分解機能  
宮崎 怜 (横浜国大・環境情報)
- T10-3 木材腐朽性菌食甲虫の空間分布と孢子散布  
原田 友也 (金沢大)
- T10-4 コナラ枯死木の菌類群集と分解過程にナラ枯れが与える影響  
深澤 遊 (東北大・農)
- T10-5 枯死木を利用する生物群集が森林生態系食物網に与える影響：50年前の風倒地を例に  
鈴木 智之 (東大・農)

企画集会 3月15日 17:30-19:30 会場 H

### T11 シカ個体数管理の評価のための植生指標の探索

企画者：飯島勇人 (森林総研), 梶光一 (東京農工大)

シカによる生態系への影響の中でも植生への影響は古くから研究されており、またシカ管理を開始する動機であると思われる。しかし、現在のシカ管理において植生の状態が管理目標となっていることはほとんどなく、シカの個体数に重点が置かれている。それは、シカによる植生への影響度を決定する要因や、その背景となる生態的過程に関する研究が十分でないことによると主催者は考えている。近年、シカ管理を行っている地域の一部ではシカが減少に転じた箇所がでてきているが、シカ密度と植生の関係を扱った国内研究の多くはシカが増加している地域で行われている。すなわち、現状ではシカ密度に対する植生応答は一定であり、シカをある密度まで減少させればそれまでの履歴に関係なく同じような植生の状態となることを仮定していることになる。海外では、シカによる影響を受けた期間や強度によってはシカ密度を減少させても植生が回復しない事例が多数報告されていることから、日本においてもシカ減少時の植生応答に関する知見を集積し、その背景となる生態的過程を明らかにする必要がある。そこで本集会では、これらの状況下での植生応答とその要因に関して議論を行い、植生への影響度に基づいたシカ管理目標のあり方を参加者と探りたい。

#### [演題]

- シカによる影響の生態的指標を見る重要性 梶光一 (東京農工大)
- 知床国立公園におけるエゾシカ個体数調整後の植生回復過程 石川幸男 (弘前大)・渡辺修 (株) さっぽろ自然調査館)
- シカ減少期における林床植生の応答 稲富佳洋・宇野裕之 (道総研環境科学研究センター)
- シカ減少期における下層植生衰退度と稚樹食害率の応答 藤木大介・高木俊 (兵庫県立大)

- T11-1 シカによる影響の生態的指標を見る重要性  
梶 光一 (東京農工大学)
- T11-2 知床国立公園におけるエゾシカ個体数調整後の植生回復過程  
石川 幸男 (弘前大学)
- T11-3 シカ減少期における林床植生の応答  
稲富 佳洋 (道総研環境科学研究センター)
- T11-4 シカ減少期における下層植生衰退度と稚樹食害率の応答  
藤木 大介 (兵庫県立大学)

**T12 Exploiting digital tools to generate new insights into behaviour and ecology**

企画者：Adam Cronin (Tokyo Metropolitan University), Masato S. Abe (RIKEN AIP)

Recent advances in computing power have coincided with advances in software, digital cameras, GPS accuracy, and development of a variety of other tools which can be used to both to collect and analyse data in unprecedented ways. These tools can generate new insights into ecology and behaviour of organisms, particularly with respect to elucidating broad-scale and long-term patterns and complex and/or cryptic systems. In this symposium we will present studies of a broad range of taxa which make use of new technology advance our understanding of biological systems. While we hope to share the advantages and limitations of a range of different techniques, we focus on new insights that can be gained through their employment.

- T12-1 **Automatic tracking reveals temporal organization in ant colony**  
藤岡 春菜 (University of Tokyo)
- T12-2 **Spatio-temporal structures in frog choruses revealed by sound-imaging device**  
合原 一究 (University of Tsukuba)
- T12-3 **Where and what do they do? Observation of animal behaviour using animal-borne data loggers: the case of seabirds**  
山本 誉士 (Nagoya University)
- T12-4 **Microphone-array measurement and mathematical analysis of the acoustic navigation behavior by bats during natural foraging**  
藤岡 慧明 (Doshisha University)

**T13 里地里山のアグロエコロジカル・ドライバー：農業生物多様性と生態系サービスの因果を探る**

企画者：楠本良延（農研機構・農業環境センター）、嶺田拓也（農研機構・農村工学部門）、日鷹一雅（愛媛大・院・農学）

里地里山は生物多様性の温存地として重要視され、様々なモニタリングや保全事業が行われて久しい。一方、農業農村の振興のための方便として、生物多様性や生態系サービスが取り上げられることも少なくなく、生態学者への期待も大きくなりつつある。例えば、日本型環境直接支払い制度の設計や日本・世界農業遺産地域の認定では、生物多様性の保全や生態系サービスの向上への取り組みが社会的に評価される時代に突入している。しかしながらそこで社会的に高く評価されるのは、農業に強く結びついた生物多様性だったり、6次産業化に結びつくような生態系サービスであり、農業・農村で行われている種々の営為と生物多様性や生態系サービス等を結びつける駆動因 (Agroecological driver)の存在が欠かせない。そこで私たちは、農業・農村を主構成要素とした里地里山における生物群集や生態系の構造や機能に目を向け、その記載や成因などの研究成果を基を基に、農業と強く結びつき、農業・農村の持続性に実際に貢献するような意味で駆動的な役割を果たす多様な因子について取り上げ、ここで整理・吟味・論議する。誌上や机上の議論に留まらないアグロエコロジカル・ドライバーのいくつかの視点の異なる先駆的な基礎的研究例を紹介しながら、今後の駆動要因の発掘への道しるべとなるような集会としたい。

コメント (予定)

- T13-1 **農法転換は駆動因になりるか？—小さな小さな山里の有機農業の実態調査から**  
嶺田 拓也 (農研機構・農村工学研究部門)

T13-2 景観維持は駆動因になりうるか？－世界農業遺産認定における茶草場の農業生物多様性評価から  
楠本 良延（農研機構・農業環境変動研究センター）

T13-3 多様な生物種は駆動因になりうるか？－西南日本の現場でウンカシヘンチュウから大型鳥類まで  
を吟味する  
日鷹 一雅（愛媛大学大学院農学研究科）

企画集会 3月16日 9:00-11:00 会場 C

## T14 多型現象について思いの多型を語る会

企画者：岡田泰和（東京大，院，総文），高橋佑磨（千葉大・院・理）

個体間や集団間に見られるあらゆる表現型変異は、表現型レベル、遺伝子レベルを問わず、適応進化の歴史と到達点を反映している。種内の遺伝的多型や表現型多型などの”多型現象”は、今も昔も表現型進化のしぐみに迫る格好の題材であり、進化生態学の王道の一つであり続けてきたといえる。現在でも、多型現象の研究はゲノム科学や分子発生学を取り込みながら、適応進化と表現型多様化の研究に古くて新しい切り口を提供しつづけている。本企画集会では、とりわけ興味深いトピックとして、集団内や集団間（近縁種間）での多型の維持・創出機構や変異作出の生理機構・遺伝基盤をとりあげる。多型現象を取り扱う研究は、その創出・維持機構や発生・発達機構など、個々の研究としては進展がめざましいが、選択圧と遺伝的変異、表現型変異を有機的につなげて理解する段階までは、まだまだ道のりが長いように感じられる。

本企画集会は集団内、集団間（近縁種間）にみられる”多型現象”に焦点をあてた研究についてお話いただく。演者の方々には多型現象を創出する選択圧・遺伝要因・環境要因について今、”何がわかって、何がわからないのか”を（正直に？）お話いただき、本集会を各論のつながりを模索する機会としたい。

T14-1 性形質の種内多型とその創出機構  
岡田 泰和（東京大学・院・総合文化）

T14-2 オオシロアリにおける補充生殖虫分化を制御する機構  
小口 晃平（東大・院理・附属臨海）

T14-3 多胚性寄生蜂のカースト多型  
岩淵 喜久男（東京農工大・農学部）

T14-4 ミスミソウの花色は何故多様なのか  
亀岡 慎一郎（京大院・人環）

T14-5 多型の進化過程と生態的機能の関係  
高橋 佑磨（千葉大・院・理）

企画集会 3月16日 9:00-11:00 会場 E

## T15 環境保全型農業で水田景観の生物多様性を守ることができるのか？

企画者：池田浩明（農業環境変動研究センター）

生物多様性条約（CBD）愛知目標を達成するためには、第一次産業における生物多様性の主流化が不可欠とされている（CBD-COP13）。この主流化のためには、生物多様性に配慮した農業の普及を図る必要がある。農林水産省は、環境保全型農業として、化学合成農薬・肥料の使用を半減させる農業を推進しているが、それが果たしてどの程度、生物多様性を保全できるのかは良くわかっていないのが現状である。そこで、有機（化学農薬・肥料を不使用）・特別（農薬成分回数と化学肥料の窒素成分量が慣行に比して50%以下）・

慣行（標準量の化学農薬・肥料を使用）栽培など、栽培方法の異なる水田において、鳥類、魚類、両生類、クモ類、昆虫類、植物などを包括的に調査する全国規模のプロジェクト研究を実施した。本集会では、その研究成果の一部として、まず全国スケールでの環境保全型農業の保全効果と兵庫県豊岡市における「コウノトリ育む農法」の保全効果を検証する。続いて、群集構造の変化から栽培方法が水田生態系へ及ぼす影響を分析した結果を報告する。次に、農業水利施設と水田における環境に配慮した取り組みが生物多様性を保全する効果を評価する手法について紹介する。最後に、総合討論として、水田景観における生物多様性保全のあり方について議論したい。

コメンテーター：長谷川雅美（東邦大）、宮下 直（東大）

**T15-1 全国スケール解析から見えてくる特別・有機栽培水田の生物多様性保全効果**  
片山 直樹（農業環境変動研究センター）

**T15-2 コウノトリ育む農法実施水田における動植物群集の特徴**  
内藤 和明（兵庫県立大・地域資源）

**T15-3 栽培方法の異なる水田生態系における群集構造の差異**  
馬場 友希（農業環境変動研究センター）

**T15-4 農業水利施設における生態系の評価と保全**  
森 淳（北里大・獣医）

**T15-5 鳥類に優しい水田がわかる生物多様性の簡易評価手法**  
池田 浩明（農業環境変動研究センター）

企画集会 3月18日 9:00-11:00 会場 D

## **T16 真の原生環境、南硫黄島の生態系が解く島嶼生態系の秘密**

企画者：堀越和夫（小笠原自文研）、可知直毅（首都大）

### 開催趣旨

小笠原諸島の南硫黄島は過去に人間の利用履歴がなく、外来生物もほとんど侵入していない絶海の孤島である。この島は原生自然環境保全地域として上陸が制限されており、その生態系は真に原生状態を維持している。このような島は国内のみならず世界的にも希有であり、島嶼生態系のオリジナルな状態を解明する貴重な存在であるとともに、小笠原諸島の保全上の目標像を示す場所でもある。

南硫黄島は小さいながらも乾燥した海岸環境から、標高900mを超える雲霧林まで変化に富む環境を持つと同時に、淡水系を有しないという特徴を持つ。また、小笠原諸島の北部を構成する小笠原群島は数千万年の歴史を持つが、南硫黄島を含む火山列島の成立は数万年から数十万年前と新しく、島嶼における進化の初期段階が見られることも注目される。

この島で2017年に史上4回目、10年ぶりとなる総合的な生態系調査が実施された※。その結果、独自の生物進化や原生状態の生物間相互作用、人為のない状況での環境変化などが明らかになってきた。本集会ではこれらの成果を紹介し、島嶼生物学における南硫黄島の持つ価値について議論を深めたい。

※本調査は、東京都、首都大学東京、日本放送協会（NHK）が連携して、2017年6月13日から6月28日に実施した。

**T16-1 南硫黄島総合学術調査報告会 趣旨説明**  
堀越 和夫（小笠原自然文化研究所）

**T16-2 南硫黄島調査の実施体制**  
小泉 恵佑（小笠原支庁）

- T16-3 雲霧帯における気温・湿度の年間パターンの推定と10年間の植生変化  
朱宮 丈晴（日本自然保護協会）
- T16-4 外生菌根性樹木がない島の菌類相  
保坂 健太郎（国立科学博物館）
- T16-5 南硫黄島の大型土壌動物群集  
岸本 年郎（ふじのくに地球環境史ミュージアム）
- T16-6 陸産貝類に見られる島嶼における進化の初期段階  
和田 慎一郎（首都大学東京）

企画集会 3月18日 9:00-11:00 会場 E

## T17 21世紀のダム建設ブームと、生物多様性保全に向けた取り組み

企画者：米倉佑亮（横浜国大・環境情報）

近年、世界で最も生物多様性の高い熱帯域-アマゾン川・コンゴ川・メコン川流域-では、空前のダム建設ブームが起きている。今あるダムのほとんどは比較的小規模で上流の支流に位置しているが、450以上の建設予定のダムの中には、本流に位置しているものもあり、淡水魚の生物多様性への影響も懸念されている。

これに加えて一部の研究者やエネルギー関係者、政策決定者は、気候変動対策としてCO<sub>2</sub>排出の少ないダムによる水力発電を“環境にやさしいクリーンな発電方法”と位置づけ、開発を推進している。

そこで本集会では、主に熱帯域に焦点を当て、グローバルな問題としてダムが生態系に与える影響について多くの方々に関心を持って頂くとともに、実際にそれを防ぐ、あるいはその影響を少なくする方法についても議論したいと考えている。またこれに関連して、科学研究の実際の政策への活かされ方についても併せて議論を行う。

コメンテーター（予定）：北島薫（京都大学/スミソニアン熱帯研究所）

- T17-1 21世紀のダム建設ブーム：大規模発電は時代遅れ！？  
米倉 佑亮（横浜国大・環境情報）
- T17-2 メコン川のダム開発と生態系サービスのゆくえ  
福島 路生（国立環境研究所）
- T17-3 ダムによるシリカトラップと、それが流下先海域の珪藻生態系に影響を与える可能性  
原島 省（一般社団法人 国際環境研究協会）
- T17-4 気候変動対策と自然環境保全の間で起こる問題に係る科学的知見を実際の政策に還元するには？  
大澤 隆文（環境省・自然環境局）

3/15 口頭発表 Oral presentations

Time	Room A 保全	Room B 外来種	Room C Conservation & Ecosystem Management	Room D 菌類・微生物	Room E Animal Ecology & Animal-Plant Interaction
14:00	[A01-01]都市公園利用者の生物多様性認識: 誰がどの生き物の存在に気付いているのか?*石橋 颯己 (東京大学), 赤坂宗光 (東京農工大学), 小柳 知代 (東京学芸大学), 曾我昌史 (東京大学)	[B01-01]捕食者巻貝が外来種キタアメリカフジツボの加入に与える非消費効果*頼末武史 (北大・FSC・厚岸), 百田 恭輔 (港空研), Julius, Ellrich A (StFX University)	[C01-01]Infections of Wolbachia may destabilize mosquito population dynamics*Arndt Telschow, Florian Grziwotz (Univ of Münster), Philip Crain (Univ of Münster, DuPont Pioneer), Takeshi Miki (National Taiwan Univ), James Mains (Univ of Kentucky, MosquitoMate), George Sugihara (UCSD), Stephen Dobson (Univ of Kentucky), *Hsieh Chih-hao, *Hsieh Chih-hao (National Taiwan Univ)	[D01-01]バンドウイルカの腸内容物から乳酸菌を分離する*瀬川 太雄 (三重大院・生資・鯨セ), (独)学振・PD), 鈴木 美和 (日大・生資・海洋), 青柳 皓大 (三重大院・生資・鯨セ), 岩田 秀一, 澤 修作 (うみたま体験パーク), 吉岡 基 (三重大院・生資・鯨セ)	[E01-01]Predator-prey mass ratio revisited: Does preference of relative prey body size depend on predator body size?Cheng-han Tsai (James Cook Univ), Chih-hao Hsieh (Natl Taiwan Univ), *Takefumi NAKAZAWA (Natl Cheng Kung Univ)
14:15	[A01-02]里山資源を活用した環境配慮型水稲農法の検討*商奕晨 (金沢大・院・自然研), 伊藤 浩二 (金沢大・地域連携セ), 西川 潮 (金沢大・環日セ)	[B01-02]競争を通じたサクラマス野生魚への影響は外来種よりも同種放流魚の方が大きい*長谷川 功, 中島 歩 (北海道区水産研究所)	[C01-02]Developmental toxicity of insecticides on Japan's wild frogs and insights in to the insecticide-induced gene expression changes using <i>Xenopus laevis</i> *Nalinda Roshan RUWANPATHIRANAGE, Kamata, Taito, Shimizu, Akito, Saiga, Mutsumi, Maeno, Mitsugu (Niigata Univ.), Kubota, Masatoshi (Niigata Univ Pharm), Kadowaki, Motoni (Niigata Inst Tech.), Sekijima, Tsuneo (Niigata Univ.)	[D01-02]干潟の底質微生物群集に及ぼす生物遺骸の影響:メタ16s/18sRNA解析による検証*河本 泰岳 (東北大学大学院)	[E01-02]Exploring interactions between invasive raccoons and co-occurring carnivores in Japan using a multispecies dynamic occupancy model*KASS, Jamie Michael (City Univ. of NY), Tingley, Morgan W (Univ. of Connecticut), Tetsuya, Tatsuyuki (Yokohama Dept. Env.), Koike, Fumito (Yokohama Nat. Univ.)
14:30	[A01-03]Environmental and Social Impacts on Artisanal Small Scale Gold Mining: A Case Study in Thabeikkyin Township, Myanmar*SOE, Pyae sone (Kyoto University)	[B01-03]日本におけるザリガニの疫病 水カビ病の感染状況調査*上村 兼輔 (東京大学), 川井 唯史 (北海道稚内水産試験場)	[C01-03]Long-term impact of dioxin contamination from the Vietnam War on the bacterial community in Central Vietnam*TRAN, Trang Huyen (NCKU, Taiwan, Vinh University), NGUYEN, Hung Minh, NGUYEN, Hue Thi Minh (CEM, Vietnam), HUANG, ChaoLi, CHIANG, TzenYuh (NCKU, Taiwan)	[D01-03]光・外来性有機物の供給バランスと繊毛虫個体群の成長速度*風間 健宏, 平間 文也 (東北大院・生命), 野口 拓水 (東北大・理), Tyler Tappenbeck (モンタナ大・FLBS), 片野 泉 (奈良女子大・生物), 土居 秀幸 (兵庫県立大・シミュ), 山道 真人, 吉田 丈人 (東大・総合文化), James Elser (モンタナ大・FLBS), 占部 城太郎 (東北大院・生命)	[E01-03]Bifurcation analysis of ratio-dependent Batesian mimicry model on community dynamics*Kato, Hayato, Takada, Takenori (Hokkaido University)
14:45	[A01-04]Are Mesophotic Coral Ecosystems refuges for shallow corals during massive bleaching?*SINNIGER, Frederic (Univ. of the Ryukyus), Prasetia, Rian (Univ. of the Ryukyus, IRD Noumea, France), Kan, Hironobu (Kyushu University), Harii, Saki (Univ. of the Ryukyus)	[B01-04]外来種ウチダザリガニに対する継続的駆除の効果*一條 信明 (釧路自然保護協会)	[C01-04]Reassembly of soil fungal communities under plant diversity restoration*辰巳 晋一 (横浜国立大学, トロント大学), 松岡 俊将 (兵庫県立大学), 藤井 沙織 (アムステルダム自由大), 小林 真 (北海道大学), 大園 享司 (同志社大学), Isbell Forest (ミネソタ大学), 森章 (横浜国立大学)	[D01-04]ヒサカキの花の蜜に住む微生物*辻 かおる (京大・生態研センター)	[E01-04]Effect of Flooding on Terrestrial Insects communities and across-ecosystem food web structure*Yiyang GAO, Junjiro N. Negishi (Hokkaido University)
15:00	[A01-05]北海道歌才湿原における排水路の堰上げによる植生と地下水位の変化-堰上げ後の2年間の変化について-*李 娥英 (北大FSC植物園), 富士田 裕子 (北大FSC植物園), 井上京 (北大農学研究院), 横地 穰 (北大国際食資源学院)	[B01-05]竹箒が犯人だった!ムネアカハラビロカマキリなど中国産外来昆虫の移入経路解明へ*苅部 治紀 (神奈川県), 碓井 徹 (埼玉県動物研究会), 櫻井 博 (多摩動物公園), 松本 和馬 (八王子市), 加賀 玲子 (神奈川県)	[C01-05]Managing secondary forest succession to increase long-term carbon storage using native species in Panama*Anna SUGIYAMA (Yale Univ), Liza S Comita (Yale Univ), Game T Edward (TNC), Joseph Wright (STRI)	[D01-05]琵琶湖の底にある、ちょっと変わった微生物ループ*中野 伸一 (京都大学), 早川 和秀 (琵琶湖環境科学研究セ), 程木 義邦 (京都大学), 岡崎 友輔 (京都大学), Indranil Mukherjee (京都大学), Shoji Thottatil (ケベック大学), 高巢 裕之 (長崎大学)	[E01-05]How thermal traits affect the assemblage of butterfly communities?*YU, You-cheng, Chen, I-Ching (Cheng Kung Univ.)
15:15	[A01-06]中部地方の山地における湿地の分布特性と地形*高岡 貞夫 (専修大学)	[B01-06]外来種ツマアカスズメバチが対馬在来スズメバチ類に与える空間構造を考慮した影響評価*池上 真木彦, 岸 茂樹, 五箇 公一 (国立環境研究所)	[C01-06]Assessing Forest Fire Vulnerability around Nature Reserve Area in the Russian Far East with Remote Sensing*KHATANCHAROEN, Chulabush (The Univ. of Tokyo), TSUYUKI, Satoshi (The Univ. of Tokyo), WADA, Naoya (Univ. of Toyama), SUGIURA, Konosuke (Univ. of Toyama), SEINO, Tatsuyuki (Univ. of Tsukuba), BRYANIN, Semyon V. (FEB RAS), LISOVSKII, Viktor V. (Zeya State Nat. Res.)	数理 [D01-06]連結した湖沼生態系モデルに現れる時空間パターン*佐藤 一憲 (静岡大学)	[E01-06]Subpopulation structure of the Hokkaido population of sika deer: Disruptive structure on a continuous habitat*SAITOH, Takashi, Misawa, Momo, Morimoto, Shoko (Hokkaido University)

Time	Room F 行動	Room G 進化	Room H Biodiversity	Room I 植物生理生態	Room J 動物生活史
14:00	[F01-01]カマキリを利用するハリガネムシの性依存的寄生戦略*黒田 剛広, 高見 泰興 (神戸大学大学院)	[G01-01]無性生殖を伴うhaploid-diploid集団における進化*別所 和博 (総合研究大学院大学, JSPS (PD)), Sarah P. Otto (Univ. British Columbia)	[H01-01]Symbiotic cryptic communities associated to corals from the mesophotic coral ecosystem in Okinawa (Japan)*ROUZE, Heloise Louise, Sinniger, Frederic, Harii, Saki (TBRC, Univ. Ryukyus)	[I01-01]植物概日時計の適応的な環境同調を可能にする分子メカニズム*大原 隆之 (北大院・環境科学, 九大・理学), 佐竹 暁子 (九大・理学)	[J01-01]外来昆虫ブタクサハムシの北海道における2つの個体群: 光周性と分布拡大の違い*田中 幸一 (農研機構), 村田 浩平 (東海大学)
14:15	[F01-02]トゲオオハリアリにおけるワーカー間の分業の分子基盤*宮崎 智史 (玉川大学), 下地 博之 (関西学院大学), 池主 格 (玉川大学), 鈴木 諒平 (富山大学), 前川 清人 (富山大学)	[G01-02]有性生殖が存在・維持されている理由*道下 誠 (九州大学)	[H01-02]The relationship between bacterial production versus diversity and composition in the Southern East China Sea*CYUE, Yi-syuan (Tsing Hua Univ., Taiwan Univ.), Yang, Jinny, Lu, Hsiao Pei (Taiwan Univ.), Gong, Gwo Ching (Taiwan Ocean Univ.), Shiah, Fuh Kwo (Academia Sinica), Hsieh, Chih Hao (Taiwan Univ.)	[I01-02]森林の林分葉量の経年変化に関するモデル解析 —シラビソ林を例として—*小川 一治 (名古屋大学)	[J01-02]温暖化とアメリカシロヒトリの化性変化*都野 展子, 松浦 崇裕 (金沢大学)
14:30	[F01-03]ナミアゲハの産卵行動における視覚の役割*長屋 ひろみ, Finlay J Stewart, 蟻川 謙太郎, 木下 充代 (総合研究大学院大学)	[G01-03]相利共生系における多様性の進化に関する数理モデル*江副 日出夫 (大阪府大)	[H01-03]Evolutionary constraints on species diversity in marine bacterioplankton communities*Hsiao-pei LU, Chih-hao Hsieh (Nat. Taiwan Univ.)	[I01-03]林床の光環境に対する樹形の応答は樹種の機能タイプによって異なるか*中田 貴子 (筑波大・山岳科学), 廣田 充 (筑波大・生命環境系)	[J01-03]環境温度変化に対するアカネズミの繁殖応答の性差*坂本 信介 (宮大農・動物環境管理)
14:45	[F01-04]スズメにおける二次性比の偏り: 繁殖条件に応じた胚の性特異的死亡*加藤 貴大, 杓掛 展之 (総研大・先端科学)	[G01-04]太く短く生きよ! —変動環境下で推移行列の表現型可塑性を示す寄生蜂の適応動態*嶋田 正和, 笠田 実, 長瀬 泰子 (東大・総合文化・広域)	[H01-04]To reveal the relationship between aquatic plant and environmental factors in the agricultural channels which are located the spring water area*ENJU, Chigaya, KAMIJO, Takashi (Univ. of Tsukuba), TANAKA, Norio (Tsukuba Bot. Garden)	[I01-04]亜高山帯針葉樹の枝における水輸送の維持機構 —冬季の通水阻害とその回復—*種子田 春彦 (東京大学), 小笠 真由美 (森林総合研究所), 矢崎 健一 (森林総合研究所), 宮沢 良行 (九州大学), 丸田 恵美子 (神奈川大学)	[J01-04]アカウミガメの産卵場所選択: 少産の外洋摂餌者は安全な場所で産卵する?*畑瀬 英男 (東大大気海洋研), 大牟田 一美 (屋久島うみがめ館)
15:00	[F01-05]まぐろ延縄漁業の投棄物がアホウドリ類へ与える栄養学的影響*井上 裕紀子 (水産機構・国際水研), 新妻 靖章, 鷺見 知美 (名城大・農), 香山 薫, 五島 渉, 吉川 尚基 (伊豆三津シーパラ), 南 浩史, 越智 大介, 勝又 信博 (水産機構・国際水研), 岡本 慶, 大島 和浩 (水産機構・国際水研)	[G01-05]寄生バチにおいて協力的雌偏向性比をもたらす集団構造の検討*安部 淳 (明治学院大学・教養), 入谷 亮介 (カリフォルニア大学), 土田 浩治 (岐阜大学・応用生物), 上村 佳孝 (慶応大学・生物)	[H01-05]Community collapse at intermediate disturbance*HIDE, Ikumi, Takimoto, Gaku (Univ. of Tokyo)	[I01-05]地下水アクセスの有無が決める光合成と通水性保護のバランス*宮沢 良行 (九大キャンパス計画室, Univ Hawaii Manoa), Giambelluca, Thomas (Univ Hawaii Manoa), Dudley, Bruce, Hughes, Flint, Cordell, Susan (USDA Forest Service), Ostertag, Rebecca (Univ Hawaii Hilo)	[J01-05]佐渡島の河川で採集された魚類の回遊パターン*飯田 碧 (新潟大理臨海), 安房田 智司 (大阪市大院理学), 小黒 環 (新潟大院自然科学), 木戸 杏香 (新潟大理), 白井 厚太郎 (東大大気海洋研), 満尾 世志人 (新潟大朱鷺・自然再生)
15:15	[F01-06]ライチョウの雛はなぜ母親の盲腸糞を食べるのか—その適応的意義と保全への応用—*小林 篤 (東邦大学), 土田 さやか (京都府立大学), 長谷川 雅美 (東邦大学), 村田 浩一 (日本大学), 中村 浩志 (中村国際鳥類研究所), 牛田 一成 (中部大学創発学術院)	[G01-06]異なる寄主植物への適応で生じる雑種の適応度低下*松林 圭 (九大・基幹教育), Sih Kahono (L I P I), 片倉 晴雄 (北大・博物館)	[H01-06]Elevational patterns and hierarchical determinants of biodiversity across microbial taxonomic scales*CHIH-FU Yeh (Univ of Helsinki, National Taiwan Univ), Jianjun Wang, Janne Soininen (Univ of Helsinki)	[I01-06]UAVを活用したカラマツ等の樹木個体の着果評価手法の検討*松下 通也, 田村 明 (森林総研・林育セ)	[J01-06]サケ科魚類における密度依存的成長抑制は戦略的進化的な双安定性を引き起こす*堀田 淳之介 (九州大学), 巖佐 庸 (九州大学), 立木 佑弥 (九州大学, シェフィールド大学)

3/15 口頭発表 Oral presentations

Time	Room A	Room B	Room C	Room D	Room E
	保全	外来種	Conservation & Ecosystem Management	数理	Animal Ecology & Animal-Plant Interaction
15:45	[A01-07] 溪畔沿いの森林における伐採が針葉樹実生および林床植物に与える影響*南 佳典 (玉川大学), John S. Richardson (UBC)	[B01-07] OKEON美ら森プロジェクト: 社会連携型環境モニタリングプロジェクトを利用した外来性アリ類監視システム*吉村 正志, 芳田 琢磨 (OIST), 中村 元紀 (県立普天間高等学校), 諏訪部 真友子, Evan P Economo (OIST)	[C01-07] Hierarchical classification of land use types using multiple vegetation indices*Sharmin SHISHIR (Sharmin Shishir, Shiro Tsuyuzaki)	[D01-07] 西太平洋域における熱水化学合成生物群集のレジリエンス推定*鈴木 健大 (国立環境研究所), 吉田 勝彦 (国立環境研究所), 渡部 裕美 (海洋研究開発機構), 山本 啓之 (海洋研究開発機構)	[E01-07] Drivers of arthropod food web dynamics in rice paddy agro-ecosystems – a stable isotope approach*OU, Jia-ang, Hsu, Gen-Chang, Ho, Chuan-Kai (National Taiwan Uni.)
16:00	[A01-08] 河川における沈水植物群落の遷移過程とその要因の解明*片桐 浩司 (秋田県立秋田中央高校, 秋田県立大学)	[B01-08] 誰も、ヒアリのことを知らないー相互不達と外来種問題*橋本 佳明 (兵庫県立大学)	[C01-08] Compensatory planting of mangrove in extreme environments without natural mangrove: three decades after planting, benthic macrofauna at afforested sites do not differ from those in natural mangrove*Al-Khayat, Jassim, Abdulla, Maryam, *ALATALO, Juha (Qatar University)	[D01-08] Spatial metapopulation dynamics as a point pattern dynamics*濱田 実樹, *高須 夫悟 (奈良女子大学理学部)	[E01-08] Effect of seawater warming on the rocky intertidal surfgrass community*山口 遥香 (北大・環境科学), 仲岡 雅裕 (北大・FSC)
	生態系管理				
16:15	[A01-09] 河群草本の実験的被覆と復元が落下無脊椎動物および水生動物群集に及ぼす影響*濱島 翼, 谷口 義則 (名城大学・院・理工)	[B01-09] 過去の分布拡大情報を利用した外来生物の分布拡大予測*小池 文人 (横浜国立大学), 森本 信生 (農業食品産業技術総合研究機構)	[C01-09] Changes in <sup>137</sup> Cs concentration in riparian-stream ecosystems in a headwater stream of Fukushima*千野 結子 (東京農工大学大学院)	[D01-09] The effect of optimal foraging on food-web structure and stability*Hsi-cheng HO (Imperial College), Samraat Pawar (Imperial College), Jason Tylianakis (Imperial College, Univ. of Canterbury)	[E01-09] Study on the interaction between coralline turf algae and their associated fauna*HAMASAKI, Tomomi (Kyushu University)
16:30	[A01-10] 北海道網走湖産ヤマトシジミにおける陸上植物由来の餌の起源推定*速水 将人 (道総研・林業試験場), 館下 雄輝 (北海道大学理学院), 長坂 晶子, 長坂 有 (道総研・林業試験場), 渡部 貴聡, 飯田 匠 (網走市農林水産部), 川尻 敏文, 末澤 海一 (西網走漁業協同組合), 沢田 健 (北海道大学理学院)	[B01-10] 個体の流れと弾性度に着目した在来種と外来種の比較*横溝 裕行 (国環研), 高田 壮則 (北大・地環研), 深谷 肇一 (統数研), John G. Lambrinos (オレゴン州立大)	[C01-10] The impact of biodiversity in river on valuation of urban ecosystem services: the case of Hanshin region using eDNA and the residents' life satisfaction data*Ippei AOSHIMA, Ryohei NAKAO, Toshifumi MINAMOTO, Atushi USHIMARU, Masayuki SATO (神戸大学)	[D01-10] シカの餌植物選好性と栄養塩の循環がシカ-植物系の動態に及ぼす影響*難波 利幸, 磯野 玲菜, 藤原 吉司 (大阪府立大学)	[E01-10] How are bird population trends affected by climate change?*WANG, Wen-chien, Chen, I-Ching (Cheng Kung Univ.)
16:45	[A01-11] 環境DNAを用いた宍道湖ヤマトシジミ資源量推定への試み*高原 輝彦, 田口 淳也, 池淵 貴志 (島根大・生資), 内田 浩 (島根県水技セ・浅海部), 石田 健次 (島根県水技セ・浅海部), 山岸 聖, 尾形 茂紀 (島根大院・生資), 土居 秀幸 (兵庫県大院・シミュ), 源 利文 (神戸大院・発達)		[C01-11] Citizen science reveals the recent expansion and a potential native predator of the invasive slug <i>Limax maximus</i> in Hokkaido, Japan*MORII, Yuta, Nakano, Takafumi (Hiroshima University)	[D01-11] 資源分配の平等性と個体群動態モデル*穴澤 正宏 (東北工業大学)	[E01-11] Geographic variation in life history traits of ayu <i>Plecoglossus altivelis</i> over Japanese Archipelago*Iki Murase, Kei'ichiro Iguchi (Nagasaki University)
17:00	[A01-12] 霞ヶ浦流域で生じる生態系サービス間のトレードオフとそれを緩和する保全策の検討*松崎 慎一郎 (国環研・生物生態系C), 高津 文人 (国環研・地域C), 今藤 夏子 (国環研・生物生態系C), 渡邊 未来 (国環研・地域C), 角谷 拓 (国環研・生物生態系C), 大澤 剛士 (農研機構・農環変動セ), 山口 晴代, 安藤 温子 (国環研・生物生態系C), 小松 一弘, 霜鳥 孝一 (国環研・琵琶湖分室), 中川 恵, 中嶋 信美 (国環研・生物生態系C), 吉岡 明良 (国環研・福島支部), 佐々井 崇博 (東北大学院・理), 三枝 信子 (国環研・地球C), 松下 文経 (筑波大学院・生命環境), 高村 典子 (国環研・琵琶湖分室)		[C01-12] Can catch-and-release without stocking sustain the sport fishing in a Japanese river?*Yoshinori TANIGUCHI, Yuya Nagasaki (Meijo University)	[D01-12] 植物における細胞質雄性不稔、雄性回復、自殖の共進化*山内 淳 (京都大学)	[E01-12] Ecological risk assessment of endocrine-disruptors using population modeling of the water flea <i>Daphnia magna</i> *Yoshinari TANAKA (Sophia University)

Time	Room F	Room G	Room H	Room I	Room J
	行動	進化	Biodiversity	植物繁殖	動物個体群
15:45	[F01-07]漁船のおこぼれにあずかる怠け者のザトウクジラ*岩田高志 (セントアンドルーズ大), 青木 かがり (東大大海研), Patrick J.O Miller (セントアンドルーズ大), Martin Biuw (ノルウェー海洋研究所), Michael Williamson (ロンドン大学), 佐藤 克文 (東大大海研)	[G01-07]フォッサマグナ地域におけるツツジ属3種の交雑帯の遺伝構造*菊地賢 (森林総合研究所), 渡邊 定元 (森林環境研究所)	[H01-07]Complex interactions between host plant and multiple fungal guilds in a subtropical forest*Pu JIA (Sun Yat-sen Univ., Univ. of Toronto), Yongjian CHEN (Sun Yat-sen Univ.), Marc CADOTTE (Univ. of Toronto), Wensheng SHU (Sun Yat-sen Univ.)	[I01-07]サラシナショウマ3送粉型における送粉者の季節変動にあわせた性比調節機構*田路 翼 (信州大・院), 石本 夏海 (信州大・理), 市野 隆雄 (信州大・理, 信州大・山岳)	[J01-07]病原体を持ち込む外来種:侵入の数理モデル*永田 拳吾, 巖佐 庸 (九州大学)
16:00	[F01-08]見逃されてきたサルと枯死木の関わり:枯死木を破壊して昆虫を食べるニホンザル*栗原 洋介 (京都大学), 大谷 洋介 (大阪大学), 西川 真理 (京都大学)	[G01-08]Comparative phylogeography, phylogenomics, and population genomics of ant genus <i>Strumigenys</i> in the Pacific archipelagoes*Cong LIU (OIST)	[H01-08]Why plant and insect diversities do or do not correlate? Niche based analysis of interaction networks*Naoto SHINOHARA, Takehito YOSHIDA (University of Tokyo)	[I01-08]花をいつ咲かせるべきか?送粉者を集める戦略・避らせる戦略*久保 美貴, 井田 崇 (奈良女子大学理学部)	[J01-08]Optimal fishing season and age of Pacific bluefin tuna*Hiroyuki MATSUDA, Yuta Takemoto (横浜国立大学)
<b>生物多様性</b>					
16:15	[F01-09]知床半島ルシャ地区で生育したヒグマの大人メスが単身時期にカラフトマスを捕食する際の狩の方法と食事作法*小宮山 英重 (野生鮭研究所)	[G01-09]八重山諸島および台湾に生息するカゲロウ, <i>Ecdyonurus</i> 属 <i>hyalinus</i> , <i>fractus</i> , <i>floreus</i> (Heptageniidae)の遺伝的多様性と分化年代の推定*金子 裕明, 石綿 進一, 高村 岳樹 (神奈川工科大学)	[H01-09]Measuring plant diversity – comparing methods and year to year variation at Mount Usu*Lea, Vegh, Tsuyuzaki, Shiro (Hokkaido University)	[I01-09]自殖の進化と2種共存:送粉者を介した競争が引き起こすEco-Evoダイナミクス*勝原 光希 (神戸大学), 立木 佑弥 (Sheffield Univ), 入谷 亮介 (UC Berkeley), 丑丸 敦史 (神戸大学)	[J01-09]佐渡島におけるトキの環境収容力の推定*永田 尚志, 油田 照秋, 中津 弘 (新潟大・朱鷺自然セ)
16:30	[F01-10]環境DNA技術を用いたイトウの季節回遊行動の推定*水本 寛基 (北大・農・動物生態), 荒木 仁志 (北大・農・動物生態), 宮 正樹 (千葉県立中央博物館)	[G01-10]RAD-seq法による対州馬の遺伝的状態の検証*手塚 あゆみ (龍谷大学 食農研), 永野 惇 (龍谷大学 農学部)	[H01-10]Influences of climate change on the distribution of Fagaceae species in China*ZHU, Jingling, Zhang, Heng, Tao, Shengli, Tang, Zhiyao, Fang, Leqi, Wang, Zhiheng, Fang, Jingyun (Peking University)	[I01-10]トランスクリプトーム解析から明らかにするマスティングの分子的基盤*佐竹 暁子 (九州大学), 手島 康介 (九州大学), 川津 一隆 (龍谷大学)	[J01-10]瀬戸内海周辺海域における沿岸性魚類の系統地理:生息環境に注目した分布変遷の種間比較*松井 彰子 (大阪自然史博), 乾隆帝 (山口大院創成), Jong-Yul Park (韓国慶尚大), Woo-Seok Gwak (韓国慶尚大), 中山 耕至 (京大院農)
16:45	[F01-11]未知シグナルに対する反応の学習と進化*里居 伸祐 (九州大学), Tom Sherratt (Carleton University)	[G01-11]環境DNA分析を用いた遺伝的多様性検出:アユ野外個体群への適用と検出力の検討*辻 冴月 (龍谷大院・理工), 宮 正樹 (千葉中央博), 潮 雅之 (京大生態研セ, JSTさきがけ), 佐藤 博俊 (龍谷大・理工), 佐藤 行人 (琉球大), 源 利文 (神戸大・院・発達), 山中 裕樹 (龍谷大・理工)			[J01-11]ボルネオの熱帯雨林に生息するクワガタムシ科の群集動態の解明*上野 弘人 (九州大院・シス生), 佐竹 暁子 (九大・理・生物), 荒谷 邦雄 (九州大院・比文), 川津 一隆 (龍谷大・理工), Paulus Meleng (Sarawak Forest Dep.), 市岡 孝朗 (京大・人環)
17:00		[G01-12]食性幅に依存した鱗翅目昆虫の種多様化パターン*阿部 智和, 村上 正志 (千葉大・理)			

3/16 口頭発表 Oral presentations

Time	Room A 保全	Room B 生態系管理	Room C Evolution	Room D 植物個体群	Room E Plant Ecology & Nutrient Cycling
14:00	[A02-01]Deep Convolutional Neural Networkを用いたコウモリ種判別システムの開発と音声モニタリングへの応用*増田 圭佑 (大阪大学), 松井 孝典 (大阪大学), 福井 大 (東京大学), 町村 尚 (大阪大学)	[B02-01]海鳥による水銀物質輸送*庄子 晶子 (北海道大学), Kyle H Elliott (McGill Univ.), Stéphane Aris-Brosou (University of Ottawa), 水川 葉月, 中山 翔太, 池中 良徳, 石塚 真由美 (北大), 桑江朝比呂 (港湾空港技術研究所), 渡辺 謙太 (港湾空港技術研究所), 綿貫 豊 (北大)	[C02-01]Song frequency and female choice in the cicada <i>Mogannia formosana</i> Matsumura (Hemiptera: Cicadidae)*SHIEH, Bao-sen (KHH Medical Univ.), Liang, Shih-hsiung (Nat. KHH Norm. Univ.)	[D02-01]木本は草本よりも同調し短く咲く～系統樹に基づく開花フェノロジーの種間比較～*永濱 藍 (九大・シス生), 矢原 徹一 (九大・理)	[E02-01]Green greenhouse for fruit development of an annual androdioecious liana <i>Schizopepon bryoniifolius</i> and its relationship with sex ratio Nagaoka, Nobuyuki (Yamagata Nature Park), Naoe, Shoji (FFPRI), Takano, Yu (Yamagata Nature Park), *SAKAI, Shoko (Kyoto Univ.)
14:15	[A02-02]市街地付近でのツキノワグマの出没と市民生活への影響-地域住民による目撃情報の収集-*宮崎 博之 (秋田県大院・生物資源), 星崎 和彦 (秋田県大・生物資源)	[B02-02]極東ロシアのゼイスキー自然保護区における林床植生の空間変異*和田直也 (富山大学), Borisova, Irina (BGA FEB RAS), 清野 達之 (筑波大学), 杉浦 幸之助 (富山大学), 露木 聡, Khatanchaoren, Chulabush (東京大学), Bryanin, Semyon V. (IGNM FEB RAS), Lisovsky, Victor V. (ZNR)	[C02-02]Divergence of male sexual ornaments and female mate preference driven by a combination of natural and sexual selection*Takahiro Sakamoto, Gaku Takimoto (University of Tokyo)	[D02-02]ブナ集団における開芽時期の年変動と場所間変異:開芽積算温度の可塑性と進化*石田 清, 杉本 咲 (弘前大学)	[E02-02]Synchronicity between the timings of leaf opening and vessel formation in twigs and stems in <i>Fagus crenata</i> and <i>Quercus acutissima</i> *TAKAHASHI, Sayaka (Kyoto University), TAKAHASHI, ERINA (Shimane University)
14:30	[A02-03]昨シーズン新潟県内の養鶏場やハウチョウに高病原性鳥インフルエンザ発生とモニタリング*小柳 充 (新潟大学)	[B02-03]有機質肥料と化学肥料の25年間連用施肥が畑の節足動物群集に及ぼす影響*服部 隆征, 山崎 和久, 高田 まゆら, 宮沢 佳恵, 青木 茂, 岡本 研, 加藤 洋一郎, 曾我 昌史, 山岸 順子, 吉田 薫 (東大・院・農)	[C02-03]Size-assortative social preference in small tadpole*長谷 和子, 沓掛 展之 (SOKENDAI)	[D02-03]ササが枯れると本当にブナは更新できるのだろうか...ササ枯死後21年間のブナ稚樹の動態*蒔田 明史, 宮島 誠志郎, 高木 豊大, 佐藤 朋華, 松尾 歩, 阿部 みどり, 星崎 和彦 (秋田県立大・生物資源)	[E02-03]Seasonal and annual variation of photosynthetic function in urban landscape tree species, <i>Ginkgo biloba</i> and atmospheric CO <sub>2</sub> environment evaluated by carbon isotope analysis*Tomomitsu Kinoshita, Yuko T Hanba
14:45	[A02-04]トキにおける放鳥個体と野生生まれ個体の繁殖成績の比較*油田 照秋 (新大 朱鷺・自然再生), 中津弘 (新大 朱鷺・自然再生), 岡久 雄二 (環境省 佐渡事務所), 永田 尚志 (新大 朱鷺・自然再生)	[B02-04]農作物摂食個体のマッピングを目指したシカ糞の同位体分析:飼育個体を利用した検証*原口 岳 (総合地球研), 幸田 良介 (大阪環農水研), 陀安 一郎 (総合地球研)	[C02-04]Ecological immunology of a specialist insect herbivore, Monarch butterfly ( <i>Danaus plexippus</i> )*Wen-hao TAN, Jacobus C. de Roode, Nicole M. Gerardo (Emory University)	[D02-04]ボルネオ島におけるポドゾル化の程度が異なる熱帯林の個体群動態の比較*宮本 和樹 (森林総合研究所), 相場 慎一郎 (鹿児島大学), 和穎 朗太 (農業環境変動研究セ), Reuben Nilus (サバ森林研究センター)	[E02-04]Microplastics ingestion by filter-feeding copepods in the southern East China Sea*Ariana Chih hsien LIU (IONTU, Taiwan)
15:00	[A02-05]コウノトリ再導入個体群の社会構造-ペアなわばりと居候-*桑原 里奈, 江崎 保男 (兵庫県立大学大学院)	[B02-05]都市近郊林における人工ギャップ形成後5年間の植生変化*島田 和則, 勝木 俊雄, 大中 みちる, 岩本 宏二郎, 九島 宏道, 長谷川 絵里 (森林総研・多摩)	[C02-05]A theoretical study of evolutionary rescue by hybridization*Maeda, Kouji, Takimoto, Gaku (Univ. of Tokyo)	[D02-05]観測間隔に影響されない材生産速度の推定方法*甲山 隆司 (北海道大学), Douglas Sheil (ノルウェー生命科学大)	[E02-05]Plant litter decomposition study on no tillage weed management system*ピナエ サンガット (横浜国立大学)
15:15	[A02-06]日本で最後のニホンカワウソ個体が複数いた可能性*加藤 元海 (高知大学)	[B02-06]半都市域において外来植物は在来ミツバチの花粉資源として季節依存的役割を果たす*小山 明日香 (東大院農), 江川 知花 (農環研), 滝 久智 (森林総研), 安田 美香 (バードライフ・東京), 神崎 菜摘 (森林総研), 井手 竜也 (国立科博・動物), 岡部 貴美子 (森林総研)	[C02-06]The effects of spatial interactions on an oscillatory tragedy of the commons*Yu-hui LIN, Joshua S. Weitz (Georgia Tech)	[D02-06]植食者の最適採餌からみたハクサンハタザオのトライコーム多型の維持*佐藤 安弘 (龍谷大JSTさきがけ), 伊藤 公一 (Dept of Zoology, UBC), 工藤 洋 (京大生態研センター)	[E02-06]The experimental addition of labile organic matter induces contrasting microbial responses between spring and autumn soils*Lijuan SUN (Kyoto Univ.), Mioko Ataka (FFPRI), Yuji Kominami (FFPRI), Kenichi Yoshimura (Yamagata University), Kanehiro Kitayama (Kyoto Univ.)

Time	Room F 進化	Room G 生物多様性	Room H Behavioral Ecology	Room I 動物と植物の相互関係	Room J 動物群集
14:00	[F02-01]膜翅目昆虫における複数化した性分化初期シグナルを統合する機構*宮川 美里 (宇都宮大学・バイオ), 土田 浩治 (岐阜大学・応生), 宮川 一志 (宇都宮大学・バイオ)	[G02-01]東北地方太平洋沖地震の岩礁潮間帯固着生物群集の多様性への影響とプロセスの評価*岩崎 藍子 (北大院・環境), 野田 隆史 (北大・地球環境)	[H02-01]Brown trout in ice-covered streams: effects of surface ice on anti-predator behavior and habitat use*Johan WATZ (Karlstad Univ Sweden)	[I02-01]どのような栄養的・量的被食防衛形質が植物の被食防衛として効果が高いのか? 定量的食物網数理モデルからの考察*今野 浩太郎 (農研機構生物機能部門)	[J02-01]野生ニホンライチョウ腸内細菌叢の特徴と地域差*牛田 一成 (中部大学創発, 京都府立大学生命環境), 土田 さやか (京都府立大学生命環境), 小林 篤 (東邦大学理), 長谷川 雅美 (東邦大学理), 村田 浩一 (日本大学生物資源), 中村 浩志 (国際鳥類研究所)
14:15	[F02-02]種特異的なフェロモン選好性の進化をもたらす神経基盤*石川 由希 (名古屋大学, 東北大学), 前田 直希 (名古屋大学), 野村 岳民 (名古屋大学), 上川内 あづさ (名古屋大学), 山元 大輔 (東北大学)	[G02-02]分解者と生態系の安定性*舞木 昭彦 (島根大学)	[H02-02]Nymphal predation suppressed by the egg mass shell in the gregarious assassin bug <i>Agrispodrus dorhni</i> *SAKATA, Daisuke, AKINO, Toshiharu (CBFS)	[I02-02]イラクサにおける継代防衛誘導: 2世代目の刺毛形質*加藤 禎孝 (奈良教育大学), 石田 清 (弘前大学)	[J02-02]ライチョウにはライチョウの乳酸菌!!*土田 さやか (京都府立大学生命環境), 小林 篤 (東邦大学理), 長谷川 雅美 (東邦大学理), 村田 浩一 (日本大学生物資源), 中村 浩志 (国際鳥類研究所), 牛田 一成 (京都府立大学生命環境)
14:30	[F02-03]ミジンコの防御形態形成におけるリアクションノームの遺伝様式*宮川 一志 (宇都宮大・バイオ)	[G02-03]生物多様性と生態系サービス多面性の関係解明に向けて: 樹木を対象とした幅広い有用性と形質・系統との関係の検証*岡 千尋, 饗庭 正寛 (東北大院生命科学), 小野田 雄介 (京大院農学), 黒川 絃子 (森林研究整備機構), 中静 透 (東北大院生命科学, 総合地球環境学研)	[H02-03]Seed dispersal of hemi-epiphytic figs by large animals in Bornean rainforests*MIYABI Nakabayashi (Univ. Ryukyus), Abdul Hamid Ahmad (Univ. Malaysia Sabah), Masako Izawa (Univ. Ryukyus)	[I02-03]種子による植食者識別能の個体群変異*山尾 僚 (弘前大学), 向井 裕美 (森林総合研究所)	[J02-03]河川およびため池における魚類相調査: 環境DNAメタバーコーディングと直接捕獲の比較*渡邊 和希 (龍谷大院・理工), 山内 寛, 重吉 実和, 芦野 洸介 (CFK), 辻 冴月, 本澤 大生, 池田 静也, 佐藤 博俊, 山中 裕樹 (龍谷大・理工)
14:45	[F02-04]Trait correlations vs environmental drivers in the evolution of phytoplankton thermal responses *KONTOPOULOS, Dimitrios Georgios (Imperial College L.), van Sebille, Erik (Utrecht Univ.), Lange, Michael (Imperial College L.), Yvon-Durocher, Gabriel (Exeter Univ.), Pawar, Samraat (Imperial College L.)	[G02-04]無居住化は里山景観の植物種の多様性をどのように変えるのか*小林 慶子 (国立環境研究所), 深澤 圭太 (国立環境研究所), 浅原 昭生 (Team HEYANEKO), 竹中 明夫 (国立環境研究所)	[H02-04]Causes and consequences of morphological variation in animal artefacts*Shoko SUGASAWA, Barbara Klump, James St Clair, Christian Rutz (Univ. of St Andrews)	[I02-04]社会性アブラムシが宿主植物を誘導して作る撥水・吸水構造*植松 圭吾 (東京大学・総合文化), 沓掛 磨也子 (産業技術総合研究所), 深津 武馬 (産業技術総合研究所)	[J02-04]環境DNAメタバーコーディングによる六甲山周辺地域の魚類相の解明*中尾 遼平 (神戸大院・発達), 山本 哲史 (京大院・理), 宮 正樹 (千葉県博), 源 利文 (神戸大院・発達)
15:00	[F02-05]イトヨの回遊パターンの多様性を生む遺伝基盤*石川 麻乃, 北野 潤 (国立遺伝学研究所)	[G02-05]Invitation to forest canopy ecology: global scale collaboration opportunities*NAKAMURA A, Akihiro (シーサンパンナ植物園)	[H02-05]Social signatures in echolocation calls of a leaf-roosting bat, <i>Kerivoula furva</i> *Meiting KAO (NCKU), Jian-Nan Liu (NCYU), Takefumi Nakazawa (NCKU)	[I02-05]野ネズミが摂取するタンニンの由来: DNAメタバーコーディングと糞中プロリン含有率を用いて*島田 卓哉 (森林総研東北), 佐藤 淳 (福山大生物工), 齊藤 隆 (北大FSC), 秋元 佑香, 小野寺 緑也 (北大環境科学院)	[J02-05]海底湧水が魚類の摂餌・成長に与える影響: 野外ケージを用いた個別飼育実験藤田 浩司 (広島大学), 杉本 亮 (福井県立大学), *小路 淳 (広島大学)
15:15	[F02-06]トゲウオにおける性的二型の遺伝・生理基盤*柿岡 諒 (国立遺伝学研究所), 石川 麻乃 (国立遺伝学研究所), 手塚 あゆみ (龍谷大学), 永野 惇 (龍谷大学), 日下部 誠 (静岡大学), 北野 潤 (国立遺伝学研究所)	[G02-06]草原の代替生息地としての植林伐採地の可能性-植物とチョウの視点から-*大脇 淳 (山梨県富士山研), 小柳 知代 (東京学芸大学), 前田 沙希 (山梨県富士山研)	[H02-06]Roosting order in a cooperatively breeding bird*Fumiaki Nomano (総研大・先導研), Andrew F. Russell (University of Exeter)	[I02-06]Temperature, tannins and the Japanese wood mouse*WINDLEY, Hannah Ruth, Shimada, Takuya (FFPRI)	[J02-06]Effects of 100 year flood on riparian arthropods -- Interactions with eutrophication--*SHOUWEI WANG, Junjiro N NEGISHI, Aiko HIBINO, Md Khorshed ALAM, YIYANG GAO (北海道大学)

3/16 口頭発表 Oral presentations

Time	Room A 保全	Room B 生態系管理	Room C Evolution	Room D 物質循環	Room E Plant Ecology & Nutrient Cycling
15:45	[A02-07]モンゴル西部山岳地帯に生息するユキヒョウの集団遺伝構造*杉本 太郎 (鳥取大学), Chimeddorj Buyanaa (WWFモンゴル), Sergelen Erdenebaatar (WWFモンゴル), 伊藤 健彦 (鳥取大学), Ochirjav Munkhtogtokh (WWFモンゴル)	[B02-07]地域再生と流域生態系再生の結合ダイナミクス*谷内 茂雄 (京大生態研), 脇田 健一 (龍谷大社会)	[C02-07]Parental analysis of seeds from the wild population suggests overdominance rather than disassortative mating as the evolutionary maintenance mechanism of distyly in <i>Primula kisoana</i> Arima, Kurumi (Kyoto Univ.), *KYOGOKU, Daisuke (Ryukoku Univ.), Nakahama, Naoyuki (Tokyo Univ.), Suetsugu, Kenji (Kobe Univ.), Ohtani, Masato (Hyogo Univ.), Ishii, Chiyo (Kiryu Nat. Sanctuary), Terauchi, Hiroshi (Kiryu Nat. Sanctuary), Terauchi, Yumiko (Kiryu Nat. Sanctuary), Isagi, Yuji (Kyoto Univ.)	[D02-07]冷温帯林の二次遷移に伴う地上部-地下部の生態特性とアリ群集の食性の変化*兵藤 不二夫 (岡山大・異分野コア), 田中 洋 (岡山大・異分野コア), 原口 岳 (地球研), 舘野 隆之輔 (京大ファイ研), 廣部 宗 (岡山大・農学部), 陀安 一郎 (地球研)	[E02-07]Soil microbial communities associated with each step in nitrogen transformation along a rainfall gradient in semiarid forests*Chikae Iwaoka (Kyoto Univ.), Takeshi Taniguchi (Tottori Univ.), Sheng Du (Chinese Academy), Norikazu Yamanaka (Tottori Univ.), Ryunosuke Tateno (Kyoto Univ.)
16:00	[A02-08]北海道の冷温帯針広混交林におけるニホンジカとクマイザサが稚樹に及ぼす影響*宇野 裕之 (北海道立総合研究機構), 稲富 佳洋 (北海道立総合研究機構), 上野 真由美 (北海道立総合研究機構), 飯島 勇人 (森林総合研究所)	[B02-08]大集団における協力を可能にするシステムと生態系管理や保全への適用可能性について*中丸 麻由子 (東京工業大学), 志村 隼人 (東京工業大学大学院)	[C02-08] Environmental variation determines the ecological and evolutionary fate of self-compatible plants*Takeaki SATO, Gaku Takimoto (Univ. of Tokyo)	[D02-08]Effects of experimental warming and drought on fine root decomposition and fine root of <i>Pinus koraiensis</i> seedlings*HAN, Seung hyun, Son, Yowhan, Kim, Seongjun, Chang, Hanna (Korea University)	[E02-08]Nitrification in mineral and organic horizons of tropical forest soil: Comparison between Cameroon and Indonesia*Shinichi WATANABE (Kyoto Univ.), Makoto Shibata (Kyoto Univ.), Arief Hartono (Bogor Agri. Univ.), Tetsuhiro Watanabe (Kyoto Univ.), Shigeru Araki (Kyoto Univ.), Shinya Funakawa (Kyoto Univ.)
16:15	[A02-09]富栄養湖のベントス相 水草帯と底生ラン藻帯の比較*高村 健二, 今藤 夏子 (国立環境研)	[B02-09]セマンティック統合モデルソフトを利用した生態系サービス評価: 気候変動による影響*大場 真 (国立環境研), Ronald Canero Estoque (国立環境研), 吉岡 明良 (国立環境研), 林 希一郎 (名古屋大学)		[D02-09]The size matters: the role of small water bodies for the carbon and nutrient dynamics in young moraine landscapes*Kai Nils NITZSCHE (RIHN Kyoto), Katrin PREMKE (IGB Berlin), Arthur GESSLER (WSL Zuerich), Zachary KAYLER (University of Idaho)	[E02-09]The relationship between functional traits of woody species and soil properties in a cool-temperate forest in Japan*Shun KURIHARA (university of tokyo), Hiroko Kurokawa (FFPRI), Gaku Takimoto (university of tokyo)
16:30	[A02-10]干潟ベントス群集の津波攪乱に対する応答: 干潟間で回復状況はなぜ違うのか?*柚原 剛 (東北大・院・生命), 鈴木 孝男 (みちのくベントス研), 占部 城太郎 (東北大・院・生命)	[B02-10] Vegetation and soil properties changes in different fallow periods after shifting cultivation using chronosequence approach*Akari Phyu phyu THET (Kyoto Univ.)		[D02-10]太陽光誘発クロロフィル蛍光から見る個葉での光合成量*酒井 佑植, 加藤 知道 (北大), 辻本 克斗 (東北大), 小林 秀樹 (海洋研究開発気候), 奈佐原 顕郎 (筑波大), 秋津 朋子 (筑波大), 村山 昌平 (産業技術総合研), 野田 響 (国環研), 村岡 裕由 (岐阜大)	[E02-10]A mechanism underlying tree species turnover along a soil P gradient in Panama: Do tree species change rank in growth rate between low and high P soils?*Ryota AOYAGI, Klaus Winter, Richard Condit, Benjamin Turner (STRI)
16:45	[A02-11]北海道東部河川における希少ニ枚貝カワシンジュガイ属2種の非致命的な種同定法と個体群の現状*三浦 一輝 (北大・院・環科学), 石山 信雄 (北大・院・農), 川尻 啓太 (北大・院・農), 渥美 圭佑 (北大・院・環科学), 立花 道草 (北大・院・環科学), 根岸 淳二郎 (北大・院・地球環境), 中村 太士 (北大・院・農)			[D02-11]農家によって違う化学肥料と堆肥の施用量*三島 慎一郎 (農環研)	[E02-11]Stand structure and species composition in boreal forest of the Russian Far East related to forest fire*SEINO, Tatsuyuki (Univ Tsukuba), Wada, Naoya (Univ Toyama), Sugiura, Konosuke (Univ Toyama), Tsuyuki, Satoshi (Univ Tokyo), Khatancharoen, Chulabush (Univ Tokyo), Borisova, Irina (Rus Acad), Bryanin, Semyon V (Rus Acad), Lisovsky, Viktor V (Zeysky Nat Res Bur)

Time	Room F 行動	Room G 生物多様性	Room H Behavioral Ecology	Room I 動物と植物の相互関係	Room J 動物群集
15:45	[F02-07]群れを形成する社会性動物における隠された交尾行動*西川 真理 (京都大学), 持田 浩治 (慶応義塾大学)	[G02-07]食糧危機を解決する昆虫肉 ~気候変動シナリオによる土地利用シミュレーション~*Randy Nathaniel MULIA (兵庫県立大学大学院, 秀幸土居)	[H02-07]Extended mutualism: termite gut symbionts contribute to nest hygiene*Tatsuya Inagaki, Kenji Matsuura (Kyoto University)	[I02-07]なぜ鳥は採食パッチを飛び去るのか? -種子散布研究を行動生態学からアプローチする-*奥野 修平, 青木 俊汰郎, 橋詰 茜, 中島 啓裕 (日本大学)	[J02-07]「行動」と「生態」をつなぐ:長期昆虫群集動態の時系列解析*川津一隆 (龍谷大・理工), 近藤 倫生 (龍谷大・理工), 潮 雅之 (京大・生態研センター), Van Veen, Frank (University of Exeter)
16:00	[F02-08]近縁種の求愛拒否音声を真似ることで交雑を防ぐナゴヤダルマガエル*伊藤 真 (京都大学大学院)	[G02-08]途上国開発がもたらす新たな貧困リスク インドネシアにおけるパーム油農園開発とコメの食害に関する研究*Yuki YAMAMOTO (長崎大学), Yuichi Ishimura (大阪国際大学), Yosuke Shigetomi (長崎大学), Mitsuru Hattori (長崎大学)	[H02-08]Termites and the egg factory: queens manage their work-in-process inventory by oocyte-resorption*Tomonari NOZAKI, Kenji MATSUURA (Kyoto university)	[I02-08]鳥類の種子散布ネットワーク構造に影響を与える要因について*大河原 恭祐 (金沢大学), 木村 一也 (金沢大学, 石川県森林組合), 佐藤 文男 (山階鳥類研究所)	[J02-08]脊椎動物および節足動物による動物遺体の利用実態 -ハエ幼虫は浄化装置?*橋詰 茜, 青木 俊汰郎, 山中 康如, 中島 啓裕 (日本大学)
16:15	[F02-09]体外受精種における精子除去行動の検証 -クモハゼなわばり雄による対スニーキング戦術-*中西 絢子, 金谷 洋佑, 川瀬 翔馬, 竹垣 毅 (長崎大院・水環)	[G02-09]集約した環境DNAサンプルを利用した淡水魚類の環境DNAメタバーコーディング~その有用性と制約について~*佐藤 博俊 (龍谷大・理工, 京都大・院・人環), 十河 勇樹 (龍谷大・院・理工), 土居 秀幸 (兵庫県大院・シミュ), 山中 裕樹 (龍谷大・理工)	[H02-09]What influence foraging behavior of the recruited workers in the Japanese pavement ant <i>Tetramorium tsushimae</i> ?*Tetsuro NAKAMURA, Toshiharu AKINO (KIT)	[I02-09]二次生産に及ぼす生食一腐食連鎖の相対的役割:湖沼隔離水界を用いた実験的解析*占部 城太郎 (東北大学), 平間 文也 (東北大学), 風間 健宏 (東北大学), 野口 拓水 (東北大学), 吉田 丈人 (東京大学), 山道 真人 (東京大学), 片野 泉 (奈良女子大学), 土居 秀幸 (兵庫県立大学), Jim J. Elser (Univ. Montana)	[J02-09]群集生態学の限界とデータ駆動型アプローチによる解決*近藤 倫生 (龍谷大), 川津一隆 (龍谷大), 長田 穰 (地球研), 京極 大助 (龍谷大), 潮 雅之 (京都大・生態研)
16:30	[F02-10]巻貝も托卵する:エゾボラ(ツブ)で観察された種内托卵*和田 哲 (北海道大学), 芳賀 恒介 (えりも町)			[I02-10]土壌構造と土壌生物の相互作用による森林の二次遷移の変化-野外操作実験による観測*金子 信博 (横浜国立大学), 丹羽 慈 (北海道大学), 日浦 勉 (北海道大学)	[J02-10]メジャーカフェチェーンにおけるノートパソコンユーザーの分布規定要因*林 亮太 (日本工営株式会社)
16:45				[I02-11]ブナ林床のササをめぐる草食動物による採食方法の違い*青木 俊汰郎, 奥野 修平, 中島 啓裕, 橋詰 茜 (日本大学)	[J02-11]川の生きもの観察会 -テキスト作成について-*金田 彰二 (佐野市教育楽習講師会)

# ポスター発表 3月15日(木) 9:00-17:00

(P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

## 動物と植物の相互関係

- P1-001#** 自動撮影カメラによるカントウマムシグサの量的に有効な種子散布者の解明 \*前田 大成, 大石 里歩子, 北村 俊平 (石川県立大学)
- P1-002#** 送粉者を介した外来植物から在来植物への間接的影響 - キク科在来植物にとってセイタカアワダチソウの存在はプラスかマイナスか? - \*上山 芝穂, 坂田 ゆず (秋田県大・生物資源)
- P1-003#** シカの影響の履歴効果 - 下層植生への反応と土壌物理性からの検証 - \*原田 憲佑, 鈴木 牧 (東大院・新領域)
- P1-004#** シカ不嗜好性植物の Nurse plant 効果とシカ柵が樹木の更新に与える影響 \*中軽米 聖花 (東北大学・院・生命), 中静 透 (地球研)
- P1-005#** ゴマシジミの捕食に対するナガボノシロワレモコウの繁殖補償の集団間比較 \*内田 葉子, 大原 雅 (北海道大学環境科学院)
- P1-006#** 腐朽木摂食昆虫種間の腐朽木破砕量の差異一口器形態との関連 \*瀬口 翔太, 澤島 拓夫 (近大院・農)
- P1-007#** 内モンゴル草原における植物種多様性操作による地上部節足動物群集の多様性の変化 \*橋 太希 (横浜国立大学), 内田 圭 (横浜国立大学), 岩知道 優樹 (横浜国立大学), Xiaoming Lu (中国科学院植物研究所), Xuezhen Zhao (中国科学院植物研究所), Yongfei Bai (中国科学院植物研究所), 佐々木 雄大 (横浜国立大学)
- P1-008#** RNA-seq を用いたアゲハチョウ類における解毒関連遺伝子の相互比較解析 \*佐藤 愛, 村上 正志 (千葉大・理)
- P1-009#** 藻食性腹足類の食性解析: 葉緑体 23S rDNA マーカーを用いた試み \*吉田 幸子, 柚原 剛, 大槻 朝, 占部 城太郎 (東北大・生命)
- P1-010#** 春日山原始林における鳥類の種子散布ネットワーク \*岡本 真帆 (大阪市大・院理), 大矢 樹 (大阪市大・院理), 田原 大督 (大阪市大・理), 伊東 明 (大阪市大・院理), 名波 哲 (大阪市大・院理)
- P1-011#** 開花ステージに合わせたササユリ葉の抗菌活性変動 \*花崎 直史 (京都工芸繊維大学), 秋野 順治 (京都工芸繊維大学), 柳川 綾 (京都大学), 荒井 滋 (大神神社)
- P1-012#** 早春に開花するヒサカキの送粉者 \*龍野 瑞甫, 大澤 直哉 (京大・農・森林生態)
- P1-013#** ブナ科堅果の結実豊凶がツキノワグマの歯のセメント質年輪幅に及ぼす影響の検証 \*栃木 香帆子 (東京農工大学), 青木 薫乃 (東京農工大学), 丸山 哲也 (栃木県林業センター), 山崎 晃司 (東京農業大学), 小坂井 千夏 (農研機構), 小池 伸介 (東京農工大学)
- P1-014#** シカによる下層植生の食害がミズナラのシュート成長に及ぼす影響 \*水谷 あゆみ (酪農大・農食環境), 東 若菜 (京大院・農), 平井 岳志 (京大フィールド研), 石原 正恵 (京大フィールド研), 金子 命 (酪農大院・酪農), 高柳 敦 (京大院・農), 松山 周平 (酪農大・農食環境)
- P1-015#** カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害のシミュレーション解析 \*坂本 杏子, 中桐 齋之 (兵庫県立大学)
- P1-016#** 寄主植物の競争環境に応じた葉形質の変異は植食性昆虫の資源分割を促すのか? \*大崎 晴菜, 山尾 僚 (弘前大学・農生)

- P1-017#** 虫媒花における、花色と形態の相関進化—送粉者相の異なる5地域間の比較— \*角屋 真澄 (富山大学), 辻本 翔平 (富山大学), 久保田 将裕 (富山大学), 渡邊 裕人 (富山大学), 伏黒 陽大 (富山大学), 平岩 将良 (神戸大学), 丑丸 敦史 (神戸大学), 工藤 岳 (北海道大学), 石井 博 (富山大学)
- P1-018#** 放棄二次林における伐採とシカ柵の設置が植物の機能群特性に与える影響 \*高木 豊大 (東京大学大学院), 楠本 大 (東京大学田無演習林), 鈴木 牧 (東京大学大学院)
- P1-019#** アリが、タカトウダイの種子生産へ及ぼす影響: アリ排除実験を通して \*下野谷 涼子 (東北大・理・生物), 板垣 智之 (東北大・院・生命科学), 酒井 聡樹 (東北大・院・生命科学)
- P1-020#** 刺胞動物と褐虫藻との細胞内共生における共生関係の流動性の評価 \*宮澤 真琴 (東北大・院・生命), 石井 悠 (東北大・院・生命), 服田 昌之 (お茶大・院・人間文化), 高橋 俊一 (基生研・環境光生物), 丸山 真一朗 (東北大・院・生命), 河田 雅圭 (東北大・院・生命)
- P1-021#** 種子段階での防衛誘導が稚樹のパフォーマンスを長期的に変える \*芳賀 真帆 (北大・環境科学院), 高林 純示 (京大・生態研), 宮崎 祐子 (岡山大院・環境生命), 内海 俊介 (北大・FSC)
- P1-022#** ヒメウラナミジャノメの訪花特性 \*南木 悠 (総合研究大学院大学), 日下石 碧 (筑波大学), 寺井 洋平 (総合研究大学院大学), 丑丸 敦史 (神戸大学), 木下 充代 (総合研究大学院大学)
- P1-023#** 夏緑広葉樹林における樹木の被食防御機構の樹種間比較 \*塩崎 暢彦 (東京農大・院・林学), 武生 雅明 (東京農大・院・林学), 瀧本 りりこ (東京農大・地域)
- P1-024#** 滑る花卉: 蜜腺露出型の花に見られる新しい盗蜜者排除機構 \*武田 和也, 川北 篤 (京都大学)
- P1-025#** 森林帯—高山帯エコトーンにおける開花構造と媒花タイプ間の比較 \*水永 優紀, 工藤 岳 (北海道大学)

## 生物多様性

- P1-026#** Bigger is better: Island size influences trophic group diversity of the Ryūkyūs \*Samuel Robert peter-james ROSS (OIST, University of Leeds, Trinity College), Nick R Friedman (OIST), Julia Janicki (OIST), Evan P Economo (OIST)
- P1-027#** クスノキ科バリバリノキ属の多様性と食害防御の関係 \*岡部 憲和 (九大院シス生), 矢原 徹一 (九大院理学研究院)
- P1-028#** ソバの結実に対する昆虫類の送粉機能~景観と季節変化に着目して~ \*丁野 梨沙 (東京大学農学部), 滝 久智 (森林総合研究所), 宮下 直 (東京大学農学部)
- P1-029#** 環境 DNA 検出による両生類の分布推定と環境要因の分析 \*三嶋 達郎 (岐阜大・応用生物), 大西 健夫 (岐阜大・応用生物), 岩澤 淳 (岐阜大・応用生物), 源 利文 (神戸大・発達)
- P1-030#** 幅広く段階的に遺伝分化した系統群を包含する昆虫種を対象とした繁殖生態・種分化機構 ~ガガンボカゲロウにおける生殖的隔離確立プロセスの究明~ \*竹中 將起 (信州大院・総合工, JSFS・DC1), 東城 幸治 (信州大・理・生物)
- P1-031#** 畳み込みニューラルネットワークを用いた鳴き声による鳥類の種判別 \*前川 侑子 (国際航業(株)), 松井 孝典 (大阪大学), 牛込 祐司 (国際航業(株)), 岡野 隆行 (国際航業(株)), 黒田 治男 (日本鳥学会)
- P1-032#** 環境 DNA 分析を用いたため池の生物多様性を規定する要因の解明 - トンボ類および魚類を用いた事例 - \*坂田 雅之 (神戸大・院・発達), 内田 圭 (横国大・環境情報), 佐藤 博

ポスター発表 3月15日(木) 9:00-17:00

(P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

俊(龍谷大・理工), 山中 裕樹(龍谷大・理工), 中尾 遼平(神戸大・院・発達), 源 利文(神戸大・院・発達)

拓士(京都大学 WRC)

**P1-033#** 自然番組情報を用いた間接的な文化的生態系サービスの可視化 \*橋 孝祐(横浜国立大学), 内田 圭(横浜国立大学), 饗庭 正寛(東北大学), 佐々木 雄大(横浜国立大学)

**P1-049#** 色彩多型が鳥類の全球レベルの分布に与える影響 \*秦 和也, 佐藤 恵里, 高橋 佑磨, 村上 正志(千葉大学)

**P1-034#** タイ熱帯季節林における真菌類・細菌類群集の季節的変動・多様性解析 \*安間 更紗(京都大・農), 東樹 宏和(京都大・生態研), Chongrak Wachrinrat(タイ・カセサート大), Taksin Artchawacom(タイ・SERS), 神崎 護(京都大・農)

**P1-050#** 小規模ダム河川における底生動物群集多様性への不連続要因の影響 \*水守 裕一(兵庫県大院・シミュ)

**P1-035#** 自然群集における植物種数と多機能性の関係: 気候変動の文脈を添えて \*高木 勇輔(横浜国大・環境情報), 岡田 慶一(横浜国大・環境情報), 小林 真(北大・FSC), 藤井 佐織(アムステルダム自由大), 佐々木 雄大(横浜国大・環境情報), 森章(横浜国大・環境情報)

**P1-051#** Resource availability determines seasonal variation of phytoplankton size structure in the Kuroshio east of Taiwan \*Lin Fan-Sian(国立台湾大学), Pei-Chi Ho(国立中央大学), Chung-Chih Chen(国立台湾師範大学), Gwo-Ching Gong(国立台湾海洋大学), Sen Jan(国立台湾大学), Chih-hao Hsieh(国立台湾大学)

**P1-036#** ミトコンドリア DNA 解析によるミジンコ *Daphnia.pulex* 各系統の日本への侵入年代推定 \*乗松 大智(東北大・理・生物), 大槻 朝(東北大・院・生命), 占部 城太郎(東北大・院・生命)

**P1-052#** 標高傾度にそった植物群集の形成メカニズム \*大堂 太朗(信州大学大学院), 高橋 耕一(信州大学理学部)

**P1-037#** 環境 DNA 分析手法を用いたタイ肝吸虫の検出系の改善 \*峠谷 彩奈(神戸大学), サトウ 恵(新潟大学), オオタケサトウ マルセロ(新潟大学), 源 利文(神戸大学)

**P1-053#** 氷期後のブナの分布変遷が樹上性昆虫の群集構成と遺伝的分化に与える影響 \*木村 彰宏, 池田 紘士(弘前大学)

**P1-038#** 長野県上伊那地方の異なる立地条件の水田地域におけるゲンゴロウ類群集の構造と環境要因との関係 \*山地 祥子(信大・院・農), 大窪 久美子(信大・農)

**P1-054#** 東アジア産バテイラ科貝類の分子系統解析: 同一系統内に生じる対照的な殻形態 \*山崎 大志(東北大・院・生命), 平野 尚浩(東北大・東北アジア), 三浦 収(高知大・農林海洋科学), 千葉 聡(東北大・院・生命, 東北大・東北アジア)

**P1-039#** 大和川水系における外来種による生物的抵抗の可能性 \*江藤 美緒, 遊佐 陽一, 山本 直(奈良女子大学)

**P1-055#** 競争的共存における安定化メカニズムの相対強度はニッチの位置で変化するか? 岩礁間帯固着生物群集での検証 \*立花 道草(北大・院・環境), 野田 隆史(北大・地球環境)

**P1-040#** 二次草地の植物群集に対する景観構造と土壌を介した土地造成の履歴の影響 \*都築 洋一(東大・農), 小柳 知代(学芸大・環境セ), 中島 一豪(東大・農), 宮下 直(東大・農)

**P1-056#** 琉球列島の森林に棲み分ける近縁低木 2 種における共生菌根菌の多様性評価 \*宮城 愛夏, 渡邊 謙太, 善岡 祐輝, 井口 亮(沖縄工業高等専門学校)

**P1-041#** 長野県伊那市の水田地域におけるクモ類群集の構造と立地環境条件および農法との関係 \*山本 悠人, 大窪 久美子(信州大・農)

**P1-057#** 単為生殖をするオガサワラヤモリの分子系統地理: 混在する広域クローンと局所的クローン \*村上 勇樹, 林文男(首都大学東京)

**P1-042#** なぜ巻貝は殻に藻をつけるのか? ホスト巻貝の体温を安定させる藻類の保水機能 \*香川 理, 千葉 聡(東北大)

**P1-058#** 樹木の種多様性が細根の生産性を増加させるか—スギ人工林の間伐強度試験 14 年目の結果から— \*根岸 有紀, 松尾 歩, 鈴木 政紀, 清和 研二(東北大学大学院)

**P1-043#** 環境 DNA からの魚類ミトコンドリア全長配列取得に向けた PCR 条件の検討 \*平尾 陽平(龍谷大・理工), 佐藤 博俊(龍谷大・理工), 源 利文(神戸大・院・発達), 山中 裕樹(龍谷大・理工)

**P1-059#** 塊状ハマサンゴ種における魚類食痕を基にした状態評価の可能性 \*池内 絵里(琉球大学・院理工), 井口 亮(沖縄高専・生物資源), 中村 崇(琉球大学・理, JST/JICA SATREPS)

**P1-044#** スギ人工林の菌根および土壌における菌叢のメタゲノム解析 \*岩崎 隼(東京大学大学院), 木村 恵(森林総合研究所), 袴田 哲司(静岡県農林技術研究所), 井出 雄二(東京大学大学院), 齊藤 陽子(東京大学大学院), 内山 憲太郎(森林総合研究所)

**P1-060#** 人為的攪乱が都市のトンボ類の分布に及ぼす影響 \*春田 魁登, 吉田 智弘(東京農工大・院・農)

**P1-045#** *Camellia* 節の花形態の比較 \*片山 瑠衣(新潟大学・自然研), 阿部 晴恵(新潟大学・農)

**P1-061#** 形態的に酷似した近縁 2 種における共存, 交雑, 遺伝分化—ヒョウモンチョウ属 2 種とウラギンヒョウモン属 2 種の場合— \*濱本 健汰(信州大学大学院), 伊藤 建夫(信州大学大学院), 北原 曜(信州大学), 市野 隆雄(信州大学)

**P1-046#** 環境 DNA メタバーコーディングから得た矢作川の魚類群集構造の季節変化と周辺環境との関係 \*芝田 直樹(龍谷大・院・理工), 佐藤 博俊(龍谷大・理工), 山本 大輔(豊田市矢作川研究所), 山本 敏哉(豊田市矢作川研究所), 櫻井 翔(龍谷大・院・理工), 山中 裕樹(龍谷大・理工)

**P1-062#** 攪乱レジームに応じた種プール構成の数理的研究 \*上原 勇樹(神戸大学大学院), 瀧本 岳(東京大学大学院), 丑丸 敦史(神戸大学大学院)

**P1-047#** 腸内細菌叢多様性維持機構を探る数理的研究 \*織原 健人, 井原 泰雄(東京大学大学院)

**動物群集**

**P1-048#** マレーシア、ブルム・テメンゴール森林地帯における環境 DNA を用いた陸生哺乳類相解析 \*松島 慶(京都大学 WRC), Shahrul Anuar (USM), Abdul Rashid (PBF), 岸田

**P1-063#** 同所的に生息するニホンジカとニホンカモシカのカメラトラップ法による土地利用比較 \*菅野 友哉(麻布大学), 高田 隼人(麻布大学, 富士山科学研究所), 塚田 英晴(麻布大学), 南 正人(麻布大学, NPO 法人あーすわーむ)

**P1-064#** 窮すれば長ず: 巻貝を介したホンヤドカリに対する海洋酸性化の間接効果 \*戸祭 森彦, 今 孝悦(筑波大学下田臨海)

**P1-065#** 日本産ヤスデ類の定量的採集方法の検討 \*田之岡 綾花, 金子 信博(横浜国立大学)

ポスター発表 3月15日(木) 9:00-17:00

(P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

- P1-066#** ニホンヤマビル種の遺伝的多様性と地理的変異 \* 森嶋 佳織 (東京農工大学大学院), 逢沢 峰昭 (宇都宮大学)
- P1-067#** Effects of environmental gradients on the diversity and functional traits of macroinvertebrate communities associated with eelgrass (*Zostera marina*) beds in Eastern Hokkaido, Japan \* Mizuho NAMBA (北海道大学), Marina Hashimoto (北海道大学), Minako Ito (北海道大学), Kyosuke Momota (港湾空港技術研究所), Carter Smith (UNC at Chapel Hill), Takefumi Yorisue (北海道大学), Masahiro Nakaoka (北海道大学)
- P1-068#** Climate change effect on benthic species distribution in Northern Bering Sea \* 二村 凌 (北大・理), 須藤 健二 (北大・環境科学), 仲岡 雅裕 (北大・FSC)
- P1-069#** 都市孤立林における潜葉虫/寄生蜂群集一種構成と季節変化 \* 鳥居 裕太 (名古屋大生命農), 綾部 慈子 (財 環境科技研), 肘井 直樹 (名古屋大生命農)
- P1-070#** 多種共存するマラウイ湖シクリッド魚類群集の分布パターン \* 川上 将樹 (龍谷大学, マラウイ大学), Richard Zatha (マラウイ大学), Bosco Rusuwa (マラウイ大学), 丸山 敦 (龍谷大学)
- P1-071#** 全球の島における鳥類共起パターン: 生態的形質と生息環境の影響 \* 佐藤 恵里, 村上 正志 (千葉大・院・理)
- P1-072#** フンと安定同位体から読み解くネコ・ネズミ・ミズナギドリ捕食-被食関係の季節動態: 御蔵島の事例 \* 安積 紗羅々 (東大・農), 岡 奈理子 (山階鳥類研究所), 亘 悠哉 (森林総合研究所), 中下 留美子 (森林総合研究所), 宮下 直 (東大・農)
- P1-073#** 岩礁潮間帯における植食性動物群集の安定性の空間変異 \* 藤井 玲於奈 (北大院・環境), 奥田 武弘 (水産機構・国際水研), 堀 正和 (水産機構・瀬戸内), 仲岡 雅裕 (北大・FSC), 山本 智子 (鹿大・水産), 野田 隆史 (北大・地球環境)
- P1-074#** 琉球列島干潟域の魚類群集はなぜ地理的モザイクパターンを示すのか? - 複雑ネットワークからみた群集形成要因の推定 - \* 國島 大河 (琉球大・院・理工), 井口 亮 (沖縄高専・生物資源), 立原 一憲 (琉球大・理)
- P1-075#** 2015年口永良部島噴火は島嶼の節足動物類に何をもたらすのか? \* 飯田 恭平, 瀬古 祐吾, 前原 裕, 高松 真也, 澤島 拓夫, 早坂 大亮 (近畿大学大学院)
- P1-076#** マトリクスの機能を考慮した二次草地に生息するバッタの群集構造 \* 中島 一豪 (東京大学), 都築 洋一 (東京大学), 長谷川 雅美 (東邦大学), 宮下 直 (東京大学)
- P1-077#** カンタリジンを介した生物群集構造: 林床と林内空間での時空動態 \* 堀内 香穂, 橋本 晃生, 林 文男 (首都大・院・理・生命)
- P1-078#** アフリカのオナガザル3種はおなじ昆虫を食べているか - 糞 DNA から探る採食戦略 - \* 時 明社, 早川 卓志, 岡本 宗裕, 橋本 千絵, 湯本 貴和 (京大・霊長類研究所)
- P1-079#** トレンドとイベントから成る長期環境変動に対するプランクトン群集の応答: 年縞堆積物を用い過去に遡る \* 大竹 裕里恵 (東大・総合文化), 大槻 朝 (東北大・生命), 占部 城太郎 (東北大・生命), 木村 成子 (滋賀県大・環境), 山田 和芳 (ふじのくに地環史博), 吉田 丈人 (東大・総合文化)
- P1-080#** 至適温度からみた侵入種 *Daphnia pulex* と在来 *Daphnia* 種のニッチ重複度 \* 丸岡 奈津美, 占部 城太郎 (東北大院・生命)
- P1-081#** 東北地方太平洋沖地震後の岩礁海岸の帯状分布: 潮間帯全域での6年間の変化 \* 織田 さやか (北大・院・環境), 岩崎 藍子 (北大・院・環境), 大平 昌史 (北大・院・環境), 金森 由妃 (北大・院・環境), 立花 道草 (北大・院・環境), 野口 遥平 (北大・院・環境), 石田 拳 (北大・院・環境), 岩渕 邦喬 (北大・院・環境), 野田 隆史 (北大・地球環境)
- P1-082#** 2つの「距離」により人工林の甲虫相に差は生れるか: 広葉樹林および開放地からの距離に着目して \* 金地 伊織, 倉本 宣 (明大院・農)
- P1-083#** 北海道東部における岩礁潮間帯生物群集の動態 \* 石田 拳 (北大・院・環境), 岩崎 藍子 (北大・院・環境), 大平 昌史 (北大・院・環境), 金森 由妃 (北大・院・環境), 立花 道草 (北大・院・環境), 織田 さやか (北大・院・環境), 野口 遥平 (北大・院・環境), 藤井 玲於奈 (北大・院・環境), 岩渕 邦喬 (北大・院・環境), 野田 隆史 (北大・地球環境)
- P1-084#** 砂防ダムによる河川の単調化に伴う底生生物の生息環境の変化 \* 荒井 岳 (明大院・農), 倉本 宣 (明大・農)
- P1-085#** 糞から抽出したミトコンドリア DNA の塩基配列による鳥類の種同定 \* 田原 大督 (大阪市立大学・理), 岡本 真帆 (大阪市立大学・院理), 大矢 樹 (大阪市立大学・院理), 伊東 明 (大阪市立大学・院理), 名波 哲 (大阪市立大学・院理)
- P1-086#** 富山県におけるヒゲナガカワトビケラの生息分布とその環境要因 \* 鈴木 茂信, 横畑 泰志 (富山大学院・理工)
- P1-087#** 寄主植物の共有が日本列島に分布するチョウ類の共起パターンに与える影響 \* 橋本 洗哉 (京大生態研 (現近大)), 中臺 亮介 (琉球大・理), 岩崎 貴也 (神奈川大・理), 佐藤 安弘 (龍谷大・さきがけ)
- P1-088#** アブラナ科草本を利用する植食性昆虫の群集構造: 摂食ギルド間の比較 \* 黒田 志織, 岡村 悠, 村上 正志 (千葉大・院・生物)
- P1-089#** 山形県庄内砂丘における訪花昆虫とそれらの季節消長 \* 我孫子 尚斗 (筑波大・院・保全生態), 郷右近 勝夫 (宮城県利府町), 日下 石 碧 (筑波大・院・保全生態), 横井 智之 (筑波大・院・保全生態)
- P1-090#** 異なる温度で育成させたクロマツ実生近傍の土壌生物の応答: 線虫と菌根菌に着目して \* 北上 雄大, 松田 陽介 (三重大学院生資)
- P1-091#** Do the intestinal helminths of field mice interact? \* Anders, Jason Lee, Uchida, Kenta, Koizumi, Itsuro (Hokkaido University)
- P1-092#** 仙台湾東谷地干潟における魚類・エビ類群集の季節変動と堤防工事の影響 \* 村上 純一 (東北大・理), 柚原 剛 (東北大院・生命), 占部 城太郎 (東北大院・生命)
- P1-093#** 河川ネットワークにおける湧水・非湧水河川の底生無脊椎動物相の比較: 朱太川水系の事例 \* 岩渕 克哉 (中大・理工), 境 優 (中大・理工), 高橋 興世 (黒松内町), 鷺谷 いづみ (中大・理工)
- P1-094#** 窓辺の遺骸から推測される節足動物群集と屋外環境 \* 木野 寛, 小池 文人 (横浜国立大学)
- P1-095#** Effects of conventional and organic farming on arthropod food web structure and ecosystem service (biocontrol) in rice paddy farms \* Gen chang HSU, OU Jia Ang, HO Chuan Kai (NTU)
- P1-096#** 河川上流域における底生生物群集の断層診断: 第2軸方向の変化について \* 井上 光也, 福田 恭子, 加藤 元海 (高知

# ポスター発表 3月15日(木) 9:00-17:00

(P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

大学)

- P1-097#** 標高と森林劣化が熱帯山地林の哺乳動物群集に与える影響 \*長野 秀美(京大・農・森林生態), 青柳 亮太(スミソニアン熱帯研), 藤木 庄五郎(京大・農・森林生態), 北山 兼弘(京大・農・森林生態)
- P1-098#** 乗鞍岳における鳥類の垂直分布 \*飯島 大智(東邦大学), 小林 篤(東邦大学), 長谷川 雅美(東邦大学), 森本 元(東邦大学, 山階鳥研)
- P1-099#** 落葉広葉樹林林冠における内生菌群集構造への樹木系統および空間の影響 \*沖 三奈絵(千葉大・理学研究科), 阿部 智和(千葉大・理学研究科), 中路 達郎(北大・苫小牧研究林), 村上 正志(千葉大・理学研究科)
- P1-100#** 断片化した生息地における空間遺伝構造: 食性の異なる近縁な昆虫種間での比較 \*小林 卓也, 曾田 貞滋(京大院理)
- P1-101#** ヒグマの掘り返しが駆動する生態系改変-植食性昆虫, 植物, 土壌への影響- \*富田 幹次, 日浦 勉(北海道大学)
- P1-102#** ヤマアカガエル・モリアオガエルの防衛形態変化に関する野外研究 \*柳澤 海大(新潟大・農), 岸田 治(北大・北方圏FSC), 小林 誠(十日町市立キョロロ), 阿部 晴恵(新潟大・農)
- P1-103#** 沖縄島のアリ類における多種共存メカニズム仮説の検証 \*野中 春日(琉球大学), 下地 博之(関西学院大学), 木下 哲(琉球大学), 辻 和希(琉球大学)
- P1-104#** 動態の変化は「本当に」相互作用が原因か? : マメゾウムシ実験系の時系列解析 \*川瀬 貴礼(龍谷大学), 川津 一隆(龍谷大学), 京極 大助(龍谷大学), 長田 穰(総合地球環境学研究所), 片山 昇(京大生態研), 近藤 倫生(龍谷大学)
- P1-105#** 温帯に生息する媒介蚊の季節的消長 \*桑野 友輔, 福井 眞, 太田 俊二(早稲田大学人間科学部)

## 動物繁殖・生活史

- P1-106#** 体表粘液の安定同位体分析は淡水魚の短期間の食性を明らかにする \*重田 環志(龍谷大・院・理工), 米倉 竜次(岐阜県水産研究所), 丸山 敦(龍谷大・理工)
- P1-107#** 線虫はどのようにして共食いを避けているのか? \*浴野 泰甫(鹿児島大学, 佐賀大学), 吉賀 豊司(鹿児島大学, 佐賀大学), 竹内 祐子(京都大学), 神崎 菜摘(森林総研関西支所)
- P1-108#** 琵琶湖水系に陸封されたアユの安定同位体比からわかること~異なる時間スケールの食性を示す複数組織を組み合わせて~ \*沢田 隼(龍谷大・院・理工), 藤原 壮平(龍谷大・理工), 遊磨 正秀(龍谷大・理工), 丸山 敦(龍谷大・理工)
- P1-109#** 生きた魚からの粘液の反復採取と同位体比の変化速度 \*植田 誉規(龍谷大・理工), 久布白 真幸(龍谷大・理工), 重田 環志(龍谷大・理工), 沢田 隼(龍谷大・理工), 米倉 竜次(岐阜県水産研究所), 丸山 敦(龍谷大・理工)
- P1-110#** 抱卵するコケゴロモガキ *Ostrea circumpicta* の性システム \*安岡 法子, 安田 恵子, 遊佐 陽一(奈良女子大院)
- P1-111#** アカボシゴマダラとゴマダラチョウの休眠覚醒の比較 \*谷尾 崇, 倉本 宣(明大・農)
- P1-112#** Sr 同位体比分析によるトミヨ属の同所的生息地における生息塩分濃度の差の解明 \*札本 果(京大生態研), 石川 麻乃(遺伝研), 北野 潤(遺伝研), 申 基澈(地球研), 陀安 一郎(地球研)

- P1-113#** コイ科魚類の繁殖フェノロジー: 遅生まれの種は不利にならないか? \*伊藤 雅浩(東京海洋大), 児玉 紗希江(中央水研), 藤森 宏佳(中央水研), 箱山 洋(東京海洋大, 中央水研)
- P1-114#** 同所的に生息するニホンカモシカとニホンジカの食性比較-食性の重複と生息環境の関係- \*高田 隼人(山梨県富士山研究所, 麻布大学), 勝又 あゆみ(麻布大学), 矢野 莉沙子(麻布大学), 南 正人(麻布大学)
- P1-115#** 仔の成長に伴うイリオモテヤマネコメスの行動圏・繁殖巣の変化 \*中鉢 蒼, 伊澤 雅子, 中西 希(琉球大学)
- P1-116#** アジメドジョウの摂餌生態と付着藻類をめぐる種間関係 \*鶴谷 峻之(龍谷大学・院・理工), 野村 賢吾(龍谷大学・院・理工), 太田 真人(龍谷大・里山研), 野村 将一郎(龍谷大・理工), 遊磨 正秀(龍谷大・理工)
- P1-117#** ワーカー内に繁殖分業が存在するアミメアリにおける卵巣発達を制御する遺伝子の探索 \*荒木 鞠那, 宮川(岡本) 美里, 宮川 一志(宇都宮大・バイオ)
- P1-118#** アカハライモリの産卵活動と卵径の季節変化 \*中川 知己, 草野 保(首都大学東京)
- P1-119#** アカハライモリの非繁殖生態 \*高橋 華江, 佐藤 拓哉(神戸大学)
- P1-120#** サクラマスの生活史分岐メカニズム: 自身の状態のみで意思決定をするか, 周りの個体に影響されるか? \*舞田 穂波(北大環境科学院), 渥美 主佑(北大環境科学院), 岸田 治(北大FSC), 小泉 逸郎(北大環境科学院)
- P1-121#** 標識再捕法により明らかになったアリアケスジシマドジョウの生活史と生息状況 \*Yuhei TAZUNOKI, Kasumi Akashi, Shuhei Kita, Yukari Mochioka, Sumire Haramoto, Hiroki Matuda, Makoto Tokuda(佐賀大学)
- P1-122#** PIT タグを用いたトウキョウダルマガエルの移動分散の解明 \*野田 康太朗(宇都宮大学大学院), 中島 直久(東京農工大学大学院), 守山 拓弥(宇都宮大学大学院), 森 晃(生物多様性センター), 渡部 恵司(農研機構), 田村 孝浩(宇都宮大学大学院)
- P1-123#** 子の増体と離乳後の親和性は出生季節により変わるか  
-アカネズミの秋-春繁殖集団での検証-  
\*田中 陽菜(宮大農・動物環境管理), 呼柳 聴(宮大院・動物環境管理), 秦 成未(宮大農・動物環境管理), 右京 里那(宮大農・動物環境管理), 家入 誠二(宮大農・動物環境管理), 坂本 信介(宮大農・動物環境管理)
- P1-124#** 淡水生態系におけるセルカリア生産量の測定 \*門脇 喜彦, 浦部 美佐子(滋賀県立大学)
- P1-125#** つがい外父性の存在は育雛行動に影響を及ぼすか-ヤマガラとヒガラの比較- \*南 美月, 肘井 直樹(名大生命農・森林保護)
- P1-126#** フタオビドロバチ属 2 種の営巣生態と生活史 \*辻井 美咲(神戸女学院大学), 西本 裕(宝塚市), 大西 由里子(神戸女学院大学), 遠藤 知二(神戸女学院大学)
- P1-127#** 宿主依存的な卵形の進化: タナゴ類の系統種間比較からの検証 \*林 寿樹(福井県大・海洋), 北村 淳一(三重県博), 小北 智之(福井県大・海洋)

## 動物個体群

- P1-128#** 環境 DNA メタバーコーディングは魚類相把握に「使える」のか? ~多種の漁具を用いた捕獲調査結果との比較を通じて~ \*藤井 和也(株)福田水文センター, 土居 秀幸

# ポスター発表 3月15日(木) 9:00-17:00

## (P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

(兵庫大シミュ), 松岡 俊将 (兵庫大シミュ), 永野 真理子 (兵庫大シミュ), 佐藤 博俊 (龍谷大学理工), 山中 裕樹 (龍谷大学理工)

ヤクの個体群動態および共生生物との関係 \*後藤 理, 木村 妙子 (三重大・院・生物資源)

**P1-129#** 函館湾西岸におけるタマキビガイの季節鉛直移動と本種にかかる捕食圧の関係 \*矢田部 空弥 (北大・院・水産)

**P1-144#** 繁殖干渉は植食性昆虫における寄主分割の要因となるか—ミカンコミバエ種群を例にして \*北野 大輔 (滋賀県大院・環境科学), 藤井 暢之 (滋賀県大院・環境科学), Sujiono (BBPOPT), 山上 繁政 (滋賀県大院・環境科学), 来田村 輔 (三重大院・生物資源), 本間 淳 (滋賀県大院・環境科学), 塚田 森生 (三重大院・生物資源), 西田 隆義 (滋賀県大院・環境科学), 沢田 裕一 (滋賀県大院・環境科学), 高倉 耕一 (滋賀県大院・環境科学)

**P1-130#** アメリカシロヒトリ個体群サイズを規定する環境要因の抽出と実証 \*Takahiro MATSUURA, Nobuko TUNO (金沢大学)

**P1-145#** 画像認識を用いた定量手法による、サンカクフジツボの個体群動態に関する研究 \*神吉 隆行, 中本 健太, 早川 淳, 河村 知彦 (東大大海研)

**P1-131#** スジシマドジョウ 2 種の種間関係—資源競争? 見かけの競争? 繁殖干渉? — \*森井 清仁 (滋賀県立大学院), 中西 康介 (国立環境研究所), 中野 光議 (石川県立大学), 高倉 耕一 (滋賀県立大学)

**P1-146#** 佐賀平野においてイトトンボ類の個体数に影響を及ぼす環境要因 \*大石 寛貴 (佐賀大・農), 喜多 章仁 (佐賀大・農), 林 岳彦 (国立環境研究所), 横溝 裕行 (国立環境研究所), 角谷 拓 (国立環境研究所), 降幡 駿介 (国立環境研究所), 五箇 公一 (国立環境研究所), 徳田 誠 (佐賀大・農)

**P1-132#** 屋久島の亜熱帯から森林限界における野ネズミの垂直分布と生態適応 \*肥後 悠馬, 三浦 光, 梶村 恒 (名古屋大学生命農)

**P1-147#** カワネズミにおけるマイクロサテライト・マーカー開発—系統地理および行動・生態究明の試み— \*山崎 遥 (信州大・理・生物), 関谷 知裕 (信州大院・理工), 平澤 桂 (アクアマリンふくしま), 佐々木 彰央 (ふじのくにミュージアム), 一柳 英隆 (熊本大院・先端科学), 元木 達也 (環境アセスメン(株)), 東城 幸治 (信州大・理・生物)

**P1-133#** 外来種ナンオウフジツボの三陸沿岸における侵入過程 \*野口 遥平 (北大院環境), 岩崎 藍子 (北大院環境), 大平 昌史 (北大院環境), 金森 由妃 (北大院環境), 立花 道草 (北大院環境), 織田 さやか (北大院環境), 藤井 玲於奈 (北大院環境), 石田 拳 (北大院環境), 岩渕 邦喬 (北大院環境), 野田 隆史 (北大地球環境)

**P1-134#** The relationship between dispersal connectivity structure and biodiversity \*Yuka SUZUKI, Evan Economo (OIST)

**P1-148#** リス科における個体群統計量の定量的解析 \*谷尾 伊織 (北海道大学)

**P1-135#** 玉座の数は血縁度が決める: 単為生殖アリにおける最適繁殖者数 \*井戸川 直人, 土畑 重人 (京大院・農・昆虫生態)

**P1-149#** 琉球列島のアンキアライン洞窟におけるカワアナゴ属魚類の感覚器の特殊化 \*小林 大純 (琉大院理工, 琉大熱生研), 前田 健 (OIST), 山平 寿智 (琉大熱生研)

**P1-136#** ニホンカモシカの冬季における長期的食性の変化とその要因—個体群動態への影響— \*比留間 光子 (東京農工大学), 岸元 良輔 (長野県環境保全研究所), 黒江 美紗子 (長野県環境保全研究所), 小池 伸介 (東京農工大学)

**P1-150#** 音声調査を用いたスズギ・ヒノキ人工林におけるコウモリの活動量 \*牧 貴大 (筑波大・生物資源), 上條 隆志 (筑波大・生命環境), 上條 さち子 (つくば市大角豆)

**P1-137#** 河川性魚類の分布規定要因: 遊泳能力と種間競争を考慮した検証 \*山田 太平 (北大院・農), 小泉 逸郎 (北大・地球環境), 卜部 浩一 (道総研さけます内水試), 中村 太士 (北大院・農)

**P1-151#** Quantitative changes in the symbiont types hosted by coral juveniles under thermal stress \*史 宗艶, Rouze, Heloise, 依藤 実樹子, Sinniger, Frederic, 波利 井 佐紀 (琉球大学)

**P1-138#** 東北地方太平洋沖地震がムラサキインコガイの個体群動態に与えた影響 \*岩渕 邦喬 (北大・院・環境), 岩崎 藍子 (北大・院・環境), 大平 昌史 (北大・院・環境), 金森 由妃 (北大・院・環境), 立花 道草 (北大・院・環境), 織田 さやか (北大・院・環境), 野口 遥平 (北大・院・環境), 藤井 玲於奈 (北大・院・環境), 石田 拳 (北大・院・環境), 野田 隆史 (北大・地球環境), 仲岡 雅裕 (北大・FSC)

**P1-152#** ムクゲネズミとエゾヤチネズミの形態の比較: 分布様式と関連させて \*藤原 有沙 (北大・院・環境科学), 齊藤 隆 (北大・FSC)

**P1-139#** Spatial heterogeneity of Allee thresholds: how they are generated and applicable to population management \*Fumitaka UNO, Gaku TAKIMOTO (東大・農)

**P1-153#** 中日本と西日本におけるニホンザルの群れサイズと行動圏の関係 \*寺山 佳奈 (高知大学), 清野 紘典 ((株)WMO), 海老原 寛 ((株)WMO), 滝口 正明 (自然環境研究センター), 加藤 元海 (高知大学)

**P1-140#** 金華山島のシカの頭骨の31年間の変化 \*池田 鈴菜 (麻布大学), 南 正人 (麻布大学), 高槻 成紀 (いのちの博物館), 大西 信正 (南アルプス生態邑), 樋口 尚子 (NPO 法人あーすわーむ), 岡田 あゆみ (北里大学), 塚田 英晴 (麻布大学)

**P1-154#** 平地と山地のホシミスジ個体群の生態特性 \*中橋 優芽香 (神戸女学院大学大学院), 遠藤 知二 (神戸女学院大学)

**P1-141#** シカ個体数の推定モデルに関する考察—状態空間モデルを用いて— \*木村 友朗, 中村 和幸 (明治大学)

**P1-155#** 都市開発による孤立林サイズの違いがアカネズミの遺伝的多様性に及ぼす影響 \*小海 佑樹 (龍谷大・院・理工), 横田 岳人 (龍谷大・理工)

**P1-142#** 録音データにもとづくリュウキュウコノハズクの生息密度評価 \*井上 遠 (東京大学), 角谷 拓 (国立環境研究所), 吉田 丈人 (東京大学), 鷲谷 いづみ (中央大学)

**P1-156#** 埼玉と伊豆大島におけるノコギリクワガタの形態的変異 \*井出 征一郎, 吉田 智弘 (東京農工大・農)

**P1-143#** 三重県松名瀬干潟におけるマキガイイソギンチ

**P1-157#** エゾシカ個体群における分集団構造の季節変化 \*森本 祥子 (北海道大学環境科学院), 三澤 桃 (北海道大学環境科学院), 齊藤 隆 (北海道大学 FSC)

**P1-158#** 密度 - 面積関係を生じるメカニズムはなにか? : 深流の落葉破砕食昆虫における種・年齢の比較 \*永田 広大 (東大・農), 加賀谷 隆 (東大・農), 天野 浩美 (建設環境研究所)

ポスター発表 3月15日(木) 9:00-17:00

(P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

**P1-159#** 農地景観における絶滅危惧種ミヤマシジミのメタ個体群~共生アリにも着目して~ \*出戸 秀典, 宮下 直 (東京大学)

**P1-160#** 石狩浜のカシワ林における *Pyllonorycter* 属潜葉性小蛾類の個体群動態 \*松浦 輝 (北大・環境科学院), 工藤 岳 (北大・環境科学院), 木村 正人 (北大・総合博物館)

行 動

**P1-161#** タンザニア・カタヴィ国立公園におけるキリンの休息時と仔育て時の環境選択 \*齋藤 美保, 伊谷 原一 (京都大学大学院)

**P1-162#** 菌食性ナメクジのキノコ胞子散布力 \*北林 慶子, 都野 展子 (金沢大学)

**P1-163#** ヤドカリにおけるアンテナの性的二型とオス間競争 \*守田 安祐美, 和田 哲 (北大院・水産)

**P1-164#** 発達したオス後脚は性的対立によって進化したのか: 個体群入れ替え配偶実験による検証 \*里見 太輔, 高見 泰興 (神戸大・人間発達環境)

**P1-165#** 捕食者? それとも餌? 接近する熱源の大きさはマムシの行動に影響を与えるのか? \*櫻村 祐喜, 粕谷 英一 (九州大学 理・生)

**P1-166#** 北太平洋のアカウミガメ亜成体は高い休止代謝速度によって越冬時に活動的な潜水を行う \*木下 千尋 (東大大海研), 福岡 拓也 (東大大海研), 崎崎 友子 (東大大海研), 新妻 泰章 (名城大学), 佐藤 克文 (東大大海研)

**P1-167#** 環境 DNA 分析による同所的に生息するドジョウ 2 種の生態的分化の検証 \*岡田 龍也 (近大・院・農), 辻 冨月 (龍谷大・院・理工), 森田 圭吾 (近大・院・農), 芝田 直樹 (龍谷大・院・理工), 北川 忠生 (近大・院・農), 山中 裕樹 (龍谷大・院・理工)

**P1-168#** ロウソクギンポの卵保護雄が全卵食する雄性ホルモンレベル: 求愛できないので食べるのか? \*中武 洋佑, 竹垣 毅 (長崎大・院・水環)

**P1-169#** グッピーからカダヤシへの繁殖干涉 (1) 個別飼育実験による実証 \*出岐 大空 (琉球大・農・昆虫), 鶴井 香織 (琉球大・戦略研究セ), 藤本 真悟 (琉球大・戦略研究セ), 立田 晴記 (琉球大・農・昆虫, 琉球大・院・農・昆虫), 辻 和希 (琉球大・農・昆虫, 琉球大・院・農・昆虫)

**P1-170#** 魚食・鱗食・ヒレ食のシクリッド 3 種における口部形態の左右差の比較 \*西川 巧馬 (龍谷大・理工), 丸山 敦 (龍谷大・理工), 畑 啓生 (愛媛大・理), Richard Zatha (Dep.Biol), Bosco Rusuwa (Univ.Malawi), 小田 洋一 (名古屋大・理), 竹内 勇一 (富山大・医)

**P1-171#** 採餌行動の多様性はどのように個体群の生産性を高めるか? \*柳田 ゆきの (千葉大・理), 高橋 佑磨 (千葉大院・理)

**P1-172#** 海水温上昇が植食性無脊椎動物の摂食行動に与える影響 \*長谷川 貴章 (北海道大学)

**P1-173#** ヤマトシリアゲの交尾戦術に体長と左右対称性のゆらぎ(FA)は影響するか? \*石原 凌, 宮竹 貴久 (岡山大学・環境生命)

**P1-174#** マメゾウムシの産卵意思決定における社会的情報の利用 \*大竹 遼河, 土畑 重人 (京都大学)

**P1-175#** コクヌストモドキにおける歩行能力への人為選

抜が生活史形質へ及ぼす影響 \*松村 健太郎, 宮竹 貴久 (岡山大学院環境生命)

**P1-176#** アリのコロニー間闘争における闘争と逃走の行動意思決定 \*植松 潤平 (琉球大学)

**P1-177#** イワナ稚魚の行動に砂防ダムが与える影響の検証 \*山田 寛之 (北大・水産・4年), 榎本 尊 (北大・水産・4年), 和田 哲 (北大・水産・教授)

**P1-178#** ニホンザル野生群における infant handling の意義: 母子とハンドラー双方の視点から \*関澤 麻伊沙, 沓掛 展之 (総合研究大学院大学)

**P1-179#** 水中の光環境とグッピーの構造色の関係性 \*勝部 尚隆 (琉球大・院・農・昆虫), 鶴井 香織 (琉球大・戦略研究セ), 藤本 真悟 (琉球大・戦略研究セ), 立田 晴記 (琉球大・院・農・昆虫, 琉球大・農・昆虫), 辻 和希 (琉球大・院・農・昆虫, 琉球大・農・昆虫)

**P1-180#** 体温モニタリングによるアカネズミの繁殖、日内休眠、活動時間の推定 \*畔柳 聰 (宮大院・動物環境管理), 児玉 芳宣 (宮大院・動物環境管理), 大久保 慶信 (自然研), 江藤 毅 (新潟大・朱鷺自然セ), 森田 哲夫 (宮大・フ・生物資源), 家入 誠二 (宮大農・動物環境管理), 坂本 信介 (宮大農・動物環境管理)

**P1-181#** オサムシ類 2 種と陸棲巻貝の捕食被食行動 \*榎本 尊 (北大・水産), 山田 寛之 (北大・水産), 和田 哲 (北大・院・水産)

**P1-182#** 釧路湿原国立公園に生息するエゾシカは台風による増水時どこで過ごしていたのか? \*菅野 慎 (酪農学園大学), 日野 貴文 (酪農学園大学), 宇野 裕之 (道総研), 赤松 里香 (EnVision), 村井 拓成 (EnVision), 立木 靖之 (UMS), 吉田 剛司 (酪農学園大学)

**P1-183#** 他者の恋人は魅力的: ホンヤドカリオスの配偶者選択における社会情報利用 \*小黒 歩 (北大院水産), 和田 哲 (北大水産科学研究院)

**P1-184#** モンゴルの草食獣モウコガゼル of 春の移動型の分類と移動による利益の評価 \*今井 駿輔 (鳥取大学), 伊藤 健彦 (鳥取大学), 篠田 雅人 (名古屋大学), 恒川 篤史 (鳥取大学), Badamjav Lhagvasuren (モンゴル科学アカデミ)

**P1-185#** ウスパカゲロウ類幼虫 3 種の捕食行動: フェンストラップ対ピットホールトラップ \*神宮 彬彦, 林 文男 (首都大・生命)

**P1-186#** テナガホンヤドカリのオス間闘争において負け方が次の闘争に与える影響 \*寒竹 悠子, 石原 (安田) 千晶, 和田 哲 (北大院・水産)

**P1-187#** 起死回生するミジンコ: 被食者の体サイズ・密度と擬死時間との関係 \*山田 紗友美, 占部 城太郎 (東北大学大学院)

**P1-188#** 営巣密度によるチドリ目の擬傷行動の進化 \*西條 未来, 沓掛 展之, 大槻 久 (総研大・先導研)

**P1-189#** 巻貝類の移動パターンの解析 \*奥村 洋介, 中野 智之 (京大・院・理)

**P1-190#** リュウキュウクチキゴキブリのペアにおける翅の食い合い行動: 片方の個体に翅がないときの行動 \*大崎 遙花 (九州大学大学院), 粕谷 英一 (九州大学)

**P1-191#** ナミアメンボの流水域、止水域の利用は季節・世代で異なるか? \*谷野 俊介 (帝京科学大学院), 森 貴久 (帝京科学大学生命環境)

**P1-192#** 琵琶湖沿岸部におけるオオクチバス稚魚の食性 \*野村 将一郎 (龍谷大・理工), 鶴谷 峻之 (龍谷大・院・理工), 野村 賢吾 (龍谷大・院・理工), 太田 真人 (龍谷大・里山研), 遊磨 正秀 (龍

# ポスター発表 3月15日(木) 9:00-17:00

(P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

谷大・理工)

**P1-193# ザトウクジラの休息時間はなぜ陸棲大型草食動物のように短いのか** \*秋山 優 (東京大学), 青木 かかり (東京大学), 岩田 高志 (SMRU), 檜崎 友子 (東京大学), Patrick Miller (SMRU), Martin Biuw (Ins. of Marine Res.), Saana Isojunno (SMRU)

**P1-194# 外来ザリガニの侵入歴の違いに伴う行動特性の変化** \*工藤 秀平 (金沢大・理工), 北野 聡 (長野県保研), 西川 潮 (金沢大・環日セ)

**P1-195# ホンヤドカリのメガロバ幼生期における貝殻評価の時間的变化** \*益田 拓実, 和田 哲 (北大・院・水産)

**P1-196# 硫黄安定同位体比分析を用いたコウノトリにおける海産魚寄与の可能性** \*塩田 圭祐 (兵庫県立大学院), 田和 康太 (土木研究所), 丸山 勇氣 (株) 建設環境研究所, 佐川 志朗 (兵庫県立大学院)

**P1-197# ヨツモンマメゾウムシとアズキゾウムシ 2 系統間での繁殖干渉の比較** \*野口 功貴, 京極 大助, 近藤 倫生 (龍谷大学)

**P1-198# もちろんうちは抵抗するで?キックで。** \*向 峯 遼 (筑波大・生物), 徳永 幸彦 (筑波大・生命環境系)

**P1-199# コクロアナバチにおける共同育室の出現状況とその帰結** \*今崎 唯, 遠藤 知二 (神戸女学院大学)

**P1-200# 奈良公園におけるニホンジカのおじぎの機能** \*西山 若菜, 和田 葉子, 和田 恵次, 遊佐 陽一 (奈良女子大学)

**P1-201# オスの貯食行動は性選択によって進化した?—モズは「はやにえ」を食べてメスの誘引に重要なさえずりの質を高める—** \*西田 有佑 (大阪市大・院・理), 高木 昌興 (北大・院・理)

**P1-202# 擦り減らしながら生きていく: 金華山のニホンザルにおける歯の摩耗の年代変化** \*若森 参, 伊藤 毅 (京都大 霊長所)

保

全

**P1-203# 生物多様性普及活動の試みとその質的分析** \*三 島 らすな, 倉本 宣 (明大・農)

**P1-204# 石狩湾沿岸林内におけるキタホウネンエビ個体群の維持** \*濱崎 真克, 野田 隆史 (北海道大学環境科学院)

**P1-205# 生物・非生物的要因を考慮した広域分布種の個体数分布推定: カメ類を用いて保護管理上重要な地域を把握する** \*加賀山 翔一 (東邦大院・理), 栗山 武夫 (兵庫県立大), 谷口 真理 (須磨水), 三根 佳奈子 (自然回復株), 上野 真太郎 (東大院・農), 藤林 真 (岡山理大院・生地), 亀崎 直樹 (岡山理大・生地), 長谷川 雅美 (東邦大・理)

**P1-206# 環境 DNA 手法を用いたオオサンショウウオの繁殖期の推定** \*森本 哲平, 中尾 遼平, 源 利文 (神戸大学)

**P1-207# 認証制度を軸にしたトキの生息地再生とその順応的管理** \*小町 亮介 (新潟大・院・自然科学), 向井 喜果 (新潟大・院・自然科学), 鎌田 泰斗 (新潟大・院・自然科学), 望月 翔太 (新潟大・農), 関島 恒夫 (新潟大・農)

**P1-208# 環境 DNA 手法を用いた淡水ガメの検出系の確立** \*河田 萌音 (神戸大院・発達), 上野 真太郎 (東大院・農), 亀崎 直樹 (岡山理科大, 須磨水), 谷口 真理 (須磨水), 源 利文 (神戸大・院・発達)

**P1-209# 水田管理と周辺環境が水生昆虫群集に与える影響** \*渡辺 黎也 (筑波大・生物学類), 日下 石 碧 (筑波大・院・保全

生態), 横井 智之 (筑波大・院・保全生態)

**P1-210# 河川におけるニホンウナギの生息環境** \*松重 一輝, 望岡 典隆 (九大・院・農)

**P1-211# 天竜川水系における希少植物の生育する群落の構造と立地環境条件および外来植物との関係** \*中原 美穂, 大窪 久美子 (信州大・農)

**P1-212# 三峰川および天竜川水系における希少種カワラバッタの生息状況と食性実験に関する研究** \*山田 実里, 大窪 久美子 (信州大・農)

**P1-213# 延焼から4年経過した霧ヶ峰高原における草原植生の現状** \*中田 泰地, 大窪 久美子 (信州大・農)

**P1-214# 薄暗い条件でのドローン撮影: マガン検知に必要な露出時間とISO感度は?** \*松田 亜希子, 鈴木 透, 小川 健太 (酪農学園大学)

**P1-215# 環境 DNA 手法によるヒダサンショウウオの定点モニタリング** \*富田 勢 (神戸大・院・発達), 神松 幸弘 (立命大・グローバル), 源 利文 (神戸大・院・発達)

**P1-216# 長野県伊那市北西部の止水域における越冬期のマツモムシ及びミズカマキリの環境選択性** \*加知 義教, 大窪 久美子 (信州大・農)

**P1-217# 農業用排水施設のネットワーク強度が魚類の多様性に与える影響** \*後藤 颯太 (広広畜産大学)

**P1-218# 環境 RNA を用いたコイの繁殖行動の検出** \*前川 和也 (神戸大・発達), 源 利文 (神戸大・院・発達), 山本 義彦 (神戸大院・発達, 大阪環農水研・水生セ)

**P1-219# 希少猛禽類イヌワシの絶滅リスク評価: 生息適地の推定と個体群の将来予測** \*夏川 遼生 (横浜国立大学大学院), 前田 琢 (岩手県環境センター), 松田 裕之 (横浜国立大学大学院)

**P1-220# 農業用水路におけるイシガイ類の成長** \*野村 賢吾 (龍谷大学・院・理工), 鶴谷 峻之 (龍谷大学・院・理工), 野村 将一郎 (龍谷大学・理工), 太田 真人 (龍谷大学里山学研究所), 遊磨 正秀 (龍谷大学・理工, 龍谷大学里山学研究所)

**P1-221# 長野県上伊那地方の異なる立地環境の河川地域におけるトンボ群集構造と産卵基質としての水生植物の選択性について** \*荒 裕樹, 大窪 久美子 (信州大・院・農)

**P1-222# シチズンサイエンスにおけるシチズンは誰か—バードリサーチ東京都島嶼部鳥類繁殖分布調査の事例—** \*高 田 陽, 倉本 宣 (明大・農)

**P1-223# 北海道のイワナ属はニジマスと共存できるか—環境 DNA を用いた3種の分布データをもとに—** \*速水 花奈 (神戸大・発達), 坂田 雅之 (神戸大・院・発達), 今村 彰生 (北教大 旭川校), 源 利文 (神戸大・院・発達)

**P1-224# 絶滅危惧植物エンビセンノウの保全: 日韓中露の集団遺伝, 保全株の由来, 植え戻し計画, 生態展示** \*田村 紗彩 (北大/院/農), Kwak, Myoung-Hai (韓国国立生物資源館), 國府 方吾郎 (国立科学博物館/植物), Park, Chan-Ho (韓国国立生物資源館), Lee, Byoung-Yoon (韓国国立生物資源館), 福田 知子 (三重大/教養教育機構), Elena Pimenova (ウラジオストク植物園), Ekaterina Petrunenko (ウラジオストク植物園), Inna Koksheeva (ウラジオストク植物園), Pavel Krestov (ウラジオストク植物園),

**P1-225# Comparison of tractability of invasive toxic toads between their predators in natural and invaded ranges** \*Narumi Oyake, Nayuta Sasaki, Osamu Kishida (Hokkaido Univ.)

# ポスター発表 3月15日(木) 9:00-17:00

(P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

- P1-226# トンボ類の群集構造から見た東京港野鳥公園のハビタット特性** \*白石 拓也, 倉本 宣 (明大・農)
- P1-227# アカテガニ類幼生期の回帰・着底要因** \*村上 隆也 (石川県立大学大学院), 柳井 清治 (石川県立大学)
- P1-228# コウノトリが生息地として利用する水田景観の評価** \*福島 真理子 (東大院・農), 山田 由美 (慶應大・政策メディア), 一ノ瀬 友博 (慶應大・環境情報), 板川 暢 (慶應大SFC 研), 石井 潤 (福井県里山里海湖研), 西垣 正男 (福井県自然環境課), 吉田 丈人 (東大院・総合文化)
- P1-229# 信濃川水系において日本産メダカ2種は交雑しているのか?** \*入口 友香 (近大院農), 高田 啓介 (信大理), 北川 忠生 (近大院農)
- P1-230# Grain size effects of habitat migration corridors: a case study of the Little Egret (*Egretta garzetta*) in Su-Xi-Chang region, China** \*Xiaonan FEL, Wei Wu (Nanjing Agr Univ.)
- P1-231# 機能的多様性から見た草刈り再導入の効果—放棄畦畔の再生実験—** \*高島 敬子 (神戸大・人間発達環境), 長井 拓馬 (nouka-nagai), 勝原 光希 (神戸大・人間発達環境), 上原 勇樹 (神戸大・人間発達環境), 丑丸 敦史 (神戸大・人間発達環境)
- P1-232# Effect of Soil Conditions at Reintroduction Site on Growth and Reproduction of an Extinct Aquatic plant Species in the wild, *Eriocaulon heleocharioides*** \*段 雨佳 (筑波大学・生命環境), 堀内 勇寿 (埼玉県所沢市), 長谷川 セリ (筑波大学・生命環境), 永田 翔 (アクアキャンブ), 上條 隆志 (筑波大学・生命環境), 田中 法生 (国立科博・植物園)
- P1-233# 保育者志望の学生の「昆虫嫌い」を緩和するには?—認識調査と観察会の実践から—** \*田川 一希 (九大・院・生態, 中村学園大・教育), 新井 しのぶ (中村学園大・教育), 石田 靖弘 (中村学園大・教育)
- P1-234# 環境DNAメタバーコーディングによる森林の哺乳類相調査—絶滅危惧種ニホンカワネズミの生息確認—** \*米澤 悟 (京大農), 潮 雅之 (京大生態研セ, JST さきがけ), 高柳 敦 (京大農), 齋藤 浩明 (京大理), 宮 正樹 (千葉中央博), 井脇 裕司 (京大農)
- P1-235# 地形・地質の違いに対応した土地利用配列と履歴が半自然草原の種組成や種多様性に与える影響** \*守下 克彦, 武生 雅明 (東京農大・院・林学)
- P1-236# 野生絶滅種コシガヤホシクサの生存と成長に交配方法と栽培環境が与える影響** \*長谷川 セリ (筑波大学・生命環境), 堀内 勇寿 (埼玉県所沢市), 段 雨佳 (筑波大学・生命環境), 永田 翔 (アクアキャンブ), 上條 隆志 (筑波大学・生命環境), 田中 法生 (国立科博・植物園)
- P1-237# モンゴル国・ホステイ国立公園におけるアカシカ (*Cervus elaphus*) の生息地の環境利用** \*白井 森羅 (酪農学園大学)
- P1-238# 北海道の在来タンポポ3種の雑種形成について** \*齋藤 輝志 (北教大旭川校), 伊東 明 (大阪市大・院理), 今村 彰生 (北教大旭川校)
- P1-239# なぜ人は森で感動するのだろうか～脳波からみる行動別心理的効果の違い～** \*野田 佳愛 (京大院・農), 伊勢 武史 (京大・フィールド研)
- P1-240# 時系列データを用いたニホンザルの行動圏推定手法の評価** \*上田 羊介 (新潟大院・自然科学), 望月 翔太 (新潟大院・自然科学), 山本 圭介 (甲斐けもの社中(NPO)), 村上 拓彦 (新潟大・農)
- P1-241# 湿地のアンダーユースからミズニラ自生地を守る方法** \*相澤 直, 倉本 宣 (明大院・農)
- P1-242# 遺伝情報を用いた青葉山スギ天然林保全** \*ONUMA, Yunosuke (筑波大学), UCHIYAMA, Kentaro (森林総研), KIMURA, Megumi (森林総研, 林木育種センター), TSUMURA, Yoshihiko (筑波大学)
- P1-243# 環境DNAを用いたため池におけるタガメの分布状況推定** \*尾形 茂紀 (島根大院・生資), 西脇 淳浩 (パシフィックコンサル), 山添 寛治 (株式会社P C E R), 須貝 杏子 (島根大・生資), 高原 輝彦 (島根大・生資)
- P1-244# 都市近郊孤立林における生物多様性と人為的影響に対する一考察** \*南部 美紗 (玉川大学)
- P1-245# 海洋島への外来種の移入と定着** \*内田 翔太 (東北大・生命科学), 千葉 聡 (東北大・生命科学, 東北大・東北アジア)
- P1-246# 人工知能によるコケマップの完成を目指して～苔庭管理のための画像認識モデルの提案～** \*皆川 まり, 伊勢 武史, 大西 信徳 (京都大学)
- P1-247# 生息地を拡大するモツゴと喪失するシナイモツゴの低酸素耐性と水流耐性の比較** \*三村 詩織 (信大院・総合理工学), 中野 蘭 (JSPS), 高田 啓介 (信州大・理)
- P1-248# 草原として都市に残存する空き地の価値評価** \*高橋 栞 (東邦大学理学研究科), 徳江 義宏 (日本工営(株)), 今村 史子 (日本工営(株)), 上野 裕介 (石川県立大学), 西廣 淳 (東邦大学理学部)
- P1-249# サンショウウオの幼生・成体期を統合した生態系横断的な個体数決定機構の解明** \*高木 香里, 宮下 直 (東大・農)
- P1-250# 環境省事業「モニタリング1000」により作成された水生植物相調査マニュアルの評価** \*平松 栞 (新潟大学), 首藤 光太郎 (新潟大学), 加藤 将 (日本国際湿地保全連合), 志賀 隆 (新潟大学)
- P1-251# MHC 遺伝子の多様性の喪失は寄生虫感染を引き起こすか: シナイモツゴのクリノストマム重度感染を例に** \*北原 瑛斗 (信大院・総合理工学), 中野 蘭 (信州大・理), 高田 啓介 (信州大・理)
- P1-252# 湿原, 耕作放棄地, 農地の生息地価値の相対的な評価—鳥類を用いた北海道における広域的検証—** \*北沢 宗大 (北大・農), 山浦 悠一 (森林総研・植生, ANU), 河村 和洋 (北大・農), 先崎 理之 (国環研), 中村 太士 (北大・農)
- P1-253# 島国のイヌワシ: 有効集団サイズの変遷** \*佐藤 悠 (京都大学 野生動物), Rob Ogden (Univ. of Edinburgh), 中嶋 信美 (国立環境研究所), 岸田 拓士 (京都大学 野生動物), 小松 守 (秋田市大森山動物園), 前田 琢 (岩手県環境保健研究セ), 井上 村山 美穂 (京都大学 野生動物, 国立環境研究所)
- P1-254# ニホンミツバチの転居先一ダンスによる把握—** \*工藤 遥香 (中大院・理工), 藤原 愛弓 (中大・理工), 井上 遠 (東大院・農), 鷲谷 いづみ (中大・理工)
- P1-255# ライチョウの集団遺伝構造とその規定要因** \*坂本 大地 (九州大学), 長太 伸章 (国立科学博物館), 中村 浩志 (中村浩志国際鳥類研), 西海 功 (国立科学博物館, 九州大学)
- P1-256# 中国山地の半自然草原の保全にシカ柵設置は有効か?** \*井之上 侑雅, 永松 大 (鳥取大学)
- P1-257# 市民科学データからみる東京の蝶の餌資源利用** \*海老原 健吾 (中大院・理工), 安川 雅紀 (東大), 鷲谷 いづみ (中大・理工)

ポスター発表 3月15日(木) 9:00-17:00

(P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

**P1-258#** 君には見えるか? ~鳥の渡りの見える化~ \*中  
泉 雄登 (筑波大学・生物), 徳永 幸彦 (筑波大学・環境環境)

**P1-259#** 原生的自然環境の保護か, 人と自然の関係の維持  
か - 知床世界自然遺産地域における昆布漁をめぐる  
人々の認識 \*船木 大資, 吉田 正人 (筑波大学大学院)

**P1-260#** カワシンジュガイの宿主特異性は地域によって  
異なるか \*北市 仁 (北大院・環境科学), 三浦 一輝 (北大院・環境  
科学), 伊藤 大雪 (北大院・環境科学), 卜部 浩一 (道さけます内水  
試), 根岸 淳二郎 (北大院・地球環境科学)

物質循環

**P1-261#** バイオチャー散布がコナラ林の細根 NPP に与  
える影響 \*増田 信悟 (早稲田大・院・先進), 月森 勇気 (早稲田  
大・院・先進), 恵日 格也 (早稲田大・教育), 本多 朝陽 (早稲田  
大・院・先進), 墨野倉 伸彦 (早稲田大・院・先進), 友常 満利 (早  
稲田大・教育), 小泉 博 (早稲田大・教育)

**P1-262#** 暖温帯コナラ林とアカマツ林における根圏滲出  
物の季節変化 \*本多 朝陽 (早稲田大・院・先進), 新海 恒 (早稲  
田大・院・先進), 増田 信悟 (早稲田大・院・先進), 墨野倉 伸彦  
(早稲田大・院・先進), 友常 満利 (早稲田大・教育), 小泉 博 (早  
稲田大・教育)

**P1-263#** 冷温帯アカマツ幼齢林と老齢林における NEP の  
経年変化 \*小山 悠太 (早稲田大・院・先進), 鈴木 英里 (東工大・  
院・生命理工), 墨野倉 伸彦 (早稲田大・院・先進), 友常 満利 (早  
稲田大・教育), 小泉 博 (早稲田大・教育)

**P1-264#** How does logging influence  
biogeochemical silicon cycling in lowland  
tropical forests in Borneo? \*Ryosuke NAKAMURA  
(Kyoto Univ.), Nobuo IMAI (Tokyo NODAI, Kyoto Univ.), Ryota  
AOYAGI (STRI Kyoto Univ.), Kanehiro KITAYAMA (Kyoto  
Univ.), Kaoru KITAJIMA (Kyoto Univ.)

**P1-265#** バイオチャー散布が暖温帯コナラ林の炭素動態  
に及ぼす影響 - 散布後 1 年目と 2 年目における応答の比  
較 - \*月森 勇気 (早稲田大・院・先進), 友常 満利 (早稲田大・教  
育), 墨野倉 伸彦 (早稲田大・院・先進), 本多 朝陽 (早稲田大・  
院・先進), 増田 信悟 (早稲田大・院・先進), 小泉 博 (早稲田大・  
教育)

**P1-266#** 再開発ダム完成前後のダム下流生態系における  
食物網・物質循環の比較 \*菊地 亮太 (弘前大・院・農生), 東  
信行 (弘前大・農生)

**P1-267#** Stemflow generation and DOC dynamics  
in relation to tree species and size in the forest  
of central Japan \*Siyu CHEN, 吉竹 晋平, 大塚 俊之 (岐阜大学)

**P1-268#** Seasonal and spatial variations in  
stream metabolisms of the Japanese rivers  
\*GURUNG, Anandeeta (Tohoku University), Urabe, Jotaro (Tohoku  
University), Iwata, Tomoya (Yamanashi University), Nakano, Daisuke  
(CRIEPI)

**P1-269#** イネ科植物がケイ酸吸収を通じて根圏の鉱物お  
よび土壌有機物に与える影響 \*大沼 俊貴 (酪農学園大学), 小  
野 拓哉 (北海道大学大学院), 河上 智也 (北海道大学大学院), 小林  
高嶺 (北海道大学大学院), 保原 達 (酪農学園大学), 春日 純子 (鳥  
根大学), 松本 真悟 (鳥根大学), 阿江 教治 (龍谷大学)

**P1-270#** Hydrologic and internal nitrogen cycles  
in a cool-temperate deciduous broad-leaved  
forest(Takayama forest) \*Ruoming Cao, Siyu Chen, Shinpei  
Yoshitake, Toshiyuki Ohtsuka (Gifu University)

**P1-271#** 環境条件の変化による納豆菌コロニーの増殖拡大  
\*寺尾 明日美 (兵庫県立大学), 向坂 幸雄 (中村学院大学), 中桐 育之  
(兵庫県立大学)

**P1-272#** バイオチャー散布が暖温帯コナラ林における根呼  
吸と微生物呼吸に及ぼす影響 - トレンチ法を用いて - \*恵  
日 格也 (早稲田大・教育), 友常 満利 (早稲田大・教育), 月森 勇気  
(早稲田大・院・先進), 増田 信悟 (早稲田大・院・先進), 本多 朝陽  
(早稲田大・院・先進), 小泉 博 (早稲田大・教育)

**P1-273#** 窒素循環に関わる微生物の土壌中含量および群  
集構造の変化 Changes in the abundance and  
community structures of soil microbes  
associated with nitrogen cycle \*藤田 卓 (九州大・理・  
生物), 韓 慶民 (国立森林総合研究所), 濱村 奈津子 (九州大・理・生  
物), 佐竹 曉子 (九州大・理・生物)

**P1-274#** 窒素循環を指標とした里山評価 \*井田 勇也 (新潟大  
学・自然研), 本間 航介 (新潟大学・農)

**P1-275#** バイオチャー散布が暖温帯コナラ林の光合成に与  
える影響 \*棚澤 由実菜 (早稲田大・教育), 友常 満利 (早稲田大・  
教育), 墨野倉 伸彦 (早稲田大・院・先進), 山中 椎奈 (早稲田大・教  
育), 加藤 夕貴 (早稲田大・教育), 小泉 博 (早稲田大・教育)

**P1-276#** バイオチャー散布が暖温帯コナラ林の土壌表層に  
与える影響 \*加藤 夕貴 (早稲田大・教育), 嶋田 彩加 (早稲田大・  
教育), 墨野倉 伸彦 (早稲田大・院・先進), 本多 朝陽 (早稲田大・  
院・先進), 月森 勇気 (早稲田大・院・先進), 山中 椎奈 (早稲田大・  
教育), 小泉 博 (早稲田大・教育)

**P1-277#** 山火事直後の土壌・植生回復過程における残存根  
の役割 \*前田 瑞貴 (横浜国大), 藤井 佐織 (アムステルダム自由大),  
谷川 東子 (森林総研関西支所), 田和 佑脩 (大阪環水水総研), 武田 博  
清 (同志社大), 森 章 (横浜国大)

**P1-278#** 冷温帯域のアカマツ、カラマツ、コナラ林におけ  
るリター分解過程の比較 \*池田 郁哉 (早稲田大・院・先進), 友  
常 満利 (早稲田大・教育), 墨野倉 伸彦 (早稲田大・院・先進), 鈴木  
庸平 (早稲田大・院・先進), 横田 祐人 (早稲田大・教育), 安藤 誠  
(早稲田大・教育), 小泉 博 (早稲田大・教育)

**P1-279#** 温帯性常緑針葉樹ヒノキの窒素利用における菌根  
菌の寄与 \*津田 菜月 (三重大学)

**P1-280#** ボルネオ熱帯山地林におけるミズ糞塊生産によ  
る窒素・リンの可給化 \*中野 正隆, 横山 大稀, 北山 兼弘 (京大・  
農・森林生態)

**P1-281#** タケとスギの炭素・窒素利用様式の違い~異なる  
斜面位置での比較~ \*下野 皓平 (九大・農), 片山 歩美 (九大・  
演習林), 榎木 勉 (九大・演習林), 田代 直明 (九大・演習林), 智和  
正明 (九大・演習林), 大槻 恭一 (九大・演習林), 菱 拓雄 (九大・演  
習林)

**P1-282#** 谷津干潟堆積物における硝酸還元過程の追跡 \*佐  
藤 翼 (東邦大・理), 諏訪 裕一 (中央大・理工), 黒岩 恵 (中央大・理  
工), 千賀 有希子 (東邦大・理)

**P1-283#** 暖温帯コナラ林におけるバイオチャー散布が土壌  
動物相とリター分解に及ぼす影響 \*市川 順也 (早稲田大・教  
育), 墨野倉 伸彦 (早稲田大・院・先進), 友常 満利 (早稲田大・教  
育), 山田 理香 (早稲田大・院・先進), 増田 信悟 (早稲田大・院・先  
進), 月森 勇気 (早稲田大・院・先進), 小泉 博 (早稲田大・教育)

**P1-284#** 森林生態系における林床面蒸発量と基底流出量の  
連続測定システムの開発 \*秋場 遥輔 (早稲田大・院・先進), 墨  
野倉 伸彦 (早稲田大・院・先進), 友常 満利 (早稲田大・教育), 小泉  
博 (早稲田大・教育)

## ポスター発表 3月15日(木) 9:00-17:00

(P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

- P1-285# 冷温帯シバ草原における7年間の温暖化実験—植物および土壌圏の応答性—** \*墨野倉 伸彦(早稲田大・院・先進), 増田 信悟(早稲田大・院・先進), 鈴木 真祐子(早稲田大・院・先進), 田波 健太(早稲田大・院・先進), 友常 満利(早稲田大・教育), 吉竹 晋平(岐阜大・流圏セ), 小泉 博(早稲田大・教育)
- P1-286# 温帯コナラ林における自動開閉チャンバーを用いた土壌呼吸の連続測定—バイオチャー散布がもたらす影響と環境要因との関連性—** \*小室 拓央(早稲田大・教育), 友常 満利(早稲田大・教育), 墨野倉 伸彦(早稲田大・院・先進), 増田 信悟(早稲田大・院・先進), 小泉 博(早稲田大・教育)
- P1-287# トドマツ人工林小流域における森林伐採後の土壌窒素動態** \*平野 和貴(北大・院・環境), 柴田 英昭(北大・FSC), 井上 貴央(北大・FSC), 長坂 晶子(道総研・林業試験場), 長坂 有(道総研・林業試験場), 速水 将人(道総研・林業試験場)
- P1-288# 北海道東部の異なる土地利用下における土壌からの亜酸化窒素発生と硝酸溶脱の関係** \*長根 美和子(北海道大学環境科学院), 柴田 英昭(北海道大学), 内田 義崇(北海道大学農学研究院), 館野 隆之輔(京都大学)
- P1-289# 木材中シイタケ(*Lentinula edodes*)菌体バイオマスと分解呼吸速度に及ぼす環境ストレスの影響** \*乗山 知子(日本大学), 松室 諒(日本大学), 猪瀬 安希子(日本大学), 千葉 奈緒子(日本大学), 寺崎 巧(日本大学), 丸山 温(日本大学), 小松 雅史(森林総合研究所), 山口 宗義(森林総合研究所)
- P1-290# 衛星画像と数値標高モデルを用いた東シベリアのタイガ・ツンドラ境界における景観スケールの植生分布の解析とメタン放出量推定への応用** \*両角 友喜(北海道大学), 新宮原 諒(北海道大学), 小林 秀樹(海洋研究開発機構), 鈴木 力英(海洋研究開発機構), 鄭 峻介(北海道大学), 鷹野 真也(北海道大学), Fan, Rong(北海道大学), Maximov, Trofim C. (IBPC), 杉本 敦子(北海道大学)
- P1-291# バイオチャーの散布がコナラ実生の炭素収支に与える影響** \*山中 椎奈(早稲田大・教育), 坂齊 友梨(早稲田大・教育), 棚澤 由実菜(早稲田大・教育), 加藤 夕貴(早稲田大・教育), 墨野倉 伸彦(早稲田大・院・先進), 小泉 博(早稲田大・教育)
- P1-292# 森林土壌におけるNO<sub>2</sub>生成の制御要因の検証—含水率によるアンモニア酸化微生物アバUNDANSの変動—** \*中込 里穂(中央大学), 長野 紫織(中央大学), 高橋 大貴(中央大学), 田中 直斗(中央大学), 小田 智基(東京大学), 黒岩 恵(中央大学), 諏訪 裕一(中央大学)
- P1-293# NO<sub>2</sub>生成速度はNO<sub>2</sub>消費経路をどのように変化させるのか—土壌の含水率調整・長期培養による検証—** \*田中 直斗(中央大学), 高橋 大貴(中央大学), 長野 紫織(中央大学), 中込 里穂(中央大学), 小田 智基(東京大学), 黒岩 恵(中央大学), 諏訪 裕一(中央大学)
- P1-294# 冷温帯二次林における土壌炭素、窒素プール量の10年間の変化** \*岡本 遼太郎(筑波大 生物学類), 大塚 俊之(岐阜大 流圏科学セ), 廣田 充(筑波大 生命環境系)

ポスター発表 3月16日(金) 9:00-17:00

(P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

群落・遷移・更新

- P2-001#** GISを用いた広島県宮島のウラジロガシ林の分布推定 \*川崎 雅裕 (広島大・理・生物科学), 諸石 智大 (広島大・院・理), 坪田 博美 (広島大・院・理)
- P2-002#** 現存植生と潜在自然植生の類似度に基づく近畿地方の植生自然度の評価 \*北村 麻夏, 藤木 庄五郎, 源六 孝典, 北山 兼弘 (京大・農・森林生態)
- P2-003#** 降水量操作下における植物群集の機能的多様性パターン \*高島 友樹 (横浜国大・理工), 高木 勇輔 (横浜国大・環境情報), 岡田 慶一 (横浜国大・環境情報), 小林 真 (北海道大・FSC), 森 章 (横浜国大・環境情報)
- P2-004#** 深層学習による衛星画像を用いた竹林識別モデルの開発 \*角 和暁 (京大・院・農), 渡辺 俊太郎 (京大・フィールド研), 伊勢 武史 (京大・フィールド研, JST さきがけ)
- P2-005#** ヒノキアスナロ林の更新様式が群落構造に与える影響 \*内木 翔太 (新潟大学・自然研), 崎尾 均 (新潟大学・農)
- P2-006#** 溪流攪乱に影響される林床植生の種組成と季節変化 \*伊藤 菜美 (新潟大・院・自然科学), 崎尾 均 (新潟大学・農学部)
- P2-007#** 侵略的外来水生植物オオバナミズキンバイの群落構造 \*稗田 真也, 野間 直彦 (滋賀県大環境)
- P2-008#** 北海道中央部千歳市の森林植生-既存植生資料との比較- \*田村 萌, 並川 寛司 (北教大・札幌・生物)
- P2-009#** 多雪地におけるブナの開葉フェノロジー: 個体・個体内の相対的葉群高による違い \*西坂 志帆 (横浜国立大・理工), 酒井 暁子 (横浜国立大・環境情報)
- P2-010#** 三浦半島における海崖草本植物群落の群落組成と立地条件 \*鐵 慎太郎, 星野 義延 (東京農工大学大学院)
- P2-011#** 二次遷移における個体間光獲得競争と森林構造の変化 \*松尾 智成, 北山 兼弘, 小野田 雄介 (京大・農・森林生態)
- P2-012#** 気候特性から見た北東アジアにおけるチョウセンゴヨウの分布変遷 \*福井 俊介 (筑波大学/生命環境), 上條 隆志 (筑波大学/生命環境), 設楽 拓人 (筑波大学/生命環境), 松井 哲哉 (森林総合研究所)
- P2-013#** Effects of Volcanic Nitrogen-poor Habitat on Photosynthetic Functional Traits of Plants in Different Successional Stages in Miyake Volcano \*張 秀龍 (筑波大学), 上條 隆志 (筑波大学 生命環境系), 廣田 充 (筑波大学 生命環境系)
- P2-014#** 中期更新世後半 MIS7の気候変化と八ヶ岳東南麓の植物相変遷-大型植物化石群からの復元- \*齊藤 ひさ (千葉大院・園芸), 百原 新 (千葉大院・園芸), 水野 清秀 (産業技術総合研究所), 内山 高 (富士山科学研究所), 内山 美恵子 (都留文科大学)
- P2-015#** 樹木・地形的要因と照葉樹林の台風被害の関係 \*本江 大樹 (筑波大院・生命環境), 上條 隆志 (筑波大・生命環境系), 齊藤 哲 (森林総合研究所)
- P2-016#** 分布環境辺縁部にあるブナ林に対する気候変動の影響 \*小山 有夢 (東北大・院・生命), 饗庭 正寛 (東北大・院・生命), 小黑 芳生 (森林総研), 中静 透 (東北大・院・生命)
- P2-017#** 長崎県対馬市におけるシイタケ原木林の萌芽再生 \*重原 奈津子, 柴田 昌三 (京都大学)

**P2-018#** 造成後13年が経過したアカマツ植栽盛土法面の植生の状況 \*小宅 由似, 今西 純一, 柴田 昌三 (京都大学大学院)

**P2-019#** ボルネオ北部熱帯山地林における土壌酸化還元電位と樹木群集組成の関係 \*大平 漢子 (京大・農・森林生態), 相場 慎一郎 (鹿大・理工), 辻井 悠希 (京大・農・森林生態), 北山 兼弘 (京大・農・森林生態)

**P2-020#** 最終氷期約33,000年前の九州南部えびの市の大型植物化石群が示す温帯性植物の多様性 \*松田 悠輔 (千葉大・園芸), 百原 新 (千葉大・園芸), 三宅 尚 (高知大・理), 赤崎 広志 (宮崎県埋文), 白池 図 (宮崎地質研究会)

**P2-021#** 大型植物遺体に基づく北海道北部猿払川湿原群の約8,000年前以降の古環境・古植生変遷史 \*矢野 梓水 (千葉大・園芸), 百原 新 (千葉大・園芸), 近藤 玲介 (皇學館大), 宮入 陽介 (東大), 紀藤 典夫 (北教大), 井上 京 (北大・農), 横山 祐典 (東大), 富士田 裕子 (北大・FSC・植物園)

**P2-022#** 成木近傍では同種と他種実生のどちらが定着しやすいか-菌根菌・病原菌による影響- \*佐々木 崇徳, 松倉 君子, 鈴木 政紀, 清和 研二 (東北大学大学院・農)

植物個体群・繁殖・生活史

**P2-023#** 2年間の被陰処理によるコナラ実生の生存と成長 \*小林 哲 (玉川大・農・院), 田中 佑 (玉川大・農), 関川 清広 (玉川大・農)

**P2-024#** 御嶽亜高山帯常緑針葉樹林におけるオガラバナ個体群の構造と動態 \*岡田 実憲 (名古屋大学), 西村 尚之 (群馬大学), 中川 弥智子 (名古屋大学)

**P2-025#** チガヤにおける種内F1雑種の劇的な開花期シフトによる生殖隔離メカニズム \*野村 康之 (京大・院・農), 下野 嘉子 (京大・院・農), 水野 信之 (京大・院・農), 佐藤 和広 (岡山大・資源植物研), 富永 達 (京大・院・農)

**P2-026#** 褐藻カヤモノリ (*Scytosiphon lomentaria*) における Geographic parthenogenesis について \*星野 雅和, 小亀 一弘 (北海道大学)

**P2-027#** Growth of epicormic shoots in crowns of Sakhalin spruce, *Picea glehnii* (F. Schmidt) Mast. \*Lei CHEN, Akihiro SUMIDA (Hokkaido University)

**P2-028#** 多種共存する樹木形質の種間・種内変異 \*山田 靖子 (横浜国大・環境情報), 岡田 慶一 (横浜国大・環境情報), 小林 真 (北大・FSC), 日浦 勉 (北大・FSC), 内田 雅己 (国立極地研), 森 章 (横浜国大・環境情報)

**P2-029#** スギ・ブナ混交林の森林斜面におけるシダ植物群集の生態分布 \*大杉 周 (信州大学院 総工), 佐藤 利幸 (信州大学理学部)

**P2-030#** 34属58種の樹木種子の形質から種子の乾燥耐性は推定できるのか \*川村 遼馬 (日大・文理), 井上 みずき (日大・文理), 木村 恵 (森林総研・林育セ)

**P2-031#** カタバミ属における、栄養繁殖・開花・結実への資源投資戦略 \*古川 知代 (東北大・生命), 小野 喬亮 (東北大・理), 酒井 聡樹 (東北大・生命)

**P2-032#** アブラナ科多年草ハクサンハタザオにおける葉面クチクラワックス量の標高二型 \*湯本 原樹 (京大・生態研セ), 本庄 三恵 (京大・生態研セ), 佐々木 結子 (東工大・生命理工学院), 太田 啓之 (東工大・生命理工学院), 工藤 洋 (京大・生態研セ)

**P2-033#** 白花のエンレイソウ属植物の系統関係に関する新知見 \*相田 大輔, 大原 雅 (北海道大学環境科学院)

# ポスター発表 3月16日(金) 9:00-17:00

(P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

- P2-034#** 同所的に分布するテンナンショウ2種の繁殖特性 \*松本 哲也, 宮崎 祐子, 廣部 宗 (岡山大 院 環境生命) 立大・理), 大田 明咲奈 (大阪市立大学・理), 神丸 千明 (大阪市立大学・理), 永野 惇 (龍谷大学・農), 手塚 あゆみ (龍谷大学・農), 伊東 明 (大阪市立大学・理)
- P2-035#** 夏期の陽性草本は春植物ニリンソウにとって除去すべき存在か \*大塚 勇哉 (明大・院・農), 倉本 宣 (明大・農)
- P2-036#** ブナ科植物における開花制御因子 FLOWERING LOCUS T の種間比較と発現分析 Interspecific comparison and expression analysis of floral pathway integrator FLOWERING LOCUS T in Fagaceae \*澤崎 佑太 (九州大学), 北島 薫 (京都大学), 佐竹 暁子 (九州大学)
- P2-037#** ボルネオ熱帯雨林におけるリュウノウジュとホンバリュウノウジュの雑種の戻し交雑による繁殖 \*武田 紗季 (大阪市立大学・院理), 名波 哲 (大阪市立大学・院理), 濱田 稔史 (大阪市立大学・院理), 山倉 拓夫 (大阪市立大学・院理), 上谷 浩一 (愛媛大学・農), 市榮 智明 (高知大学・農), 田中 憲蔵 (森林総合研究所), Bibian Diway (サラワク森林公社), Mohizah B. Mohamad (サラワク森林局), 伊東 明 (大阪市立大学・院理)
- P2-038#** 積雪がもたらすブナ・ミズナラの空間分布とその生成要因 \*白濱 千紜 (弘前大学), 織部 雄一郎 (森林総合研究所), 宮沢 良行 (九州大学), 石田 清 (弘前大学)
- P2-039#** ボルネオ熱帯雨林における雌雄異株樹種の系統関係と生態特性 \*大矢 樹 (大阪市立大学・院理), 伊東 明 (大阪市立大学・院理), 名波 哲 (大阪市立大学・院理), Davies, Stuart (CTFS), Sylvester Tan (CTFS), B. Mohamad Mohizah (サラワク森林局)
- P2-040#** ハウチワカエデの花粉を出さない雄蕊の機能 \*辻 優作, 松井 淳 (奈良教育大学)
- P2-041#** 虫媒花の進化的に安定な mate 数: 花粉の数と粘着性の進化シミュレーション \*長谷川 拓也 (東北大・理・生物), 牧野 崇司 (東北大・院・生命科学), 酒井 聡樹 (東北大・院・生命科学)
- P2-042#** クローナル植物スズランの繁殖様式の集団間変異 \*三木田 涼佳 (北海道大学理学部), 大原 雅 (北海道大学環境科学院)
- P2-043#** 標高に伴う成長特性の変化; 複数の樹種(シラビソ・オオシラビソ・コメツガ・トウヒ)が混在する場合 \*伊澤 悠人 (横国大・院・環境情報), 近藤 博史 (横浜国立大・環境情報), 酒井 暁子 (横浜国立大・環境情報)
- P2-044#** ササ稈の空間分布に光環境、微地形、他の植物種はどのように関係するか? \*秋元 勇貴, 可知 直毅, 鈴木 準一郎 (首都大・理工・生命)
- P2-045#** オオイヌタデの防御形質二型維持機構としての負の頻度依存選択と環境不均一性の検証 \*松田 浩輝, 白濱 祥平, 徳田 誠 (佐賀大・農)
- P2-046#** シラビソ集団における遺伝的多様性と近交弱勢の評価 \*石川 雄大 (名古屋大学), 西村 尚之 (群馬大学), 戸丸 信弘 (名古屋大学)
- P2-047#** 遊走細胞形成頻度から見た阿寒湖のマリモの繁殖生態—3タイプの生育形との関係性 \*梅川 健人 (北海道大学環境科学院), 若菜 勇 (釧路市教委マリモ研), 大原 雅 (北海道大学環境科学院)
- P2-048#** 花相称別に見る資源投資戦略—花・胚珠・種子サイズから迫る \*望月 潤, 板垣 智之, 酒井 聡樹 (東北大学)
- P2-049#** 雌雄異株植物ナギにおける当年生実生の性比の母樹間の比較 \*松澤 和史 (大阪市立大学・理), 名波 哲 (大阪市立大学・理), 大田 明咲奈 (大阪市立大学・理), 神丸 千明 (大阪市立大学・理), 永野 惇 (龍谷大学・農), 手塚 あゆみ (龍谷大学・農), 伊東 明 (大阪市立大学・理)
- P2-050#** 分布北限以北におけるシラカシ稚樹の耐凍性と生残過程 \*船木 賢人 (弘前大学大学院), 石田 清 (弘前大学)
- P2-051#** 京都市街地のミカツキゼニゴケの分布 \*杉村 大輔 (龍谷大・院・理工), 鈴木 雅 (龍谷大・院・理工), 横田 岳人 (龍谷大・理工)
- P2-052#** ブナ・アオモリトドマツの成木は雪を介して稚樹の分布に影響を与えるか—林内の積雪分布を用いた検証— \*日下部 玄 (弘前大学), 鳥丸 猛 (三重大院生資), 石田 清 (弘前大学)
- P2-053#** ウコギ科カクレミノにおける個葉形質の変異と光環境の関係 \*越智 和子, 青山 香乃, 笠木 哲也 (公立鳥取環境大学)
- P2-054#** 日本に帰化したセリバヒエンソウの種子繁殖戦略 \*宮下 愛美, 本多 和茂, 前田 智雄 (弘前大・農学生命)
- P2-055#** 一回繁殖型多年生草本オオバユリの繁殖特性—種子繁殖と栄養繁殖の寄与に関する集団間比較— \*大嶋 希美, 早船 琢磨, 大原 雅 (北海道大学環境科学院)
- P2-056#** 不均質な浸水と乾燥期間がオオバアサガラ当年生実生の生残や成長に及ぼす影響 \*志村 綱太 (首都大・理工・生命), 鈴木 智之 (東大・農・演習林), 可知 直毅 (首都大・理工・生命), 鈴木 準一郎 (首都大・理工・生命)
- P2-057#** カタクリの栄養繁殖は鱗莖付属体からの不定芽形成により可能となる \*熊谷 泉 (弘前大学・農学生命), 本多 和茂 (弘前大学・農学生命), 勝川 健三 (弘前大学・教育), 荒矢 寿峰 (弘前大学・農学生命), 佐藤 風汰 (弘前大学・農学生命), 瀧下 真由子 (弘前大学・農学生命), 前田 智雄 (弘前大学・農学生命), 石川 幸男 (弘前大学・白神自環研)
- P2-058#** キツリフネにおける遺伝的・生態的に分化した3タイプの発見 \*三原 龍太郎 (信州大学大学院), 市野 隆雄 (信州大学), 篠原 義典 (エース株)
- P2-059#** 雄性両全性同株ツクサにおける花形態の性的二型性: 送粉プロセスに着目して \*邑上 夏菜, 勝原 光希, 丑丸 敦史 (神戸大・院・人間発達)
- P2-060#** カタバミとオウチカタバミの共存について—開花戦略の比較— \*小野 喬亮 (東北大・理・生物), 古川 知代 (東北大・院・生命科学), 板垣 智之 (東北大・院・生命科学), 酒井 聡樹 (東北大・院・生命科学)
- P2-061#** ボルネオ島の熱帯低地林における着生植物の空間分布 \*駒田 夏生 (京都市大・農), 中西 晃 (京都市大・農), 田金 秀一郎 (九州大・理・生物), 清水 加耶 (鳥根大・生物資源), Paulus Meleng (サラワク森林局), 市岡 孝朗 (京都大・総合人間), 神崎 護 (京都大・農)
- P2-062#** ブナにおける葉フェノロジーの集団内・集団間変異—積算温量を用いた変異の生成過程に関する検証と気候変動に対する応答の予測— \*杉本 咲 (弘前大学), 石田 清 (弘前大学), 今井 麻理菜 ( (株) 仙台進学プラザ)
- P2-063#** コナラの種子形態に多型はあるのか? \*中村 祐介, 京極 大助, 近藤 倫生 (龍谷大学)
- P2-064#** 帰化寄生植物ヤセウツボの種子生産量への宿主根系が及ぼす影響 \*畑川 芳弥, 百原 新 (千葉大学 園芸学部)
- P2-065#** スゲ属植物における種子散布の適意意義: アリ散布型と重力散布型の種間比較 \*原本 すみれ, 徳田 誠 (佐賀大学)

## 植 物 生 理 生 態

ポスター発表 3月16日(金) 9:00-17:00

(P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

P2-066# ヤマグワの葉の立体構造と切れ込みは何のためか \*串田 隆佑, 小山 耕平 (帯広畜産大学)

P2-067# 粗放型屋上緑化でのCAM植物の混植の効果は蜜源植物の生育特性で異なるか \*松岡 達也, 土屋 一彬, 山田 晋, 大黒 俊哉 (東大・農)

P2-068# 冷温帯ブナ林における細根動態の経年変動: マスティングにともなう細根生産への資源分配機構 \*仲畑了 (京都大学農学研究科), 大澤 晃 (京都大学農学研究科, 京都大学地球環境学堂), 橋本 正明 (静岡大学農学研究科), 佐藤 雅子 (静岡大学農学研究科), 水永 博己 (静岡大学農学研究科)

P2-069# VPDの変化に対するユーカリの光合成応答にアクアポリンが果たす役割 \*山岸 彩, 半場 祐子 (京都工芸繊維大学)

P2-070# 火山灰土壌における一次遷移でリンが植物の成長を制限しているのか? \*片山 彩, 館野 正樹 (東大大学院・日光植物園)

P2-071# 中低木街路樹の乾燥ストレスに対する生理学的応答と通道組織の構造との関係 \*堀家 広樹, 半場 祐子 (京都工芸繊維大学)

P2-072# 生育条件の違いがクロロフィル蛍光・分光反射・光合成の環境応答に与える影響 \*辻本 克斗, 彦坂 幸毅 (東北大学)

P2-073# 夏緑樹林における植物群集とアーバスキュラー菌根菌の安定同位体分析 \*村田 怜 (山形大・理), 橋本 靖 (帯広畜産大・畜産), 山岸 洋貴 (弘前大・白神), 横山 潤 (山形大・理), 富松 裕 (山形大・理)

P2-074# 葉齢に伴うケイ素の蓄積は葉の光合成速度と関係するのか? \*梶野 浩史, 北島 薫 (京都大学農学研究科)

P2-075# オオミスミソウの越冬葉の生態的意義 \*武藤 公樹 (新潟大・自然研), 崎尾 均 (新潟大・農)

P2-076# タカノツメ重金属集積特性と内生菌相との関係 \*織邊 尚子 (名古屋大学), 岡野 由季 (名古屋大学大学院), 富岡 利恵 (名古屋大学大学院), 竹中 千里 (名古屋大学大学院)

P2-077# 窒素制限下の針広混交林に生育するスギ・ブナの木部解剖特性と窒素分配の差異 \*多賀 洋輝 (京都大学森林生態学), 高部 圭司 (京都大学樹木細胞学), 北山 兼弘 (京都大学森林生態学)

P2-078# クスノキ老木木の通水構造: 高さにとまなう通水性と安全性のトレードオフ \*野口 結子, 堀川 慎一郎, 黒田 慶子, 石井 弘明 (神戸大学農学研究科)

P2-079# 針広混交林における樹冠構造の複雑性と森林生産性の関係 \*吉田 雅理, 長谷川 尚史, 北山 兼弘, 小野田 雄介 (京都大学)

P2-080# 半寄生植物ツクバネの空間分布を規定する因子 \*桂 友里枝, 加藤 正吾 (岐阜大・応生)

P2-081# 奄美大島に生育する熱帯性海草北限個体群の光合成に対する光と温度の影響 \*島田 菜摘 (鹿児島大学), Gregory N. Nishihara (長崎大学), 遠藤 光 (鹿児島大学), 寺田 竜太 (鹿児島大学)

P2-082# タイ北部に生育する落葉性広葉樹チークの年輪炭素同位体形成メカニズムの解明 \*上田 和世 (三重大学)

P2-083# タイ北部に生育する落葉性チークの形成層活動の季節変化 \*太田 浩斗 (三重大学)

P2-084# 宿主のフェノロジーに依存した完全寄生植物ヤセウツボの最適成長戦略 \*吉 鴻一, 種子田 春彦, 寺島 一郎 (東京大学・院・理)

P2-085# 葉群構造の成長のモデル化による最適な構造の探索 \*佐々木 駿, 館野 正樹 (東京大学大学院)

P2-086# 季節と成長に伴う樹皮形質の変化: 冷温帯林と暖温帯林の比較 \*松本 洋平 (東北大学生命科学), 饗庭 正寛 (東北大学生命科学), 黒川 紘子 (森林総研), 中静 透 (東北大学生命科学, 総合地球環境学研究所)

P2-087# 湿潤熱帯林樹木の吸水深度~根系形態と開花頻度との関係~ \*勝浦 柊 (名古屋大学), 松尾 奈緒子 (三重大学), 中川 弥智子 (名古屋大学)

P2-088# 葉の老化段階における呼吸速度と老化進行速度の関係 \*竹原 巧, 北山 兼弘 (京大・農・森林生態)

P2-089# 南根腐病の病徴進展に伴う罹病実生の根系機能の変化 \*木村 美久 (日本大学), 矢崎 健一 (森林総合研究所), 佐橋 憲生 (森林総合研究所), 張 春花 (森林総合研究所), 才木 真太郎 (京都大学), 吉村 謙一 (山形大学), 太田 祐子 (日本大学), 丸山 温 (日本大学)

P2-090# ヒメツリガネゴケにおける過重力応答メカニズムの解明 \*安田 柚里 (京都工芸繊維大学), 久米 篤 (九州大学), 蒲池 浩之 (富山大学), 森 耀久 (富山大学), 唐原 一郎 (富山大学), 藤田 知道 (北海道大学), 半場 祐子 (京都工芸繊維大学)

P2-091# 葉脈を考慮した葉のコストベネフィットの定量化 \*高井 紀史, 長田 典之 (名城大学)

P2-092# 京都市内において交通量の違いが街路樹の光合成機能に与える影響 \*松本 真由, 山田 悦, 半場 祐子 (京都工芸繊維大学)

P2-093# Whole-plant respiration of *Fagus crenata* seedlings in open and shaded sites \*Citra Gilang QURANI, Shigeta Mori, Yoshimura Kennichi (Yamagata University)

P2-094# 樹木と草本で収斂する個体呼吸スケーリング \*Mofei WANG (岩手大学大学院), 森 茂太 (山形大学), 芳土戸 啓 (山形大学), 相澤 拓 (山形大学), 黒澤 陽子 (山形大学), 齊 磊 (山形大学), 吉村 謙一 (山形大学), 山路 恵子 (筑波大学), 春間 俊克 (筑波大学)

P2-095# ブナ科樹木萎凋病におけるアカガシの防御機構の解明 \*染谷 汐織 (筑波大院・生命環境), 山路 恵子 (筑波大・生命環境系), 市原 優 (森林総研・関西), 春間 俊克 (筑波大院・生命環境), 中本 幸弘 (筑波大院・生命環境), 松本 剛史 (森林総研)

P2-096# 鉦山跡地に自生する陰生植物アオキ (*Aucuba japonica* Thunb.) の重金属耐性と内生菌の関与 \*土山 紘平 (筑波大院・生命環境), 山路 恵子 (筑波大・生命環境系), 石田 厚 (京都大学), 森 茂太 (山形大学農学部), 春間 俊克 (筑波大院・生命環境), 中本 幸弘 (筑波大院・生命環境)

P2-097# Anatomical responses of leaf and stem of *Arabidopsis thaliana* to nitrogen and phosphorus addition \*Qiong CAI, Chengjun Ji, Zhengbing Yan, Xingxing Jiang, Jingyun Fang (Peking University)

P2-098# コストを抑制した根系表面積の急速拡大-ブナ実生個体の器官別呼吸- \*黒澤 陽子, 森 茂太, 吉村 謙一 (山形大学)

P2-099# 林床植物オヤリハグマ (*Pertya triloba* (Makino) Makino) における放射性セシウム ( $^{137}\text{Cs}$ ) 蓄積への内生菌の関与 \*中本 幸弘 (筑波大院・生命環境), 山路 恵子 (筑波大・生命環境系), 春間 俊克 (筑波大院・生命環境), 土山 紘平 (筑波大院・生命環境), 染谷 汐織 (筑波大院・生命環境), 坂本文

ポスター発表 3月16日(金) 9:00-17:00

(P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

徳 (JAEA), 香西 直文 (JAEA)

進 化

- P2-100#** 共生による宿主のニッチシフトが共生者の伝達様式の進化におよぼす影響 \*内海 邑, 大槻 久, 佐々木 顕 (総研大・先導研)
- P2-101#** 物理的防衛と隠蔽効果のトレードオフによる昆虫の形態多様化 \*篠原 忠, 高見 泰興 (神戸大・人間発達環境)
- P2-102#** 琵琶湖産スジエビの生活史多型に関連した遺伝的構造の解明 \*鵠 倩倩, 高見 泰興, 源 利文 (神戸大・院・発達)
- P2-103#** 雌に多型のあるアオモンイトトンボにおける *doublesex* 遺伝子の機能解析 \*高橋 迪彦 (東北大学院生命科学), 奥出 結太 (産業技術総合研究所), 二橋 亮 (産業技術総合研究所), 高橋 佑磨 (千葉大学院理学部), 河田 雅圭 (東北大学院生命科学)
- P2-104#** 大津波によって形成された新規生息地におけるトゲウオの形態分化 \*細木 拓也 (国立遺伝学研究所), 西田 翔太郎 (岐阜経済大学), 久米 学 (京都大学フィールド研), 森 誠一 (岐阜経済大学), 北野 潤 (国立遺伝学研究所)
- P2-105#** アジ科魚類の外部形態に見られる適応進化 \*岸田 宗範, 藍澤 正宏 (宮内庁侍従職生研)
- P2-106#** トガリネズミ形目における半地下適応に関する椎骨の機能形態学的比較 \*鈴木 あすみ (帯広畜産大), 川田 伸一郎 (国立科学博物館), 林 良恭 (台湾東海大), 佐々木 彰史 (静岡県自然史博ネット), 佐々木 基樹 (帯広畜産大), 押田 龍夫 (帯広畜産大)
- P2-107#** "反抗期"の適応的意義 ~数理モデルによる検討~ \*小楠 なつき (北海道大学)
- P2-108#** 生殖隔離を引き起こすアカショウビンの鳴き声の地理的変異 \*植村 慎吾 (北海道大学理学院), 浜地 歩 (株プレック研究所), 高木 昌興 (北海道大学理学研究院)
- P2-109#** チリメンカワナにおける汽水域への分布拡大の進化的制約 \*吉田 琴音, 高橋 佑磨 (千葉大学)
- P2-110#** ニホンミツバチの熱殺蜂球形成時の高温維持に関わる候補遺伝子探索 \*上岡 駿宏 (東北大学), 鈴木 啓 (東北大学), 宇賀神 篤 (JT 生命誌研究館), 山口 悠太 (玉川大学), 小野 正人 (玉川大学), 河田 雅圭 (東北大学)
- P2-111#** キューバアノールトカゲにおける高温環境への適応進化に関わる遺伝子の探索 \*金森 駿介 (東北大・院・生命), 赤司 寛志 (東北大・院・生命), Antonio Cadiz (ハバナ大学), Luis M. Diaz (キューバ自然史博物館), 佐藤 大気 (東北大・院・生命), 牧野 能士 (東北大・院・生命), 河田 雅圭 (東北大・院・生命)
- P2-112#** 複製速度と複製の正確さのトレードオフ存在下における突然変異率の進化—シミュレーションによる解析— \*青柳 優太, 酒井 聡樹 (東北大・生命)
- P2-113#** キクガシラコウモリの蝸牛発生の特異性と超周波音利用 \*野尻 太郎 (北海道大学環境科学院), Ingmar Werneburg (Eberhard Karls Univ.), Son Truong Nguyen (VAST), Tu Tan Vuong (VAST), 小藪 大輔 (東京大学総合博物館)
- P2-114#** 餌なしで変態するアカガエル属幼生における消化管の適応的表現型可塑性 \*岸本 溪 (首都大学東京), 田村 啓 (北里大学), 林 文男 (首都大学東京)
- P2-115#** RNAi によるショウジョウバエの寄生蜂抵抗性遺伝子探索 \*村本 大輝 (岡山大学 農), 高橋 一男 (岡山大学

環境生命)

- P2-116#** キイロショウジョウバエの共食い行動に重要な要因は何か? : 人為選抜実験による検証 \*牧元 錬太郎 (岡山大学 農), 高橋 一男 (岡山大学 環境生命)
- P2-117#** ゲノムワイドに探る種間交雑に伴う淡水カジカ魚の適応進化 \*伊藤 僚祐 (京大院・理), 三品 達平 (京大院・理), 武島 弘彦 (東海大・海洋), 渡辺 勝敏 (京大院・理)
- P2-118#** 化学合成生態系における共生者伝播様式の進化 \*佐藤 正都, 佐々木 顕 (総合研究大学院大学)
- P2-119#** ニューカレドニアで適応放散したシソ科植物 *Oxera baladica* の全分布域を対象とした遺伝的集団構造解析 \*藤田 琴実 (東北大・農), 満行 知花 (九州大・理), 綱本 良啓 (東北大・農), 井鷲 裕司 (京都市大・農), Gildas Gâteblé (IAC), 陶山 佳久 (東北大・農)
- P2-120#** 飼殺し寄生蜂の性別は宿主の発育に影響するか? \*滝ヶ平 智博 (岡山大学・環境生命)
- P2-121#** 数理シミュレーションによる樹木様構造の形態進化 \*野々山 朋信 (東北大学), 千葉 聡 (東北大学・CNEAS)
- P2-122#** 哺乳類と鳥類において飛翔能力と最大寿命を結びつける候補遺伝子の探索 \*池本 篤史, 牧野 能士, 河田 雅圭 (東北大学大学院)
- P2-123#** マヤサンオサムシの交尾器形態の地理的変異は生殖的形質置換か? 雌雄両面からの検証 \*西村 太良, 高見 泰興 (神戸大・人間発達環境)
- P2-124#** マイクロCTを用いた多様な交尾器形態の発生過程の解明 \*寺田 夏蓮, 高見 泰興 (神戸大学)
- P2-125#** Highly-structured freshwater fish populations within a single river system \*MANDAGI, Ixchel Feibie (TBRC, Univ Ryukyus, FPIK, UNSRAT), Lawelle, Sjamsu Alam (FPIK, Halu Oleo Univ), Masengi, Kawilarang Warouw Alex (FPIK, UNSRAT), Mokodongan, Daniel Frikli (TBRC, Univ Ryukyus), Nagano, Atsushi J. (Fac Agr Ryukoku Univ), Matsunami, Masatoshi (Fac Med Univ Ryukyus), Kimura, Ryosuke (Fac Med Univ Ryukyus), Yamahira, Kazunori (TBRC, Univ Ryukyus)
- P2-126#** Just-completed sympatric speciation in an ancient lake \*Nobu, Sutra (TBRC Univ Ryukyus), Mokodongan, Daniel Frikli (TBRC Univ Ryukyus), Nagano, Atsushi J (Fac Agr Ryukoku Univ), Matsunami, Masatoshi (Fac Med Univ Ryukyus), Kimura, Ryosuke (Fac Med Univ Ryukyus), Yamahira, Kazunori (TBRC Univ Ryukyus)
- P2-127#** 海洋島に集団が定着できる理由を紐解く—モズの定着成功・失敗個体群の遺伝学的比較から— \*青木 大輔 (北大院・理), 松井 晋 (東海大・生物), 永田 純子 (森林総合研究所), 千田 万里子 (山階鳥類研究所), 野間野 史明 (総研大・先導科学), 高木 昌興 (北大院・理)
- P2-128#** 多様な繁殖様式を持つカジカ科魚類における交尾行動と精子競争に関係した精子の平行進化 \*伊藤 岳 (新潟大学大学院), 安房田 智司 (大阪市立大学大学院)

生 態 系 管 理

- P2-129#** 都市近郊の里山環境の公園利用は農業利用の代替利用となりえるか? : 生物多様性の観点から \*岩知道 優樹 (横浜国立大学), 内田 圭 (横浜国立大学), 丑丸 敦史 (神戸大学), 横田 樹広 (東京都市大学), 佐々木 雄大 (横浜国立大学)
- P2-130#** 千葉県印旛沼流域における特定外来生物ナガエツルノゲイトウの群落流出のメカニズムの解明 \*鈴木 広美 (東

# ポスター発表 3月16日(金) 9:00-17:00

(P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

邦大院・理), 長谷川 雅美 (東邦大・理)

深層学習を用いた上空からの挑戦～ \*大西 信徳、伊勢 武史 (京大)

**P2-131#** フィジー・ガウ島における薬用植物の伝統的資源管理: 村落間の違いが生じるしくみ \*宮本 加奈 (東京大学大学院), Randolph Thaman (南太平洋大学), Joeli Veitayaki (南太平洋大学), 吉田 丈人 (東京大学大学院)

**P2-146#** 環境 DNA 解析手法を用いたアカメの検出～潮の満ち引きによる検出率の変化に着目して～ \*大澤 亮介 (神戸大学)

**P2-132#** 福井県三方湖におけるヒシ分布の時空間動態と塩分濃度の関係: 温暖化による海面水位上昇が淡水生植物に与える影響 \*石川 みくり (東大院・総合文化), 石井 潤 (里山里湖研究所), 西廣 淳 (東邦大学理学部), 瀧本 岳 (東京大・農学部), 宇野 文貴 (東京大・農学部), 吉田 丈人 (東大院・総合文化)

**P2-147#** 大都市ポケットパークが持つ生態学的価値の評価: 普通鳥類種を指標とした検証 \*杉浦 由佳, 曾我 昌史 (東京大学農学部)

**P2-133#** 房総半島南部におけるアライグマの利用環境 \*廣瀬 未来, 長谷川 雅美 (東邦大学)

**P2-148#** 湛水特性からみた雨庭の雨水流出抑制効果の評価 \*平野 堯将 (清水建設(株)), 米村 惣太郎 (清水建設(株)), 渡部 陽介 (清水建設(株)), 張 林瀛 (京都大学大学院), 横田 樹広 (東京都市大学), 柴田 昌三 (京都大学大学院), 丹羽 英之 (京都学園大学), 森本 幸裕 (京都学園大学)

**P2-134#** 自然資本・生態系サービス評価のための森林景観シミュレーションモデルを用いたシナリオ分析手法の開発と課題 \*芳賀 智宏 (大阪大学), 井上 貴央 (北海道大学), 堀田 亘 (北海道大学), 町村 尚 (大阪大学), 松井 孝典 (大阪大学), 森本 淳子 (北海道大学), 柴田 英昭 (北海道大学)

**P2-149#** エゾシカの生息密度の低下に伴う選好性の異なる群落間の下層植生の変化 \*阿部 森也 (東京農工大学), 石川 幸男 (弘前大学), 宮木 雅美 (酪農学園大学), 渡辺 修 (さっぽろ自然調査館), 石名坂 豪 (知床財団), 葛西 真輔 (知床財団), 増田 泰 (知床財団), 梶 光一 (東京農工大学)

**P2-135#** 中国北部砂漠化地域の砂丘固定初期段階における植生動態の年変動とその風食軽減効果 \*甲野 耀登 (東大・農), 木村 圭一 (東大・農), 山田 晋 (東大・農), 小柳 知代 (学芸大・環境教育), 山中 典和 (鳥取大・乾地研), 吉川 賢 (岡山大・環境生命), 土屋 一彬 (東大・農), 大黒 俊哉 (東大・農)

**P2-150#** 植物のダスト発生抑制効果は形状によって異なるのか? \*宮脇 真美 (鳥取大学農学部), 劉 佳啓 (乾燥地研究センター), 木村 玲二 (乾燥地研究センター), 笠笠 利彦 (鳥取大学農学部)

**P2-136#** 農地景観における湿生植物の種子散布 \*永田 優 (北大農学部), 森本 淳子 (北大農学研究院), 櫻井 善文 (株)ドーコン), 木村 浩二 (雪印種苗(株)), 中村 太士 (北大農学研究院)

**P2-151#** 大規模攪乱の空間的異質性と生物群集への影響: 空知川を襲った記録的台風 \*島本 悠希, 福井 翔, 渥美 圭佑, 中村 慎吾, 山崎 千登勢, 立花 道草, 守田 航大, 乃美 大祐, 大平 昌史, 渡辺 のぞみ, 小泉 逸郎 (北海道大学環境科学院)

**P2-137#** 風倒攪乱において、風倒木搬出や地ごしらえに伴うシカの採食が森林の回復に与える影響 \*杉浦 滯 (北海道大学), 森本 淳子 (北大農学研究院), 中村 太士 (北大農学研究院)

**P2-152#** 潮干狩り場におけるアサリ資源管理の持続可能性 \*山本 彩華, 沼田 真也, 保坂 哲朗 (首都大学東京)

**P2-138#** 都市域の中小河川を利用する水鳥の個体数や多様性に影響を与える構造環境要因 \*金森 充晃 (明大院・農), 倉本 宣 (明大・農)

**P2-153#** 屋久島の国有林におけるヤクシカの餌植物<sup>次世代シーケンサーを用いたヤクシカ糞の植物 DNA 解析</sup> \*東 悠斗 (九州大学), 矢原 徹一 (九州大学), 陶山 佳久 (東北大学)

**P2-139#** 中国フルンボイル草原における *Caragana mycrophylla* の *Agropyron cristatum* に対する看護効果 \*木村 圭一 (東大・農), 甲野 耀登 (東大・農), 山田 晋 (東大・農), 小柳 知代 (学芸大・環境教育), 山中 典和 (鳥取大・乾地研), 吉川 賢 (岡山大・環境生命), 大黒 俊哉 (東大・農)

**P2-154#** 大規模防鹿柵は森林性のアリに影響するのか? 一設置後 10 年で見えた変化一 \*相場 寿秀 (京大院・農), 山崎 理正 (京大院・農), 高柳 敦 (京大院・農), 藤木 大介 (兵庫県立大), 井上 みずき (日大・文理), 福島 慶太郎 (京大・生態研センター), 境 優 (中央大・理工), 阪口 翔太 (京大院・人環)

**P2-140#** 外来カワマスの遺伝的構造: 近年の個体群衰退は低い多様性が原因か? \*福井 翔 (北大・環境科学), 小泉 逸郎 (北大・地球環境)

**P2-155#** 生物多様性と生態系サービスの関係: 聞き書き甲子園から読み解く自然資源の利用 \*八嶋 桜子, 小川 みふゆ, 奥井 かおり, 吉田 丈人 (東京大学)

**P2-141#** 種間交雑によるニホンイシガメからクサガメへの種の置き換わりは生じたか? \*宋倉 慎一郎 (東邦大学大学院), 加賀山 翔一 (東邦大学大学院), 大竹 海也 (東邦大学大学院), 下藤 章 (東邦大学大学院), 宮崎 未来良 (東邦大学大学院), 井上 英治 (東邦大学理学部), 長谷川 雅美 (東邦大学理学部)

**P2-156#** 日本に侵入したヒガタアシの起源とその遺伝的構造 \*前原 裕 (近大院・農・環境管理, JNPS), 玉置 雅紀 (国立環境研究所), 入口 友香 (近大院・農・環境管理), 花井 隆晃 (JNPS, テクノ中部 (株)), 西野 惇志 (近大院・農・環境管理), 早坂 大亮 (近大院・農・環境管理)

**P2-142#** 管理手法の異なる里山棚田景観における土壌動物群集を用いた環境指標の開発 \*古郡 憲洋 (新潟大学院), 岸本 圭子 (新潟大学研究推進機構), 本間 航介 (新潟大学農学部)

**P2-157#** 都市公園に生息するエゾリスの個体群構造: 均一な大集団か、複数の孤立集団か? \*渡辺 充 (北大・地球環境), 内田 健太 (北大・地球環境), 寫本 樹 (帯広畜産大学), 柳川 久 (帯広畜産大学)

**P2-143#** 河川流量の変化が生物量と環境 DNA 濃度との関係に及ぼす影響: いつ水を汲むのが適切か? \*中道 友規 (龍谷大・理工), 櫻井 翔 (龍谷大・院・理工), 山中 裕樹 (龍谷大・理工)

**P2-158#** 千葉県におけるイノシシの捕獲ワナ設置位置の配置の改善 \*横山 雄一, 笠田 実, 宮下 直 (東京大学)

**P2-144#** 都市河川におけるサクラマスの遺伝的構造: 分断化、河道改修、放流による影響 \*中村 慎吾, 小泉 逸郎 (北海道大学環境科学院)

**P2-159#** 農業水路に再導入した絶滅危惧二枚貝(マツカサガイ)のモニタリング結果～4年間の生存および再生産について～ \*泉 北斗 (北大院・環境科学), 三浦 一輝 (北大院・環境科学), 斉藤 裕也 (ヤリタナゴ調査会), 安里 開士 (筑波大・生命環境), 根岸 淳二郎 (北大・地球環境), 伊藤 一雄 (川島ネイチャークラブ), 大森 秋郎 (川島ネイチャークラブ)

**P2-145#** 人工知能は樹種を識別できるのか～ドローンと

**P2-160#** 20年前の宅地造成が現在のモグラ類の分布に与

ポスター発表 3月16日(金) 9:00-17:00

(P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

えた影響 \*内山 貴久, 高木 悦郎, 保坂 哲朗, 沼田 真也 (首都大学東京)

島大・水産), 大西 雄二 (岡山大院・自然科学), 山中 寿朗 (東京海洋大)

動物群集

P2-161 ヒノキ人工林と落葉広葉樹林における土壌ブロックの交換がトビムシ群集に与える効果 \*長谷川 元洋 (森林総研/四国), 岡部 貴美子 (森林総研)

P2-162 マングローブ域におけるカニ類の分布とセルロース分解能との関係 \*川井田 俊 (東大院・農), 大土 直哉 (東大・大気海洋研), 渡邊 良朗 (東大・大気海洋研), 河野 裕美 (東海大・沖七), 佐野 光彦 (東大院・農)

P2-163 Distinguishing invasive species from native species in the Hawaiian arthropod community using metabarcoding data \*Noriyuki SUZUKI, Jeremy Andersen, Henrik Krehenwinkel, Rosemary Gillespie (UC Berkeley)

P2-164 鹿児島県におけるヤマタニシ属数種の殻形態分析を用いた個体群比較 \*大窪 和理 (鹿児島大学), 富山 清升 (鹿児島大学), 浅見 崇比呂 (信州大学)

P2-165 空撮画像を用いた野外調査: サンゴ礁魚類群集の空間利用パターン \*服部 昭尚 (滋賀大学教育学部)

P2-166 局所環境変動に対する種の応答に基づく群集変化予測 \*朴 容煥 (神戸大学), 金 鐘國 (江原大学), 高見 泰興 (神戸大学)

P2-167 体サイズの大きく異なるコオロギ2種の競争関係 田島 伸吾, 山本 恭平, \*栗和田 隆 (鹿児島大学)

P2-168 環境DNAメタバーコーディング手法にもとづく沖縄島汀間川における魚類相の時空間的变化の検出 \*藤本 真悟 (琉球大・戦略センター), 鶴井(佐藤) 香織 (琉球大・戦略センター), 國島 大河 (琉球大・院・理工), 矢口 甫 (琉球大・熱生研), 佐藤 行人 (琉球大・戦略センター)

P2-169 島嶼河川における魚類の河川遡上とその規定要因 \*満尾 世志人 (新大 朱鷺・自然再生), 飯田 碧 (新大 臨海実験所), 小黒 環 (新大 臨海実験所)

P2-170 蝶の翅につけられたカナヘビの捕食痕 \*太田 真人 (龍谷大・里山研), 野村 賢吾 (龍谷大・院・理工), 鶴谷 峻之 (龍谷大・院・理工), 遊磨 正秀 (龍谷大・理工, 龍谷大・里山研)

P2-171 トキの餌生物群集の構造特性 \*岸本 圭子 (新大 朱鷺・自然再生), 油田 照秋 (新大 朱鷺・自然再生), 岸本 年郎 (ふじのくに環境史ミ), 南谷 幸雄 (栃木県博)

P2-172 河床の構造と群集構成期間が底生動物群集の構造に与える影響 \*斎藤 裕美 (東海大学)

P2-173 植物上に残された昆虫のDNA抽出方法の開発 \*米谷 衣代 (近大・農学部), 潮 雅之 (京大生態セ, JST さきがけ), 神野 五基 (近大・農学部)

P2-174 厚岸湖における養殖カキに付着する動物群集 \*橋本 真理菜 (北大・厚岸臨海実験所), 難波 瑞穂 (北大・環境科学院), 仲間 雅裕 (北大・厚岸臨海実験所)

P2-175 Stage dependency in species distribution as response to climate change \*Chenyi TU (国立台湾大学), Hsieh Chihhao (国立台湾大学, 中央研究院)

P2-176 北限のマングローブ林における樹冠の役割: 一斉落葉が底生生物とその生息環境に与えた影響 \*山本 智子 (鹿児島大・水産), 川瀬 誉博 (鹿児島大・水産), 白澤 大樹 (鹿児島大)

P2-177 黒潮周辺海域におけるカイアシ類の群集構造と種多様性 \*寒川 清佳 (国研 水研機構), 日高 清隆 (国研 水研機構), 上村 泰洋 (国研 水研機構), 高橋 正知 (国研 水研機構), 瀬藤 聡 (国研 水研機構), 市川 忠史 (国研 水研機構), 齊藤 宏明 (東京大学大気海洋研, 国研 水研機構), 岡崎 雄二 (国研 水研機構), 清水 勇吾 (国研 水研機構)

P2-178 日本産全種、土壌種、地域および局所群集の各スケールにおけるトビムシの形質同調性 \*菱 拓雄 (九州大), 長谷川 元洋 (森林総研四国), 藤井 佐織 (京都大), 斎藤 星耕 (沖縄国際大), 吉田 智弘 (東京農工大)

P2-179 竹食スペシャリストであるジェントルキツネザルの腸内細菌叢 \*澤田 晶子 (京都府立大学), Isabelle Clark (デューク大学), Orjanaiina M Ramlilaona (アンタナナリボ大学), 早川 卓志 (京都大学, 日本モンキーセンター)

P2-180 干潟漁場生態系の底生生物群集の集合規則: 入れ子構造と種の内入れ替わり \*山田 勝雅 (熊本大学), 小森田 智大 (熊本県立大学), 竹中 理佐 (熊本県立大学), 相澤 章仁 (日本生態系協会), 諸熊 孝典 (熊本県水研センター), 黒木 善之 (熊本県水研センター), 内川 純一 (熊本県水産振興課)

動物繁殖

P2-181 高知県大月町西泊における野外での浅海性ナマコ類の繁殖について \*目崎 拓真, 中地 シュウ (黒潮生物研究所)

P2-182 ニッポンバラタナゴの産卵生態解明に向けた映像データ収集・分析の試み 白井 良成 (NTT CS研), 水谷 伸 (NTT CS研), 岸野 泰恵 (NTT CS研), 須山 敬之 (NTT CS研), 松本 雛子 (近畿大学農学部), 松岡 舞 (近畿大学農学部), \*北川 忠生 (近畿大学農学部), 納谷 太 (NTT CS研)

P2-183 鳥類の卵表面を覆う脂質の定性・定量評価法の確立 成瀬 瑞紀, 佐藤 敦, 榊 剛, 竹中 万紀子, \*松井 晋 (東海大学生物学部)

P2-184 北海道のタンチョウ *Grus japonensis* はヒナ2羽を育てるのが難しい \*正富 欣之, 正富 宏之 (タンチョウリサーチ)

P2-185 ナミテントウにおいて飛翔能力の違いが交尾行動に及ぼす影響 \*木下 智章 (佐賀大・農), 高橋 慎弥 (佐賀大・農), 安達 修平 (鹿大院・連合農学), 世古 智一 (農研機構・西日本農研), 徳田 誠 (佐賀大・農)

P2-186 ヨツボシモンシデムシの鳴き声の解析 \*岸田 竜 (佐大 農)

P2-187 共生細菌を利用した内部寄生蜂の人為的な単為生殖化技術の検討 \*山下 晋平, 高橋 一男 (岡大 環境生命)

P2-188 アカネズミとヒメネズミにおける複数オス交尾頻度の推定-マルチプルパタニティ頻度と父性の偏りから- \*若林 紘子, 齊藤 隆 (北海道大学)

動物生活史

P2-189 森のネズミと共生するオオヤドリカニムシの生活史 \*岡部 貴美子, 島田 卓哉, 牧野 俊一 (森林総研)

P2-190 多摩川河川敷におけるツノボソチビイカク(甲虫目: アリモドキ科)の後翅多型とその季節的動態 \*橋本 晃生 (首都大・生命)

P2-191 北海道におけるオウトウショウジョウバエの生活史と資源利用 \*神田 侑奈 (北教大・札・生物), 並川 寛司 (北教

ポスター発表 3月16日(金) 9:00-17:00

(P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

大・札・生物), 渡部 英昭 (北大・総合博物館)

P2-192 アカガシの堅果に寄生するタマバチ科未記載種とその生態の推定 \*井手 竜也 (国立科博・動物), 小山 明日香 (東大院農)

P2-193 ニホンホホビロコメツキモドキ酵母栽培共生系に対する非共生酵母の影響 藤野 七瀬,\*土岐 和多瑠 (名古屋大・農)

P2-194 トドマツノキクイムシの加害木選好性 \*高木 悦郎 (首都大学東京)

P2-195 ホソヘリカメムシの誇張形質の発達におけるインスリン様シグナルの役割 \*洲崎 雄 (大阪市大・院・理, JSPS PD), 香月 雅子 (東大・院・総合文化), 間野 玄雄 (大阪市大・院・理), 岡田 賢祐 (岡山大・院・環境生命), 後藤 慎介 (大阪市大・院・理), 岡田 泰和 (東大・院・総合文化)

P2-196 共食い多型: 共食い型・共食い対抗型発生の統合ルール \*西村 欣也 (北海道大学)

P2-197 亜寒帯氾濫原に生息する両生類2種の産卵場所選択 \*佐々木 那由太 (北大・北方圏・FSC), 岸田 治 (北大・北方圏・FSC), 内海 俊介 (北大・北方圏・FSC), 宇野 裕美 (京大・生態研)

P2-198 ナラ枯れ被害地の腐朽木を生息場所とするキノコバエ類 \*末吉 昌宏 (森林総研九州)

動物個体群

P2-199 Genetic structure and potential environmental determinants of local genetic diversity in Japanese honeybees (*Apis cerana japonica*) \*Nagamitsu, Teruyoshi (森林総研北海道)

P2-200 Statistical modelling of animal populations under exploitation incorporating changes in human behavior \*藤原 真己 (テキサス農工大)

P2-201 震災による操業自粛の影響で変化した福島県沖の底魚資源 \*柴田 泰宙 (東北水産研究所), 山廻 昭文 (福島県水産事務所), 坂本 啓 (福島県水産試験場)

P2-202 積雪はシカ目撃個体数の年次変動に影響を与えるのか? 岡本 勇貴 (日大・文理), \*井上(高橋) みずき (日大・文理), 福本 繁 (平野町総合事務所), 福島 慶太郎 (京大院・生態研), 境 優 (中央大・理工), 阪口 翔太 (京大院・人環), 藤木 大介 (兵庫県立大), 高柳 敦 (京大院・農), 山崎 理正 (京大院・農)

P2-203 東シナ海および日本海におけるウルメイワシの卵分布域の変化に対する表層水温の影響 \*鈴木 圭, 安田 十也, 黒田 啓行, 依田 真里, 林 晃, 向 草世香, 高橋 素光 (水研機構 西水研)

P2-204 サクラマス分布拡大と生息密度の上昇: 河川環境の還元や放流とは独立して \*佐橋 玄記 (東大院農), 森田 健太郎 (水産機構・北水研), 岸 大弼 (岐阜県水産研究所)

P2-205 集水域の森林下層植生が衰退した河川環境と魚類相の10年間の変化 \*中川 光 (京都大学)

P2-206 アマミシカワガエルにおける変態サイズと成体サイズの地域間比較 \*岩井 紀子, 休場 聖美 (農工大・自然環境保全)

P2-207 瀬戸内海におけるマコガレイの遺传的集団構造: 種苗放流がみえにくくする元の空間構造 \*佐藤 允昭 (水産研究・教育機構), 浜口 昌己 (水産研究・教育機構), 北西 滋 (大分大学), 堀 正和 (水産研究・教育機構)

P2-208 絶滅危惧の海洋性昆虫ケシウムアメンボ *Halovelia septentrionalis* Esaki (Hemiptera: Veliidae)の餌選択 \*井川 輝美 (盛岡大学), 幸塚 久典 (東京大学), 上野 詩歩 (盛岡大学), 石井 美菜子 (盛岡大学), 宮田 友利恵 (盛岡大学), 瀬戸 花香 (盛岡大学), 鳥野 智之 (法政大学), 盛口 満 (沖縄大学)

P2-209 屋久島の一次林および二次林における地上性哺乳類の密度の比較 \*杉浦 秀樹 (京都大・野生動物)

P2-210 これでいいのか!? 環境DNA: プランクトン調査におけるデータベースの重要性 \*永野 真理子 (兵庫県立大院・シミュ), 牧野 渡 (東北大院・生命), 松岡 俊将 (兵庫県立大院・シミュ), 土居 秀幸 (兵庫県立大院・シミュ)

P2-211 湛水時期の異なる生息地におけるカエル類の鳴き声モニタリング \*松島 野枝 (東邦大学理学部)

P2-212 エゾアカガエル幼生は被食されやすい環境を自らつくる: 捕食者の共食いによる巨大化に注目して \*高津 邦夫 (静岡大学), 岸田 治 (北大・北方圏FSC)

P2-213 トゲオオハリアリにおけるバクテリア叢のメタゲノム解析-社会に潜む多様性と分布- \*下地 博之 (関西学院大学), 伊藤 英臣 (産総研), 松浦 優 (琉球大学), 菊池 義智 (産総研)

P2-214 霞ヶ浦に生息するカブトミジンコにおける農業2種類への感受性の種内変異 \*真野 浩行 (国研 産総研), 田中 嘉成 (上智大学大学院)

P2-215 真社会性アブラムシ, ササコナフキツノアブラムシにおける兵隊の前肢筋肉量の時間的, 空間的変異 \*Mitsuru HATTORI (長大・水環), Kota OGAWA (基生研・機能解析セ), Shuji SHIGENOBU (基生研・機能解析セ), Takao ITINO (信大・理)

P2-216 自動撮影カメラを用いた餌付けニホンザルの個体数密度推定 \*中原 麻智 (龍谷大・院・理)

P2-217 実践『感染症の生態学』-展示施設における高病原性鳥インフルエンザの防疫対策 \*浅川 満彦 (酪農学園大学大学院), 水主川 剛賢 (神戸どうぶつ王国 酪農学園大学大学院), 大沼 学 (国立環境研究所, 酪農学園大学大学院)

P2-218 国後島のヒグマのシンプルな食性-知床半島・白糠丘陵に生息するヒグマとの比較 \*中下 留美子 (森林総研), 小林 喬子 (自然研), 伊藤 哲治 (WMO 関西), 中村 秀次 (EnVision), 飯島 勇人 (森林総研), 増田 泰 (知床財団), ログンツェフ A (露クリリスクー保護区), 大泰司 紀之 (北大), 下鶴 倫人 (北大), 秦 彩夏 (農研機構), 釣賀 一二三 (北海道総研), 山中 正実 (知床博物館), 佐藤 喜和 (酪農学園大)

P2-219 変数誤差モデルを用いたスルメイカ個体群の再生産関係・MSY・レジームシフトの再検討 \*西嶋 翔太, 市野川 桃子, 岡村 寛 (水産機構・中央水研)

行動

P2-220 開拓者は臆病者: 島に自然移入したモズの個性 \*濱尾 章二 (国立科博・動物), 吉川 翠 (国立科博・動物), 山本 裕 (公財) 日本野鳥の会), 鳥飼 久裕 (NPO 法人奄美野鳥の会), 伊地知 告 (喜界町)

P2-221 グッピーからカダヤシへの繁殖干渉(2) 集団飼育実験による実証 \*鶴井 香織 (琉球大・戦略研究セ), 藤本 真悟 (琉球大・戦略研究セ), 出岐 大空 (琉球大・農・昆虫), 勝部 高隆 (琉球大・院・農・昆虫), 立田 晴記 (琉球大・農・昆虫, 琉球大・院・農・昆虫), 辻 和希 (琉球大・農・昆虫, 琉球大・院・農・昆虫)

P2-222 交尾期間のオオミズナギドリオスはメスの滞巣パ

ポスター発表 3月16日(金) 9:00-17:00

(P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

- ターンに応じて採餌トリップ長を変化させる \*坂尾 美帆 (東大大海研), 後藤 佑介 (東大大海研), 高橋 晃周 (国立極地研究所), 佐藤 克文 (東大大海研)
- P2-223 超高感度磁気センサを用いた土中バイオロギングの検討 \*町田 悟, 市毛 敬介 (株)豊田中央研究所)
- P2-224 ウミネコの食性と採餌環境利用の性差 \*風間 健太郎 (北海道大学), 西沢 文吾 (北海道大学), 塚本 祥太 (北海道大学), Gonzalez E Jordi (Barcelona University), 風間 麻未 (北海道大学), 綿貫 豊 (北海道大学)
- P2-225 マラウイ湖産ヒレ食シクリッドの捕食行動の左右性 \*竹内 勇一 (富山大学), 畑 啓生 (愛媛大学), 丸山 敦 (龍谷大学), 山田 拓人 (富山大学), 西川 巧馬 (龍谷大学), Zatha Richard (University of Malawi), Rusuwa Bosco (University of Malawi), 小田 洋一 (名古屋大学)
- P2-226 群れるバッタは脱皮時の共喰いをどう回避しているか? \*前野 浩太郎 (国際農研)
- P2-227 ツバメの雌の美しさは雄の抱卵行動に影響しない \*長谷川 克 (総研大・先導研), 新井 絵美 (総研大・先導研), 中村 雅彦 (上教大・理科)
- P2-228 移動中にクラゲ類を捕食する高緯度域のアオウミガメ亜成体 \*福岡 拓也, 檜崎 友子, 木下 千尋, 佐藤 克文 (東大大海洋研)
- P2-229 ニホンジカへの GPS 首輪自動装着 \*大場 孝裕 (静岡県・森林研セ)
- P2-230 琵琶湖固有種ニゴロブナの出生地回帰性: 耳石 Sr 安定同位体を用いた回遊履歴の復元 \*上原 佳敏 (総合地球環境学研究所), 中川 隼人 (福井県立大学), 高山 久弥 (福井県立大学), 片岡 佳孝 (琵琶湖博物館), 亀甲 武志 (滋賀県水産課), 根本 守仁 (滋賀県水産試験場), 大竹 二雄 (東京大学大海研), 奥田 昇 (総合地球環境学研究所)
- P2-231 ギンメッキゴミグモの交尾器破壊に見られる個体差と経験の影響 \*中田 兼介 (京都女子大学)
- P2-232 琵琶湖におけるコイ 2 型の浮力調節能の違いに対応した採餌戦略 \*吉田 誠 (東大大海研), 馬淵 浩司 (国環研琵琶湖分室), 佐藤 克文 (東大大海研)
- P2-233 アオウミガメ亜成体の大胆さ・臆病さと新奇探索行動の可塑性との関連 \*工藤 宏美 (東京大学, 日本学術振興会), 内田 桂 (NPO おおいた EC), 小林 博樹 (東京大学), 佐藤 克文 (東京大学)
- P2-234 Habitat selection in *Polycheira fusca*: substrate shading and colour \*KANEKO, Kaede (九大院・システム生命)
- P2-235 多面的機能を発揮するシロアリの兵蟻フェロモンの同定 \*三高 雄希, 森 直樹, 松浦 健二 (京都大学)
- P2-236 佐渡島における国内外来種テンの行動パターンと土地利用の関係 \*江藤 毅, 油田 照秋, 永田 尚志 (新大 朱鷺・自然再生)
- P2-237 二酸化炭素がイモゾウムシの配偶行動に与える影響 \*熊野 了州, 布廣 あやめ (帯広畜産大学)
- P2-238 ヒメボタル成虫の発光活動の定量的観察 \*小西 哲郎 (中部大学)
- P2-239 餌によって射精物が変化する!? \*日室 千尋 (沖縄防除技術センター, 琉球産経株式会社, 琉球大学農学部), 本間 淳 (沖縄防除技術センター, 琉球産経株式会社, 琉球大学農学部), 池川 雄亮 (沖縄防除技術センター, 琉球産経株式会社, 琉球大学農学部), 大石 毅 (沖縄防除技術センター)
- P2-240 カワウ・アオサギ混合コロニーの営巣位置と繁殖成績 \*本多 里奈, 東 信行 (弘前大学大学院・農生)
- P2-241 逃避中の目立つ音〜ショウリョウバッタのチキチキ音を探る \*久我 立, 粕谷 英一 (九州大学)
- P2-242 奈良公園におけるサイズクラスによって異なるニホンジカの行動の季節変化 \*辻野 亮, 岡崎 重史 (奈良教育大学自然セ)
- P2-243 モウコガゼル夏の生息地特性: なぜ 300km も離れた場所から戻るのが? \*小山 里奈 (京大・院・情報), 宮崎 淳志 (京大・院・情報), 伊藤 健彦 (鳥取大・乾地研セ), 篠田 雅人 (名古屋大・院・環境), Badamjav, Lkhagvasuren (モンゴル科学アカ)
- P2-244 ウミナガサの濾過能力比較 \*伊藤 萌 (東大大海研), 金谷 弦 (国立環境研究所), 三浦 取 (高知大学), 中井 静子 (日本大学)
- P2-245 都市域における非繁殖期のアズマヒキガエルの環境利用 \*宮崎 裕也, 倉本 宣 (明大・農)
- P2-246 モデルとの距離が擬態の捕食回避効果に与える影響 \*櫻井 麗賀 (人と自然の博物館)
- P2-247 貝食性ホタルの陸貝追跡行動 \*佐藤 臨, 東 信行 (弘前大・農生)
- |   |   |
|---|---|
| 保 | 全 |
|---|---|
- P2-248 福井県三方湖における無人飛行機 (UAV) を用いた浮葉植物ヒシの分布推定手法の検討 \*石井 潤 (福井県山里海湖研)
- P2-249 オオキトンボの産卵環境が幼虫数とサイズに与える影響 \*村上 裕 (愛媛生物多様性センタ), 久松 定智 (愛媛生物多様性センタ), 武智 礼央 (NPO 森から続く道), 黒河 由佳 (NPO 森から続く道), 松井 宏光 (NPO 森から続く道)
- P2-250 熊本地震はオオルリシジミの発生および生息環境にどのような影響を及ぼしているか? \*村田 浩平 (東海大学農学部)
- P2-251 棚田の位置の違いは耕作放棄後の埋土種子組成を左右するか? \*小柳 知代, 宮城 諒一 (東京学芸大学)
- P2-252 熱赤外リモートセンシング画像を用いた野生動物の検出に関する検討 \*大石 優 (産業技術総合研究所), 小熊 宏之 (国立環境研究所), 田村 恵子 (中日本航空 (株)), 宮坂 聡 (中日本航空 (株)), 中村 良介 (産業技術総合研究所), 松永 恒雄 (国立環境研究所)
- P2-253 Detection of terrestrial animals using environmental DNA: Its potential and limitations \*Masayuki USHIO (PRESTO, JST, CER, Kyoto Univ.)
- P2-254 北陸地方における近年の育苗箱施用浸透性殺虫剤の出荷量とアキアカネ個体数との関係 \*中西 康介 (国立環境研究所), 上田 哲行 (石川県立大), 横溝 裕行 (国立環境研究所), 林 岳彦 (国立環境研究所)
- P2-255 UAV によるマガンのカウントに適した撮影時間の検討 \*鈴木 透 (酪農学園大学), 牛山 克己 (宮島沼水鳥・湿地 C), 山田 浩之 (北海道大学)
- P2-256 分布南限域 (北アルプス立山) における周北極植物チョウノスケソウの個葉特性 \*関川 清広 (玉川大・農・環境農), 和田 直也 (富山大・極東研セ), 坂田 剛 (北里大・一般教養)

# ポスター発表 3月16日(金) 9:00-17:00

(P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

- P2-257** 琵琶湖汀線の踏査による絶滅危惧魚食魚ハスの詳細な分布の更新とポテンシャルマップ \*今村 彰生 (北教大旭川校)
- P2-258** タケノコカワニナの分布・成長と底質の有機物含有量の関係 \*永野 昌博 (大分大学理工学部), 石川 真太郎 (大分大学教育学部)
- P2-259** 希少植物ノウルシの群落景観を地域資源とする住民による管理・保全サイクル \*大澤 啓志 (日本大学・生物資源), 間野 明奈 (日本大学院・生物資源)
- P2-260** 多摩川支流でのヒガシシマドジョウの生息環境について \*米山 晃弘, 吉川 朋子 (玉川大学 農学部)
- P2-261** 高知県大豊町におけるニホンザルによる農業被害の現状 \*中城 海咲 (高知大学)
- P2-262** アマゾン熱帯雨林における択伐後のバイオマス回復過程 \*大谷 達也 (森林総合研究所), Adriano Lima (国立アマゾン研究所), 諏訪 隼平 (森林総合研究所), 大橋 伸太 (森林総合研究所), 梶本 卓也 (森林総合研究所), Niro Higuchi (国立アマゾン研究所)
- P2-263** 一般参加型の植生調査による再生湿地のモニタリング \*佐久間 智子 (西中国自然史研究会), 白川 勝信 (高原の自然館), 和田 秀次 (西中国自然史研究会), 大竹 邦暁 (西中国自然史研究会)
- P2-264** 宮城県仙北地方に分布する湧水湿地—その植生と立地、環境要因との関係 \*速水 裕樹, 藤本 泰文 (伊豆沼財団)
- P2-265** 絶滅危惧種ノグチゲラの集団遺伝学的解析 \*森 さやか (酪農学園大・環境動物), 泉 洋江 (北大総合博), 津山 紗央莉 (酪農学園大・環境動物), 田村 庄九郎 (酪農学園大・環境動物), 上開地 広美 (環境省), 山本 以智人 (環境省)
- P2-266** 日本の気候変動適応に向けた Velocity of climate change の解析 \*高野(竹中) 宏平 (長野県環境保全研究所), 中尾 勝洋 (森林総研・関西), 尾関 雅章 (森林総研), 堀田 昌伸 (長野県環境保全研究所), 須賀 丈 (長野県環境保全研究所), 松井 哲哉 (長野県環境保全研究所)
- P2-267** 火入れ草原における刈り取りの付加による草原性植物の開花の変化 \*井上 雅仁 (鳥根県立三瓶自然館), 高橋 佳孝 (西日本農研センター)
- P2-268** 環境 RNA 分析による遺伝子発現解析にむけた基礎技術の検討 \*池田 静也 (龍谷大・理工), 平尾 陽平 (龍谷大・理工), 多田 眞証 (龍谷大・理工), 佐藤 博俊 (龍谷大・理工), 源 利文 (神戸大・院・発達), 山中 裕樹 (龍谷大・理工)
- P2-269** 霞ヶ浦沿岸の農地を利用する水鳥の採食環境と食物構成 \*安藤 温子 (国環研), 池野 進 (日本野鳥の会茨城県), 成田 あゆ (道総研), 小村 健人 (京大院・農), 高田 敦史 (京大院・農), 米澤 悟 (京大院・農), 井鷲 裕司 (京大院・農), 小熊 宏之 (国環研), 井上 智美 (国環研), 竹中 明夫 (国環研)
- P2-270** ヒシクイ生息地における風車センシティビティマップ作成 \*森口 紗千子 (新潟大・農), 向井 喜果 (新潟大院・自然), 佐藤 一海 (新潟大・農), 望月 翔太 (新潟大・農), 仲村 昇 (山階鳥類研究所), 尾崎 清明 (山階鳥類研究所), 関島 恒夫 (新潟大・農)
- P2-271** 移植放流による宝石サンゴ類の資源増殖は可能か? —日本産宝石サンゴ類の保護増殖技術の検討— \*中地 シュウ, 目崎 拓真, 古井戸 樹 (黒潮生物研究所)
- P2-272** 歴史の長いゴルフ場に生育する植物の出現頻度とその特徴 \*松村 俊和 (甲南女子大学), 橋本 佳延 (兵庫県博), 澤田 佳宏 (兵庫県立大, 淡路景観園芸学校)
- P2-273** Can deep coral juveniles adapt to the shallow depth and contribute to reef recovery? \*波利井 佐紀 (琉球大学), Prasetia, Rian (琉球大学, IRD Nouméa, France), Sinniger, Frederic (琉球大学), 中村 崇 (琉球大学)
- P2-274** 2017年台風21号による出水とカワラノギク \*倉本 宣 (明大・農), 岡田 久子 (明大・農), 野村 亮 (自然環境アカデミー), 伊東 静一 (明大・農)
- P2-275** 都市公園におけるキンラン自生地の生育環境 \*米村 惣太郎 (清水建設(株)), 渡部 陽介 (清水建設(株)), 平野 堯将 (清水建設(株)), 奈良 一秀 (東京大学)
- P2-276** 主伐方法の違いは源流域における底生動物の生息環境と群集構造に影響するか \*長坂 晶子 (道総研林業試験場), 長坂 有 (道総研林業試験場), 速水 将人 (道総研林業試験場), 山田 健四 (道総研林産試験場)
- P2-277** 空中写真の画像解析による樹冠サイズ推定手法: 傾斜地の亜熱帯照葉樹林をモデルとした開発 \*松本 育 (東大院・農, パルシステム連合会), 大谷 雅人 (森林総合研究所, 兵庫県立大学), 鷲谷 いづみ (東大院・農, 中大・理工)
- P2-278** カエル後期発生過程における水田農薬の毒性影響について \*坂 雅宏, 多田 哲子 (京都府保健環境研究所)
- P2-279** イノシシ体内に含まれる放射性セシウムについて \*大町 仁志, 根本 唯, 斎藤 梨絵 (福島県)
- P2-280** 屋久島低地照葉樹林における植物群集構造と環境要因 \*廣田 峻 (東北大学), 布施 健吾 (九州大学), 手塚 賢至 (屋久島照葉樹林ネット), 手塚 田津子 (屋久島照葉樹林ネット), 山下 大明 (屋久島照葉樹林ネット), 斎藤 俊浩 (屋久島照葉樹林ネット)
- P2-281** ガガブタ多芽体の作出と超低温保存 \*上原 歩 (東電大・理工), 三國 智葉 (東電大・院・生命理工), 飯塚 郁穂 (東電大・理工), 栗山 昭 (東電大・理工, 東電大・院・生命理工)
- P2-282** 「ハスカップ」の原点を求めて—石狩低地帯南東部における植物利用の一例として— \*小玉 愛子 (苫小牧市美術博物館), 草薙 健 (NPO 苫東環境コモンズ)
- P2-283** 個体モニタリングに基づくキンラン属移植後の休眠・再出芽の推移 \*渡部 陽介 (清水建設株), 米村 惣太郎 (清水建設株), 平野 堯将 (清水建設株), 奈良 一秀 (東京大学)
- P2-284** 山小屋や登山者によるライチョウの生息状況把握 \*堀田 昌伸 (長野県環境保全研究所), 高野 宏平 (長野県環境保全研究所), 津山 幾太郎 (森林総合研究所), 比嘉 基紀 (高知大学), 尾関 雅章 (長野県環境保全研究所), 中尾 勝洋 (森林総合研究所), 松井 哲哉 (森林総合研究所), 竹内 祥生 (信州大学), 畑中 健一郎 (長野県自然保護課)
- P2-285** 北海道東部における中・大型哺乳類が利用する場所の特性について \*石神 香穂 (玉川大学)
- P2-286** 分断化が進む世界的希少種ミクラミヤマクワガタの御蔵島繁殖集団—世界最大繁殖地における現状— \*岡 奈理子 (山階鳥類研究所), 荒谷 邦雄 (九州大学), 小木 万布 (御蔵島観光協会)
- P2-287** 秋吉台上草地における採草パターンが草原性植物の開花に及ぼす影響 \*太田 陽子 (緑と水の連絡会議)
- P2-288** 日本産維管束植物の湿地依存度評価に向けて \*首藤 光太郎 (新潟大学教育学部), 山ノ内 崇志 (高知県立牧野植物園), 加藤 将 (日本国際湿地保全連合), 志賀 隆 (新潟大学教育学部)
- P2-289** 市民調査で明らかになった日本の里山の生物多様性の10年間の変化—モニタリングサイト1000里地調

# ポスター発表 3月16日(金) 9:00-17:00

## (P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

査の成果と今後に向けて～ \*藤田 卓 (日本自然保護協会), 高川 晋一 (日本自然保護協会), 後藤 なな (日本自然保護協会), 石濱史子 (国立環境研究所), 竹中 明夫 (国立環境研究所), 朱宮 文晴 (日本自然保護協会), 最上 祥成 (生物多様性センター), 川越 久史 (生物多様性センター)

**P2-290 風車への衝突個体の発見確率に関する新しい推定方法** \*北野 雅人 (株)竹中工務店, 深谷 肇一 (統計数理研究所), Smallwood, K.S. (CIP)

**P2-291 揖斐川の河道内氾濫原におけるカエル類の生息状況—野外調査と河川水辺の国勢調査からの検討—** \*田和 康太 (土木研究所河川生態), 永山 滋也 (岐阜大学流域圏科学), 萱場 祐一 (土木研究所河川生態)

**P2-292 貝類相データをもとにした干潟生態系の健全性評価** \*木村 妙子, 村山 椋, 木村 昭一 (三重大院・生物資源)

**P2-293 絶滅危惧植物を含む日本産ハナシノブ属のさく葉標本の収集状況** \*横川 昌史 (大阪自然史博)

**P2-294 Evaluation of habitat characteristic of alien aquatic plants in Kasumigaura** \*KIM, Ji yoon, Tokuya Yano, Jun Nishihiro (Toho University)

## 物質循環

**P2-295 南極湖底堆積物の硝化能定量の試み** \*林 健太郎 (農研機構・農環セ), 田邊 優貴子 (極地研, 総研大), 藤嶽 暢英 (神戸大), 木田 森丸 (神戸大), 早津 雅仁 (農研機構・農環セ), 工藤 栄 (極地研, 総研大)

**P2-296 流入負荷の違いがミズゴケ湿原の栄養塩循環機能に与える影響** \*木塚 俊和 (北海道立総合研究機構), 佐藤 奏衣 (札幌市立大学), 矢部 和夫 (札幌市立大学), 矢崎 友嗣 (明治大学)

**P2-297 安定同位体比を用いた米魚同時栽培水田の物質フロー解析** \*小関 右介 (大妻女子大学), 松崎 慎一郎 (国立環境研究所)

**P2-298 炭素・窒素安定同位体比を用いた海棲木材穿孔生物の餌料源に関する再検討** \*西本 篤史 (水産研究・教育機構), 芳賀 拓真 (国立科学博物館), 朝倉 彰 (京都大学), 白山 義久 (海洋研究開発機構)

**P2-299 生態系評価に向けた大規模アンサンブル実験を用いた流域圏における溶存有機炭素 (DOC) 流出量の将来予測—釧路川流域を対象として—** \*丸谷 靖幸 (岐阜大学・流域圏セ), 駒井 克昭 (北見工業大学), 笠間 基 (北見工業大学), 信山 直紀 (北見工業大学), 佐藤 辰哉 (北見工業大学)

**P2-300 東部瀬戸内海における基礎生産構造** \*安佛 かおり (京大・森里海ユニット), 宮原 一隆 (兵庫農水技総セ), 山本 圭吾 (大阪環農水研), 秋山 諭 (大阪環農水研), 笠井 亮秀 (北大院・水産)

**P2-301 沿岸域の貧酸素化に伴う魚類-埋在性底生動物の捕食-被食関係の変化** \*折田 亮, 吉野 健児, 木村 圭 (佐大・低平地沿岸セ)

**P2-302 『野外分光計測による樹種・深度別の土壤水分・有機物組成の非破壊推定と土壤呼吸活性の評価』** \*中路 達郎 (北海道大学), 牧田 直樹 (信州大学), 片山 歩美 (九州大学), 安宅 未央子 (森林総合研究所), 小熊 宏之 (国立環境研究所)

**P2-303 Long-term simulation of the nitrogen cycle in forest ecosystems: Describing the steps towards nitrogen saturation** \*Nobuhito OHTE (Kyoto University), Francesco GIANNINO (University of Naples), Christian VINCENOT (Kyoto University)

**P2-304 ボルネオ低地林における択伐施業が ANPP とバイオマス動態に及ぼす影響** \*今井 伸夫 (東京農大), 清野 達之 (筑波大), 相場 慎一郎 (鹿児島大), 武生 雅明 (東京農大), Jupiri Titin (Forestry Dep. Sabah), 北山 兼弘 (京大)

**P2-305 樹木器官間のリン分配が熱帯降雨林バイオマス中のリン滞留時間に与える影響** \*辻井 悠希 (京大・農), 相場 慎一郎 (鹿児島大・理工), 北山 兼弘 (京大・農)

**P2-306 雪解け時期の早まりが土壤呼吸に与える影響: 大面積操作実験による検証** \*片山 歩美 (九大演習林), Semyon V Bryanin (ロシア科学アカデミー), 高木 健太郎 (北大F S C), 小林 真 (北大F S C)

**P2-307 植物と土壤の窒素同位体比に対する土壤の窒素利用可能性の影響—北海道とモンゴルの針葉樹林の比較から—** \*藤吉 麗, 杉本 敦子, 山下 洋平, 李 肖陽 (北海道大学)

**P2-308 Significant year-to-year variations in carbon cycling in a Moso bamboo forest, central Taiwan** \*久米 朋宜, 林 伯宜, 林 孟穎, 謝 宜芳, 羅 明慧, 林 松駿, 鐘 敏華 (国立台湾大学)

**P2-309 湖沼と河川における水生生物食物網構造と放射性セシウム動態** \*石井 弓美子, 松崎 慎一郎, 林 誠二 (国立環境研究所)

**P2-310 マングローブの生態系純生産量 (NEP) は本当に大きいのか?** \*大塚 俊之 (岐阜大学), 荒井 秀 (岐阜大学), 友常 満利 (早稲田大学), 吉竹 晋平 (岐阜大学), 大西 健夫 (岐阜大学), 藤嶽 暢英 (神戸大学), 木田 森丸 (神戸大学), 近藤 美由紀 (国立環境研究所), 飯村 康夫 (滋賀県立大学), 金城 和俊 (琉球大学)

**P2-311 森林生態系における林床へのバイオチャー散布が土壤微生物群集に及ぼす影響** \*吉竹 晋平 (岐阜大・流圏セ), 友常 満利 (早大・教育), 墨野 倉 伸彦 (早大・院・先進理工), 小泉 博 (早大・教育), 大塚 俊之 (岐阜大・流圏セ)

**P2-312 森林源流域から進行する窒素飽和メカニズムの解明と森林炭素蓄積能力への影響評価** \*堅田 元喜 (茨城大学), 福島 慶太郎 (京都大学), 小嵐 淳 (原子力機構), 山口 高志 (北海道総研), 渡辺 誠 (東京農工大学), 館野 隆之輔 (京都大学)

**P2-313 Nitrogen addition reduces soil respiration and heterotrophic respiration in a subtropical evergreen broad-leaved forest** \*Yong PENG (The Univ. of Tokyo, Sichuan Agric. Univ.), Lihua TU (Sichuan Agric. Univ.), Naoto KAMATA (The Univ. of Tokyo)

**P2-314 タイ王国トラート川流域マングローブ林における溶存無機炭素の日変動: 雨季と乾季における観測事例** \*近藤 美由紀 (環境研), 高橋 浩 (産総研), 吉竹 晋平 (岐阜大学), 木田 森丸 (神戸大学), 藤嶽 暢英 (神戸大学), Pongpan, Sasitron (Chulalongkorn Univ.), Suchewaboripont, Vilanee (Chulalongkorn Univ.), 大塚 俊之 (岐阜大学)

**P2-315 冷温帯二次林の土壤呼吸速度と樹液流速速度の環境応答** \*安立 美奈子 (筑波大学生命環境), 廣田 充 (筑波大学生命環境), 井田 秀行 (信州大学教育学部), 齋藤 琢 (岐阜大学流域研)

**P2-316 尾瀬ヶ原池澁群を用いた水系腐植物質の特性解析** \*千賀 有希子 (東邦大学理学部), 熊崎 悠一 (東邦大学理学部), 成岡 知佳 (東邦大学理学部), 野原 精一 (国立環境研究所)

**P2-317 冷温帯二次林における遷移にともなう植生構造と植物バイオマスの変化** \*廣田 充 (筑波大・生命環境系), 中田 貴子 (筑波大・山岳科学プロ), 大塚 俊之 (岐阜大・流域圏セ)

**P2-318 トドマツ人工林の保残伐施業試験地 (REFRESH) における伐採前後の水質変化** \*長坂 有 (道総研林業試験場), 長

ポスター発表 3月16日(金) 9:00-17:00

(P会場 大ホール # : ポスター賞対象発表)

坂 晶子(道総研林業試験場), 速水 将人(道総研林業試験場), 石川  
靖(道総研環境科学研究セ)

**P2-319** モウソウチクのリターからの元素溶脱と洗浄方  
法の検討 \*梅村 光俊(森林総研), 谷川 東子(森林総研関西)

**P2-320** 尾瀬ヶ原・湿原地形と陸水環境の変遷に関する  
研究－池漕に対する洪水の影響－ \*野原 精一(国立環境研究  
所), 福原 晴夫(河北潟湖沼研究所), 千賀 有希子(東邦大学)

ポスター発表 3月17日(土) 9:00-17:00

(P会場 大ホール)

群 落

- P3-001** 防鹿柵がもたらす植物群集の機能構造と攪乱後の応答の違い \*西澤 啓太(横浜国大), 藤井 佐織(アムステルダム自由大), 北川 涼(横浜国大), 辰巳 晋一(横浜国大), 森 章(横浜国大)
- P3-002** 樹木における地形的ニッチ分化と形質保存性の関係; カエデ属に注目して 近藤 菜々美, \*酒井 暁子(横浜国大・環境情報)
- P3-003** Associations between traits and demographic rates across co-occurring woody species at Sekimon, Hahajima in the Ogasawara islands \*Yoshiko IIDA (FFPRI Kyushu), Shin Abe (FFPRI), Nobuyuki Tanaka (Tokyo Nodai), Tetsuto Abe (FFPRI Kyushu)
- P3-004** チドリノキの萌芽; 葉群配置戦略の地形依存性 成田 晴香(横浜国大・理工), \*若松 伸彦(横浜国大・環境情報), 酒井 暁子(横浜国大・環境情報)
- P3-005** 津波浸水域の残存林における樹木群集の組成 \*富田 瑞樹(東京情報大学), 菅野 洋((株)東北緑化環境保全), 平吹 喜彦(東北学院大学), 原 慶太郎(東京情報大学)
- P3-006** オリントブナ(*Fagus orientalis*)における過去から現在への潜在生育域の分布変遷 \*松井 哲哉(森林研究・整備機構), Kavgaci, Ali(南西アナトリア森林研), 高野 宏平(長野県環境保全研, 森林研究・整備機構), 大橋 春香(森林研究・整備機構), 平田 晶子(森林研究・整備機構), Münevver, Arslan(森林土壌生態研究所), 田中 信行(東京農業大学)
- P3-007** 樹木成長制限要因としての光と栄養塩の重要性は土壌老化にともない変化する: ポルネオ熱帯山地林の例 \*相場 慎一郎(鹿児島大・院・理工), 北山 兼弘(京都大・院・農)
- P3-008** 深層学習による衛星画像からの樹種識別とその応用 -竹林での試み- \*渡部 俊太郎(京都大・フィールド研), 角 和暁(京都大・院・農), 伊勢 武史(京都大・フィールド研, JST さきがけ)
- P3-009** 無人航空機によるマングローブ林の森林構造の検出 ~ドローンを用いた八重山諸島の森林動態の解明に向けて~ \*友常 満利(早稲田大・教育総合), 荒井 秀(岐阜大・応用生物), 金城 和俊(琉球大・農), 大西 健夫(岐阜大・応用生物), 小泉 博(早稲田大・教育総合), 大塚 俊之(岐阜大・流域研)
- P3-010** Phylogenetic diversity and community structure patterns of tree species along the elevational gradient of Mt. Bokor, a table-shaped mountain in southwest Cambodia \*ZHANG, Meng, Tagane, Shuichiro, Toyama, Hironori, Keiko, Mase, Yahara, Tetsukazu(九州大学)
- P3-011** 半自然草地の利用が植生に及ぼす影響 - 文化的景観と茅場の自然 \*柳沢 直(森林文化アカデミー), 柏 春菜(Green Wood Work 協会)
- P3-012** 環境条件、分散の制限および種間相互作用は半自然草地のメタ群集構造にどのように影響するか? \*丹野 夕輝(静岡大・院, 株式会社エコリス), 山下 雅幸(静岡大・院), 澤田 均(静岡大・院)
- P3-013** 標高方向の種子散布は山系によって異なるか: 動物散布樹木サクランボ類での検証 \*直江 将司(森林総合研究所), 小池 伸介(東京農工大学), 陀安 一郎(総合地球環境学研究所), 加藤 珠理(森林総合研究所), 菊地 賢(森林総合研究所), 永光 輝義(森林総合研究所), 綱本 良啓(東北大学), 長沼 知子(東京農

工大学), 正木 隆(東京農工大学)

- P3-014** 気候の年々変動と長期トレンドのもとでの生物の分布の動態モデル \*竹中 明夫(国立環境研究所)
- P3-015** モニタリングサイト 1000 における年次相対成長量モデリング \*阿久津 公祐(海洋研究開発機構), 日野 貴文(自然環境研究センター)
- P3-016** 東北地方のミズナラ林の約30年間の植生変化 \*星野 義延(東京農工大学大学院)
- P3-017** 攪乱地に分布するセンダンとニワウルシの伐採後の現存量変化 \*山瀬 敬太郎, 高山 勉(兵庫農技総セ)
- P3-018** 白神山地における偽高山帯の植生とその変化 \*山岸 洋貴(弘前大 白神研)
- P3-019** 機能形質から種の分布を予測する: 日本列島における樹木の例 \*河合 清定, 岡田 直紀(京大・農)
- P3-020** 鳥取砂丘に残るハマナス群落の構造と28年間の変化 \*永松 大, 山中 雪愛(鳥取大学)
- P3-021** 草原再生過程における草索性植物の進入と種子の供給 \*増井 太樹, 津田 智(岐阜大・流域研)
- P3-022** 冷温帯落葉広葉樹林の25年間の動態 \*山崎 理正(京大院・農), 安藤 信(公財・阪本奨学会)
- P3-023** Comparison of Taxonomic and Phylogenetic Diversity of Tree Species Among Tropical Peat Swamp Forsts \*Tetsuya SHIMAMURA (Ehime University), Erna Poesie (Palangka Raya Univ.), Ikuo Ninomiya (Ehime University)
- P3-024** マレーシアとケニアにおける森林組成について \*目黒 伸一(国際生態学センター)
- P3-025** コンゴ盆地の成熟林における樹木・つる・草本の種構成: 大型類人猿ボノボの餌資源分布への示唆 \*寺田 佐恵子, 湯本 貴和(京都大学霊長類研究所)

遷 移 ・ 更 新

- P3-026** 被度階級データのモデリングによる石狩川流域風倒跡の植生回復過程の推定 \*伊東 宏樹, 中西 敦史, 津山 幾太郎, 関 剛, 河原 孝行(森林総研北海道)
- P3-027** 対馬竜良山照葉樹林における27年間の樹木群集動態 \*西村 尚之(群馬大・社会情報), 立石 大貴(群馬大・社会情報), 真鍋 徹(北九州自歴博), 原 登志彦(北大・低温研)
- P3-028** ニホンジカに剥皮された亜高山帯針葉樹はいつ枯死するか? \*長池 卓男(山梨県森林研)
- P3-029** サロベツ泥炭採掘跡地における遷移上でのミズゴケ侵入様式 \*露崎 史朗, 李 茜, 宮崎 紀子(北海道大学)
- P3-030** 間伐後のヒノキ人工林における下層植生の中期的な応答 \*渡邊 仁志(岐阜県森林研究所)
- P3-031** 大峯山脈前鬼の針広混交林における実生・稚樹と林冠木の種構成の差異 \*松井 淳, 辻野 亮(奈良教育大学)

植 物 個 体 群

- P3-032** 日本とアメリカのセイタカアワダチソウにおける個体群ベースの形質比較 \*片山 昇(京大・生態研), 内海 俊介(北大・FSC), 安東 義乃(北大・FSC), 徳田 誠(佐賀大・農), 安達 修平(佐賀大・農), Dixon, Kevin(フロリダ州立大), Craig, Timothy

# ポスター発表 3月17日(土) 9:00-17:00

(P会場 大ホール)

(ミネソタ大), 大串 隆之 (京大・生態研)

本多 和茂 (弘前大学・農生)

**P3-033** 開花期が異なる土壌エコタイプ間での遺伝子流動: キク科 2 属での検証 \*阪口 翔太 (京都大学・人環), 堀江 健二 (北邦野草園), 石川 直子 (東京大学・総合文化), 永野 惇 (龍谷大学・農), 八杉 公基 (基礎生物学研究所), 工藤 洋 (京都大学・生態研), 成田 あゆ (北海道立総合研), 井鷲 裕司 (京都大学・農), 伊藤 元己 (東京大学・総合文化)

**P3-049** シオジ雌雄個体の開花同調性 \*崎尾 均 (新潟大学農学部)

**P3-050** 里山の花木 (ガマズミ属 3種とサワフタギ) の開花・結実に影響する要因 \*橋本 啓史 (名城大学農学部), 森 あつこ (名城大学農学部), 塚本 彩香 (名城大学農学部), 長谷川 泰洋 (なごや多様性センター)

**P3-034** 櫛形山におけるエゾヒョウタンボクの分布に影響する環境条件 \*指村 奈穂子 (山梨県森林総合研究所), 長谷川 文 (マウンテンワークス), 池田 明彦 (品川区役所)

**P3-051** 樹木のマスディング現象の解明に着目した土壌栄養量の経年変化 \*韓 慶民 (森林総合研究所), 壁谷 大介 (森林総合研究所), 野口 享太郎 (森林総合研究所), 稲垣 善之 (森林総合研究所), 佐竹 暁子 (九州大学)

**P3-035** 標高が異なるコケモモ個体群間の遺伝構造と交配システムの比較 \*和久井 彬実, 工藤 岳 (北海道大学)

**P3-052** 風媒の雌雄異株植物に開花スケジュールの性的二型性はあるのか? \*松久 聖子, 丑丸 敦史 (神戸大・人間発達環境)

**P3-036** 分布北限のブナ集団における葉・種子への被食圧の地理的分布 \*小林 誠 (十日町市立里山科学館), 齋藤 均 (黒松内町ブナセンター), 北村 系子 (森林総研・北海道), 並川 寛司 (北教大・札幌・生物), 松井 哲哉 (森林研究・整備機構)

**P3-053** ケツユクサの花の性決定に関わる遺伝子発現 \*宮崎 祐子 (岡山大学環境生命科学), 原 里美 (岡山大学農学部), 勝原 光希 (神戸大学人間発達環境), 邑上 夏菜 (神戸大学人間発達環境), 丑丸 敦史 (神戸大学人間発達環境)

**P3-037** アカマツ広域産地試験の岡山および高知における苗畑での実生の発芽特性 \*岩泉 正和 (森林総研林育七関西), 大久保 典久 (森林総研林育七関西), 飯田 啓達 (森林総研林育七関西), 河合 慶恵 (森林総研林育七関西), 三浦 真弘 (森林総研林育七関西), 那須 仁弥 (森林総研林育七東北), 磯田 圭哉 (森林総研林育七)

**P3-054** 昼夜のどちらの訪花昆虫が有効か・雄性先熟性を示すキキョウ科サイヨウシャジンの交配様式と訪花昆虫相 \*岡崎 純子 (大阪教育大学), 古屋 保 (大阪教育大学), 西浦 心太郎 (大阪教育大学), 長谷川 匡弘 (大阪市立自然史博物館)

**P3-038** 温帯性木本ツルのシュート伸長様式と光環境の関係 \*西尾 孝佳, 奥山 香澄 (宇都宮大学)

**P3-055** 緑藻の配偶子サイズのばらつきは配偶子嚢サイズのばらつきから生じる 堀之内 祐介, 吉田 航登, 富樫 辰也 (千葉大学)

**P3-039** イワウメ科の常緑多年草オオイワカガミは、多雪な場所ほど大きな葉をつけるのか? - 個葉サイズを支配する環境要因の探索 - \*谷 友和 (上越教育大学), 剣持 協 (平塚市立八幡小学校), 堀内 郁 (茅ヶ崎市立梅田小学校)

**P3-056** ハワイ諸島産ハナガサノキ属植物の性表現とつる性から樹木性への進化 \*渡邊 謙大 (沖縄工業高等専門学校), Susan Ching (DLNR DOFAW Hawaii, PEPP Hawaii), Amy Tsuneyoshi (Honolulu BWS), David G Anderson (DLNR DOFAW Hawaii), Kobey Togikawa (PEPP Hawaii)

**P3-040** 高山風衝地におけるハイマツ実生の消長 \*森廣 信子 (多摩森林科学園)

**P3-057** 雌性両全性異株植物における雌雄繁殖成功度の評価 - 両性はどれだけ雄花に近いのか? \*柴田 あかり (北大・環境), 亀山 慶晃 (東京農大・地域環境), 工藤 岳 (北大・環境)

**P3-041** 第三紀遺存種カツラにおける隠岐集団の遺伝的な位置づけ \*須貝 杏子 (鳥根大・生物資源)

## 植 物 生 活 史

**P3-042** 環境変化に対する高山植物の個体群応答: 推移行列を用いた局所個体群動態モデル \*川合 由加 (北大・地球環境科学)

**P3-058** Global drivers of vegetative dormancy \*SHEFFERSON, Richard (東京大学), Kull, Tiit (Eesti Maaülikool), Hutchings, Michael (University of Sussex)

**P3-043** オオバナノエンレイソウにおける分布域の決定要因: 生育密度の緯度勾配と気候ニッチ, 繁殖成功率, 遺伝的多様性 佐々木 駿 (山形大院・理工), 山岸 洋貴 (弘前大・白神), 大原 雅 (北海道大・地球環境), \*富松 裕 (山形大・理)

**P3-059** ハクサンハタザオにおける全ゲノム DNA メチル化の季節動態 \*伊藤 佑 (京大・生態研), 西尾 治幾 (京大・生態研), 樽谷 芳明 (国立遺伝研), 豊田 敦 (国立遺伝研), 藤山 秋佐夫 (国立遺伝研), 角谷 徹仁 (国立遺伝研, 東大・院・理), 工藤 洋 (京大・生態研)

**P3-044** 西表島の淡水湿地林における着生植物オオタニワタリの空間分布 \*吉田 智弘 (東京農工大学), 内貴 章世 (琉球大学), 佐藤 拓哉 (神戸大学), 坂山 英俊 (神戸大学)

**P3-060** 林床植物イチヤクソウ類の菌根共生系における環境変化に伴う変異 \*橋本 靖 (帯広畜産大環境)

**P3-045** 交流伝導の周波数応答特性によるクローナル植物の個体識別 \*本間 航介 (新潟大・農), 柳沢 直 (岐阜県森林アカデミー), 松久 聖子 (神戸大・院), MOTONAGA, Yoshitaka (新潟大・農)

**P3-061** 自然条件におけるハクサンハタザオの遺伝子発現の日周変化とその季節変化 \*村中 智明 (京都大・生態研), 本庄 三恵 (京都大・生態研), 川越 哲博 (京都大・生態研), 永野 惇 (龍谷大・農学), 工藤 洋 (京都大・生態研)

## 植 物 繁 殖

**P3-046** エゾヤマザクラ枝系の生死が前年の繁殖に与える影響 \*長谷川 成明 (北大・低温研)

**P3-062** 120年ぶりに開花したスズタケ種子の形態的・生理的特性 \*木村(加藤) 恵 (森林総研・林育セ), 川村 遼馬 (日大・文理), 井上 みずき (日大・文理), 齋藤 智之 (森林総研・東北)

**P3-047** 標高によるカラマツ種子の成熟時期の違い \*生 方正俊, 塙 栄一, 中島 章文 (森林総研林木育種セ)

**P3-063** サワシロギクの蛇紋岩適応に微生物は関与しているか \*西野 貴子 (大阪府立大学), 真鍋 遼 (大阪府立大学), 中村 剛士 (大阪府立大学), 福島 慶太郎 (首都大学東京), 阪口 翔太 (京都大学), 石川 直子 (東京大学), 伊藤 元己 (東京大学)

**P3-048** カタクリの鱗莖付属部は母球の底盤部に由来する \*勝川 健三 (弘前大学・教育), 小山内 圭吾 (弘前大学・教育)

植物生理生態

**P3-064** 落葉フタバガキ林で共存する *Terminalia alata* のフェノロジー異型 \*伊藤 江利子 (森林総研), Chann, Sophal (カンボジア森林局), Tith, Bora (カンボジア森林局), 古家 直行 (森林総研), 大貫 靖浩 (森林総研), 飯田 真一 (森林総研), 清水 貴範 (森林総研), 玉井 幸治 (森林総研), 壁谷 直記 (森林総研), 八木 貴信 (森林総研), 清水 晃 (森林総研)

**P3-065** ナニワズの5年間の葉フェノロジー \*橋本 徹 (森林総研北海道)

**P3-066** 葉肉細胞の複雑構造と蒸散速度の関係 \*澤上 航一郎, 館野 正樹 (東大院理・日光植物園)

**P3-067** イブキジャコウソウにおける形態および含有成分の地域的相違 \*水野 隆文 (三重大学院生資), 藤森 朝章 (三重大学生資), 近田 翠 (三重大学生資), 吉田 晴菜 (三重大学生資)

**P3-068** 葉脈パターンの種内変異および種間差 \*小山 耕平, 増田 輝久 (帯広畜産大)

**P3-069** 冬季のクマイザサの葉の色素量や光合成能 \*小野 清美 (北大・低温研)

**P3-070** ハワイフトモモにおける葉トライコームの適応的意義 Part4—光合成における葉面保水効果— \*甘田 岳 (京大・農・森林生態), 小野田 雄介 (京大・農・森林生態), 小南 裕志 (森林総研), 北山 兼弘 (京大・農・森林生態)

**P3-071** 竹林拡大のメカニズム研究 ~地上部におけるタケと樹木の光獲得競争と成長~ \*小林 慧人, 北山 兼弘, 小野田 雄介 (京大・農・森林生態)

**P3-072** ハルガヤのアレロパシーが採草地の草地構成に与えるインパクト \*平田 聡之, 毛糠 智子, 山田 敏彦 (北海道大学 FSC)

**P3-073** Optimality and plasticity of biomass allocation in elevational ecotypes of *Arabidopsis halleri* at different soil nutrient availabilities \*Qingwei WANG (東北大学, 森林総合研究所), Maya Daumal (東北大学), Soichiro Nagano (かずさDNA研究所), Naofumi Yoshida (東北大学), Shin-Ichi Morinaga (日本大学), Kouki Hikosaka (東北大学)

**P3-074** カラマツ・トドマツ苗の土壤乾燥に対する通水およびガス交換特性の反応 \*原山 尚徳 (森林総研北海道)

**P3-075** Data assimilation experiments with MODIS LAI observation and the dynamic global vegetation model SEIB-DGVM at a deciduous broad-leaved forest in Japan \*Hazuki Arakida (RIKEN AICS), Sachiko A Adachi (RIKEN AICS), Shunji Kotsuki (RIKEN AICS), Shigenori Otsuka (RIKEN AICS), Hisashi Sato (JAMSTEC), Takemasa Miyoshi (RIKEN AICS)

**P3-076** Influence of strong wind on the relationship between seed-cone production and height growth in *Abies sachalinensis* \*Seki, Takeshi (FFPRI, Hokkaido)

**P3-077** 落葉広葉樹8種における葉肉の厚さおよび飽和光合成速度の相対光強度の変化に対する可塑性 \*田中 格 (山梨県森林総合研究所), 丹下 健 (東京大学)

**P3-078** ハクサンハタザオの同一集団における気孔密度の時空間変動 \*三宅(村山) 恵子 (名大・理学研究科), 杉阪 次郎 (京大・生態研), 工藤 洋 (京大・生態研), 金岡 雅浩 (名大・理学研究科)

**P3-079** モンゴルにおける有害雑草 *Artemisia adamsii* の植物毒性: 草原構成種への他感作用と発芽の自己抑制効果 \*衣笠 利彦, 石橋 京子 (鳥取大学農学部)

**P3-080** 都市環境における風に対する樹木の生理・形態的応答 \*難波 結希, 新良貴 歩美, 野口 結子, \*石井 弘明 (神戸大学農学研究科)

**P3-081** フタバガキ科稚樹における成長の解析 \*小林 正樹 (国際農研), Kevin Kit Siong Ng (マレーシア森林研究所), Lee, Soon Leong (マレーシア森林研究所), Muhammad, Norwati (マレーシア森林研究所), 谷 尚樹 (国際農研)

**P3-082** リンゴ(ふじ) 着果枝における光合成産物の果実への移行・蓄積 \*今田 省吾, 谷 享, 多胡 靖宏, 久松 俊一 (環境科学技術研究所)

**P3-083** スギの葉の浸透圧とその変化 \*齋藤 隆実 (森林総研), 飛田 博順 (森林総研), 矢崎 健一 (森林総研), 小笠 真由美 (森林総研), 奥田 史郎 (森林総研関西), 山下 直子 (森林総研関西), 宇都木 玄 (森林総研)

**P3-084** 間伐後のヒノキ人工林における葉寿命の推定 \*稲垣 善之 (森林総研四国), 深田 英久 (高知県庁), 渡辺 直史 (高知県森林センター), 中西 麻美 (京都大学), 鶴川 信 (鹿児島大学)

**P3-085** 光照射パターンが植物成長特性におよぼす影響 \*富松 元 (国立環境研究所 生物)

**P3-086** 鉱山跡地に自生するアゼスゼ (*Carex thunbergii*) の重金属耐性機構 \*田中 翔大 (筑波大・生物資源), 山路 恵子 (筑波大・生命環境系), 春間 俊克 (筑波大院・生命環境), 中本 幸弘 (筑波大院・生命環境), 北条 友貴 (筑波大院・生命環境), 土山 紘平 (筑波大院・生命環境)

**P3-087** 落葉樹のサイズに応じた開芽タイミングの変化要因 \*長田 典之 (名城大学), 日浦 勉 (北海道大学)

**P3-088** タイ・カンチャナプリの混合落葉林において12年間の定点写真から検出した *Dillenia parviflora* の開花時期と気候の関係について \*前田 高尚 (産業技術総合研究所), Samreong Panuthai (DNP, Thailand), 辻 祥子 (京大生態研センター), 石田 厚 (京大生態研センター)

**P3-089** 光合成光阻害回避能力における緯度間・標高間種内変異 \*小口 理一, Bender, Lukas (東北大学 院 生命科学)

**P3-090** ポリアミンによる光合成への寄与とその日変化の種間比較 \*松山 泰 (京大生態研), 後藤 大也 (北里大海洋), 河田 凛 (北里大海洋), 才木 真太郎 (京大生態研), 関川 清広 (玉川大農), 中野 隆志 (富士山科学研), 安元 剛 (北里大海洋), 神保 充 (北里大海洋), 渡部 終五 (北里大海洋), 坂田 剛 (北里大一般教養), 石田 厚 (京大生態研)

**P3-091** 湿生植物の根における給気状況の評価と温度応答—根内の空隙率と酸素濃度の変化— \*中村 隆俊, 本間 陽平, 藤原 拓也, 中村 元香 (東京農大 生物産業)

**P3-092** 陰葉では何故クロロフィル b の割合が増えるのか? \*久米 篤 (九州大学), 秋津 朋子 (筑波大学), 奈佐原 顕郎 (筑波大学)

**P3-093** 貧栄養な環境の太木は、どのようにして高い樹高を維持しているのか?—熱帯泥炭湿地林の場合— \*門田 有佳子 (京都大学), 清野 嘉之 (森林総合研究所), Auldry Chaddy (熱帯泥炭研究所), Christopher Damian (熱帯泥炭研究所), Lulie Melling (熱帯泥炭研究所)

**P3-094** 落葉樹の冬季の窒素利用戦略 \*上田 実希 (日本女子・理)

# ポスター発表 3月17日(土) 9:00-17:00

(P会場 大ホール)

- P3-095** 窓を持つ多肉植物の光コントロール戦略 \*植田忠伸, 田中 秀典, 細川 洋一 (株) 豊田中央研究所) 大・総合文化), 大槻 朝 (東北大・生命), 占部 城太郎 (東北大・生命), 山田 和芳 (ふじのくに地環), 吉田 丈人 (東大・総合文化), 田辺 祥子 (滋賀県大・環境)
- P3-096** 小笠原諸島・媒島に生育する主要草本植物の環境適性: 植物栄養学および土壌肥料的アプローチ \*平 篤 俊太郎 (九州大学), 畑 憲治 (首都大学東京), 大澤 剛士 (農研機構), 川上 和人 (森林総研), 可知 直毅 (首都大学東京)
- P3-097** Growth responses of semi-arid plant species to ozone increase and/or water shortage environments \*SHIMIZU, Hideyuki (NIES), AN, Ping (ALRC-Tottori Univ.), ZHENG, Yuanrun (IB-CAS), XU, Zhenzhu (IB-CAS)
- P3-098** 耐風性と光合成生産から見たミズナラ日向/日陰シュート形態の機能的差異 \*南野 亮子 (岐阜大・流域圏セ), 南光 一樹 (森林総研), 村岡 裕由 (岐阜大・流域圏セ), 館野 正樹 (東大院理・日光植物園)
- P3-099** 南極湖底藻類群集のためのカラーパターン形成メカニズムの解明 \*水野 晃子 (名古屋大・ISEE), 田邊 優貴子 (国立極地研究所)
- P3-100** 個体呼吸スケリングの収斂はなぜ生じるかー樹木、草本、タケ、沈水植物、藻類、菌類ー \*森 茂太 (山形大学), 王 莫非 (山形大学), 相澤 拓 (山形大学), 芳賀 由晃 (山形大学), CITRA, QUR'ANI GILANG (山形大学), 黒澤 陽子 (山形大学), 吉村 謙一 (山形大学), 山路 恵子 (筑波大学), 石田 厚 (京都大学)
- P3-101** ススキの内生菌 *Chaetomium cupreum* が産生する siderophore の AI 解毒能力の評価 \*春間 俊克 (筑波大院・生命環境), 山路 恵子 (筑波大・生命環境系), 升屋 勇人 (森林総研・東北支所), 小川 和義 (筑波大・生命環境系)
- P3-102** 乾燥後の樹木水分生理機能にみられる履歴効果~強度乾燥から1年経過した父島乾性低木林樹木において \*吉村 謙一 (山形大・農), 山形 航大 (日大・生物資源), 木村 美久 (日大・生物資源), 矢崎 健一 (森林総研), 才木 真太郎 (京大・生態研), 丸山 温 (日大・生物資源), 石田 厚 (京大・生態研)

## 景 観

- P3-111** Revealing how grazing shape microbial communities with dilution experiment \*Jinny YANG (Taiwan Univ.), Gwo-Ching Gong (Taiwan Ocean Univ.), Chih-hao Hsieh (Taiwan Univ.)
- P3-112** 菌類メタバーコーディングを用いた河川水中の菌類相とその時間変動評価 \*松岡 俊将 (兵庫県大院・シミュ), 下野 義人 (三重大院・生物資源), 佐藤 博俊 (龍谷大・理工), 土居 秀幸 (兵庫県大院・シミュ)
- P3-113** 神経毒を生産するシアノバクテリア *Cuspidothrix issatschenki* の分布と生態 \*程木 義邦, 大林 夏湖, 中野 伸一 (京都大学)
- P3-114** 農村内部における里山資源の利用形態ー聞き取りと地域史料からー \*片岡 博行 (重井薬用植物園)
- P3-115** 大雪山系における衛星画像を用いたハイマツとチシマザサ分布変化の定量化と将来予測 \*雨谷 教弘 (国環研), 金子 正美 (酪農大・環境), 工藤 岳 (北大院・環境), 久保 雄広 (国環研), 小熊 宏之 (国環研)
- P3-116** 農作物の栄養供給サービスに着目したフードシェッドの都市間比較 \*土屋 一彬 (東大・農), 大澤 剛士 (農環研), 小黒 芳生 (森林総研), 古川 拓哉 (森林総研)
- P3-117** 生態系の食べ方: 全国の郷土食における生態系利用 \*古川 拓哉 (森林総研), 小柳 知代 (東京学芸大), 小川 みふゆ (東大・総合文化), 小黒 芳生 (森林総研), 吉田 丈人 (東大・総合文化)
- P3-118** 摩周湖外輪山における景観変化の検証ー大気環境と地域環境に着目してー \*山口 高志 (北海道立総合研究機構), 堅田 元喜 (茨城大学), 堀江 洋佑 (兵庫県環境センター), 福島 慶太郎 (京都大学)
- P3-119** 山形県におけるツキノワグマ目撃地点の特徴 \*斎藤 昌幸, 江成 広斗 (山形大学農学部)
- P3-120** 環境・社会要因が文化的生態系サービスに与える影響の空間スケール依存性 \*饗庭 正寛 (東北大学・生命), 柴田 嶺 (総合地球環境学研究所), 小黒 芳生 (森林研究・整備機構), 中静 透 (東北大学・生命, 総合地球環境学研究所)
- P3-121** 何がどれくらいクマの移動を妨げてる? \*Naoki OHNISHI (森林総研・東北), Takeshi Osawa (農環研)
- P3-122** 生態系サービスの教育的価値の可視化~中学校の野外学習に影響を及ぼす自然的・社会的環境の解明~ \*柴田 嶺 (総合地球環境学研究所), 饗庭 正寛 (東北大学), 中静 透 (総合地球環境学研究所)
- P3-123** 木もれびの森の成長と森に対する近隣住民の意識の変化 \*山本 知紗, 倉本 宣 (明大・農)
- P3-124** 岡山県蛇ヶ川湿原周辺における7300年前以降の火事史と植生変遷 \*佐々木 尚子, 高原 光 (京都府大・生命環境)
- P3-125** 兵庫県淡路島における景観保全による地域づくりに関する研究 \*藤原 道郎, 澤田 佳宏, 豊田 正博 (淡路景観園芸兵庫県大)
- P3-126** 文化的生態系サービスからみる海の景観利用 \*松葉 史紗子, 山北 剛久 (海洋研究開発機構)

## 菌 類 ・ 微 生 物

- P3-103** チャコウラナメクジによる VA 菌根菌の散布の可能性 \*澤島 拓夫, 勝島 洋平 (近畿大農)
- P3-104** ハナバチ類の蜜胃内容物および花粉荷に含まれる真菌類の多様性 \*平尾 章, 出川 洋介 (筑波大・菅平実験所)
- P3-105** ヤクタネゴヨウ林の縮小と菌根菌~ヤクタネシヨウ口は絶滅危惧種? \*杉山 賢子, 村田 政徳, 奈良 一秀 (東大 新領域)
- P3-106** 絶滅危惧種オオウメガサソウの共生菌と菌従属栄養性 \*本多 美佐季, 奈良 一秀 (東京大学大学院)
- P3-107** マウス一生における腸内細菌叢変動とその特徴 \*高安 伶奈, 須田 互, 服部 正平 (理研 IMS)
- P3-108** 土地利用の履歴が半自然草原の菌根菌群集に及ぼす効果 \*下野 綾子 (東邦大・理・生物), 土田 航平 (東邦大・理・生物), 大和 政秀 (千葉大・教育), 坂入 一瑛 (アジア航測), 内山 憲太郎 (森林総合研究所)
- P3-109** サンゴの環境応答に見られる種内変異を褐虫藻との共生関係から探る \*井口 亮, 善岡 祐輝 (沖縄工業高等専門学校)
- P3-110** 長野県深見池の年縞堆積物におけるシアノバクテリア群集解析 \*木村 成子 (滋賀県大・環境), 大竹 裕里恵 (東

ポスター発表 3月17日(土) 9:00-17:00

(P会場 大ホール)

- P3-127** 比良山系スギヤ池堆積物の花粉分析・大型遺体分析に基づく最終氷期最盛期以降の植生変遷 \*高原光(京都府立大学), 柴崎大樹(京都府立大学), 佐々木尚子(京都府立大学), 林竜馬(滋賀県立琵琶湖博物館), 山川千代美(滋賀県立琵琶湖博物館)
- P3-128** 野外における多視点画像取得のための移動式写真測量スタジオの開発と活用 \*野下浩司(JST さきがけ, 東京大院・農学生命), 郭威(東京大院・生態調和)
- P3-129** 水期間氷期変動にともなう気候と植生の因果関係を探る-Convergent cross mappingによる花粉動態と古気候変動の因果解析から \*林竜馬(滋賀県立琵琶湖博物館), 土居秀幸(兵庫県大院・シミュ), 潮雅之(京都大・生態研)
- 動物と植物の相互関係**
- P3-130** 中部日本のスギ林における常緑低木ヒメアオキの量的に有効な種子散布者はヒヨドリである \*北村俊平, 中川皓陽(石川県立大学)
- P3-131** Local and systemic induced glucosinolates against root herbivory follow optimal defence allocation theory \*TSUNODA, Tomonori (iDiv, 首都大), Gresser, Katharina (iDiv, Jena大), Ristok, Christian (iDiv), van Dam, Nicole M (iDiv, Jena大, Nijmegen大)
- P3-132** モンゴル北部カラマツ林におけるマイマイガ被害 \*城田徹央(信州大学), 岡庭伸平(信州大学), 田邊智子(信州大学), 井上国篤(信州大学), 藤岡薫子(信州大学), 安江恒(信州大学), Baatarbileg, Nachin (モンゴル国立大学), Oyunsanaa, Byambasuren (モンゴル国立大学)
- P3-133** 栃木県におけるシカの植生への影響評価 \*宮下彩奈, 丸山哲也, 高橋安則(栃木県林業センター)
- P3-134** 都市化による種多様性減少は送粉ネットワークのジェネラリスト化を促進するのか? \*丑丸敦史, 清水健将, 平岩将良(神戸大学人間発達環境)
- P3-135** 都市化により植物群集の繁殖成功は低下するのか?—開花量減少と送粉者相変化の影響— \*平岩将良, 清水健将, 丑丸敦史(神戸大・人間発達環境)
- P3-136** 送粉系における庭の花の機能—都市景観におけるマルハナバチ群集の採餌パターン— \*中村祥子(森林研究・整備機構, 北海道大学), 工藤岳(北海道大学)
- P3-137** 双翅目訪花者に色への好みはあるのか?-パントラップを用いた検証- \*辻本翔平, 角屋真澄, 石井博(富山大学)
- P3-138** ハクサンカメバヒキオコシの葉の切れ込みはオトシブミへの産卵防衛として機能しているか? \*樋口裕美子, 川北篤(京大・生態研)
- P3-139** 遺伝子発現解析から見える多年生草本植物におけるウイルス-宿主相互作用の季節動態 本庄三恵(京都大学・生態研), 永野惇(京都大学・生態研, 龍谷大学・農学部), 川越哲博(京都大学・生態研), 杉原次郎(京都大学・生態研), 栄村奈緒子(京都大学・生態研), 神谷麻梨(京都大学・生態研, 龍谷大学・農学部), \*工藤洋(京都大学・生態研)
- P3-140** 外来種ムラサキツメクサの花粉に含有される栄養解析 \*日下石碧, 森誠, 横井智之(筑波大・院・保全生態)
- P3-141** シロチョウの異なったグルコシノレート組成に対する適応遺伝子の発現応答 \*岡村悠(千葉大学 理学研究科), Vogel, Heiko (Max Planck Institute), 村上正志(千葉大学 理学研究科)
- P3-142** カンコノキ絶対送粉共生系において宿主を共有する2送粉者の共生性比較 \*古川沙央里, 川北篤(京大・生態研)
- P3-143** Specificity and host-shifts in Neotropical leafmining moths (Lepidoptera, Gracillariidae) Muriene, Jérôme (Toulouse University), Lopez-Vaamonde, Carlos (Tours University), \*MARRE, Maxime (Toulouse University)
- P3-144** 節足動物における植物ホルモン(オーキシン, サイトカイニン)内生量の比較および植食性の進化との関連 \*徳田誠(佐賀大・農), 鈴木義人(茨城大・農), 安達修平(鹿児島大院・連合農学), 藤田将平(佐賀大・農)
- P3-145** 防鹿柵設置による植生回復が訪花昆虫に与える効果について(大台ヶ原での事例) \*樋口高志(株環境総合テクノス), 樋口香代(株環境総合テクノス), 平岩将良(神戸大学), 丑丸敦史(神戸大学)
- P3-146** ポリネーター種組成の差異がもたらす異型花柱性植物の繁殖成功度の季節変化 \*森脇大樹, 亀山慶晃, 武生雅明(東京農業大学)
- P3-147** ジャワ島東部におけるニジュウヤホシテントウによるマメ科寄主への適応 \*藤山直之(山形大学), 上野秀樹(新潟大学), Sih Kahono (インドネシア科学院), Sri Hartini (インドネシア科学院), 片倉晴雄(北海道大学)
- P3-148** スギの地理変異が土壌動物群集に与える影響 ~ Ca および P の可給性変化を介して~ \*太田民久(富山大学, 総合地球環境学研究所), 丹羽慈(自然環境研究センター), 日浦勉(北海道大学)
- P3-149** 哺乳類と鳥類によるツツジ科小低木(ガンコウラン, クロマメノキ, シラタマノキ, コケモモ)の果実利用: 浅間山高山帯における果実食者の垂直分布に着目して \*高橋一秋(長野大環境ツーリズム), 向山大智(長野大環境ツーリズム), 佐伯幸祐(長野大環境ツーリズム), 小出悠太朗(長野大環境ツーリズム), 川本謙伍(長野大環境ツーリズム), 甘利大河(長野大環境ツーリズム), 井出萌(長野大環境ツーリズム), 高橋香織(クマ棚ネットワーク)
- P3-150** 蜜報酬を伴うキノコバエ媒花における香りの化学組成: 5科の植物における共通性の検討 \*望月昂, 川北篤(京大生態研)
- P3-151** ツツジ科小低木(ガンコウラン, クロマメノキ, シラタマノキ, コケモモ)の果実特性 ~形態と栄養成分~ \*高橋香織(クマ棚ネットワーク), 甘利大河(長野大環境ツーリズム), 井出萌(長野大環境ツーリズム), 佐伯幸祐(長野大環境ツーリズム), 小出悠太朗(長野大環境ツーリズム), 川本謙伍(長野大環境ツーリズム), 高橋一秋(長野大環境ツーリズム)
- P3-152** 哺乳類各種の種子の散布環境の比較 \*小池伸介(東京農工大学)
- P3-153** 蝶形花ウジルカンダの裂開のしにくさによる送粉者の限定 \*小林峻, 広瀬裕一, 傳田哲郎, 伊澤雅子(琉球大学)
- P3-154** 人工林風倒跡地の二次遷移にともなうシカ採食圧下での種組成変化 \*吉川正人, 中田真菜, 瀬川芽衣, 豊田明日香, 加藤絵里子, 相場芳憲(東京農工大学)
- P3-155** 動物の体サイズと種子体内滞留時間とのアロメトリー: 恐竜などの絶滅動物の種子散布能力を推定する \*吉川徹朗(京都大学), 川上和人(森林総研), 正木隆(森林総研)
- P3-156** ミズヒキの食害に環境要因が与える影響 堀井恭平, 古谷祐平, 石崎智美(新潟大・院・自然研)

ポスター発表 3月17日(土) 9:00-17:00

(P会場 大ホール)

進 化

- P3-157** スクミリングガイにおける少数遺伝子による性決定 遊佐 陽一, \*熊谷 菜摘 (奈良女子大学大学院)
- P3-158** フタイロカミキリモドキ *Oedemera sexualis* の性的形質に見られる種内変異 \*立田 晴記 (琉球大学), 小笠航 (琉球大学), 里見 大輔 (神戸大学), 工藤 慎一 (鳴門教育大学), 小汐 千春 (鳴門教育大学)
- P3-159** 北海道・石川県におけるドジョウ隠蔽種, 交雑種の生息状況 \*森田 圭吾, 岡田 龍也, 北川 忠生 (近大院農)
- P3-160** ヤスデ類におけるミュー型擬態を含む体色の多様化 \*田辺 力 (熊本大・教育), 本間 淳 (琉大・農), 持田 浩治 (慶應大・経済), Marek, Paul (Virginia Tech), 曾田 貞滋 (京大・院理), 松井 久実 (麻布大・獣医), 桑原 保正 (大阪府和泉市)
- P3-161** 群集構造に依存した捕食者の体サイズ分化: 気候・餌サイズ・近縁種の相対的重要性 \*阿崎 稔 (北海道大学), 曾田 貞滋 (京都大学)
- P3-162** クサトベラの種子散布に関わる果実二型の比較トランスクリプトーム解析 \*柴村 奈緒子 (京大・生態研), 内貴 章世 (琉大熱生園), 梶田 忠 (琉大熱生園), 吉永 新 (京大院・農), 高部 圭司 (京大院・農), 本庄 三恵 (京大・生態研), 工藤 洋 (京大・生態研)
- P3-163** 紫外線暴露はシロオビアゲハの擬態形質の発現にエピジェネティックな変化をもたらす \*加藤 三歩 (鹿児島大学, 琉球大学), 立田 晴記 (鹿児島大学, 琉球大学), 辻 和希 (鹿児島大学, 琉球大学)
- P3-164** キイチゴ属の姉妹種を用いた適応的遺伝子の検出 \*菅 美保子, 三村 真紀子 (玉川大・農)
- P3-165** 体サイズ進化の遺伝基盤; モデル生物 *C. elegans* と近縁種 *C. inopinata* の比較 \*稲田 垂徳, 津山 研二, 牧野 能士, 杉本 亜砂子, 河田 雅圭 (東北大生命)
- P3-166** 韓国産キゴキブリ *Cryptocercus kyebangensis* の共生原生物組成 \*北出 理 (茨城大学), Park, Yung Chul (Kangwon University), 徳田 岳 (琉球大学)

生 物 多 様 性

- P3-167** 6つの生物分類群由来 DNA を環境 DNA からそれぞれ特異的に検出する \*半田 佳宏, 野口 佳代子, 黒田 紀子, 中野 江一郎 (株式会社 生物技研)
- P3-168** 埼玉県の汽水域において集魚灯で確認された魚類について \*金澤 光 (埼玉環境科学国際セ)
- P3-169** 北海道トドマツ保護林のEST-SSRによる遺伝的多様性と分化 \*北村 系子 (森林総合研究所), 後藤 晋 (東京大学), 石塚 航 (北海道立総合研究機構), 内山 憲太郎 (森林総合研究所), 津山 幾太郎 (森林総合研究所), 久本 洋子 (東京大学), 種子田 春彦 (東京大学)
- P3-170** Long-term patterns of seaweed production in Japan \*CHEN Hungyen (National Taiwan Univ)
- P3-171** How the biodiversity and ecosystem functioning relationship varies depending on functional specificity \*CHENG, Wan-hsuan (CES, NCU, TIGP, AS), Miki, Takeshi (IO, NTU), Hsieh, Chih-hao (IO, NTU)
- P3-172** MIG-seq 法を用いた在来 2 倍体タンポポの遺

传的集団構造 \*満行 知花 (九大・理), 渡邊 幹男 (愛教大・自然科学), 陶山 佳久 (東北大・農)

- P3-173** 河川生態系の生物多様性とリン循環機能 \*奥田 昇 (地球研), 石田 卓也 (地球研), 上原 佳敏 (地球研), 池谷 透 (地球研), 浅野 悟史 (琵琶研), 岩田 智也 (山梨大・院総合), Chia-Ying Ko (臺灣大・水産科学), Elfritzon Peralta (サントトーマス大), Osbert Leo Privaldos (ラグナ湖開発局), Irisse Bianca De Jesus (サントトーマス大), Ellis Mika Trino (サントトーマス大), 尾坂 謙一 (滋賀県大・環境科学), 陀安 一郎 (地球研)
- P3-174** スイセンハナアブとマルハナバチ: 擬態者とモデルの発生時期の比較 \*須島 充昭 (東大総合文化)
- P3-175** プレート移動に基づく島嶼からの植物の再移入が本土における種多様化に与える影響 \*阿部 晴恵 (新潟大・農), 渡辺 洋一 (千葉大・園芸), 長谷川 雅美 (東邦大・理)
- P3-176** 霞ヶ浦流域河川における環境 DNA を用いた魚類の種多様性評価 \*今藤 夏子 (国立環境研・生物), 松崎 慎一郎 (国立環境研・生物), 角谷 拓 (国立環境研・生物), 山口 晴代 (国立環境研・生物), 安藤 温子 (国立環境研・生物), 中嶋 信美 (国立環境研・生物), 高津 文人 (国立環境研・地域), 渡邊 未来 (国立環境研・地域), 小松 一弘 (国立環境研・地域), 霜島 孝一 (国立環境研・琵琶湖), 中川 恵 (国立環境研・生物), 伊藤 洋 (総研大・先端科学), 大澤 剛士 (農研機構・農環変動セ), 三枝 信子 (国立環境研・地球), 高村 典子 (国立環境研・琵琶湖)
- P3-177** 農業水路網での魚類相調査における環境 DNA 分析の有用性 \*丸山 敦 (龍谷大学), 高田 恭輔 (龍谷大学), 麻田 弥希 (龍谷大学), 渡邊 和希 (龍谷大学), 佐藤 博俊 (龍谷大学), 米倉 竜次 (岐阜県水産研究所), 山中 裕樹 (龍谷大学)
- P3-178** 哺乳類 4 種の糞によるベイトトラップに誘引された糞虫相の比較 \*小林 尚暉 (帝京科学大学), 高槻 成紀 (麻布大学), 下岡 ゆき子 (帝京科学大学)
- P3-179** 全ゲノム比較解析より判明した日本侵入後に生じたミジンコ *Daphnia pulex* の遺伝的変異 \*大槻 朝 (東北大・院・生命), 乗松 大智 (東北大・理・生物), 牧野 能士 (東北大・院・生命), 牧野 渡 (東北大・院・生命), 占部 城太郎 (東北大・院・生命)
- P3-180** 植物多様性は分解機能の経時安定性に貢献するか?: 内モンゴル・ステップ草原での検証実験 \*岡田 慶一 (横浜国大環境情報), 内田 圭 (横浜国大環境情報), 佐々木 雄大 (横浜国大環境情報), 藤井 佐織 (アムステルダム自由大), Lu, Xiaoming (中国科学院植物研究所), Bai, Yongfei (中国科学院植物研究所), 森章 (横浜国大環境情報)
- P3-181** 琵琶湖の過去 100 年にわたるミジンコ・ウイルス相解析の試み \*槻木(加) 玲美 (松山大学), 本庄 三恵 (京都大学), 加 三千宣 (愛媛大学)
- P3-182** 南西諸島における植物相の島嶼間類似度 \*鈴木 英治, 宮本 旬子 (鹿児島大学理工学)
- P3-183** 熱帯林の断片化景観における種多様性とそれに影響を与える要因 \*竹内 やよい (国立環境研究所), 鮫島 弘光 (IGES), Bibian Diway (サラワク森林公社)
- P3-184** 環境 DNA メタバーコーディングに基づく福岡県今津干潟の魚類相の解明 \*會津 光博 (九州大学), 清野 聡子 (九州大学), 佐土 哲也 (千葉県立中央博物館), 宮 正樹 (千葉県立中央博物館)
- P3-185** コンクリート上の赤いダニはどこから来たのか? \*鳥野 智之 (法政大学), 蛭田 眞平 (国立科学博物館), 芝 実 (松山東雲短期大学)
- P3-186** 京の”みどり”そだてるつながる研究所づくり～

# ポスター発表 3月17日(土) 9:00-17:00

(P会場 大ホール)

京の草地ビオトープ～ \*能勢 泰祐(積水化学工業), 仲 義輝(積水化学工業), 岡上 純(積水化学工業), 原田 康平(セキスイビジネスアソ), 後閑 晴敏(セキスイビジネスアソ), 石山 麻子(地域環境計画), 林 伸子(地域環境計画), 中島 拓(地域環境計画), 千々岩 哲(地域環境計画), 行徳 昌則(ランドスケープデザイン), 石浦 邦章(ランドスケープデザイン), 平野 理識(ランドスケープデザイン)

が昆虫と土壌動物の種多様性に与える影響 \*近藤 博史(神奈川県自然環境保セ), 田村 淳(神奈川県自然環境保セ), 遠藤 幸子(神奈川県自然環境保セ), 谷脇 徹(神奈川県自然環境保セ), 成瀬 真理生(神奈川県自然環境保セ), 指村 奈穂子(神奈川県自然環境保セ), 伊藤 雅道(駿河台大), 青木 淳一(元・生命の星・地球博)

P3-187 北海道の農村地域に生息する鳥類 \*玉田 克巳(道総研)

P3-203 熱帯山地林樹木群集組成に対する過去の伐採攪乱および標高の影響 \*矢納 早紀子, 藤木 庄五郎, 青柳 亮太, 北山 兼弘(京大・農・森林生態)

P3-188 MappEnv を用いた生物種分布マップ作成イベント \*根本 航, 土屋 大樹, 雨宮 雄一, 上原 歩(東京電機大学・理工)

P3-204 ボルネオ熱帯雨林に共存する近縁樹種間のニッチの多様化 \*奥野 聖也(大阪市大・院理), 殷 亭亭(大阪市大・院理), 名波 哲(大阪市大・院理), 伊東 明(大阪市大・院理), 松山 周平(酪農学園大・農食環境), Stuart Davies (CTFS), Sylvester Tan (CTFS), Mohizah B. Mohamad (サラワク森林局)

P3-189 地生への適応が Cymbidium 属の多様化に与えた影響 \*茶木 慧太(千葉大学・理), 遊川 知久(国立科学博物館)

P3-205 雑種体を形成するミドリイシ属サンゴ集団の遺伝的關係 \*磯村 尚子(沖縄高専), Jean-François Flot (ブリュッセル自由大学), 守田 昌哉(琉球大学), 深見 裕伸(宮崎大学)

P3-190 3D モデルを用いた着生植物の分布調査手法の開発 \*丸尾 文乃, 和田 直也(富山大極東センター)

P3-206 都市の生物多様性の評価に適した指標種とは? \*益子 美由希, 荒金 恵太, 舟久保 敏(国総研)

P3-191 本州中部山岳における高山植物種多様性の地理的分布パターン \*尾関 雅章, 石田 祐子(長野県環境保全研)

P3-192 保管温度による標本中の DNA の急速な分解 \*長太 伸章(国立科学博物館)

P3-207 生物多様性地域戦略で進める生態系保全と地域づくり \*増澤 直(株式会社地域環境計画)

P3-193 亜熱帯照葉樹林における流水性トンボを用いた河畔林-河川エコトーンの生物多様性ホットスポットの評価 \*境 優(中大・理工), 須田 真一(中大・研), 楠田 太一(中大・研), 野村 諒輔(中大・理工), 鷺谷 いづみ(中大・理工)

P3-208 中山間地における耕作水田の水生物相は環境保全型農業によってどう変わるのか \*浅野 悟史(滋賀県・琵琶湖研セ), 上原 佳敏(総合地球環境学研究所), 石田 卓也(総合地球環境学研究所), 池谷 透(総合地球環境学研究所), 奥田 昇(総合地球環境学研究所)

P3-194 Exploration of potential external processes acting on species and community assemblies of acidophilic microalgae in acidic geothermal sites across West Pacific Island Chains \*Tzu yen HUANG (Tunghai Univ.)

P3-209 宿主の自然史標本から寄生関係を明らかにする: ウオノ工科等脚類での試み \*川西 亮太(北大・院・地球環境)

P3-195 スキー場における草原性植物種の分布とその決定要因 \*矢井田 友暉(神戸大学), 田中 健太(筑波大学), 小黒 和也(筑波大学), 長井 拓馬(神戸大学), 内田 圭(横浜国立大学), 勝原 光希(神戸大学), 丑丸 敦史(神戸大学)

## 数 理

P3-210 呼吸反応に着目した微生物群集の多様性と生態系機能の関係 \*中村 瑞稀, 瀬戸 蘭美(奈良女子大学)

P3-196 様々な空間スケールでの樹木群集の系統的多様性分布 \*伊東 明(大阪市大・院理), 殷 亭亭(大阪市大・院理), 奥野 聖也(大阪市大・院理), 名波 哲(大阪市大・院理), 松山 周平(酪農学園大・農食環境), Sylvester Tan (CTFS), Stuart Davies (CTFS), Mohizah B. Mohizah (サラワク森林局)

P3-211 物質循環を考慮したアキュアポニックスに関する数理モデルの構築と収量予測 \*岩田 繁英(東京海洋大学)

P3-197 ホストとパートナーは1対1か?: 樹木個体における共生細菌の遺伝的多様性 \*鍵谷 進乃介(北大・環境科学院), 九町 健一(鹿児島大・理学部), 内海 俊介(北大・FSC)

P3-212 密度依存の偏りが被食者-捕食者間の相利を形成する \*笠井 敦(静岡大・農・応用昆虫)

P3-198 タマミジンコ(Moina属)の「正しい」種判別とその応用 \*牧野 渡(東北大・生命科学)

P3-213 日本の人口移動を考慮した HTLV-1 の拡散予測に向けて \*伊東 啓(東京大学, 長崎大学熱研), 小林 志穂美(静岡大学), 守田 智(静岡大学)

P3-199 植物を愛する街、○×△□へようこそ!: Tweetに含まれる植物を説明する要因 \*小黒 芳生(森林総研)

P3-214 耕作放棄の一次元進行モデル-異なる利害を持つ農家間で協力は達成できるか? \*大槻 久(総合研究大学院大学), Thomas Reeves (総合研究大学院大学), 福井 眞(早稲田大学)

P3-200 発生時期の異なる餌生物が維持するアシナガグモ属の個体群 \*筒井 優(東京大学・農), 馬場 友希(農業環境変動研究セ), 田中 幸一(農業環境変動研究セ), 宮下 直(東京大学・農)

P3-215 因果推論に基づいた数理モデル構築: 太平洋クロマグロの加入量予測モデルを例として \*中山 新一朗(国際水産資源研究所)

P3-201 EST-SSR マーカーを用いたサイカチマメゾウムシ国内個体群の遺伝的組成 \*大林 夏湖(京大・生態研センター, 東大・広域システム), 石川 直子(東大・広域システム), 程木 義邦(京大・生態研センター), 岡田 泰和(東大・広域システム), 伊藤 元巳(東大・広域システム), 嶋田 正和(東大・広域システム)

P3-216 局所的な不妊虫放飼で野生虫を大域的に根絶するための条件 \*IKEGAWA, Yusuke(琉球産経, 沖縄防技センター, 琉球大学・農), HIMURO, Chihiro(琉球産経, 沖縄防技センター, 琉球大学・農), HONMA, Atsushi(琉球産経, 沖縄防技センター, 琉球大学・農)

P3-202 スギ・ヒノキ林におけるリター供給と林床植生

P3-217 シミュレーションによる納豆菌(*basillus var. subtilis natto*)コロニーのパターン形成の格子確率モデルによる解析 伊藤 翔太(兵庫県立大学), 向坂 幸雄(中村学園大学), \*中桐 斉之(兵庫県立大学)

P3-218 耕作を通じた農家の害虫管理協力行動 \*福井 眞(早稲田大学)

生態系管理

**P3-219** 水産資源管理へのプロスペクト理論の応用 \*大西 修平 (東海大学)

**P3-220** 京都でコウノトリは繁殖し定着できるか \*森 豊彦 (人と自然の共生ネット)

**P3-221** カメラトラップと罟捕獲を利用したイノシシの個体数推定法の開発 \*笠田 実 (東京大学), 横溝 裕行 (国立環境研究所), 中島 啓裕 (日本大学), 矢島 豪太 (日本大学), 横山 雄一 (東京大学), 宮下 直 (東京大学)

**P3-222** 大規模風倒かく乱後の風倒木搬出が森林の炭素蓄積に与える長期的影響 \*森本 淳子 (北大院農学研究院), 梅林 利弘 (北大院農学研究院), 堀田 亘 (北大農学部), 鈴木 智 (東大秩父演習林), 尾張 敏章 (東大北海道演習林), 井上 貴央 (北大北方生物園セ), 柴田 英昭 (北大北方生物園セ), 渋谷 正人 (北大院農学研究院), 石橋 聰 (森林総研北海道支所)

**P3-223** 休廃止鉱山周辺の河川における底生動物調査: 対照地点とどの程度“同じ”なら許容可能か? \*岩崎 雄一 (産業技術総合研究所), 藤沢 めぐみ (横浜国立大学), 萩野 激 (北海道立総合研究機構), 眞野 浩行 (産業技術総合研究所), 篠原 直秀 (産業技術総合研究所), 益永 茂樹 (横浜国立大学), 加茂 将史 (産業技術総合研究所)

**P3-224** 台風に伴う風倒かく乱後の倒木搬出が山火事発生リスクに与える影響 \*梅林 利弘 (北大・院・農), 森本 淳子 (北大・院・農), 鈴木 透 (酪農大・環境), 小野 貴司 (酪農大・環境), 小川 健太 (酪農大・環境)

**P3-225** 東京の都市公園における食品廃棄物に集まるアリ群集と持ち去り速度 \*坂坂 哲朗, 邸 琳, 江口 克之, 沼田 真也 (首都大学東京)

**P3-226** マラウイ湖国立公園における森林資源の利用と保全 \*林 珠乃 (龍谷大学理工学部, 龍谷大学里山研), 遊磨 正秀 (龍谷大学理工学部, 龍谷大学里山研), 太田 真人 (龍谷大学里山研), Patrick Chinguwo (LMNP), Bosco Rusuwa (University of Malawi), Richard Zatha (University of Malawi, Chembe Village), Gibson Kamanje (Chembe Village), 丸山 敦 (龍谷大学理工学部, 龍谷大学里山研)

**P3-227** ビッグデータで植物の季節変化を解明する \*伊勢 武史 (京都大学, JST さきがけ), 渡部 俊太郎 (京都大学)

**P3-228** 目撃情報を用いたニホンジカ管理手法の検討 \*立脇 隆文 (人間環境大学), 中西 敬宏 (株) マップクエスト), 江口 則和 (愛知県新城設楽農林, 愛知県森林セ, 北大院農), 栗田 悟 (愛知県森林セ), 釜田 淳志 (愛知県森林セ), 石田 朗 (愛知県森林セ)

**P3-229** 霧ヶ峰高原の大規模防鹿柵設置がもたらす草原性昆虫及び植物多様性への保全効果 \*中浜 直之 (東京大・総合文化), 岩崎 貴也 (神奈川大・理), 内田 圭 (横国大・環境情報), 小山 明日香 (東京大・農), 尾関 雅章 (長野県環境保全研), 須賀 丈 (長野県環境保全研)

**P3-230** ブロッキングプライマーは希少種を検出できるか? -ボルネオ島塩場の環境 DNA- \*石毛 太一郎 (東京農業大学ゲノム), 松林 尚志 (東京農業大学)

**P3-231** 福島県の避難指示区域解除過程における飛翔性昆虫群集 \*吉岡 明良, 三島 啓雄, 熊田 那央, 深澤 圭太 (国立環境研究所)

**P3-232** マングローブ林管理における林床のオルソモザイク画像の有効性 \*丹羽 英之 (京都学園大学), 竹村 紫苑 (中央水産研究所), 鎌田 磨人 (徳島大学), 今井 洋太 (徳島大学)

**P3-233** 標津湿原の地下水位と水質 \*神田 房行 (北方環境研究所), 小野 哲也 (標津町教育委員会), 標津高等学校 生徒達 (北海道立標津高等学校)

**P3-234** エゾシカ採食圧による草原植生の消失と回復過程 \*渡辺 修 (さっぽろ自然調査館), 丹羽 真一 (さっぽろ自然調査館), 渡辺 展之 (さっぽろ自然調査館), 石川 幸男 (弘前大学)

**P3-235** イノシシの成長パターンと捕獲情報管理への応用 \*横山 真弓, 高木 俊, 栗山 武夫, 東出 大志 (兵庫県立大学)

**P3-236** なわばりアユによる石礫の露出高の利用 \*小野田 幸生 (土研・共生セ), 堀田 大貴 (株建設技術研究所), 兼頭 淳 (土研・共生セ, 株建設技術研究所), 萱場 祐一 (土研・河川生態)

**P3-237** 日本の生物多様性地域戦略における多様な主体の参加と伝統知・地域知の役割 \*小川 みふゆ (東大・総合文化), 奥井 かおり (東大・総合文化), 今井 葉子 (筑波大・システム情報), 曾我 昌史 (東大・農), 吉田 丈人 (東大・総合文化)

**P3-238** トドマツ人工林保残伐造林地におけるトドマツオオアブラムシと随伴アリの関係 \*佐藤 重徳 (森林総研北海道), 稲荷 尚記 (森林総研北海道), 尾崎 研一 (森林総研), 佐山 勝彦 (森林総研北海道), 山中 聡 (森林総研北海道)

**P3-239** シカ・イノシシの狩猟データからみた密度指標の経年変化分析 \*高木 俊, 栗山 武夫, 東出 大志, 横山 真弓 (兵庫県立大学)

**P3-240** Soil properties and enzyme activities by the type of vegetation establishment in the dry aral sea, Kazakhstan Jiae An, Seong Jun Kim, Hanna Chang Jusub Kim, \*Yowhan SON (Korea Univ.)

**P3-241** 琵琶湖外来魚種の胃内容物メタゲノム解析による食性調査と生態系に与える影響の評価 \*西郷 甲矢人, 上野 貴大, 村瀬 佳乃, 堀内 彩香, 澁谷 仁寿, 嶺井 隆平, 小倉 淳 (長浜バイオ大学)

**P3-242** 自動撮影カメラによるシカ・イノシシの生息密度推定と痕跡・捕獲密度指標との比較検討 \*東出 大志 (兵庫県立大学), 栗山 武夫 (兵庫県立大学), 高木 俊 (兵庫県立大学), 中島 啓裕 (日本大学), 深澤 圭太 (国立環境研究所), 横山 真弓 (兵庫県立大学)

**P3-243** 人工林伐採地での広葉樹の保持は鳥類による害虫捕食圧を増加させるか? ダミーイモ虫を用いた検証の試み \*河村 和洋 (北大院・農), 山浦 悠一 (森林総研・植生, ANU), 雲野 明 (道総研・林試), 山中 聡 (森林総研・北海道), 佐藤 重徳 (森林総研・北海道)

**P3-244** 芦生研究林内保存木の保全生態学的研究一着生植物群集と林冠土壌一 \*東 若葉 (京大院・農), 中西 晃 (琉球大・農), 駒田 夏生 (京大院・農), 小川 裕也 (京大院・農), 岩岡 史恵 (京大院・農), 西田 圭佑 (京都嵯峨野高), 神崎 護 (京大院・農), 野口 結子 (神戸大院・農), 石井 弘明 (神戸大院・農)

**P3-245** 極端な気象現象下での緑地機能について \*Yanagawa, Aki, Kanae, Shinjiro (東京工業大学)

**P3-246** 世界における洪水規模と人々の移動の関係 \*柿沼 薫 (東京工業大学, Columbia University, NASA GISS), Michael Puma (Columbia University, NASA GISS), 平林 由希子 (東京大学), 鼎 信次郎 (東京工業大学)

**P3-247** 圃場整備後の小河川における階層モデルを用いた魚類の個体数変動の推定と変動要因の解明 \*森 晃 (千葉県多様性センター), 水谷 正一 (宇都宮大学), 守山 拓弥 (宇都宮大学農学部), 鈴木 正貴 (岩手県立大学)

**P3-248** 人口および気候変動を考慮した将来土地利用シナリオの構築 \*藤田 知弘 (国立環境研究所), 有賀 敏典 (国立環境研

# ポスター発表 3月17日(土) 9:00-17:00

(P会場 大ホール)

究所),大橋 春香(森林総合研究所),脇岡 靖明(国立環境研究所),  
深澤 圭太(国立環境研究所)

**P3-249** 谷戸環境における涵養林の林相変化と湿地植生への影響 \*竹内 大悟,平塚 基志(早稲田大学)

**P3-250** ニホンジカの生息密度と植生被害タイプの関係 \*松本 直輝,笠木 哲也(公立鳥取環境大学)

**P3-251** 現在のシカ生息密度の規定要因は何か~激減期の分布域を考慮した検討~ \*幸田 良介(大阪環農水研),原口 岳(総合地球環境学研究所)

**P3-252** ドローン搭載熱赤外カメラによる大型哺乳類調査:鳥取砂丘周辺における個体数の季節変化 \*伊藤 健彦(鳥取大学),宮崎 淳志(京都大学),小山 里奈(京都大学),鎌田 季紗(鳥取大学),永松 大(鳥取大学)

**P3-253** 表参道・原宿地域の屋上緑化地における野鳥の利用形態の把握 \*北村 亘(東京都市大学),吉村 海(東京都市大学),小溝 弘貴(東京都市大学),川崎 鉄平((株)石勝エクステリア),三瓶 徳孝((株)東急不動産 R&D.C)

**P3-254** シカは二次遷移を止めるか?二次林伐採+シカ柵実験の8年間の軌跡から \*鈴木 牧(東大・新領域),高木 豊大(東大・新領域),三次 充和(東大・千葉演習林),軽込 勉(東大・千葉演習林),藤平 晃司(東大・秩父演習林),久本 洋子(東大・千葉演習林),楠本 大(東大・田無演習林)

**P3-255** マラウィ北部における人為攪乱がミオンボ林の種組成,樹木の機能形質に与える影響 \*山科 千里(筑波大学)

**P3-256** 鳥取県における社寺林の樹木医学的研究 \*佐野 淳之(鳥取大学)

## 外 来 種

**P3-257** 小笠原諸島における外来樹トクサバモクマオウ駆除後の外来樹ギンネムの侵入が在来植物の定着に及ぼす影響 \*畑 憲治(首都大院・理工),川上 和人(森林総研),可知直毅(首都大院・理工)

**P3-258** 常呂川水系仁頃川におけるウチダザリガニ防除方法の検討 酒井 勇輔,田村 漱祐,平野 由佳,\*村林 宏(日赤北海道看護大学)

**P3-259** 近畿地方におけるアメリカオニアザミの分布 \*藤井 俊夫(人と自然の博物館),長谷川 匡弘(大阪市立自然史博物館),横川 昌史(大阪市立自然史博物館),外来生物プロジェクト A(大阪市立自然史博物館)

**P3-260** 農地整備を考慮したアライグマによるカエル類への影響評価 \*栗山 武夫,高木 俊(兵庫県立大学)

**P3-261** セイヨウオオマルハナバチと在来マルハナバチは共存できるのか?一植生利用及び訪花パターンの比較 \*西川 洋子,島村 崇志(道総研環境研)

**P3-262** ニホンイシガメはアライグマに襲われやすい \*多田 哲子(京都府保健環境研究所),坂 雅宏(京都府保健環境研究所),西堀 智子(和亀保護の会)

**P3-263** カメ由来環境DNAを検出するユニバーサルプライマーの検討 \*山川 央(かずさDNA研究所),横山 覚(かずさDNA研究所),浅見 結實(かずさDNA研究所),柴田 大輔(かずさDNA研究所),宮 正樹(千葉県立中央博物館)

**P3-264** 効果的・効率的アライグマ防除対策の構築に向けて \*池田 透,鈴木 嵩彬,小林 あかり,槻田 和史(北海道大学)

**P3-265** 寄主植物調査による外来昆虫の根絶確認法 \*本間 淳(琉球産経(株),沖縄病害虫防技セ,琉球大学)

**P3-266** ニューギニアヤリガタリクウズムシのポット苗からの駆除手法の検討一島間移動を防ぐために一 \*佐藤 里沙,村尾 未奈,藤田 夏子,瀬戸 智大,南波 興之,大河内 勇(日本森林技術協会)

**P3-267** 大阪府の外来鳥類ソウシチョウの繁殖分布:市民参加型調査の結果 麻野 浩(大阪鳥類研究グループ),稲葉 満里子(大阪鳥類研究グループ),熊代 直生(大阪鳥類研究グループ),齊藤 健(大阪鳥類研究グループ),高石 良子(大阪鳥類研究グループ),藤田 俊兒(大阪鳥類研究グループ),藤田 美智子(大阪鳥類研究グループ),\*和田 岳(大阪市立自然史博物館,大阪鳥類研究グループ)

**P3-268** 霞ヶ浦周辺地域におけるカワヒバリガイ幼生の経年変動と環境要因の関係 \*伊藤 健二(農研機構・農業環境セ)

**P3-269** ツマアカスズメバチに対するベイトトラップの捕獲効率の評価 \*岸 茂樹,池上 真木彦,五箇 公一(国立環境研)

**P3-270** 小笠原諸島に侵入した外来ヒモムシによる土壌性甲殻類の減少 \*篠部 将太郎(東北大・生命科学),内田 翔太(東北大・生命科学),森 英章(自然環境研究センター),大河内 勇(日本森林技術協会),千葉 聡(東北大・生命科学,東北大・東北アジア)

**P3-271** 豊田市の逢妻女川と逢妻男川におけるミシシッピーアカミミガメの防除:民・産・学・官の協働による広域一斉防除の試み \*浜崎 健兒(豊田市矢作川研),山本 大輔(豊田市矢作川研),田村 ユカ(名大院・環境),村山 恒也(自然研),井上 隆(自然研),高橋 洋生(自然研),戸田 光彦(自然研),矢部 隆(愛知学泉大)

## 生態学教育・普及

**P3-272** 外来種に関する調べ学習をどうやるか一高校1年生対象の授業実践の結果から一 \*山野井 貴浩(白鷗大学教育学部),谷津 潤(佐野日本大学高等学校)

**P3-273** 生態学教育はアクションゲームになりますか? KABURI CANVAS の挑戦 \*SUDO, Masaaki (<https://sudoriinfo/>, 農研機構)

**P3-274** 多様な主体の参画と協働を促す交流イベントの生物多様性の主流化への効果一普及啓発イベント「生物多様性協働フォーラム」の実践とその効果の検証 \*橋本 佳延(兵庫県博),西田 貴明(MURC),三橋 弘宗(兵庫県立大自然研,兵庫県博),佐久間 大輔(大阪市立自然史博物館),宮川 五十雄(生物多様性かんさい),上原 一彦(大阪環農水研・水生セ)

**P3-275** 博物館における生物動画データベースの公開と運用 \*石田 惣(大阪市立自然史博物館),中田 兼介(京都女子大学),西浩孝(豊橋市自然史博物館),藪田 慎司(帝京科学大学)

**P3-276** 幼少時の自然体験と成人後の環境保全の行動意図との関係:年代による比較 \*今井 葉子(筑波大学),上市 秀雄(筑波大学),角谷 拓(国立環境研究所),高村 典子(国立環境研究所),高川 晋一(日本自然保護協会)

**P3-277** 自然資源とデザイン思考 \*須賀 丈(長野県環境保全研)

**P3-278** 「コウノトリ」は里山保全を促進するか:市民意識調査からの検討 \*水谷 瑞希(信州大・教・志賀施設),菊地 直樹(金沢大・地域政策研セ)

**P3-279** 「田んぼの生きもの全種リスト・補完計画」に向けた取り組み~滋賀県の魚類を事例に~ \*金尾 滋史(滋賀県立琵琶湖博物館),阿部 司((株)ラーゴ)

**P3-280** 世界自然遺産に対する地域住民の認識と行動の変

ポスター発表 3月17日(土) 9:00-17:00

(P会場 大ホール)

化～白神山地を事例として \*外崎 杏由子, 吉田 正人 (筑波大学  
大学院)

**P3-281** タヌキの剥製を用いたスケッチ学習における着  
目点の傾向について \*澤邊 久美子 (滋賀県立琵琶湖博物館)

# 高校生ポスター発表 3月17日(土) 9:00-17:00

(P会場 大ホール)

- PH-01** 守れ!ふるさとのカスミサンショウウオ区~ GISと環境DNAを用いた生息地の未来予想~ \*日下部 綾音, 坂井 雄祐, 土田 康太, 都竹 優花, 多和田 光葉, 深山 遥蒼, 山口 萌, 横山 光海, 中村 日南, 河野 有香, 常川 光樹, 廣瀬 雅恵, 村瀬 すぐり (岐阜県立岐阜高等学校)
- PH-02** ドジョウ *M. anguillicaudatus* とカラドジョウ *M. dabryanus* の関係性 \*石川 智就, 木本 颯 (越谷北高等学校)
- PH-03** 南宮山のニホンジカに関する生態学的調査 \*古田 未来, 多賀 雅弥, 中根 源太 (岐阜県立不破高等学校)
- PH-04** アブラムシ防除における最適条件 \*橋本 真諭, 北野 智詩 (立命館慶祥高等学校)
- PH-05** チームアライグマの活動成果~各校の外来生物に関する研究概要~ \*清水 花衣 (埼玉県立川越女子高校), 黒石 あかり (埼玉県立越谷北高校), 大澤 夏実 (埼玉県立越谷北高校), 高橋 和秀 (埼玉県立越谷北高校), 前田 夕里花 (埼玉県立越谷北高校), 菅原 翔英 (埼玉県立越谷北高校), 千葉 柚乃 (埼玉県立越谷北高校), 須賀 亮輔 (埼玉県立越谷北高校), 米山 夏葵 (埼玉県立越谷北高校)
- PH-06** 国内外来種トノサマガエルが北海道の在来種アマガエルに与える脅威 ~アマガエルを救うために~ \*佐藤 元拓, 吉田 野乃, 齊藤 駿太, 細川 俊哉 (北海道北広島高等学校)
- PH-07** アメリカザリガニ *P. clarkii* が環境に与える影響力 \*山口 広夢, 伊藤 貫司, 米倉 泰地 (越谷北高等学校)
- PH-08** 狭い孤立林に生息するホンダヌキの食性の季節変化~東京都練馬区武蔵学園における調査~ \*飯島 昌弘 (私立武蔵高校)
- PH-09** アライグマの爪痕調査と地理的分析 \*山田 拓海 (埼玉県立越谷高等学校)
- PH-10** ポルネオオランウータンの代理母は子供の面倒をみるのか? ~血縁の有無が母子関係に与える影響~ \*黒田 峻平, 田村 祐也, 山根 柁聖, 越川 峻乃介 (海城中学高等学校)
- PH-11** 廃校及び周辺地域におけるアライグマの調査 \*加藤 慎吾, 岡田 征也, 越野 拓洋, 小林 徹, 森田 也真人 (埼玉県立坂戸西高校)
- PH-12** オオイタサンショウウオにおける共食い発生のメカニズム \*太田 成実 (清心女子高等学校)
- PH-13** エゾサンショウウオ幼生の先天的役割 \*二川原 湧, 根来 晃佑 (立命館慶祥高等学校)
- PH-14** ヒダサンショウウオの産卵行動と越冬幼生が現れる要因を探れ! \*三宅 遥香 (岐阜県高富中/生物部)
- PH-15** 埼玉県内の河川における外来生物カワリヌマエビ属の侵入 \*清水 花衣, 飛田 結衣, 田畑 明日香, 松尾 雪乃 (埼玉県立川越女子高校)
- PH-16** 輪厚川の底生魚フクドジョウとウキゴリ類の生態研究 \*岩館 美沙, 藤井 朔, 井田 旅, 矢録 雅樹, 吉田 啓人 (北海道北広島高等学校)
- PH-17** 光質・塩濃度・水温から考察するサンゴの成長に最も適する環境 \*杉浦 美帆, 都築 寛源, 村松 澄香 (玉川学園高等部)
- PH-18** 宮城県に生息するメダカのルーツを探る \*栃木 陽太, 大塚 慎也 (仙台第一高等学校)
- PH-19** ナメクジの嗜好性について \*木村 真里恵, 西鼻 架乃 (加古川東高等学校)
- PH-20** 自然栽培田は赤とんぼの避難場所になるか? \*
- 大藪 愛紗 (金沢泉丘高校), 野村 進也 (金沢大・環日セ), 西川 潮 (金沢大・環日セ)
- PH-21** 糞虫の個体密度は繁殖に影響するか? \*西山 弘和 (北海道稚内高等学校), 古川 勇気人 (北海道稚内高等学校), 杉本 賢人 (北海道稚内高等学校), 杉浦 友哉 (北海道稚内高等学校), 中出 雄翔 (北海道稚内高等学校), 高橋 諒介 (北海道稚内高等学校), 住岡 凜々花 (稚内市立稚内中学校)
- PH-22** 外的環境が与える活動量への影響 \*藤川 丈太郎, 小松 黎良 (立命館慶祥高等学校)
- PH-23** ミシシippアカミミガメに貯精嚢はあるのか \*豊田 英里 (清心女子高等学校)
- PH-24** カワニナ属に寄生する吸虫類の環境要因による寄生状況の比較 \*三浦 健太郎 (海城中学高等学校)
- PH-25** 糞の質は糞虫の繁殖に影響するか? \*古川 勇気人 (北海道稚内高等学校), 西山 弘和 (北海道稚内高等学校), 杉本 賢人 (北海道稚内高等学校), 杉浦 友哉 (北海道稚内高等学校), 中出 雄翔 (北海道稚内高等学校), 高橋 諒介 (北海道稚内高等学校), 住岡 凜々花 (稚内市立稚内中学校)
- PH-26** カワニナの研究~殻の環境変異の法則に迫る~ \*水根 一起, 仁科 正徳, 西田 俊哉, 木田 大貴 (岐阜県立岐山高等学校)
- PH-27** 色覚制限によるヒメウズラへの影響 \*菅野 琴音, 酒井 玲奈 (加古川東高等学校)
- PH-28** 環境DNAを用いて宮城県のメダカの生息状況を探る \*大塚 慎也, 栃木 陽太 (仙台第一高等学校)
- PH-29** アフリカツメガエルの食餌別にみた発生の違いとカニバリズムの影響 \*西嶋 龍太郎 (福岡県立城南高等学校)
- PH-30** 新舞子干潟におけるハクセンシオマネキ *Uca lactea* の生態 \*石原 統哉, 大谷 空, 川口 隼斗 (兵庫県立龍野高等学校)
- PH-31** 環境DNAを用いた長良川・揖斐川の魚類の分布解析 \*土田 康太, 常川 光樹, 廣瀬 雅恵, 坂井 雄祐, 日下部 綾音, 都竹 優花 (岐阜県立岐阜高等学校)
- PH-32** ハリガネムシの生態に関する研究 \*渡部 真衣, 山本 真椰, 吉岡 李紗 (愛媛県立今治西高校)
- PH-33** くらして違う海鳥のホネ -カモメ3種とウトウの骨と塩類腺の比較- \*住岡 凜々花 (稚内市立稚内中学校)
- PH-34** 多摩川水系秋川におけるヒガシシマドジョウの形態変異と外来シマドジョウの侵入の可能性 \*三内 悠吾 (海城中学高等学校)
- PH-35** 静岡市巴川流域における外来種と在来種の競合関係-淡水カメ類に注目して- \*松永 みなみ, 遠藤 知海, 山口 小麦, 織田 梨菜, 秋澤 俊希, 篠崎 奏 (静岡北高等学校)
- PH-36** 奈良県のナヨクサフジの分布拡大要因とその影響 \*三宅 隆裕, 森下 秀一郎, 山本 浩大 (奈良教育大学附属中学)
- PH-37** 半寄生植物ヤドリギの研究 \*野呂 太一, 上手 幸大, 三田村 英 (北海道北広島高等学校)
- PH-38** 未来につながる花酵母 \*澤田 彩生, 竹島 ありさ (清心女子高等学校)
- PH-39** 都市部におけるノゲシとオニノゲシの分布と生活史戦略 \*佐々木 洸大, 國武 剛毅, 園田 拓巳 (海城中学高等学校)
- PH-40** 外来植物の駆除を目指したキノコ栽培 \*中山 和音, 平田 望紗 (清心女子高等学校)

## 高校生ポスター発表 3月17日(土) 9:00-17:00

(P会場 大ホール)

- PH-41** 秋田県のため池における水生植物の生態と埋土種子集団に関する研究 \*秋山 実希, 片桐 浩司 (秋田中央高校)
- PH-42** フギレデンジソウの研究 ~小葉が”ふぎれる”しくみの解明~ \*前田 萌絵, 坪倉 妃那 (清心女子高等学校)
- PH-43** 越谷北高校周辺の水生物を探る \*角田 柊, 川上 瞭 (越谷北高等学校)
- PH-44** キノコ栽培の生産力向上に廃材は有効か \*赤枝 みのり, 川島 夕夏, 佐藤 衣吹 (清心女子高等学校)
- PH-45** 一回繁殖型多年生植物オオウバユリの生活史 \*日浦 響子, 坂井 柊紀 (北海道北広島高等学校)
- PH-46** 静岡市巴川流域における外来種と在来種の競合関係-淡水カメ類に注目して- \*松永 みなみ, 遠藤 知海, 山口 小麦, 織田 梨菜, 秋澤 俊希, 篠崎 奏 (静岡北高等学校)

自由集会

3月14日 16:00-18:00

会場 A

## W01 画像認識・分類技術の生態学への応用と課題 ～特に機械学習，深層学習を中心に

企画者：山北剛久（JAMSTEC）、岩崎亘典（農環研）、古川泰人（酪農大）

動植物を識別することや、数を数えること、量やサイズを測ることは、生態系や生物の動態を把握する上で最も基本的な技術である。近年、畳み込みニューラルネットワークを応用した深層学習や強化学習を組み合わせにより、画像認識が容易かつ高精度になり、物体の自動認識に活用されはじめている。講演では、こうした技術の基本的な概念の概説と、生物分布密度の推定への応用例、分類群や個体の特定の可能性、地図や植生図の自動作成の例はじめとする事例を紹介する。従来の調査等が容易になることや、大量のデータが得られることで、さらに、どのような研究展開が期待できるか、議論したい。

また、このような自動認識のためには教師データの準備が欠かせない。深層学習をもちいた機械学習手法を適用するためには、従来型の機械学習よりも多くの教師データの数が必要とされる。比較的自由に利用できる画像データセットは少ないが、大規模なもののうちImageNetを例に挙げると2017年5月時点で1419万枚の画像が登録され、21841の名詞に対応するラベルが付与されている。鳥で856、魚で566、植物で1666、木で993のサブカテゴリーが用意されており平均400枚以上の画像がサブカテゴリーにあるが、カテゴリーは種や機能群と対応しておらず、マイナーな生物は画像の数も少ない。一方で植生図や土地利用などの地図作成のための画像解析において、教師データに用いる地図は情報が公的に整備されているものも多いが、ライセンスなどの課題もあることもある。こうした情報のデータベース化や教師データとするための準備、利用促進などの現状と課題についても議論したい。

集会の情報は<http://zostera.web.fc2.com/ESJ65.html>に掲載する。

### コメンテーター

（大澤剛士、他を予定）

自由集会

3月14日 16:00-18:00

会場 B

## W02 ダニ媒介感染症と生態系管理

企画者：岡部貴美子(森林総研)

近年国際的に、野生動物由来の人獣共通感染症のパンデミックが懸念されている。国内では野生動物由来の新興再興感染症による死亡例が報道され、野外活動やペットの飼育などについて心配する声が聞かれるようになった。このような感染症の拡大は、野生動物の望ましくない分布拡大が一因であると推測されている。そこで本集会では、今何が起きているのか、また起こりつつあるのかについて、医獣医学的視点、野生動物管理の視点から現状の報告と考察を行い、今後生態学者がどのようにこの問題に取り組むべきかについて議論する。

### ダニ媒介感染症と生態系管理—本集会の目的—

岡部貴美子(森林総研)

### マダニが媒介する野生動物由来感染症の現状と課題—獣医学の視点から—

前田健(山口大・獣医) (予定)

### マダニ媒介感染症の感染メカニズム—医学の現場から—

矢野泰弘(福井大・医学)

### マダニを運ぶ野生動物の予測と管理—森林および野生動物管理の視点から—

亘悠哉(森林総研)

野生動物由来感染症対策におけるネットワーク形成—マルチセクター協働の視点から—  
五箇公一(国環研)

自由集会 3月14日 16:00-18:00 会場 C

**W03 道具としての形態測定学：形の解析から見る過去と未来**

企画者：高橋一男（岡大院・環境生命）、立田晴記（琉大・農）

近年幅広い分野で生物の形態の定量化に活用されている形態測定学的アプローチであるが、研究分野やその適用対象によって、その解析の目的や研究の中での位置づけには大きな違いがある。例えば、古生物学分野においては、古生物の進化史を探る上で、化石の形態比較の重要度が高く、伝統的な理論形態学や幾何学的形態測定に基づいた形態測定や系統比較に強い関心が払われてきた。その一方で、先端的な表現型測定技術の一つとして発展している形態測定学的アプローチは、マシンビジョン等を含めた様々な輪郭・標識点抽出法と組み合わせられて活用されており、大規模かつ詳細な形態測定システムの要となっている。本集会では、形態測定学的アプローチを有効に活用して、形の進化史の解明に取り組んでいる演者と、次世代の形態測定学的アプローチの開発を行っている演者を招き、研究成果をご発表頂く。これらの研究成果をもとに、異なる研究分野における形態測定学的解析の活用法や、これからの形態測定学的解析の発展性について議論したい。

**生物形態学と文化進化学の接点としての形態測定学**

三中信宏（農研機構）

**地質時代毎の古生物の形態的多様性をいかに評価するか**

生形貴男（京大院・理）

**形態測定学の異分野融合：伝統的，幾何学的，…？**

野下浩司（JSTさきがけ，東大院・農）

自由集会 3月14日 16:00-18:00 会場 D

**W04 大自然の中をうごめく動物たち；その動きが生態系を駆動する**

企画者：宇野裕美（京都大学生態学研究センター）、直江将司（森林総合研究所）

自然の中で動物はダイナミックに移動する。海から川へ、川から森へ、低地から高地へ、そして砂漠の中をあてもなく、、、。そしてそれらの移動は時として、大きなインパクトをそれぞれの生態系に与える。川の中の小動物の大移動は魚に資源を再分配するし、海から遡上するサケは熊にも重要な餌を供給する。また、それらの熊が景観の中を移動するに伴って自ら動けない植物の種子は分散される。さらに圧倒的な数を誇る砂漠トビバッタの大移動は道中にある植物を食い尽くしてしまうかもしれない。これまで生態学において動物の移動は資源移動、種子分散、消費者の移動などばらばらに議論されてきた。本集会ではそんな広範な動物の移動とその生態系への影響に関する研究をまとめて俯瞰することで、生態学において動物の移動が果たす効果を包括的に議論したい。動物の移動は生態系管理の影響を直に受ける。本集会では動物の移動の環境保全、管理における重要性についても議論する。

コメンテーター：森章（横浜国大）

**「虫やエビ、小さな生き物の大移動がつなぐ海-川-森の食物網」**

宇野裕美（京都大学生態学研究センター）

**「サケがつなぐ海と森：海由来栄養源の陸上哺乳類にとっての重要性」**

松林順（海洋研究開発機構）

## 「登山家クマたちの種まきは樹木を温暖化の危機から救うのか？」

直江将司（森林総合研究所）

## 「旅のしおりは風まかせ：生死を賭けた、群れるバッタの砂漠旅」

前野ウルド浩太郎（国際農林水産業研究センター）

自由集会 3月14日 16:00-18:00 会場 E

### W05 ビブリオバトル@生態学会

企画者：石井絢子（九大院シス生）、岡部憲和（九大院シス生）、永濱藍（九大院シス生）、矢原徹一（九大院理学研究院）

ビブリオバトルとは、発表者が面白いと思った本を持ち寄り、5分間の紹介とその後のディスカッションを通じて、聴衆を含めた参加者が「どの本を一番読みたくなったか？」を基準に投票して競う書評イベントです。大学生を中心に、近年全国的な広がりを見せています。

63回大会・64回大会で行ったビブリオバトルですが、本大会でも、実施いたします。今回のテーマは、生態学に興味を持てる本、生態学を学びたい人に向ける本です。

発表は事前登録が必要です。事前登録の方法などの詳細は、以下のtwitterアカウントに掲載しています。  
[https://twitter.com/biblio\\_esj65](https://twitter.com/biblio_esj65)

ビブリオバトルは「人を通して本を知る。本を通して人を知る」がキャッチコピーです。単なるプレゼンテーションの場としてだけでなく、コミュニケーションの場としてご活用ください。また、見事優勝した方には、豪華賞品を用意しております。学生・教員・社会人問わず、皆様の参加をお待ちしています。

参考：知的書評合戦 ビブリオバトル公式ウェブサイト：<http://www.bibliobattle.jp/>

#### 趣旨説明

矢原徹一（九大院理学研究院）

自由集会 3月14日 16:00-18:00 会場 F

### W06 いまさら聞けない！ 次世代シーケンサーで何ができるの？

企画者：水澤玲子（福島大・人文）

生態学会で次世代シーケンサー（NGS）を用いた研究事例の発表が散見されるようになったのは2010年ごろからではないでしょうか。2-3年の間に急速に普及し、最近ではもはや次世代ではないという意味を込めて「新型シーケンサー」という表現も使われるようになりました。現在NGSは、環境中のメタゲノム解析、野生生物の適応遺伝子の探査、種間の系統関係の解明、集団間の遺伝構造の解析など、様々な生態学的研究で使用されています。

一方で、NGSが普及するよりも前に自立してしまった研究者の中には、NGSを用いて自身の研究材料を解析してみたいという思いを抱きつつも、気軽に相談できる経験者が身近におらず、初めの一步を踏み出せずにいる方も少なくないのではないのでしょうか。何を隠そう、企画者自身もそのような研究者の一人です。

○NGSはデータ量が多い反面エラーも多いらしいけど、自分の興味に対してどれくらい適したツールなの？

○古いサンプルなら手元に沢山あるんだけど、これってNGSの解析に使えるの？

○NGSのデータを扱うためには、どの程度のコストをかけてどのような設備を整えればよいの？

本集会は、このようなNGSにまつわる「いまさら聞けない疑問」を相談する場を提供することを目的として、経験豊富な4名の研究者に話題提供をお願いしました。NGSはパワフルなツールではありますが、普及に伴い「万能ではない」ということも明らかになりつつあります。NGSの得手不得手を正しく理解して、賢く「初めの一步」を踏み出しましょう。また、本集会はこれからNGSを用いた研究を始める予定の学生の皆さんにも、有意義な場となることを期待しています。皆様の参加を心よりお待ちしております。

計画的に使おう！ ツールとしてのNGS: RNA-seqを中心に、使用の際の注意点

尾崎克久 (JT生命誌), 小寺正明 (東工大), 武藤愛 (奈良先端大)

NGSを用いた野生動物の食性解析：研究の現状と課題

安藤温子 (国環研)

MIG-seq：NGSを用いた迅速で簡単な多型解析法

綱本良啓 (東北大・農), 満行知花 (九州大・理), 陶山佳久 (東北大・農)

NGSのSNPデータを集団遺伝解析に使う事の利点と欠点：非モデル生物の研究で気をつけることは？

岩崎貴也 (神奈川大・理)

自由集会

3月14日 16:00-18:00

会場 G

## W07 データ解析で出会う統計的問題: R の新しい作図・作表

企画者：粕谷英一 (九州大・理), 久保拓弥 (北大・地球環境)

生態学にかぎらず、データ解析でもっとも重要なことは「データを図示すること」と断言してもよいでしょう。データをうまく「見える化」すると、ヒトの視神経系・脳に与えられた高度な画像処理能力によって、図示したデータからさまざまな傾向やパターンを読みとり、統計モデルのあてはめの方針などを検討できるようになります。統計ソフトウェア R もこのような思想にもとづいて、強力な作図能力が付与されています。この集会では、R の比較的あたらしい作図システム `ggplot2` の利用を紹介します。

さらに、よい作図するためには「データの整形」をしなければなりません。この観点から、ちかごろは「整然データ」(tidy data) の大切さが強調されるようになってきました。これは、ある程度の複雑な作図や集計のための必要条件のひとつであるらしい…と認識されてきたからです。みなさん、ご存知のように (Excel とか) スプレッドシートのソフトウェア上で手動によるデータ変換はあぶなくてしんどいものです。そこで作表の作業を手だすけしてくれるしくみが必要となります。たとえば R の `library(tidyr)` などを使えば、こういっためんどうも軽減できますよ…といった作法を紹介します。参加者のみなさんと、データ解析における作図・作表の議論を楽しみたいと思います。

前口上：R 作図あれこれと「整然」データ作表

久保拓弥 (北大)

`ggplot2` をつかってみる

伊東宏樹 (森林総研)

それも R にやらせよう - 整然データの下ごしらえ

岩寄航 (総研大)

自由集会

3月14日 16:00-18:00

会場 I

## W08 行政の生態学2～保全の最前線の現場から～

企画者：鈴木規慈 (千葉県生物多様性セ), 西原昇吾 (中央大・理工), 村上裕 (愛媛県生物多様性セ)

生物多様性の保全の重要性が認識されるようになった現在においても、絶滅危惧種の数は増加の一途をたどっている。特に絶滅の危険性が高い種については、「種の保存法 (絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律)」に基づく国内希少野生動植物種に指定されているほか、都道府県などの地方自治体においても、条例に基づく保護対象種として指定されている。

このような中で、絶滅危惧種をどのように保全し、回復させていくかについては、研究者だけでなく、

行政を含めた様々な主体が連携して協議しながら保全活動を推進する必要がある。しかしながら、組織や予算、生息地の公開の在り方などの問題から、多くの地域において様々な課題が山積している。

本集会では、地方公共団体を含めた行政、博物館、研究者などの様々な立場の方々から、生息地における保全活動の取組みや課題などを紹介するとともに、各々の課題をもとに、行政を中心とした関係者が連携し、絶滅危惧種の種数を増やすのではなく、回復させていくために必要とされる今後の方向性について、生態学者の皆さんと議論を深めたい。

なお、下記の演者のほかに、行政と連携して絶滅危惧種の保全のための取組に関わる研究者にも話題提供していただく予定である。

コメンテーター：荻部治紀（神奈川県立生命の星・地球博物館）ほか1名を予定

#### 絶滅危惧種の保全を推進する上で必要な行政の役割と課題

鈴木規慈（千葉県生物多様性センター）

#### アカミミアリの確認と対応から学んだ行政研究機関によるモニタリング体制の重要性と課題

村上裕（愛媛県生物多様性センター）

#### 福井県による生物多様性保全～里地里山の保全の現場から～

松村俊幸（福井県自然保護センター）

#### 絶滅危惧種は本当に保全できるのか？研究者との関わりから見た行政の重要性と課題

西原昇吾（中央大・理工）

#### 地域と行政と科学をつなぐ博物館学芸員の役割～博物館における絶滅危惧種保全の取組から～

金尾滋史（琵琶湖博物館）

#### 環境省の立場から見た絶滅危惧種をどのように復活させるかー佐渡のトキを中心にー

岩浅有記（環境省）

自由集会 3月14日 16:00-18:00 会場 J

### W09 水生植物の長期モニタリング

企画者：野原精一（国立環境研究所）、廣田充（筑波大学）

昔、冬はもっと寒かったと感じている年長者でも1980年代には気候変動について、地質学者以外身近な環境問題として捉えていなかった。しかし、近年多発する大型台風、大洪水等は陸水・沿岸域の生態学者も攪乱要因として考慮しないではいられない時代となった。そこで、この自由集会では30年以上にわたって水生植物の長期モニタリング研究に携わって来られた研究者に水草の長期モニタリングの歴史と現状について講演頂く。さらに、発展してきたモニタリング手法・技術について紹介して頂き、今後実施すべき水草の長期モニタリングについての将来を議論する。

#### 趣旨説明

野原精一（国立環境研究所）、廣田充（筑波大学）

#### 日本の水生植物の現状～40年のフィールドワークから

角野康郎(神戸大学)

#### 宍道湖における水草の長期変遷と近年の突発的な分布域拡大

國井秀伸（島根大学）

#### 水生植物の長期モニタリング、特に外来種コカナダモの栄枯盛衰

野原精一（国立環境研究所）

自由集会

3月14日 18:15-20:15

会場 A

## W10 AIとITの間 ～生態学者が知っておくべき5つの技術～

企画者：ガニエ拓也,八木浩樹（筑波大・生物科学）

ITが死語になりつつある昨今、巷ではAI（人工知能）やDL（深層学習）が、本当に人間の抱える問題を救ってくれると信じて居る人達が居る。特に、生物学こそがビッグデータの本丸であると信じこまされ、Social Physicsをうたう社会学者達がそうであるように、何時しかDLがきっと自分の解きたい問題を解いてくれるに違いないと、うるうるとした目で遠くを見て居る生態学者の何と多いことか！しかし、その多くの信者達は、自分ではAIやDLと遊んだことがないことが多い。本自由集会は、生物学を専攻していたはずなのに、何時しか電腦空間で蠢く蟲（バグ）を追いかけ回すようになった生態学的X-men達が、AIやDLへの盲信がもたらす暗雲を晴らすことを目的としている。我こそは救われんと思う生態学者達よ！自分のガジェットを携えて、いざ参加せられよ！（つまり、この自由集会では生態学関連の問題を解きながらいくつかのプログラミング言語の利用方法を習得していきます。またその際、AIやDLなどの最新技術に頼らずともそれなりの効用を得られることを示します。）

### IBMをGoする

徳永幸彦（筑波大・生命環境系）

### ピクセルの向こうに

八木浩樹（筑波大・生物科学）

### Webる。

ガニエ拓也（筑波大・生物科学）

自由集会

3月14日 18:15-20:15

会場 B

## W11 外温動物にみられる生活史形質の緯度クライн

企画者：村瀬偉紀（長大院水環）,川上達也（東大沿岸セ）

これまで、多くの生物種について体サイズや成長パターン、産卵期などの生活史形質に地理的な変異がみられることが報告されてきた。一般に、これらの変異の多くは直接的、あるいは間接的に温度などの経験環境の影響を受けるため、緯度に沿った連続的な変異（緯度クライн）を示す。内温動物では、寒冷地ほど成熟サイズが大型化するというBergmann則が有名だが、外温動物の中にはBergmann則に反した傾向を示す種も多い。さらに、外温動物ではより多くの生活史形質が地理的に変異することが知られている。例えば、緯度に着目すると、高緯度ほど年間世代数が多い（昆虫類）、外殻が薄い（腹足類）ことや、成長速度が高い（魚類）ことが報告されており、環境勾配に対する適応様式は多岐に渡っている。生物のもつ複雑な環境適応様式を調べることは生活史の進化生態学的な背景を明らかにするだけでなく、近年の気候変動に対する生物群の反応を予測する上でも重要である。そこで本集会では、多様な生物種における生活史形質の地理的変異を概観し、その多様性や適応的意義、さらに今後の研究の発展性について議論したい。

### 昆虫類の緯度クライн研究の流れと今後の課題

石原道博（大阪府立大）

### 海産腹足類の貝殻形質に見られる緯度クライн

入江貴博（東大大海研）

### メダカの緯度クライнの研究：生活史から種分化へ

山平寿智（琉球大）

自由集会

3月14日 18:15-20:15

会場 C

## W12 断片化した植物集団の遺伝的地域性と多様性保全 (群落談話会)

企画者：前迫ゆり (大阪産業大・院・人間環境学研究所)

フィールド研究と遺伝子情報を融合した研究によって、近年、植物集団の興味深い挙動が明らかにされている。たとえば、地史的時間のなかで植物あるいは植物集団がどのような変遷をたどってきたのかといった研究は、過去から現在に至る壮大な自然史に光をあてるとともに、現在の生態系がいかに危うい状況にあるのかについても示唆している。それらは、われわれが考えるべき種レベルおよび個体群から群集レベルの保全に関する重要な視座とリンクしている。

本集会では陶山佳久氏 (東北大) をコメンテーターに迎えて、「断片化した植物集団の遺伝的地域性と多様性保全」をテーマに議論を深めたい。話題提供の概要はつぎの通りである。1) 東南アジア熱帯雨林の優占種であるフタバガキ科樹種の空間的遺伝構造を調査した結果、飛翔距離が短い甲虫によって送粉される樹種では、血縁個体が近接して分布していた。樹木個体群の遺伝子流動に対する森林断片化について議論する (名波)。2) 植物集団は孤立断片化によって、花粉制限を介した出生率の減少と集団内での近親交配の卓越による近交弱勢の発現を介した死亡率が増加する。タブノキの開花パターンから、集団の孤立断片化と繁殖システムについて議論する (渡部)。3) 北海道渡島半島のブナ北限帯では連続した大面積ブナ林から最北限に向かって隔離した小集団が点在する分布様式に変化する。それに伴って遺伝的多様性は徐々に減少する。さまざまな遺伝的パラメータと植物集団の関係についても議論する (北村)。4) 溪畔林樹種2種の系統地理と分布の変遷について議論する (金子)。5) 愛知県の湿地に生育する周伊勢湾種が、宮崎県の川南町に隔離分布している。両者は遺伝的に分化している種であり、これらは過去の気候変動の遺存種と推定される (渡邊)。

### フタバガキ科樹木の遺伝子流動に対する熱帯雨林の断片化の影響

名波 哲 Nanami Satoshi (大阪市立大学・院・理学研究科)

### タブノキに見られる異型異熟性と繁殖成功 -孤立小集団の事例-

渡部俊太郎 Watanabe Shuntaro (京大フィールド科学教育研究センター)

### ブナ最北限域に点在する隔離小集団の遺伝的多様性

北村系子 Kitamura Keiko (国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所北海道支所森林育成研究グループ)

### 溪畔林樹種2種の系統地理と分布の変遷

金子有子 Kaneko Yuko (東洋大・文学)

### 湿地 (湿原) の成り立ちと生育する種の実体

渡邊幹男 Watabe Mikio (愛知教育大・生物)

自由集会

3月14日 18:15-20:15

会場 D

## W13 博物館の生態学12 「みんなで調べて、記録して、残す～市民参加型調査による地域情報集積と課題～」

企画者：小玉愛子 (苫小牧市美術博物館・主任学芸員)、渡辺修 (さっぽろ自然調査館・代表)

「市民参加型調査」は『研究者以外の人間が調査活動の一員に加わり、情報や標本の収集を実践する取り組み』として全国各地で実践されている。対象や目的により調査方法や標本・データの収集手法はそれぞれ異なるが、いずれの場合も「野生生物への興味や、社会的な関心を喚起する機会の創出 (教育普及的側面)」「多方面からの情報収集または標本採集 (資料収集的側面)」「広域的・継続調査による、生態学的変化の記録 (調査的側面)」などの多面的価値を内包している。国内の事例としては1983年から大阪市立自然史

博物館で展開されたアサギマダラの情報収集に始まり、多くの地域で実践されているタンポポ調査、マルハナバチ調査、鳥類調査などがある。北海道でも多くの市民参加型調査が実践されており、本年度は5年に一度実施されている植物調査「北海道フラワーソン」の5回目の調査が実施された。

これらの取り組みは博物館の使命である「地域情報の記録と集積」に大きな効果をもたらしたが、その一方で、調査方法の統一化と指導、情報の誤りや偏りの補正、収集した資料・画像の同定・分類などに関わる様々な技術的課題も発生している。

そこで本集会では特に、市民参加型調査の「教育普及的效果」「地域情報収集の可能性と課題」「情報の精査と定量化」の3点について、情報交換と議論を行い、市民参加型調査の成果を地域情報の蓄積と発信につなげる道筋について考えたい。

※集会にご参加の際は、Wi-Fi接続可能なスマートフォンまたはタブレットを持参されることを推奨いたします。

#### 趣旨説明

小玉 愛子（苫小牧市美術博物館・主任学芸員）

#### 市民調査による埼玉県立爬虫類マップの作成

藤田 宏之（埼玉県立川の博物館・学芸員）

#### SNSを用いた生物分布調査の利点と課題 - 『#カキ調査』を例として

石田 惣（大阪市立自然史博物館・学芸員）

#### 写真を用いた市民参加型調査「花まるマルハナバチ国勢調査」

大野ゆかり（東北大学大学院生命科学研究科・特別研究員RPD）

#### 広域を対象とした市民型調査による情報集積 北海道フラワーソンを例に

渡辺修（さっぽろ自然調査館・代表）

自由集会 3月14日 18:15-20:15 会場 E

### W14 きのこる5ーナメクジ

企画者：都野展子（金沢大・自然科学）

サル、シカ、げっ歯類、鳥類、トカゲ、節足動物類、ナメクジなど、がキノコ食を行うことが報告されています。数年前キノコに残された食痕からキノコ食動物の種類を推定したところ、半分近い食痕はナメクジ類によるものだった。やばい、ナメクジのキノコ食を調べねば！と思っていたところ、ほかにもナメクジに注目する人々がたまたまいました！今回4人の研究者に、その生活史や生態を知られていなかったナメクジについて研究成果を発表してもらいます。ナメクジとともに生きる宇高寛子が、激変するナメクジ世界の現状や、移入種チャコウラナメクジとマダラコウラナメクジの生活史や生態について解説します。トリ屋で植物生態屋の北村俊平が、近年注目されている小型の無脊椎動物による被食散布について、特にナメクジやカタツムリの種子散布に関する研究について紹介し、現在進行形のヤマナメクジとノトマイマイの種子散布研究について話します。キノコ食動物に強いこだわりをもつ澤島拓夫もナメクジ類に注目していました。ナメクジは菌種によって摂食部位を変え、子実層（＝孢子形成部位）を主に摂食する菌種とそうでない菌種があること、前者では糞中に膨大な数の孢子が含まれ、無菌苗への糞の接種により高頻度で菌根が形成される事実を見出しました。最後に優れた嗅覚の持ち主北林慶子がヤマナメクジの生態とキノコの匂いとその摂食行動に与える影響について発表します。

いろいろな研究が発表される生態学会でさえないかな聞くとのことのないナメクジについての研究成果を一举に聞けるチャンスですのでお見逃しなく！！

#### チャコウラナメクジとマダラコウラナメクジ - 移入ナメクジの今ー

宇高寛子（京大・院理）

### ナメクジやカタツムリの種子散布者としての有効性

北村俊平 (石川県立大学)

### ナメクジ類による摂食部位と糞中孢子数のきのこの菌種による違い

澤島拓夫 (近大農)

### ヤマナメクジが忌避するキノコとその匂いの生態学的機能

北林慶子, 都野展子 (金沢大・自然科学)

自由集会

3月14日 18:15-20:15

会場 F

## W15 続・MIG-seqのすべて：迅速・簡単なゲノムワイドDNA分析法の利用

企画者：陶山佳久，綱本良啓（東北大・農），満行知花（九大・理）

MIG-seq法は、次世代シーケンサーを利用した手軽なゲノムワイドDNA分析手法である。その特徴として、生物種を問わず適用が可能で、例えば1度に約200サンプルの少量のDNA試料をもとにして、迅速（3日）・簡単（2回のPCR）・経済的（～1000円／サンプル）に数百座程度のSNP分析ができる。本集会では、MIG-seq法を利用した百花繚乱の研究例を俯瞰して、その展望を議論する。

コメンテーター：伊藤元己（東大・総合文化）

### 改良MIG-seq法の概要

陶山佳久，綱本良啓（東北大・農），満行知花（九大・理）

### 昆虫におけるMIG-seq活用例：景観スケールから地理的スケールまで

今藤夏子（国環研），今井達也，清川紘樹，中島一豪，谷川明男（東大・農），井上泰江（大阪自然史博），中嶋信美（国環研），長谷川雅美（東邦大・理），宮下直（東大・農）

### MIG-seqで加速する絶滅危惧植物の保全遺伝学的データ取得

綱本良啓，廣田峻，石井直浩，小沼拓矢，陶山佳久（東北大・農）

### 見えないものが見えてきた！インド太平洋におけるサンゴ礁生物のMIG-seq解析

安田仁奈（宮崎大・IT），志村晶史，谷中絢貴，東村幸浩（宮崎大・農），長井敏（中央水研），Zoe Richards（Western Australian Museum），菊池泰生（宮崎大・医），満行知花（九大・理），陶山佳久（東北大・農）

### 地史の生き証人、ニホンザリガニの更なる進化史：MIG-seqだから分かったこと

小泉逸郎（北大・地球環境），満行知花（九大・理），綱本良啓（東北大・農），西川潮（金沢大・環日本海域環境セ），川井唯史（道総研），大高明史（弘前大・教），陶山佳久（東北大・農）

### 東南アジア熱帯林構成種における多数の新種発見に活かされるMIG-seq

満行知花，田金秀一郎，遠山弘法，間瀬慶子，矢原徹一（九大・理），松尾歩，陶山佳久（東北大・農）

自由集会

3月14日 18:15-20:15

会場 G

## W16 植物生理生態学の“見える化”

企画者：吉村謙一（山形大・農）、南野亮子（岐阜大・流域セ）、上原歩（東電大・理工）、東若菜（京大・農）

近年の測定技術の進歩により、従来の方法では測定が困難だった植物の生理生態学的現象を捉えることが可能になってきた。特に、イメージング技術のめざましい発展にともなう植物内部の可視化による貢献は大きい。たとえば、植物体内の水や同化産物等の輸送は葉、枝、幹、根などの器官間での垂直的な動きや分布として把握されてきた。しかし、近赤外などの電磁波エネルギーの視覚化技術やコンパクトMRIによる樹液流速の面的な可視化技術など、組織や細胞レベルでの観察が可能になったことで、器官内部の水平的な動きや分布を捉えることができるようになった。また、ノイズ除去など従来からの解剖学的観察技術が発展してきていることに加えて、これまで瞬間を切り取ることによってしか捉えることのできなかつた植物体内の現象を、植物が生きたままのリアルタイムで観察することも可能となってきた。

このように、従来課題であった時空間的スケールの壁を克服するような植物体内の“見える化”の技術の進歩により、植物の水分通導や光合成といった生理生態学的現象の局所的なメカニズムから各器官間の時空間的な物質移動といった個体レベルまで、新しい植物の生理機能や生態特性が“見える化”してることが期待される。本集会では、いくつかの新しい手法を用いて植物の生理生態学的現象の可視化に取り組んでいる研究者の方に講演いただき、これらの測定技術が生理生態学研究にもたらす発展の可能性について議論していきたい。

コメンテーター：三木直子（岡山大院・環境生命）

#### コンパクトMRIを用いた樹幹の樹液流速分布の可視化

平川雅文（東大・農学生命）

#### 植物の蛍光イメージング：タイムゲート法で葉緑体自家蛍光を消す

児玉豊（宇都宮大・バイオセンター）

#### 顕微赤外分光法によるスギ高木の針葉における水分保持メカニズムの解明

東若菜（京大・農）

自由集会

3月14日 18:15-20:15

会場 I

### W17 生態学の視点からポスト愛知目標を考える

企画者：大澤隆文（環境省）

現在、2020年までの愛知目標の達成に向けた取組が国内外で行われているところであるが、生物多様性条約第15回締約国会議（CBD-COP15、2020年）で決定される見込みの次期目標（「ポスト愛知目標」という）の検討プロセスについて議論が開始されており、その内容についても一部の国際機関では検討が始まっているところである。CBD-COP10（2010年）で決定された愛知目標の検討の際には、COP10議長国を務めた日本の提案が基礎となった経緯があり、日本は引き続きポスト愛知目標の検討においても貢献を行い、その後策定される次期生物多様性国家戦略の国別目標を通じて国内の諸問題の解決にも結び付くような目標設定を行うことが望まれる。

本集会は、ポスト愛知目標に向けて、若手・中堅の生態学者や保全実務者も含めて、幅広く国内関係者を交えて検討を行う一環として、これまでの愛知目標の振り返り及びポスト愛知目標に向けた議論をすることを目的として開催する。集会ではポスト愛知目標検討プロセスの説明をした後、ポスト愛知目標に係る議論の中身、そして、具体的テーマを例示しつつポスト愛知目標のあり方について講演を行う。その後、十分な時間を取って、これらのテーマ以外も含め、生態学の視点から見たポスト愛知目標のあるべき姿について、意見交換・質疑応答を行う構成とする。

司会は尼子直輝（環境省）、コメンテーターは中静透（総合地球環境学研究所）が行う予定。

#### 本集会の説明及びポスト愛知目標検討プロセス

大澤隆文（環境省）

#### ポスト愛知目標に係る総論

古田尚也（大正大学・IUCN日本オフィス）

## 気候変動対策を兼ねた生物多様性の国際目標のあり方（生態系を活用した適応策及び防災減災を含む）

中村太士（北海道大学）

## 持続可能な土地利用に係る国際目標のあり方（里地里山を含む）

角谷拓（国立環境研究所）

自由集会 3月14日 18:15-20:15 会場 J

### W18 生態系機能・サービス・生物多様性の広域評価発展のためのリモートセンシング観測の役割・問題・展望-2018

企画者：永井 信（JAMSTEC・地球環境観測セ）

持続発展可能な17項目の目標（SDGs）の達成を目的として、全球地球観測システム（GEOSS）や生物多様性観測ネットワーク（BON）では、気候変動と人間活動下における生態系の機能やサービス、生物多様性の時空間分布の変動の広域的な観測・評価の技術発展を強く求めている。これを実現するためには、非破壊的に広域観測を可能とするリモートセンシング観測が有用である。けれども、高頻度・高空間解像度・高波長解像度をもつ観測を一つのセンサーで同時に行うことは技術的に困難であり、生態系機能の変動を直接的に観測することは不可能である。このため、多地点を対象とした様々な生理・生態パラメータの収集や地上の観測ネットワークとの連携など、リモートセンシング研究者コミュニティに止まらない様々な研究分野を巻き込んだ総合的な研究ネットワークの構築が重要な課題となる。わが国では、2013年より日本長期生態学研究ネットワーク（JaLTER）の承認事業として、JaLTER・日本フラックス観測ネットワーク（JapanFlux）・宇宙航空研究開発機構（JAXA）・海洋研究開発機構（JAMSTEC）の連携による次世代の衛星観測センサーの地上検証を目的としたアルゴリズム開発が行われている。しかしながら、対象興味の時空間スケール・技術的問題・活動資金の制約などを原因として、研究者間の連携はなかなか進展しない状況にある。本集会では、この状況を打破すべく、関連分野を代表する3名の研究者による講演とライトニングトークによって、現時点における生態系機能・サービス・生物多様性の広域評価発展のためのリモートセンシング観測の役割・問題・展望を整理し、当該分野研究の今後の研究計画の立案に役立てることを目的とする。

#### 趣旨説明

永井 信（JAMSTEC・地球環境観測セ）

#### 地球観測と生態系・生物多様性フィールド研究 - GEOとILTERを例に

村岡裕由（岐阜大・流域セ/GEO Programme Boardメンバー/ILTER-EAP議長）

#### 次世代の宇宙研究開発に向けた提言

奈佐原顕郎（JAXA/筑波大）

#### ライトニングトーク（5分未満のプレゼンテーション）

楊 偉（千葉大・環境リモセンセ）・竹内やよい（環境研）など

自由集会 3月17日 18:00-20:00 会場 A

### W19 個性研究のすすめ：現象の理解と生態学的可能性を求めて

企画者：渥美圭佑（北大環境）、酒井理（京大理）、小泉逸郎（北大環境）

近年の生態学や行動学の分野では、各個体が示す行動の傾向やその集団内バリエーションへの関心が高まっており、動物の個性（個体内で一貫した行動の傾向）や行動シンドローム（行動形質間の相関）を扱った研究が2000年代後半から世界中で盛り上がりを見せている。しかしながら、日本の生態学や行動学の現場ではこのような現象を扱った研究はほとんど見受けられず、世界とのギャップを感じざるを得ない。この理由

として、個性という概念への理解不足や、その研究意義への軽視が挙げられる。また、興味はあるが現象をどのように扱えばよいのか分からないといった声も耳にする。そこで本集会では、①個性研究の分野を周知し、②その可能性と限界について広く議論することを目的とする。

はじめに、カギとなる概念である動物の個性・行動シンドロームを紹介する(渥美)。次に、コロニー性鳥類における野外研究を基に、個性が同一集団内の他個体にどのような影響を及ぼすのか、さらには個性が集団の動態にどう影響するのか議論する(風間)。そして、クローンヤモリを用いた野外研究および室内実験を基に、発達段階を通して個性がどのように形作られるのか、非遺伝的な要因に着目して議論する(酒井)。最後に、佐藤拓哉氏(神戸大・理)を招き、コメントを頂く。これらを踏まえて、総合討論では個性研究がはらむ問題点や更なる可能性について議論したい(司会：小泉)。

#### 「動物の個性」研究とは？概念と枠組みを俯瞰する

渥美圭佑(北大環境)

#### ウミネコの攻撃性の個体変異と集団繁殖における機能

風間健太郎(北大水産)

#### クローンヤモリの個性：発達に伴うバリエーションの創出

酒井理(京大理)

自由集会

3月17日 18:00-20:00

会場 B

### W20 「昆虫の動きと不動を科学する」：生理学と生態学の融合を目指して

企画者：松村健太郎(岡山大)、宮竹貴久(岡山大)

「動き」は様々な形質値の基礎となる鍵形質である。動く昆虫を観察することは面白い。観察していると昆虫はピタッと静止することも多い。昆虫の動きと不動行動(死にまね・擬死とも言われる)、及び歩行による分散行動については行動学・生理学・生態学・進化生態学の研究が世界の中でもとりわけ日本において進んでいる分野である。本自由集会では、これらのテーマに取り組んでいる日本の生理学と生態学の研究者が研究発表と討論を行うことで、「生物の動きと不動」についての生理学及び生態学の共通の理解を深めたい。講演者と講演タイトルは次の通りです。

1. 松村健太郎(岡山大学) 「歩行移動に対する人為選抜への相関反応」
2. 本間 淳(琉球大学) 「不動行動の機能の多様性」
3. 宮竹貴久(岡山大学) 「不動行動の生態と機能」
4. 西野浩史(北大・電子研) 「不動の神経メカニズム」

#### 歩行移動に対する人為選抜への相関反応

松村健太郎(岡山大学)

#### 不動行動の機能の多様性

本間 淳(琉球大学)

#### 不動行動の生態と機能

宮竹貴久(岡山大学)

#### 不動の神経メカニズム

西野浩史(北大・電子研)

自由集会

3月17日 18:00-20:00

会場 C

## W21 性が駆動する進化と生態：ゲノムから群集まで

企画者：別所和博（総合研究大学院大学/学術振興会特別研究員PD）、内海邑（総合研究大学院大学）、小林和也（京都大学）、安岡法子（奈良女子大学大学院）、和田哲（北海道大学大学院水産科学研究院）

個体群を構成する個体が雄性と雌性で特徴づけられて、それに基づき遺伝子の混ぜ合わせが行われる有性生殖は、真核生物全般で普遍的に観察される繁殖様式である。このような「性」をもつことは、必然的に遺伝子間や個体間の相互作用を生み出し、それは様々な生態学的形質に影響を及ぼす。本集会では、性が生物のゲノム構造、繁殖システム、生活史や行動、個体群・群集構造、といった異なるスケールでどのような役割を果たすのか、という視点から、生態学における主要な話題の一つで有り続けてきた「性」を改めて捉えなおしてみたい。

具体的には、総合研究大学院大学の内海は種子植物の胚乳の進化において母親由来と父親由来のゲノム間コンフリクトが及ぼす影響について、奈良女子大学の安岡はカキ類の繁殖生態、とくに性転換と個体間相互作用の関係について、北海道大学の和田はホンヤドカリ属の同所性近縁種間でみられる生活史や行動の変異と性の関係について、京都大学の小林は有性生殖が生物群集における多様性に及ぼす影響について話す。また、集会の最後にコメンテーターにコメントをお願いする予定である。

### 種子植物の胚乳形成におけるゲノムコンフリクト

\*内海邑（総研大）、別所和博（総研大/特別研究員PD）、佐々木顕（総研大）

### カキ類の繁殖生態-放卵種と抱卵種の性表現の比較-

\*安岡法子、遊佐陽一（奈良女子大）

### メスのスケジュール管理下でオスが頑張る: ホンヤドカリ属を例に

\*和田哲（北大・水産）

### 性に秘められた鍵-生物多様性の維持メカニズム-

\*小林和也（京大・フィールド研）

自由集会

3月17日 18:00-20:00

会場 D

## W22 外来顕花植物が在来昆虫に与えるインパクトとは何か

企画者：横井智之（筑波大・院・保全生態）

近年、交通網の発達により、国境をまたいでの人や物の移動交流が盛んとなり、意図的・非意図的に多くの植物種が本来の生息地から離れた場所に出現している。日本においても、これらの生物は侵入種や外来種と呼ばれ、人に害を及ぼす種から、全く顧みられない種まで、その数は枚挙にいとまがない。これらの種の多くは、在来の自然環境が極端に攪乱された都市部を中心として橋頭堡を築き、生息域を拡大しつつある。中でも外来「顕花」植物は、在来植物との競合や繁殖干渉に加え、送粉者の奪い合いといった負の効果を生じることが懸念されている。一方でこれらの植物では、葉や茎などの植物基質に加えて、花粉や蜜といった花報酬も利用可能な資源として存在している。そのため、さまざまな在来訪花昆虫の餌資源となり、その繁殖成功を高めるといった正の効果も考えられる。本自由集会では、外来「顕花」植物-在来昆虫の相互作用について研究を行なっている3人の若手研究者にご講演いただき、外来顕花植物のもたらす正と負のインパクトを今後どのように考えていくべきかを議論したい。本集会では、保全生態学的観点からの視点として、中浜直之博士（東大・院・総合文化研究科）をコメンテーターに迎えて行なう予定である。

### 外来植物のもたらす光と影

横井智之（筑波大・院・保全生態）

外来顕花植物は在来訪花昆虫にとって有益か？無益か？－在来生態系に溶け込んだムラサキツメクサから探る－

日下石碧（筑波大・院・保全生態）

セイタカアワダチソウをめぐる在来訪花者間の相互作用

池本美都（筑波大・院・保全生態）

外来植物は植食者を介して在来植物の食害を変化させるか？

坂田ゆず（秋田県立大・生物資源科学部）

自由集会

3月17日 18:00-20:00

会場 E

## W23 生物多様性・生態系サービスと資源利用の両立－保残伐施業の可能性－

企画者：尾崎研一（森林総研）、明石信廣（道総研林試）

現代社会においては、木材等の資源利用の場において、生態系サービスとその基盤である生物多様性の保全が重要な課題となっている。そのためには、生態系の健全性を維持しつつ林産物を供給できる、生態学的に持続可能な森林管理（ecologically sustainable forest management）が必要とされている。保残伐施業（または保持施業：retention forestry）は、本来、収穫するはずの樹木の一部を残して森林生態系の複雑な構造を維持することにより、生物多様性や生態系サービスを保全しながら木材資源を利用する方法である。この方法は、現在、世界的に普及しており、それに伴って、その効果を検証する大規模実験が世界各地で行われている。日本においても、北海道のトドマツ人工林を調査地として、保残伐の木材生産効率と、生物多様性や生態系サービスへの影響を検証する実証実験が2013年から行われている。

本集会では、保残伐施業の大規模実験の立ち上げから5年間の成果をまとめて紹介する。まず生物多様性については、保残伐は森林性種の保全に役立つが、その程度は分類群によって異なることを示す。次に水土保全機能については、水文、水質および水生生物の生息環境に対する伐採直後の変化を紹介する。また、このような施業が伐採前の森林が持つ生態系サービス（虫害抑制機能）をどの程度、維持するのかを実験的に調べた研究結果を示す。最後に資源利用について、伐採時の生産性の低下が当初の予測よりも少なく、それを利用した施業体系を紹介する。これらの成果をもとに、生態学的に持続可能な森林管理を行う上で、保残伐施業の役割と可能性について議論したい。

### 趣旨説明

尾崎研一（森林総研）

### 保残伐施業と植物、鳥類、昆虫の多様性

明石信廣（道総研林試）

### 保残伐施業が水土保全機能に及ぼす効果

長坂晶子（道総研林試）

### 保残伐施業と生態系サービス

佐藤重穂（森林総研 北海道）

### 持続的な資源利用のための施業体系と保残伐施業

津田高明（道総研林試）

自由集会

3月17日 18:00-20:00

会場 F

## W24 「データは共有」という流れができつつあるのに、「アイデア」が共有されないのはなぜか？ —アイデアの共有促進を目指して

企画者：三木健（台大・海洋研）, 中村誠宏（北大・FSC）

「データは共有」という流れができつつあるのに、「アイデア」が共有されないのはなぜか？ 誰でもデータを供給できるわけではないのと同様、誰でも新しいアイデアを思いつくわけではない。また、誰でも自分の手元に置いておきたいデータと公開しても良いデータがあるように、自分の手元で温めておきたいアイデアも、広く公開してもよいアイデアもあるはずだ。データの共有とともに、アイデアが未成熟の段階でもオープンにし、より洗練されたアイデアへと育てて共有データと共に活用していけば、世界・日本の生態科学の発展がいつそう進むのではないか？ このような問いかけを出発点に本集会では、まずアイデア共有のメリットと共有を妨げる要因の整理を行う。次に、idea paperというperspectiveやreviewよりも短い新たな論文形式を提案し、その投稿規程・査読基準の素案を紹介する。これらを議論の土台として、異論・反論も含めて広く参加者との意見交換を行い、研究アイデアの共有促進に向けた戦略と課題について議論したい。

コメンテーター：仲岡雅裕（北大・FSC）・潮雅之（京大・生態研セ/JSTさきがけ）

未定

未定

自由集会

3月17日 18:00-20:00

会場 G

## W25 人×自然×都市計画から考える新たな都市生態学の展開

企画者：内田健太（北大・環境）, 山崎 嵩拓（東大・都市工）

都市は本来、人間社会の経済発展や福利増進を目的に形作られてきた。しかし、現在様々な生物が都市に進出するようになり、都市は人間だけでなく生物にとっても重要な生息地となりつつある。私たちもまた、こうした身近な自然との触れ合いを通じて自身の自然観や生物多様性保全の意識を育んでいる。ただし、都市における人と自然の関係性は、必ずしも固定的なものではなく社会背景や生物応答によって絶えず変化する。今後、都市において両者の関係性を“良好に”構築・維持していくためには、生態学と都市計画を繋げて、互いの分野の視点を積極的に活用していくことが重要なのではないだろうか。

例えば、都市計画が人々の自然との関わり方や生物の行動・分布、さらに両者の相互作用に与える影響を理解し、こうした成果を都市計画の現場に効果的に落とし込めいく必要がある。しかし、私たち生態学者側にとって人間活動に主眼を置く都市計画分野は馴染みが薄く、両者の間には大きなギャップがあるように見える。

本集会では、人・自然・都市計画間の相互作用をテーマに、都市計画が人と自然の関係性にどのように作用するのか、その関係性の理解が都市計画へとどのようにフィードバックされるかについて考えたい。都市を舞台として研究を進めている演者を招き、最新の成果や課題を発表して頂く。そして、今後の都市生態学と都市計画の分野融合的展開の可能性について、コメンテーターや会場を交えて議論したい。

コメンテーター：宮下直（東大・農）, 小篠隆生（北大・工）

趣旨説明: 生態学と都市計画のギャップ

内田健太（北大・環境）

人の文化・歴史が、都市に生息する鳥類に与える影響

三上修（北海道教育大・函館校）

都市における人と自然との関わり合い: 現状と課題、今後の展望

曾我昌史（東大・農）

都市計画における"緑"の扱いと次なる"緑"政策の展開へ向けた生態学との協働  
山崎 嵩拓 (東大・都市工), 内田健太 (北大・環境)

自由集会 3月17日 18:00-20:00 会場 H

**W26 ディープラーニングが革新する生態学**

企画者：伊勢武史, 渡部俊太郎 (京都大・フィールド研/JSTさきがけ), 渡部俊太郎 (京都大・フィールド研)

画像の自動識別などの情報科学分野ですばらしい性能を誇るディープラーニングだが、植物の識別にはほとんど利用されてこなかった。しかし、発想の転換に基づく新技術を用いれば植物タイプなどの自動識別が可能であることが近年実証されつつある。その技術は生態学や環境諸学の研究に革命を起こし得るものだ。この集会では、最新の研究の成果を報告するとともに、実際的な応用について論じる。ディープラーニングの基礎についてももしっかり解説するので、「ディープラーニングという言葉は聞いたことあるけどやり方がまったく分からない」という諸氏の参加も大歓迎である。

ディープラーニングの特徴は、物体の「形」を人工知能が効率的に学習することだ。これにより、レーザーなど高価な機材を用いずに、何の変哲もないデジタル画像から貴重な情報を得ることが可能になる。Google Earthなどインターネットで提供されている無償の画像、UAV (ドローン) など安価な機材で撮影された画像から植物を自動識別できるようになったら、調べたいことは山ほどあるのではないだろうか。自由な発想で考えてみよう。

**ディープラーニングとはなにか？現状と可能性**

伊勢武史 (京都大・フィールド研/JSTさきがけ), 渡部俊太郎 (京都大・フィールド研)

**深層学習による衛星画像を用いた竹林識別モデルの開発**

角和暁 (京都大・院・農)

**深層学習による衛星画像からの樹種識別とその応用 -竹林での試み-**

渡部俊太郎 (京都大・フィールド研)

**人工知能によるコケマップの完成を目指して：苔庭管理のための画像認識モデルの提案**

皆川まり (京都大・農)

**人工知能は樹種を識別できるのか～ドローンと深層学習を用いた上空からの挑戦～**

大西信徳 (京都大・院・農)

自由集会 3月17日 18:00-20:00 会場 I

**W27 野生生物の管理ユニットと行政単位のギャップ**

企画者：上野真由美 (道総研・環境研)、稲富佳洋 (道総研・環境研)

野生生物管理の課題のひとつに、生物境界と行政界のミスマッチがある。一般に生物の行動圏が広く、その分布や数の変動がひとつの都道府県におさまらない場合、複数の都府県からなる広域的な管理が必要という結論に達することが多い。すでに大型哺乳類であるニホンジカや空を飛ぶカワウの管理は本州地域では複数の都府県が広域連合を形成し、対策に取り組んでいる。一方、北海道のように島全体が一つの行政体である場合、広域管理を形成する新たな枠は必然的に不要である。しかし、空間的に広い範囲を一括りにする広域枠があれば、問題は解決するのだろうか？管理(施策)を行う、人間組織の事情が広域管理の成功に密接に関わるであろうことは想像に難くない。小国の集まりであるヨーロッパではシカ類の管理をするうえで各国の温度差が課題になっている。ヨーロッパの国境の問題は日本の県境にそのままあてはまるだろう。広域

管理を実行するにあたって、上位と下位組織に必要な機能とはどのようなものだろうか？本自由集会では、広域的な管理が求められる陸水系のさまざまな生物の管理事例を報告し、それぞれの生物種の管理に今求められる管理ユニットの機能や構造を見出し、解決に向けた打開策を探求する。

#### 病害虫の緊急防除における防除範囲の妥当性

山村光司（農研機構・農環研）

#### カワウにおける広域管理とローカル対策の整合性

須藤明子（株式会社イーグレットオフィス）

#### エゾシカの捕獲対策を統括する行政単位は？

上野真由美（道総研・環境研）

#### クロマグロの漁獲枠配分の問題点。非定常な資源をどう配分するか？

松田裕之（横国大）

自由集会

3月17日 18:00-20:00

会場 J

### W28 間接効果を通して見る世界：（1）間接効果の「ごりやく」

企画者：大串隆之（京大）

「間接効果（indirect effect）」は、ありとあらゆる生態システムにおいて主役を演じている。間接効果のポイントは、それによって2者の関係が一変すること、さらにその効果が時空を超えることだ。栄養カスケード（trophic cascade）や見かけの競争（apparent competition）は、生物群集や食物網を語る上で今や避けては通れないキーワードになった。一方、種内の個体間関係でも間接効果はキープレイヤーだ。たとえば、包括適応度（inclusive fitness）の考え方は遺伝的な間接効果そのものだ。また、現在、台頭しつつある生態進化ダイナミクス（eco-evolutionary dynamics）の発展に、間接効果の考え方は欠かせない。さらに、社会科学、経済学、文化人類学の分野でも注目されている。このように、生態学の枠を超えて幅広い分野で今ホットな話題になっている、それが「間接効果」なのだ。

間接効果の重要性をいち早く理解した欧米では、それを軸にして生態学の新たな潮流が作られつつある。これに対して、日本ではいまだ間接効果の研究者が少ない。それは、間接効果の「ごりやく」を十分に享受したことがないからだろう。日本の生態学が世界の激流に飲み込まれ溺死しないように、サーファーよろしくその大波を捕らえて中天に舞い上がろうではないか。それには、個々の研究者が「間接効果」という考え方に会う機会が必要で、それがこの自由集会「間接効果を通して見る世界」なのである。

「間接効果」という窓からどんな新しい世界が広がっているのだろうか？

#### 間接効果ってなんだ？

大串隆之（京大・生態研）

#### 気がつけば 間接効果：両生類幼生の相互作用研究

岸田治（北大・FSC）

#### つながりの生態学：間接効果研究のご利益にあずかって？

佐藤拓哉（神戸大院・理）

#### 大串流間接効果と格闘して分かったこと

内海俊介（北大・FSC）

自由集会

3月17日 18:00-20:00

会場 K

## W29 北日本の環境アイコン「サケ」の保全活動を考える

企画者：森田健太郎（水研機構・北水研）

サケは北日本を代表する漁業資源である一方で、環境教育の題材としても頻繁に用いられる生物である。サケを環境アイコンとして保全し、地域の生物多様性を見つめ直そうとする試みは全国各地で行われている。しかし、河川環境の悪化が顕在化したり、漁業活動との兼ね合いが難しかったり、人との関わり合いが深い身近な魚であるが故の問題点も多い。本集会では、北海道・札幌と本州・三陸で取り組まれているサケ野生魚の調査や保全活動の現状を紹介して頂くとともに、北米における野生サケ保全のポリシーについても紹介し、将来のサケ保全活動について議論したい。

### 三陸におけるサケ資源像の再構築

青山潤（東京大学大気海洋研究所）

### 岩手県・小釜川の野生魚について

峰岸有紀（東京大学大気海洋研究所）

### 札幌ワイルドサーモンプロジェクトについて

有賀望（豊平川さけ科学館）

### 豊平川における野生魚調査

佐々木北斗（豊平川さけ科学館）

### 札幌豊平川におけるサケ産卵場所の再生・創出について

片岡朋子,布川雅典,新目竜一,谷瀬敦（寒地土木研究所）

### 日本におけるサケ野生魚の遺伝的集団構造

佐藤俊平（水研機構・北水研）

### 北米のワイルドサーモンポリシーについて

鈴木健吾（水研機構・北水研）

## 發表者・企画者一覽

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
T12	Abe, Masato S.	RIKEN AIP	C02-06	LIN, Yu-hui	Georgia Tech
S14-3	Agathokleous, Evgenios	Forestry and Forest Products Research Institute (FFPRI)	E02-04	LIU, Ariana Chih hsien	IONTU, Taiwan
C01-08	ALATALO, Juha	Qatar University	G01-08	Liu, Cong	OIST
P1-091	Anders, Jason Lee	Hokkaido University	H01-03	LU, Hsiao-pei	Nat. Taiwan Univ.
S11-5	Andersen, Michael J.	Univ. New Mexico	P2-125	MANDAGI, Ixchel Feibie	TBRC, Univ Ryukyus, FPIK, UNSRAT
S02-1	Box, Elgene	University of Georgia, Geography Department	P3-143	MARRE, Maxime	Toulouse University
P2-097	CAI, Qiong	Peking University	S14-7	Masui, Noboru	Hokkaido University
T09-1	Chao, Anne	National Tsing Hua University	S17-5	Mitsubishi, Hiromune	Museum of Nature & Human Activities, Hyogo
P3-171	CHENG, Wan-hsuan	CES, NCU, TIGP, AS	G02-07	MULIA, Randy Nathaniel	兵庫県立大学大学院, 秀幸土居
P3-170	CHEN, Hungyen	National Taiwan Univ	S02	NAKAMURA, Yukito	Tokyo University of Agriculture
C01-01	Chih-hao, Hsieh	National Taiwan Univ	D02-09	NITZSCHE, Kai Nils	RIHN Kyoto
S08-4	Cornwell, William	University of New South Wales	P2-126	IRWAN, Sutra Nobu	TBRC Univ Ryukyus
T12	CRONIN, Adam Linc	Tokyo Metropolitan University	S08	ONODA, Yusuke	Kyoto University
H01-02	CYUE, Yi-syuan	Tsing Hua Univ., Taiwan Univ.	E01-07	OU, Jia-ang	National Taiwan Univ.
P1-051	Fan-Shian, Lin	国立台湾大学	S07-6	Park, Chan-Ho	National Institute of Biological Resources, Korea
P1-230	FEI, Xiaonan	Nanjing Agr Univ.	P2-313	PENG, Yong	The Univ. of Tokyo, Sichuan Agric. Univ.
S11	FRIEDMAN, Nicholas R.	OIST	S02-2	Pott, Richard	Leibniz Universität Hannover, Institut für Geobotanik
S14-4	Fujita, Saki	Hokkaido University	P2-093	QURANI, Citra Gilang	Yamagata University
E01-04	GAO, Yiyang	Hokkaido University	P1-026	ROSS, Samuel Robert peter-james	OIST, University of Leeds, Trinity College
S17-2	Goka, Kouichi	National Institute for Environmental Studies	H01-01	ROUZE, Heloise Louise	TBRC, Univ. Ryukyus
P1-268	GURUNG, Anandeeta	Tohoku University	C01-02	RUWANPATHIRANAGE, Nalinda Roshan	Niigata Univ.
D02-08	HAN, Seung hyun	Korea University	P3-058	Shefferson, Richard	東京大学
S08	HIKOSAKA, Kouki	Tohoku University	C02-01	SHIEH, Bao-sen	KHH Medical Univ.
S11	HITA GARCIA, Francisco	OIST	C01-07	SHISHIR, Sharmin	Sharmin Shishir, Shiro Tsuyuzaki
D01-09	HO, Hsi-cheng	Imperial College	A01-04	SINNIGER, Frederic	Univ. of the Ryukyus
P1-095	HSU, Gen chang	NTU	A01-03	SOE, Pyae sone	Kyoto University
P3-194	HUANG, Tzu yen	Tunghai Univ.	P3-240	SON, Yowhan	Korea Univ.
S02-3	Hueppe, Joachim	Leibniz Universität Hannover, Institut für Geobotanik	S14-5	Sugai, Tetsuto	Hokkaido University
H01-07	JIA, Pu	Sun Yat-sen Univ., Univ. of Toronto	S11-4	Takashina, Nao	OIST
H02-05	KAO, Mei-ting	NCKU	C02-04	TAN, Wen-hao	Emory University
E01-02	KASS, Jamie Michael	City Univ. of NY	B02-10	THET, Akari Phyu phyu	Kyoto Univ.
C01-06	KHATANCHAROEN, Chulabush	The Univ. of Tokyo	C01-03	TRAN, Trang Huyen	NCKU, Taiwan, Vinh University
P2-294	KIM, Ji yoon	Toho University	S14-8	Tsubo, Natsumi	Hokkaido University
S14-1	Kitao, Mitsutoshi	Forestry and Forest Products Research Institute (FFPRI)	S17-6	Tsuji, Kazuki	Department of Agro-Environmental Sciences, University of the Ryukyus
S14-2	Koike, Takayoshi	Hokkaido University	P2-175	Chenyi, TU	国立台湾大学
F02-04	KONTOPOULOS, Dimitrios Georgios	Imperial College L.	S17-4	Ujiyama, Shumpei	School of Environment and Society, Tokyo Institute of Technology
S02-5	Krestov, Pavel	Botanical Garden-Institute Vladivostok	E01-10	WANG, Wen-chien	Cheng Kung Univ.
S08-5	KUROKAWA, Hiroko	Forestry and Forest Products Research Institute	S14-6	Wang, Yannan	Hokkaido University
S11-3	Kusumoto, Buntarou	Ryukyu Univ.	H02-01	WATZ, Johan	Karlstad Univ Sweden
H01-09	Lea, Vegh	Hokkaido University	T09-4	WEI, Chih-lin	Institute of Oceanography, National Taiwan University
T09-3	LI, Ching-feng	School of Forestry and Resource Conservation, National Taiwan University	I02-06	WINDLEY, Hannah Ruth	FFPRI
			S08-1	Wright, Ian	Macquarie University

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
S17-1	WYLIE, Francis Ross	Biosecurity Queensland Control Centre	P3-075	荒木田 葉月	RIKEN AICS
S17	YANG, Chin-cheng	Kyoto Univ.	S03-4	有山 義昭	環境省野生生物課
S17-3	scotty		T08-1	安房田 智司	大阪市立大学
P3-111	YANG, Jinny	Taiwan Univ.	P2-269	安藤 温子	国環研
S04-1	Yang, Louie H.	Department of Entomology University of California, Davis	P2-300	安佛 かおり	京大・森里海ユニット
H01-06	CHIH-FU, Yeh	Univ of Helsinki,	P1-034	安間 更紗	京都大・農
E01-05	YU, You-cheng	National Taiwan Univ Cheng Kung Univ.	A01-05	李 娥英	北大 FSC 植物園
T09-2	ZELENY, David	Institute of Ecology and Evolutionary Biology, National Taiwan University	P1-098	飯島 大智	東邦大学
H01-10	ZHU, Jingling	Peking University	T11	飯島 勇人	森林総研
E02-05	Binay, Sangat	横浜国立大学	PH-08	飯島 昌弘	私立武蔵高校
P1-241	相澤 直	明大院・農	P1-075	飯田 恭平	近畿大学大学院
P2-033	相田 大輔	北海道大学環境科学院	J01-05	飯田 碧	新潟大理臨海
P3-184	會津 光博	九州大学	P3-003	飯田 佳子	FFPRI Kyushu
P3-007	相場 慎一郎	鹿児島大・院・理工	P2-208	井川 輝美	盛岡大学
P2-154	相場 寿秀	京大院・農	P3-109	井口 亮	沖縄工業高等専門学校
P3-120	饗庭 正寛	東北大学・生命	T08-3	井口 恵一朗	長崎大学
T12-2	合原 一究	University of Tsukuba	P1-229	入口 友香	近大院農
I02-11	青木 俊汰郎	日本大学	P1-059	池内 絵里	琉球大学・院理工
P2-127	青木 大輔	北大院・理	B01-06	池上 真木彦	国立環境研究所
C01-10	青島 一平	神戸大学	P3-216	池川 雄亮	琉球産経, 沖縄防技セ ンター, 琉球大学・農
P2-112	青柳 優太	東北大・生命	P2-268	池田 静也	龍谷大・理工
E02-10	青柳 亮太	STRI	P1-140	池田 鈴菜	麻布大学
PH-44	赤枝 みのり	清心女子高等学校	P3-264	池田 透	北海道大学
S12-5	赤坂 卓美	帯広畜産大学	S07-4	池田 啓	岡山大学資源植物科学 研究所
W23	明石信廣	道総研林試	T15-5	池田 浩明	農業環境変動研究セン ター
P1-284	秋場 遥輔	早稲田大・院・先進	P1-278	池田 郁哉	早稲田大・院・先進
P2-044	秋元 勇貴	首都大・理工・生命	P2-122	池本 篤史	東北大学大学院
PH-41	秋山 実希	秋田中央高校	S13	井坂 友一	北大・FSC
P1-193	秋山 優	東京大学	P2-043	伊澤 悠人	横国大・院・環境情報
P3-015	阿久津 公祐	海洋研究開発機構	W05	石井 絢子	九大院シス生
P2-217	浅川 満彦	酪農学園大学大学院	P2-248	石井 潤	福井県里山里海湖研
P3-208	浅野 悟史	滋賀県・琵琶湖研セ	P3-080	石井 弘明	神戸大学農学研究科
P3-244 W16	東 若菜	京大院・農	P2-309	石井 弓美子	国立環境研究所
U07	足立直樹	(株)レスポンスアピリ ティ	U05	石井 励一郎	地球研
P2-315	安立 美奈子	筑波大学生命環境	P2-285	石神 香穂	玉川大学
W19	渥美 圭佑	北大環境	F02-05	石川 麻乃	国立遺伝学研究所
P1-072	安積 紗羅々	東大・農	U07	石川 真一	群馬大
D01-11	穴澤 正宏	東北工業大学	PH-02	石川 智就	越谷北高等学校
G01-05	安部 淳	明治学院大学・教養	S06-4	石川 尚人	海洋研究開発機構
P2-149	阿部 森也	東京農工大学	P2-132	石川 みくり	東大院・総合文化
G01-12	阿部 智和	千葉大・理	P2-046	石川 雄大	名古屋大学
P3-175	阿部 晴恵	新潟大・農	F02-02	石川 由希	名古屋大学, 東北大学
P3-115	雨谷 教弘	国環研	T11-2	石川 幸男	弘前大学
S15-2	尼子 直輝	環境省	P3-230	石毛 太一郎	東京農業大学ゲノム
P3-070	甘田 岳	京大・農・森林生態	P3-156	石崎 智美	新潟大・院・自然研
P1-221	荒 裕樹	信州大・院・農	D02-02	石田 清	弘前大学
P1-084	荒井 岳	明大院・農	P1-083	石田 拳	北大・院・環境
P1-117	荒木 鞠那	宇都宮大・バイオ	P3-275	石田 惣	大阪市立自然史博物館
			S01-5	石塚 航	北海道立総合研究機構 林業試験場
			A01-01	石橋 颯己	東京大学
			PH-30	石原 統哉	兵庫県立龍野高等学校

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
P1-173	石原 凌	岡山大学・環境生命	P3-211	岩田 繁英	東京海洋大学
S12-7	石山 信雄	北海道大学	F01-07	岩田 高志	セントアンドルーズ大
P2-159	泉 北斗	北大院・環境科学	PH-16	岩館 美沙	北海道北広島高等学校
P3-227 W26	伊勢 武史	京都大学, JST さきがけ	P2-129	岩知道 優樹	横浜国立大学
S13-2	磯崎 行雄	東京大・広域	P1-093	岩淵 克哉	中大・理工
P3-205	磯村 尚子	沖縄高専	T14-3	岩淵 喜久男	東京農工大・農学部
P1-274	井田 勇也	新潟大学・自然研	P1-138	岩淵 邦喬	北大・院・環境
P1-283	市川 順也	早稲田大・教育	S09-6	岩見 真吾	九州大学大学院理学研究 院・生物科学部門
B01-04	一條 信明	釧路自然保護協会			滋賀大学・データサイ エンス教育研究センタ ー、国立研究開発法人 科学技術振興機構・さ きがけ
S16-5	市野川 桃子	水産研究・教育機構中 央水産研究所	S19-3	岩山 幸治	神戸大・院・発達
P1-156	井出 征一郎	東京農工大・農	P2-102	鵠 倩倩	三重大学
P2-192	井手 竜也	国立科博・動物	P2-082	上田 和世	(株)豊田中央研究所
P3-196	伊東 明	大阪市大・院理	P3-095	植田 忠伸	日本女子・理
P3-064	伊藤 江利子	森林総研	P3-094	上田 実希	新潟大院・自然科学
P3-268	伊藤 健二	農研機構・農業環境セ	P1-240	上田 羊介	龍谷大・理工
P2-128	伊藤 岳	新潟大学大学院	P1-109	植田 誉規	九州大院・シス生
P3-252	伊藤 健彦	鳥取大学	J01-11	上野 弘人	道総研・環境研
P3-059	伊藤 佑	京大・生態研	W27	上野 真由美	石川県立大
P2-006	伊藤 菜美	新潟大・院・自然科学	U03	上野 裕介	東電大・理工
P2-244	伊藤 萌	東大大海研	P2-281 W16	上原 歩	神戸大学大学院
P3-026	伊東 宏樹	森林総研北海道	P1-062	上原 勇樹	総合地球環境学研究所
P3-213	伊東 啓	東京大学, 長崎大学熱 研	P2-230	上原 佳敏	東京大学・総合文化
F02-08	伊藤 真	京都大学大学院	I02-04	植松 圭吾	琉球大学
P1-113	伊藤 雅浩	東京海洋大	P1-176	植松 潤平	北海道大学理学院
P2-117	伊藤 僚祐	京大院・理	P2-108	植村 慎吾	秋田県大・生物資源
P1-135	井戸川 直人	京大院・農・昆虫生態	P1-002	上山 芝穂	PRESTO, JST, CER, Kyoto Univ.
H02-07	稲垣 辰哉	Kyoto University	P2-253	潮 雅之	中部大学創発, 京都府 立大学生命環境
P3-084	稲垣 善之	森林総研四国	J02-01	牛田 一成	神戸大学人間発達環境
P3-165	稲田 垂穂	東北大生命	P3-134	丑丸 敦史	酪農学園大学
T11-3 W27	稲富 佳洋	道総研環境科学研究セ ンター	P1-237	臼井 森羅	大阪大谷大・薬
P1-142	井上 遠	東京大学	T07-1	内井 喜美子	総研大・先導研
P2-267	井上 雅仁	島根県立三瓶自然館	P2-100 W21	内海 邑	北大・環境
P1-096	井上 光也	高知大学	W25	内田 健太	東北大・生命科学
P1-256	井之上 侑雅	鳥取大学	P1-245	内田 翔太	北海道大学環境科学院
F01-05	井上 裕紀子	水産機構・国際水研	P1-005	内田 葉子	首都大学東京
P2-202	井上(高橋) みずき	日大・文理	P2-160	内山 貴久	北海道大学 北方生物 圏フィールド科学セン ター
P1-184	今井 駿輔	鳥取大学	S01-7	内海 俊介	The Center for Ecological Research, Kyoto University
P2-304	今井 伸夫	東京農大	S04-2 W04	宇野 裕美	北海道立総合研究機構
P3-276	今井 葉子	筑波大学	A02-08	宇野 裕之	東大・農
P1-199	今崎 惟	神戸女学院大学	P1-139	宇野 文貴	森林総研林木育種セ
P3-082	今田 省吾	環境科学技術研究所	P3-047	生方 正俊	北海道大学環境科学院
P2-257	今村 彰生	北教大旭川校	P2-047	梅川 健人	北大・院・農
P2-206	岩井 紀子	農工大・自然環境保全	P3-224	梅林 利弘	森林総研
P3-037	岩泉 正和	森林総研林育セ関西	P2-319	梅村 光俊	日本野鳥の会
E02-07	岩岡 史恵	Kyoto University	S03-5	浦 達也	
G02-01	岩崎 藍子	北大院・環境			
S13-1	岩崎 貴也	神奈川大・理			
W01	岩崎 亘典	農環研			
P1-044	岩崎 隼	東京大学大学院			
P3-223	岩崎 雄一	産業技術総合研究所			

講演・ 企画番号	名 前	所 属	講演・ 企画番号	名 前	所 属
I02-09	占部 城太郎	東北大学	P2-145	大西 信徳	京都大学
S12-3	卜部 浩一	北海道立総合研究機 構・さけます・内水面 水産試験場	P1-269	大沼 俊貴	酪農学園大学
P3-162	柴村 奈緒子	京大・生態研	S19-2	大野 和則	東北大学・未来科学技 術共同研究センター
S04-3	江川 信	Interdisciplinary Graduate School of Science and Technology, Shinshu University	S19	大野 ゆかり	東北大・生命科学
S15-5	江川 知花	農研機構・農環研セン ター	P2-229	大場 孝裕	静岡県・森林研セ
P1-107	浴野 泰甫	鹿児島大学, 佐賀大学	B02-09	大場 真	国立環境研
G01-03	江副 日出夫	大阪府大	P3-201	大林 夏湖	京大・生態研センタ ー, 東大・広域システ ム
P2-236	江藤 毅	新大 朱鷺・自然再生	I01-01	大原 隆之	北大院・環境科学, 九 大・理学
P1-039	江藤 美緒	奈良女子大学	P2-019	大平 溪子	京大・農・森林生態
P1-272	恵日 格也	早稲田大・教育	P2-279	大町 仁志	福島県
P1-181	榎本 尊	北大・水産	P2-039	大矢 樹	大阪市立大学・院理
P1-257	海老原 健吾	中大院・理工	PH-20	大藪 愛紗	金沢泉丘高校
H01-04	槐 ちがや	Univ. of Tsukuba	G02-06	大脇 淳	山梨県富士山研
J02-06	王 首薇	北海道大学	G02-03	岡 千尋	東北大院生命科学
P2-094	王 莫非	岩手大学大学院	P2-286	岡 奈理子	山階鳥類研究所
P1-146	大石 寛貴	佐賀大・農	P3-054	岡崎 純子	大阪教育大学
P2-252	大石 優	産業技術総合研究所	P3-180	岡田 慶一	横浜国大環境情報
I02-08	大河原 恭祐	金沢大学	P2-024	岡田 実憲	名古屋大学
W28	大串 隆之	京都大	T14-1	岡田 泰和	東京大学・院・総合文 化
P2-164	大窪 和理	鹿児島大学	P1-167	岡田 龍也	近大・院・農
S10-2	大久保 祐作	北海道大農	P1-243	尾形 茂紀	島根大院・生資
P1-190	大崎 遥花	九州大学大学院	P2-189	岡部 貴美子	森林総研
P1-016	大崎 晴菜	弘前大学・農生	W02	岡部 憲和	
P2-259	大澤 啓志	日本大学・生物資源	P1-027	岡部 憲和	九大院シス生
T17-4	大澤 隆文	環境省・自然環境局	W05	岡部 憲和	
W17	大澤 隆文	環境省・自然環境局	P3-141	岡村 悠	千葉大学 理学研究科
S15-1	大澤 剛士	農研機構・農環研セン ター	P1-010	岡本 真帆	大阪市大・院理
P2-146	大澤 亮介	神戸大学	P1-294	岡本 遼太郎	筑波大 生物学類
P2-055	大嶋 希美	北海道大学環境科学院	I01-02	小川 一治	名古屋大学
P2-029	大杉 周	信州大学院 総工	P3-237	小川 みふゆ	東大・総合文化
P3-148	太田 民久	富山大学, 総合地球環 境学研究所	P1-099	沖 三奈絵	千葉大・理学研究科
PH-12	太田 成実	清心女子高等学校	P3-161	奥崎 穰	北海道大学
P2-083	太田 浩斗	三重大学	P2-107	小楠 なつき	北海道大学
P2-170	太田 真人	龍谷大・里山研	P3-173	奥田 昇	地球研
P2-287	太田 陽子	緑と水の連絡会議	T14-2	小口 晃平	東大・院理・附属臨海
P1-079	大竹 裕里恵	東大・総合文化	P3-089	小口 理一	東北大学院 生命科学
P1-174	大竹 遼河	京都大学	I02-07	奥野 修平	日本大学
P2-262	大谷 達也	森林総合研究所	P3-204	奥野 聖也	大阪市大・院理
PH-28	大塚 慎也	仙台第一高等学校	P1-189	奥村 洋介	京大・院・理
P2-310	大塚 俊也	岐阜大学	S13-7	奥山 雄大	科博・植物園
P2-035	大塚 勇哉	明大・院・農	P1-183	小黒 歩	北大院水産
P3-179	大槻 朝	東北大・院・生命	T08-4	小黒 環	新潟大学
P3-214	大槻 久	総合研究大学院大学	P3-199	小黒 芳生	森林総研
P2-303	大手 信人	Kyoto University	W23	尾崎 研一	森林総研
U05	大手 信人	Kyoto University	P3-087	長田 典之	名城大学
P1-052	大堂 太郎	信州大学大学院	T01-1	長田 穰	総合地球環境学研究所
P3-219	大西 修平	東海大学	P3-191	尾関 雅章	長野県環境保全研
P3-121	大西 尚樹	森林総研・東北	P1-081	織田 さやか	北大・院・環境
			P2-053	越智 和子	公立鳥取環境大学
			P1-242	小沼 佑之介	筑波大学

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
P3-069	小野 清美	北大・低温研	S01-1	門脇 浩明	京都大学生態研センタ ー
P2-060	小野 喬亮	東北大・理・生物	P1-124	門脇 喜彦	滋賀県立大学
S08-3	小野田 雄介	Kyoto University	P3-279	金尾 滋史	滋賀県立琵琶湖博物館
P3-236	小野田 幸生	土研・共生セ	P3-168	金澤 光	埼玉県環境科学国際セ ンター
P1-225	小宅 成美	Hokkaido Univ.	P1-082	金地 伊織	明大院・農
P2-018	小宅 由似	京都大学大学院	J02-11	金田 彰二	佐野市教育楽習講師会
A02-03	小柳 充	新潟大学	P2-111	金森 駿介	東北大・院・生命
P2-016	小山 有夢	東北大・院・生命	P2-138	金森 充晃	明大院・農
P2-301	折田 亮	佐大・低平地沿岸セ	W10	ガニエ 拓也	筑波大・生物科学
P1-047	織原 健人	東京大学大学院	P2-234	金子 楓	九大院・システム生命
P2-076	織邊 尚子	名古屋大学	I02-10	金子 信博	横浜国立大学
S09-1	鏡味 麻衣子	東邦大学・理学部	G01-09	金子 裕明	神奈川工科大学
P1-205	加賀山 翔一	東邦大院・理	P2-110	上岡 駿宏	東北大学
P1-042	香川 理	東北大学	T07-3	神谷 麻梨	京都大・生態研、龍谷 大・食農研
F02-06	柿岡 諒	国立遺伝学研究所	B01-03	上村 兼輔	東京大学
P3-246	柿沼 薫	東京工業大学, Columbia University, NASA GISS	T14-4	亀岡 慎一郎	京大院・人環
P3-197	鍵谷 進乃介	北大・環境科学院	B01-05	苅部 治紀	神奈川県博
P3-212	笠井 敦	静岡大・農・応用昆虫	P3-019	河合 清定	京大・農
P3-221	笠田 実	東京大学	P3-042	川合 由加	北大・地球環境科学
P2-224	風間 健太郎	北海道大学	P2-162	川井田 俊	東大院・農
D01-03	風間 健宏	東北大院・生命	W11	川上達也	東大沿岸セ
T11-1	梶 光一	東京農工大学	P1-070	川上 将樹	龍谷大学, マラウイ大 学
P2-074	梶野 浩史	京都大学農学研究科	S03-3	河口 洋一	徳島大・理工
S10-3 W07	粕谷 英一	九州大理	P2-001	川崎 雅裕	広島大・理・生物科学
P3-114	片岡 博行	重井薬用植物園	P1-104	川瀬 貴礼	龍谷大学
A01-08	片桐 浩司	秋田県立秋田中央高 校, 秋田県立大学	S19-1	河田 雅圭	東北大学・生命科学研 究科
P2-312	堅田 元喜	茨城大学	P1-208	河田 萌音	神戸大院・発達
P2-306	片山 歩美	九大演習林	J02-07	川津 一隆	龍谷大・理工
P2-070	片山 彩	東大院理・日光植物園 農業環境変動研究セン ター	P3-209	川西 亮太	北大・院・地球環境
T15-1	片山 直樹	京大・生態研	P3-243	河村 和洋	北大院・農
P3-032	片山 昇	京大・生態研	T05-3	河村 功一	三重大・生物資源
P1-045	片山 瑠衣	新潟大学・自然研	S16-3	河村 知彦	東京大学大気海洋研究 所
T16 U07	可知 直毅	首都大	P2-030	川村 遼馬	日大・文理
P1-216	加知 義教	信州大・農	D01-02	河本 泰岳	東北大学大学院
P2-087	勝浦 柊	名古屋大学	P1-145	神吉 隆行	東大大海研
P3-048	勝川 健三	弘前大学・教育	P3-233	神田 房行	北方環境研究所
I01-09	勝原 光希	神戸大学	P2-191	神田 侑奈	北教大・札・生物
P1-179	勝部 尚隆	琉球大・院・農・昆虫	P1-186	寒竹 悠子	北大院・水産
P2-080	桂 友里枝	岐阜大・応生	PH-27	菅野 琴音	加古川東高等学校
PH-11	加藤 慎吾	埼玉県立坂戸西高校	P1-182	菅野 慎	酪農学園大学
F01-04	加藤 貴大	総研大・先導科学	P1-063	菅野 友哉	麻布大学
I02-02	加藤 禎孝	奈良教育大学	G01-07	菊地 賢	森林総合研究所
E01-03	加藤 颯人	Hokkaido University	P1-266	菊地 亮太	弘前大・院・農生
P3-163	加藤 三步	鹿児島大学, 琉球大学	P3-269	岸 茂樹	国立環境研
A02-06	加藤 元海	高知大学	T05-1	岸田 治	北大・北方圏 FSC
P1-276	加藤 夕貴	早稲田大・教育	P2-105	岸田 宗範	宮内庁侍従職生研
S06-5	加藤 義和	総合地球環境学研究所	P2-186	岸田 竜	佐大 農
T06-2	角谷 拓	国立環境研究所	P2-114	岸本 溪	首都大学東京
P1-017	角屋 真澄	富山大学	P2-171	岸本 圭子	新大 朱鷺・自然再生 ふじのくに地球環境史 ミュージアム
			T16-5	岸本 年郎	

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
P1-260	北市 仁	北大院・環境科学	P3-260	栗山 武夫	兵庫県立大学
P1-090	北上 雄大	三重大院生資	P2-167	栗和田 隆	鹿児島大学
P2-182	北川 忠生	近畿大学農学部	P2-098	黒澤 陽子	山形大学
P1-252	北沢 宗大	北大・農	T08-5	黒田 暁	長崎大学
P3-166	北出 理	茨城大学	P1-088	黒田 志織	千葉大・院・生物
P1-144	北野 大輔	滋賀県大院・環境科学	PH-10	黒田 峻平	海城中学高等学校
P2-290	北野 雅人	(株)竹中工務店	F01-01	黒田 剛広	神戸大学大学院
P1-162	北林 慶子	金沢大学	P1-180	畔柳 聴	宮大院・動物環境管理
P1-251	北原 瑛斗	信大院・総合理工学	T02-4	加 三千宣	愛媛大学沿岸環境科学 研究センター
P3-169	北村 系子	森林総合研究所	P1-105	桑野 友輔	早稲田大学人間科学部
P3-130	北村 俊平	石川県立大学	A02-05	桑原 里奈	兵庫県立大学大学院
P2-002	北村 麻夏	京大・農・森林生態	P1-289	桑山 知子	日本大学
P3-253	北村 亘	東京都市大学	P3-152	小池 伸介	東京農工大学
P2-296	木塚 俊和	北海道立総合研究機構	B01-09	小池 文人	横浜国立大学
P3-079	衣笠 利彦	鳥取大学農学部	S12-2 W19	小泉 逸郎	北海道大学
P1-094	木野 寛	横浜国立大学	T16-2	小泉 恵佑	小笠原支庁
P1-166	木下 千尋	東大大海研	T06-3	小出 大	国立環境研究所
E02-03	木下 智光	KIT	P3-251	幸田 良介	大阪環農水研
P2-185	木下 智章	佐賀大・農	P2-135	甲野 耀登	東大・農
P1-053	木村 彰宏	弘前大学	P1-155	小海 佑樹	龍谷大・院・理工
P2-139	木村 圭一	東大・農	D02-05	甲山 隆司	北海道大学
P3-110	木村 成子	滋賀県大・環境	P2-297	小関 右介	大妻女子大学
P2-292	木村 妙子	三重大院・生物資源	P2-282 W13	小玉 愛子	苫小牧市美術博物館
P1-141	木村 友朗	明治大学	S06-2	後藤(桜井) 晶子	金沢大学
P2-089	木村 芙久	日本大学	P1-217	後藤 颯太	帯広畜産大学
PH-19	木村 真里恵	加古川東高等学校	P1-143	後藤 理	三重大・院・生物資源
U01	木村(加藤) 恵	森林総研・林育セ	T01-5	後藤 佑介	東京大学大気海洋研究 所
P3-062	京極 大助	Ryukoku University	P2-238	小西 哲郎	中部大学
C02-07	久我 立	九州大学	F01-06	小林 篤	東邦大学
P2-241	日下部 綾音	岐阜県立岐阜高等学校	S18-2 W21	小林 和也	京都大学フィールド科 学教育研究センター
PH-01	日下部 玄	弘前大学	P3-071	小林 慧人	京大・農・森林生態
P2-052	日下部 玄	弘前大学	P2-023	小林 哲	玉川大・農・院
P2-066	串田 隆佑	帯広畜産大学	P3-153	小林 峻	琉球大学
T13-2	楠本 良延	農研機構・農業環境変 動研究センター	P1-100	小林 卓也	京大院理
P1-194	工藤 秀平	金沢大・理工	P3-178	小林 尚暉	帝京科学大学
P1-254	工藤 遥香	中大院・理工	P1-149	小林 大純	琉大院理工, 琉大熱生 研
P3-139	工藤 洋	京都大学・生態研	P3-036	小林 誠	十日町市立里山科学館
P2-233	工藤 宏美	東京大学, 日本学術振 興会	P3-081	小林 正樹	国際農研
P1-074	國島 大河	琉球大・院・理工	G02-04	小林 慶子	国立環境研究所
W07	久保 拓弥	北大・地球環境	P2-061	駒田 夏生	京大・農
I01-08	久保 美貴	奈良女子大学理学部	P1-207	小町 亮介	新潟大・院・自然科学
T09-5	久保田 康裕	University of the Ryukyus	F01-09	小宮山 英重	野生鮭研究所
P2-057	熊谷 泉	弘前大学・農学生命	P1-286	小室 拓央	早稲田大・教育
T06-4	熊谷 直喜	国立環境研究所	P2-251	小柳 知代	東京学芸大学
P3-157	熊谷 菜摘	奈良女子大学大学院	B02-06	小山 明日香	東大院農
P2-237	熊野 了州	帯広畜産大学	P3-068	小山 耕平	帯広畜産大
P3-092	久米 篤	九州大学	P1-263	小山 悠太	早稲田大・院・先進
T08-2	久米 元	鹿児島大学	P2-243	小山 里奈	京大・院・情報
P2-308	久米 朋宣	国立台湾大学			
P2-274	倉本 宣	明大・農			
E02-09	栗原 駿	university of tokyo			
F01-08	栗原 洋介	京都大学			

講演・ 企画番号	名 前	所 属	講演・ 企画番号	名 前	所 属
P3-176	今藤 夏子	国立環境研・生物	G02-09	佐藤 博俊	龍谷大・理工, 京都大・院・人環
P3-202	近藤 博史	神奈川県自然環境保七	P2-207	佐藤 允昭	水産研究・教育機構
J02-09	近藤 倫生	龍谷大	P2-118	佐藤 正都	総合研究大学院大学
P2-314	近藤 美由紀	環境研	PH-06	佐藤 元拓	北海道北広島高等学校
I02-01	今野 浩太郎	農研機構生物機能部門	D02-06	佐藤 安弘	龍谷大 JST さきがけ
P3-034	指村 奈穂子	山梨県森林総合研究所	P1-253	佐藤 悠	京都大学 野生動物
P3-241	西郷 甲矢人	長浜バイオ大学	P3-266	佐藤 里沙	日本森林技術協会
P1-188	西條 未来	総研大・先導研	P1-164	里見 太輔	神戸大・人間発達環境
P1-238	齋藤 輝志	北教大旭川校	P3-256	佐野 淳之	鳥取大学
E01-06	齋藤 隆	Hokkaido University	P2-204	佐橋 玄記	東大院農
P3-083	齋藤 隆実	森林総研	P3-066	澤上 航一郎	東大院理・日光植物園
P2-014	齋藤 ひさ	千葉大院・園芸	P2-036	澤崎 佑太	九州大学
S16-2	齋藤 宏明	東京大学大気海洋研究所	P2-179	澤田 晶子	京都府立大学
P2-172	斎藤 裕美	東海大学	PH-38	澤田 彩生	清心女子高等学校
P3-119	斎藤 昌幸	山形大学農学部	P1-108	沢田 隼	龍谷大・院・理工
P1-161	齋藤 美保	京都大学大学院	P3-103	澤島 拓夫	近畿大農
T05	佐伯 いく代	筑波大・人間総合	P3-281	澤邊 久美子	滋賀県立琵琶湖博物館
P2-278	坂 雅宏	京都府保健環境研究所	P1-151	史 宗艶	琉球大学
P3-002	酒井 暁子	横浜国大・環境情報	P1-023	塩崎 暢彦	東京農大・院・林学
W19	酒井 理	京大理	P1-196	塩田 圭祐	兵庫県立大学院
E02-01	酒井 章子	Kyoto University	T04-4	塩野 貴之	琉球大・理学部
P3-193	境 優	中大・理工	P1-106	重田 環志	龍谷大・院・理工
D02-10	酒井 佑禎	北海道大学	P2-017	重原 奈津子	京都大学
P2-222	坂尾 美帆	東大大海研	P2-141	宍倉 慎一郎	東邦大学大学院
P3-033	阪口 翔太	京都大学・人環	P2-101	篠原 忠	神戸大・人間発達環境
H02-02	坂田 大介	CBFS	H01-08	篠原 直登	University of Tokyo
P1-032	坂田 雅之	神戸大・院・発達	P3-270	篠部 将太郎	東北大・生命科学
P1-015	坂本 杏子	兵庫県立大学	P3-057	柴田 あかり	北大・環境
J01-03	坂本 信介	宮大農・動物環境管理	P1-046	芝田 直樹	龍谷大・院・理工
P1-255	坂本 大地	九州大学	P2-201	柴田 泰宙	東北区水産研究所
C02-02	坂本 貴洋	University of Tokyo	P3-122	柴田 嶺	総合地球環境学研究所
P3-049	崎尾 均	新潟大学農学部	B02-05	島田 和則	森林総研・多摩
P2-263	佐久間 智子	西中国自然史研究会	I02-05	島田 卓哉	森林総研・東北
P2-246	櫻井 麗賀	人と自然の博物館	P2-081	島田 菜摘	鹿児島大学
S09-2	佐々木 顕	総合研究大学院大学・先導科学研究科	G01-04	嶋田 正和	東大・総合文化・広域
PH-39	佐々木 洸大	海城中学高等学校	S10-1	島谷 健一郎	統計数理研究所
P2-085	佐々木 駿	東京大学大学院	P3-185	島野 智之	法政大学
P2-022	佐々木 崇徳	東北大学大学院・農	P3-023	嶋村 鉄也	Ehime University
P3-124	佐々木 尚子	京都府大・生命環境	P2-151	島本 悠希	北海道大学環境科学院
P2-197	佐々木 那由太	北大・北方圏・FSC	PH-05	清水 花衣	埼玉県立川越女子高校
I01-10	佐竹 暁子	九州大学	PH-15	清水 英幸	NIES
F01-11	里居 伸祐	九州大学	P3-097	志村 綱太	首都大・理工・生命
P1-008	佐藤 愛	千葉大・理	P2-056	下地 博之	関西学院大学
P1-071	佐藤 恵里	千葉大・院・理	P2-213	下野 綾子	東邦大・理・生物
D01-06	佐藤 一憲	静岡大学	P3-108	下野 皓平	九大・農
S07-2	佐藤 謙	北海学園大学	P1-281	下野谷 涼子	東北大・理・生物
P3-238	佐藤 重穂	森林総研北海道	P1-019	首藤 光太郎	新潟大学教育学部
S04-4	佐藤 拓哉	Graduate School of Science, Kobe University	P2-288	朱宮 文晴	日本自然保護協会
C02-08	佐藤 雄亮	Univ. of Tokyo	T16-3	徐 寿明	神戸大学大学院人間発達環境学研究科
P1-282	佐藤 翼	東邦大・理	T02-6	商 奕晨	金沢大・院・自然研
P2-247	佐藤 臨	弘前大・農生	A01-02	庄子 晶子	北海道大学

講演・ 企画番号	名 前	所 属	講演・ 企画番号	名 前	所 属
J02-05	小路 淳	広島大学	P1-178	関澤 麻伊沙	総合研究大学院大学
S15-7	白川 勝信	北広島町立 芸北 高原 の自然館	S03-1	関島 恒夫	新潟大・農
P2-038	白濱 千紘	弘前大学	P1-006	瀬口 翔太	近大院・農
P1-226	白石 拓也	明大・農	T07-2	瀬戸 健介	東邦大・理
P3-132	城田 徹央	信州大学	P2-316	千賀 有希子	東邦大学理学部
P1-185	神宮 彬彦	首都大・生命	T06-1	先崎 理之	国立環境研究所
P2-198	末吉 昌宏	森林総研九州	P1-270	曹 若明	Gifu University
P3-277	須賀 丈	長野県環境保全研	P2-177	寒川 清佳	(国研) 水研機構
P3-164	菅 美保子	玉川大・農	U01	曾我 昌史	東大
P3-041	須貝 杏子	島根大・生物資源	P2-095	染谷 汐織	筑波大院・生命環境
H02-04	菅澤 承子	Univ. of St Andrews	E02-06	孫 麗娟	Kyoto University
S19-4	菅沼 雅徳	東北大学・情報科学研究科	P2-077	多賀 洋輝	京都大学森林生態学
P2-209	杉浦 秀樹	京都大・野生動物	P2-091	高井 紀史	名城大学
P2-137	杉浦 滯	北海道大学	A01-06	高岡 貞夫	専修大学
PH-17	杉浦 美帆	玉川学園高等部	P2-194	高木 悦郎	首都大学東京
P2-147	杉浦 由佳	東京大学農学部	P1-249	高木 香里	東大・農
P2-051	杉村 大輔	龍谷大・院・理工	P3-239	高木 俊	兵庫県立大学
P2-062	杉本 咲	弘前大学	P1-018	高木 豊大	東京大学大学院
A02-07	杉本 太郎	鳥取大学	P1-035	高木 勇輔	横浜国大・環境情報
C01-05	杉山 杏奈	Yale Univ	P1-231	高島 敬子	神戸大・人間発達環境
P3-105	杉山 賢子	東大 新領域	D01-08	高須 夫悟	奈良女子大学理学部
P2-195	洲崎 雄	大阪市大・院・理, JSPS PD	P1-114	高田 隼人	山梨県富士山研究所, 麻布大学
P2-106	鈴木 あすみ	帯広畜産大	P1-222	高田 陽	明大・農
P3-182	鈴木 英治	鹿児島大学理工学	P2-212	高津 邦夫	静岡大学
P2-203	鈴木 圭	水研機構 西水研	P2-003	高鳥 友樹	横浜国大・理工
D01-07	鈴木 健大	国立環境研究所	P2-266	高野(竹中) 宏平	長野県環境保全研究所
S16-7	鈴木 光次	北海道大学大学院地球 環境科学研究院	P1-119	高橋 華江	神戸大学
T10-5 U01	鈴木 智之	東大・農	P3-151	高橋 香織	クマ棚ネットワーク
P1-086	鈴木 茂信	富山大学院・理工	P3-149	高橋 一秋	長野大環境ツーリズム
S02-4	鈴木 伸一	Tokyo University of Agriculture	W03	高橋 一男	岡大院・環境生命
T03-1	鈴木 誉保	農研機構	E02-02	高橋 さやか	Kyoto University
P2-255	鈴木 透	酪農学園大学	P1-248	高橋 菜	東邦大学理学研究科
T03-2	鈴木 俊貴	京都大・生態研	P2-103	高橋 迪彦	東北大学院生命科学
W08	鈴木規慈	千葉県生物多様性セ	T14-5	高橋 佑磨	千葉大・院・理
P2-163	鈴木 紀之	UC Berkeley	A01-11	高原 輝彦	島根大・生資
P2-130	鈴木 広美	東邦大院・理	P3-127	高原 光	京都府立大学
P3-254 U03	鈴木 牧	東大・新領域	A02-09	高村 健二	国立環境研
P1-134	鈴木 裕香	OIST	P3-107	高安 伶奈	理研 IMS
P3-174	須島 充昭	東大総合文化	P1-233	田川 一希	九大・院・生態, 中村 学園大・教育
P3-273	須藤 正彬	<a href="https://sudori.info/">https://sudori.info/</a> , 農研 機構	P2-120	滝ヶ平 智博	岡山大学・環境生命
P2-004	角 和暁	京都大・院・農	S06-3	滝沢 侑子	北海道大学
PH-33	住岡 凜々花	稚内市立稚内中学校	S04-5	瀧本 岳	Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo
P1-285	墨野倉 伸彦	早稲田大・院・先進			名古屋工業大学大学 院・情報工学専攻・情 報科学フロンティア研 究院、理化学研究所・ 革新知能統合研究セン ター、物質材料研究機 構・情報統合型物質・ 材料研究拠点
W15	陶山 佳久	東北大・農	S19-5	竹内 一郎	早稲田大学
E02-11	清野 達之	Univ Tsukuba	P3-183	竹内 やよい	国立環境研究所
D01-01	瀬川 太雄	三重大院・生資・鯨 セ, (独) 学振・PD			
P3-076	関 剛	FFPRI, Hokkaido			
P2-256	関川 清広	玉川大・農・環境農			

講演・ 企画番号	名 前	所 属	講演・ 企画番号	名 前	所 属
P2-225	竹内 勇一	富山大学	P2-027	陳 磊	Hokkaido University
T08	武島 弘彦	東海大海洋	P1-265	月森 勇氣	早稲田大・院・先進
P1-024	武田 和也	京都大学	P3-181	槻木(加) 玲美	松山大学
P2-037	武田 紗季	大阪市立大学・院理	D01-04	辻 かおる	京大・生態研センター
P3-014	竹中 明夫	国立環境研究所	G01-11	辻 冴月	龍谷大院・理工
P1-030	竹中 將起	信州大院・総合工, JSPS・DC1	P2-040	辻 優作	奈良教育大学
T04-2	竹野内 正寿	富士通研究所	P1-126	辻井 美咲	神戸女学院大学
P2-088	竹原 巧	京大・農・森林生態	P2-305	辻井 悠希	京都大・農
P1-121	尋木 優平	佐賀大学	P2-242	辻野 亮	奈良教育大学自然セ
T02-2	多田 眞証	龍谷大・理工	P2-072	辻本 克斗	東北大学
P3-262	多田 哲子	京都府保健環境研究所	P3-137	辻本 翔平	富山大学
S09-3	立木 佑弥	シェフィールド大学・ 動植物科学科	S16-6	津田 敦	東京大学大気海洋研究 所
P1-033	橘 孝祐	横浜国立大学	P1-279	津田 菜月	三重大学
P1-007	橘 太希	横浜国立大学	PH-31	土田 康太	岐阜県立岐阜高等学校
P1-055	立花 道草	北大院・環境	J02-02	土田 さやか	京都府立大学生命環境
P3-158 W03	立田 晴記	琉球大学	P3-116	土屋 一彬	東大・農
P1-012	龍野 瑞甫	京大・農・森林生態	P3-200	筒井 優	東京大学・農
C01-04	辰巳 晋一	横浜国立大学, トロン ト大学	P1-040	都築 洋一	東大・農
P3-228	立脇 隆文	人間環境大学	W15	綱本 良啓	東北大・農
J01-01	田中 幸一	農研機構	J01-02 W14	都野 展子	金沢大学
P3-086	田中 翔大	筑波大・生物資源	PH-43	角田 柊	越谷北高等学校
P3-077	田中 格	山梨県森林総合研究所	P3-131	角田 智詞	iDiv, 首都大
P1-293	田中 直斗	中央大学	S15-6	角田 裕志	埼玉県環境科学国際セ ンター
P1-123	田中 陽菜	宮大農・動物環境管理	P3-029	露崎 史朗	北海道大学
E01-12	田中 嘉成	Sophia University	P2-221	鶴井 香織	琉球大・戦略研究セ
P1-275	棚澤 由実菜	早稲田大・教育	P1-116	鶴谷 峻之	龍谷大学・院・理工
P3-160	田辺 力	熊本大・教育	P1-169	出岐 大空	琉球大・農・昆虫
P3-039	谷 友和	上越教育大学	P2-010	鐵 慎太郎	東京農工大学大学院
P1-148	谷尾 伊織	北海道大学	G01-10	手塚 あゆみ	龍谷大学 食農研
P1-111	谷尾 崇	明大・農	P1-159	出戸 秀典	東京大学
C01-12	谷口 義則	Meijo University	P1-271	寺尾 明日実	兵庫県立大学
P1-191	谷野 俊介	帝京科学大学院	P2-124	寺田 夏蓮	神戸大学
I01-04	種子田 春彦	東京大学	P3-025	寺田 佐恵子	京都大学霊長類研究所
P1-065	田之岡 綾花	横浜国立大学	P1-153	寺山 佳奈	高知大学
P1-085	田原 大督	大阪市立大学・理	T02-5	土居 秀幸	兵庫県立大学大学院シ ミュレーション学研究 科
P3-187	玉田 克巳	道総研	P1-078	峠 明杜	京大・霊長類研究所
P1-224	田村 紗彩	北大/院/農	G01-02	道下 誠	九州大学
P2-008	田村 萌	北教大・札幌・生物	P1-037	峠谷 彩奈	神戸大学
S06-7	陀安 一郎	総合地球環境学研究所	I01-07	田路 翼	信州大・院
P2-291	田和 康太	土木研究所河川生態	S08-6	東樹 宏和	Kyoto University
P1-232	段 雨佳	筑波大学・生命環境	S13-5	東城 幸治	信州大・理
P3-012	丹野 夕輝	静岡大・院, 株式会社 エコリス	P3-055	富樫 辰也	千葉大学
S06-1	力石 嘉人	北海道大学	P2-193	土岐 和多瑠	名古屋大・農
C01-09	千野 結子	東京農工大学大学院	S09-5	時田 恵一郎	名古屋大学・大学院情 報学研究科
P3-189	茶木 慧太	千葉大学・理	P3-144	徳田 誠	佐賀大・農
P1-115	中鉢 蒼	琉球大学	P1-013	栃木 香帆子	東京農工大学
P2-013	張 秀龍	筑波大学	PH-18	栃木 陽太	仙台第一高等学校
P3-010	張 蒙	九州大学	P3-280	外崎 杏由子	筑波大学大学院
P1-028	丁野 梨沙	東京大学農学部	T03-4	土畑 重人	京都大・農
P1-267	陳 思宇	岐阜大学	P1-064	戸祭 森彦	筑波大学下田臨海

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
P1-101	富田 幹次	北海道大学	P2-210	永野 真理子	兵庫県立大院・シミュ
P1-215	富田 勢	神戸大・院・発達	P1-154	中橋 優芽香	神戸女学院大学大学院
P3-005	富田 瑞樹	東京情報大学	P2-068	仲畑 了	京都大学農学研究科
P3-085	富松 元	国立環境研究所 生物	P3-229	中浜 直之	東京大・総合文化
P3-043	富松 裕	山形大・理	D02-01 W05	永濱 藍	九大・シス生
P3-009	友常 満利	早稲田大・教育総合	H02-03	中林 雅	Univ. Ryukyus
P2-096	土山 紘平	筑波大院・生命環境	P2-216	中原 麻智	龍谷大・院・理
PH-23	豊田 英里	清心女子高等学校	P1-211	中原 美穂	信州大・農
P1-069	鳥居 裕太	名古屋大生命農	P3-020	永松 大	鳥取大学
P2-005	内木 翔大	新潟大学・自然研	B02-08	中丸 麻由子	東京工業大学
T15-2	内藤 和明	兵庫県立大・地域資源	P2-143	中道 友規	龍谷大・理工
P3-013 W04	直江 将司	森林総合研究所	P2-199	永光 輝義	森林総研北海道
W18	永井 信	JAMSTEC・地球環境 観測セ	G02-05	中村 彰宏	シーサンパンナ植物園
P3-028	長池 卓男	山梨県森林研	S07-1	中村 剛	北海道大学北方生物圏 フィールド科学センタ ー植物園
P1-258	中泉 雄登	筑波大学・生物	P3-136	中村 祥子	森林研究・整備機構, 北海道大学
J02-04	中尾 遼平	神戸大院・発達	P2-144	中村 慎吾	北海道大学環境科学院
S16-8 U02	仲岡 雅裕	北海道大学北方生物圏 フィールド科学センタ ー厚岸臨海実験所	P3-091	中村 隆俊	東京農大 生物産業
P1-004	中軽米 聖花	東北大学・院・生命	H02-09	中村 哲朗	KIT
P1-118	中川 知己	首都大学東京	S12-1	中村 太士	北海道大学
P2-205	中川 光	京都大学	W24	中村 誠宏	北大・FSC
P3-217	中桐 齊之	兵庫県立大学	P3-210	中村 瑞稀	奈良女子大学
P1-292	中込 里穂	中央大学	P2-063	中村 祐介	龍谷大学
P2-276	長坂 晶子	道総研林業試験場	P1-264	中村 亮介	Kyoto Univ.
P2-318	長坂 有	道総研林業試験場	P2-099	中本 幸弘	筑波大院・生命環境
E01-01	仲澤 剛史	Natl Cheng Kung Univ	F01-03	長屋 ひろみ	総合研究大学院大学
P2-302	中路 達郎	北海道大学	PH-40	中山 和音	清心女子高等学校
P2-218	中下 留美子	森林総研	P3-215	中山 新一朗	国際水産資源研究所
T01-2	中島 啓裕	日本大学生物資源科学 部	P1-219	夏川 遼生	横浜国立大学大学院
P1-076	中島 一豪	東京大学	D01-10	難波 利幸	大阪府立大学
S05-1	中島 経夫	岡山理科大学	P1-067	難波 瑞穂	北海道大学
P2-261	中城 海咲	高知大学	P1-244	南部 美紗	玉川大学
P2-231	中田 兼介	京都女子大学	P1-022	南木 悠	総合研究大学院大学
P1-213	中田 泰地	信州大・農	PH-13	二川原 湧	立命館慶祥高等学校
I01-03	中田 貴子	筑波大・山岳科学	P3-038	西尾 孝佳	宇都宮大学
J01-07	永田 拳吾	九州大学	P1-170	西川 巧馬	龍谷大・理工
P1-158	永田 広大	東大・農	F02-07	西川 真理	京都大学
P3-192	長太 伸章	国立科学博物館	P3-261	西川 洋子	道総研環境研
J01-09	永田 尚志	新潟大・朱鷺自然セ	P2-009	西坂 志帆	横浜国立大・理工
P2-136	永田 優	北大農学部	P3-001	西澤 啓太	横浜国大
T04-3	中臺 亮介	琉球大・理学部/一財 沖縄県環境科学C	P2-219	西嶋 翔太	水産機構・中央水研
P1-168	中武 洋佑	長崎大・院・水環	PH-29	西嶋 龍太郎	福岡県立城南高等学校
P2-271	中地 シュウ	黒潮生物研究所	S15-8 U03	西田 貴明	三菱UFJリサーチ&コ ンサルティング(株)
F02-09	中西 絢子	長崎大院・水環	P1-201	西田 有佑	大阪市大・院・理
P2-254	中西 康介	国立環境研究所	P3-063	西野 貴子	大阪府立大学
P1-288	長根 美和子	北海道大学環境科学院	W08	西原 昇吾	中央大・理工
D01-05	中野 伸一	京都大学	S01-6	西廣 淳	東邦大学理学部
P1-280	中野 正隆	京大・農・森林生態	P2-196	西村 欣也	北海道大学
P1-097	長野 秀美	京大・農・森林生態	P2-123	西村 太良	神戸大・人間発達環境
P2-258	永野 昌博	大分大学理工学部	P3-027	西村 尚之	群馬大・社会情報

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
P2-298	西本 篤史	水産研究・教育機構	T05-2	長谷川 雅美	東邦大・理
PH-21	西山 弘和	北海道稚内高等学校	P2-227	長谷川 克	総研大・先導研
P1-200	西山 若菜	奈良女子大学	P2-161	長谷川 元洋	森林総研/四国
U06	西脇 亜也	宮崎大学	P1-049	秦 和也	千葉大学
P3-140	日下石 碧	筑波大・院・保全生態	P3-257	畑 憲治	首都大院・理工
P3-232	丹羽 英之	京都学園大学	P2-064	畑川 芳弥	千葉大学 園芸学部
S15-4 U03	沼田 真也	首都大・都市環境	J01-04	畑瀬 英男	東大大気海洋研
S12-4	根岸 淳二郎	北海道大学	U06	畑田 彩	京都外国語大学
P1-058	根岸 有紀	東北大学大学院	P2-165	服部 昭尚	滋賀大学教育学部
P3-188	根本 航	東京電機大学・理工	B02-03	服部 隆征	東大・院・農
P1-197	野口 功貴	龍谷大学	P2-215	服部 充	長大・水環
P2-078	野口 結子	神戸大学農学研究科	P1-011	花崎 直史	京都工芸繊維大学
P1-133	野口 遥平	北大院環境	T15-3	馬場 友希	農業環境変動研究センター
H02-08	野崎 友成	Kyoto university	P2-220	濱尾 章二	国立科博・動物
P3-128	野下 浩司	JST さきがけ, 東京大院・農学生命	P3-271	浜崎 健児	豊田市矢作川研
P2-113	野尻 太郎	北海道大学環境科学院	E01-09	濱崎 智美	Kyushu University
P3-186	能勢 泰祐	積水化学工業	P1-204	濱崎 真克	北海道大学環境科学院
P1-239	野田 佳愛	京大院・農	A01-09	濱島 翼	名城大学・院・理工
P1-122	野田 康太郎	宇都宮大学大学院	P1-061	濱本 健汰	信州大学大学院
P1-103	野中 春日	琉球大学	P2-295	林 健太郎	農研機構・農環セ
P2-121	野々山 朋信	東北大学	P3-226	林 珠乃	龍谷大学理工学部, 龍谷大学里山研
P2-320 W09	野原 精一	国立環境研究所	P1-127	林 寿樹	福井県大・海洋
H02-06	野間野 史明	総研大・先導研	J02-10	林 亮太	日本工営株式会社
P1-220	野村 賢吾	龍谷大学・院・理工	P3-129	林 竜馬	滋賀県立琵琶湖博物館
P1-192	野村 将一郎	龍谷大・理工	P1-223	速水 花奈	神戸大・発達
P2-025	野村 康之	京都大・院・農	P2-264	速水 裕樹	伊豆沼財団
P1-036	乗松 大智	東北大・理・生物	A01-10	速水 将人	道総研・林業試験場
PH-37	野呂 太一	北海道北広島高等学校	B02-04	原口 岳	総合地球研
P2-134	芳賀 智宏	大阪大学	T17-3	原島 省	一般社団法人 国際環境研究協会
P1-021	芳賀 真帆	北大・環境科学院	P1-003	原田 憲佑	東大院・新領域
P2-166	朴 容煥	神戸大学	T10-3	原田 友也	金沢大
J02-08	橋詰 茜	日本大学	P2-065	原本 すみれ	佐賀大学
P2-190	橋本 晃生	首都大・生命	P3-074	原山 尚徳	森林総研北海道
P1-087	橋本 洸哉	京大生態研(現近大)	P2-273	波利井 佐紀	琉球大学
P3-065	橋本 徹	森林総研北海道	P1-060	春田 魁登	東京農工大・院・農
P3-050	橋本 啓史	名城大学農学部	P3-101	春間 俊克	筑波大院・生命環境
PH-04	橋本 真諭	立命館慶祥高等学校	P3-051	韓 慶民	森林総合研究所
P2-174	橋本 真理菜	北大・厚岸臨海実験所	P3-167	半田 佳宏	株式会社 生物技研
P3-060	橋本 靖	帯広畜産大環境	PH-45	日浦 響子	北海道北広島高等学校
B01-08	橋本 佳明	兵庫県立大学	U05	日浦 勉	北大・フィールド研
P3-274	橋本 佳延	兵庫県博	P2-007	稗田 真也	滋賀県大環境
C02-03	長谷 和子	SOKENDAI	P2-153	東 悠斗	九州大学
		北海道大学大学院・農学研究院、基盤研究部門、環境資源学専攻、生物生態・体系学講座、動物生態学研究室	P3-242	東出 大志	兵庫県立大学
S18-1	長谷川 英祐	北海道区水産研究所	P3-145	樋口 高志	(株)環境総合テクノス
B01-02	長谷川 功	北大・低温研	P3-138	樋口 裕美子	京大・生態研
P3-046	長谷川 成明	筑波大学・生命環境	P1-132	肥後 悠馬	名古屋大学生命農
P1-236	長谷川 セリ	北海道大学	S08-2	彦坂 幸毅	Tohoku University
P1-172	長谷川 貴章	東北大・理・生物	P2-178	菱 拓雄	九州大
P2-041	長谷川 拓也		T13-3	日鷹 一雅	愛媛大学大学院農学研究科
			H01-05	秀 郁未	Univ. of Tokyo
			P2-239	日室 千尋	沖縄防除技術センタ

講演・ 企画番号	名 前	所 属	講演・ 企画番号	名 前	所 属
		一, 琉球産経株式会社, 琉球大学農学部	P2-050	船木 賢人	弘前大学大学院
D02-07	兵藤 不二夫	岡山大・異分野コア	P3-142	古川 沙央里	京大・生態研
P3-135	平岩 将良	神戸大・人間発達環境	P3-117	古川 拓哉	森林総研
P3-104	平尾 章	筑波大・菅平実験所	P2-031	古川 知代	東北大・生命
P1-043	平尾 陽平	龍谷大・理工	W01	古川 泰人	酪農大
P3-072	平田 聡之	北海道大学 FSC	PH-25	古川 勇気人	北海道稚内高等学校
P3-096	平舘 俊太郎	九州大学	P2-142	古郡 憲洋	新潟大学院
P1-287	平野 和貴	北大・院・環境	PH-03	古田 未来	岐阜県立不破高等学校
S05-4	平野 尚浩	東北大学	G01-01	別所 和博	総合研究大学院大学, JSPS (PD)
P2-148	平野 堯将	清水建設(株)	W21	保坂 健太郎	国立科学博物館
P1-250	平松 栞	新潟大学	T16-4	保坂 哲朗	首都大学東京
U06	平山 大輔	三重大学	P3-225	保坂 哲朗	
P1-136	比留間 光子	東京農工大学	P2-026	星野 雅和	北海道大学
P2-133	廣瀬 未来	東邦大学	P3-016	星野 義延	東京農工大学大学院
P2-280	廣田 峻	東北大学	P2-104	細木 拓也	国立遺伝学研究所
P2-317	廣田 充	筑波大・生命環境系	P2-284	堀田 昌伸	長野県環境保全研究所
W09			P3-113	程木 義邦	京都大学
T01-3	深澤 圭太	国立環境研究所	P1-077	堀内 香穂	首都大・院・理・生命
T10-4	深澤 遊	東北大・農	P2-071	堀家 広樹	京都市芸繊維大学
S01-4	深野 祐也	東京大学大学院農学生 命科学研究科	T16-1	堀越 和夫	小笠原自然文化研究所
T01-4	深谷 肇一	統計数理研究所	J01-06	堀田 淳之介	九州大学
P2-012	福井 俊介	筑波大学/生命環境	P1-262	本多 朝陽	早稲田大・院・先進
P2-140	福井 翔	北大・環境科学	P3-106	本多 美佐季	東京大学大学院
P3-218	福井 眞	早稲田大学	P2-240	本多 里奈	弘前大学大学院・農生
P2-228	福岡 拓也	東大大気海洋研	P3-265	本間 淳	琉球産経(株), 沖縄 病害虫防技セ, 琉球大 学
P1-228	福島 真理子	東大院・農			
T17-2	福島 路生	国立環境研究所	P3-045	本間 航介	新潟大・農
S07-3	福田 知子	三重大学教養教育機構	P1-120	舞田 穂波	北大環境科学院
P1-128	藤井 和也	(株)福田水文センター	P1-218	前川 和也	神戸大・発達
T10-1	藤井 佐織	アムステルダム自由大 学	P1-031	前川 侑子	国際航業(株)
P3-259	藤井 俊夫	人と自然の博物館	W12	前迫 ゆり	大阪産業大・院・人間 環境学研究科
P1-073	藤井 玲於奈	北大院・環境	C02-05	前田 浩児	Univ. of Tokyo
T12-4	藤岡 慧明	Doshisha University	P1-001	前田 大成	石川県立大学
T12-1	藤岡 春菜	University of Tokyo	P3-088	前田 高尚	産業技術総合研究所
PH-22	藤川 丈太郎	立命館慶祥高等学校	P1-277	前田 瑞貴	横浜国大
T11-4	藤木 大介	兵庫県立大学	PH-42	前田 萌絵	清心女子高等学校
P2-119	藤田 琴実	東北大・農	P2-226	前野 浩太郎	国際農研
P1-273	藤田 卓	九州大・理・生物	P2-156	前原 裕	近大院・農・環境管 理, JNPS
P2-289	藤田 卓	日本自然保護協会	P1-150	牧 貴大	筑波大・生物資源
P3-248	藤田 知弘	国立環境研究所	D02-03	蒔田 明史	秋田県立大・生物資源
S07	富士田 裕子	北大・FSC・植物園	P3-198	牧野 渡	東北大・生命科学
T04-1	藤沼 潤一	琉球大・熱生研	P2-116	牧元 鍊太郎	岡山大学 農
P3-125	藤原 道郎	淡路景観園芸兵庫県大	P2-184	正富 欣之	タンチョウリサーチ
P2-168	藤本 真悟	琉球大・戦略センター	P3-206	益子 美由希	国総研
P3-147	藤山 直之	山形大学	P3-021	増井 太樹	岐阜大・流域研
P2-307	藤吉 麗	北海道大学	P3-207	増澤 直	株式会社地域環境計画
P1-152	藤原 有沙	北大・院・環境科学	A02-01	増田 圭佑	大阪大学
S02-6	藤原 一繪	Yokohama City University	P1-261	増田 信悟	早稲田大・院・先進
P2-200	藤原 真己	テキサス農工大	P1-195	益田 拓実	北大・院・水産
P1-068	二村 凌	北大・理	S13-4	増田 隆一	北海道大・理
P1-112	札本 果	京大生態研	P2-223	町田 悟	(株)豊田中央研究所
P1-259	船木 大資	筑波大学大学院	P3-031	松井 淳	奈良教育大学

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
J01-10	松井 彰子	大阪自然史博	P3-099	水野 晃子	名古屋大学・ISEE
P2-183	松井 晋	東海大学生物学部	P3-067	水野 隆文	三重大学院生資
P3-006	松井 哲哉	森林研究・整備機構	T03-3	水元 惟暁	京都大・農
P1-160	松浦 輝	北大・環境科学院	F01-10	水本 寛基	北大・農・動物生態
P1-130	松浦 崇裕	金沢大学	P1-050	水守 裕一	兵庫県大院・シミュ
P2-011	松尾 智成	京大・農・森林生態	P2-235	三高 雄希	京都大学
S05-3	松岡 敬二	豊橋市自然史博物館	P2-169	満尾 世志人	新大 朱鷺・自然再生
P3-112	松岡 俊将	兵庫県大院・シミュ	P3-172	満行 知花	九大・理
P2-067	松岡 達也	東大・農	W15		
A01-12	松崎 慎一郎	国環研・生物生態系 C	P1-246	皆川 まり	京都大学
P2-049	松澤 和史	大阪市立大学・理	P1-125	南 美月	名大生命農・森林保護
P1-210	松重 一輝	九大・院・農	A01-07	南 佳典	玉川大学
I01-06	松下 通也	森林総研・林育セ	P3-098	南野 亮子	岐阜大・流域圏セ
P1-048	松島 慶	京都大学 WRC	W16		
P2-211	松島 野枝	東邦大学理学部	T02-3	源 利文	神戸大学大学院人間発 達環境学研究科
P1-214	松田 亜希子	酪農学園大学	T13-1	嶺田 拓也	農研機構・農村工学研 究部門
P2-045	松田 浩輝	佐賀大・農	P2-058	三原 龍太郎	信州大学大学院
J01-08	松田 裕之	横浜国立大学	P1-247	三村 詩織	信大院・総合理工学
P2-020	松田 悠輔	千葉大・園芸	S01-2	三村 真紀子	玉川大学農学部
PH-35	松永 みなみ	静岡北高等学校	F02-03	宮川 一志	宇都宮大・バイオ
P3-126	松葉 史紗子	海洋研究開発機構	F02-01	宮川 美里	宇都宮大学・バイオ
T07-4	松橋 彩衣子	森林総研	P1-056	宮城 愛夏	沖縄工業高等専門学校
G01-06	松林 圭	九大・基幹教育	U01	三宅 恵子	名古屋大
S06-6	松林 順	海洋研究開発機構	PH-36	三宅 隆裕	奈良教育大学附属中学
P3-052	松久 聖子	神戸大・人間発達環境	PH-14	三宅 遥香	岐阜県高富中／生物部
P1-175	松村 健太郎	岡山大学院環境生命	P3-078	三宅(村山) 恵子	名大・理学研究科
W20			F01-02	宮崎 智史	玉川大学
P2-272	松村 俊和	甲南女子大学	T10-2	宮崎 怜	横浜国大・環境情報
P2-034	松本 哲也	岡山大 院 環境生命	A02-02	宮崎 博之	秋田県大院・生物資源
P3-250	松本 直輝	公立鳥取環境大学	P3-053	宮崎 祐子	岡山大学環境生命科学
P2-277	松本 斉	東大院・農, パルシス テム連合会	P2-245	宮崎 裕也	明大・農
P2-092	松本 真由	京都工芸繊維大学	P1-020	宮澤 真琴	東北大・院・生命
P2-086	松本 洋平	東北大学生命科学	I01-05	宮沢 良行	九大キャンパス計画 室, Univ Hawaii Manoa
P3-090	松山 泰	京大生態研	P3-133	宮下 彩奈	栃木県林業センター
P2-214	真野 浩行	(国研) 産総研	U03	宮下 直	東京大学
P3-190	丸尾 文乃	富山大極東センター	P2-054	宮下 愛美	弘前大・農学生命
P1-080	丸岡 奈津美	東北大院・生命	W20	宮竹 貴久	岡山大
P2-299	丸谷 靖幸	岐阜大学・流域圏セ	D02-04	宮本 和樹	森林総合研究所
P3-177	丸山 敦	龍谷大学	P2-131	宮本 加奈	東京大学大学院
PH-34	三内 悠吾	海城中学高等学校	P2-150	宮脇 真美	鳥取大学農学部
S05-5	三浦 収	高知大学	P1-198	向峯 遼	筑波大・生物
A02-11	三浦 一輝	北大・院・環科科学	P2-075	武藤 公樹	新潟大・自然研
PH-24	三浦 健太郎	海城中学高等学校	S07-5	村井 良徳	国立科学博物館植物研 究部
W24	三木 健	台大・海洋研	P2-059	邑上 夏菜	神戸大・院・人間発達
P2-042	三木田 涼佳	北海道大学理学部	P1-092	村上 純一	東北大・理
D02-11	三島 慎一郎	農環研	P1-227	村上 隆也	石川県立大学大学院
P1-029	三嶋 達郎	岐阜大・応用生物	P2-249	村上 裕	愛媛生物多様性センタ
P1-203	三島 らすな	明大・農	W08		
W06	水澤 玲子	福島大・人文	P1-057	村上 勇樹	首都大学東京
P1-014	水谷 あゆみ	酪農大・農食環境	E01-11	村瀬 偉紀	Nagasaki University
P3-278	水谷 瑞希	信州大・教・志賀施設	W11		
P1-025	水永 優紀	北海道大学			
PH-26	水根 一起	岐阜県立岐山高等学校			

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
P2-250	村田 浩平	東海大学農学部	D01-12	山内 淳	京都大学
P2-073	村田 怜	山形大・理	I02-03	山尾 僚	弘前大学
P3-061	村中 智明	京都大・生態研	P3-263	山川 央	かずさ DNA 研究所
P3-258	村林 宏	日赤北海道看護大学	P2-069	山岸 彩	京都工芸繊維大学
P2-115	村本 大輝	岡山大学 農	P3-018	山岸 洋貴	弘前大 白神研
P3-024	目黒 伸一	国際生態学センター	W01	山北 剛久	JAMSTEC
P2-181	目崎 拓真	黒潮生物研究所	P3-118	山口 高志	北海道立総合研究機構
G02-02	舞木 昭彦	島根大学	E01-08	山口 遥香	北大・環境科学
P3-150	望月 昂	京大生態研	PH-07	山口 広夢	越谷北高等学校
P2-048	望月 潤	東北大学	S09-4	山口 諒	首都大学東京・理工学 研究科
S03	望月 翔太	新潟大・農	P3-022	山崎 理正	京大院・農
P2-015	本江 大樹	筑波大院・生命環境	P1-054	山崎 大志	東北大院・生命
S13-6	百原 新	千葉大・園芸	W25	山崎 嵩拓	東大・都市工
P3-247	森 晃	千葉県多様性センター	P1-147	山崎 遥	信州大・理・生物
T15-4	森 淳	北里大・獣医	P1-038	山地 祥子	信大学・院・農
P2-265	森 さやか	酪農学園大・環境動物	P2-187	山下 晋平	岡大 環境生命
P3-100	森 茂太	山形大学	P3-255	山科 千里	筑波大学
P3-220	森 豊彦	人と自然の共生ネット	P3-017	山瀬 敬太郎	兵庫農技総セ
P1-131	森井 清仁	滋賀県立大学院	P2-180	山田 勝雅	熊本大学
C01-11	森井 悠太	Hiroshima University	P1-187	山田 紗友美	東北大学大学院
P2-270	森口 紗千子	新潟大・農	P1-137	山田 太平	北大院・農
P1-235	守下 克彦	東京農大・院・林学	PH-09	山田 拓海	埼玉県立越谷高等学校
P1-066	森嶋 佳織	東京農工大学大学院	P1-177	山田 寛之	北大・水産・4年
P1-163	守田 安祐美	北大院・水産	P1-212	山田 実里	信州大・農
P3-159	森田 圭吾	近大院農	P2-028	山田 靖子	横浜国大・環境情報
S16-1 W29	森田 健太郎	水産研究・教育機構北 海道区水産研究所	P1-291	山中 椎奈	早稲田大・教育
P3-040	森廣 信子	多摩森林科学園	T02-1	山中 裕樹	龍谷大・理工
P3-222	森本 淳子	北大院農学研究院	P3-272	山野井 貴浩	白鷺大学教育学部
P1-157	森本 祥子	北海道大学環境科学院	S01-3	山道 真人	東京大学大学院総合文 化研究科
P1-206	森本 哲平	神戸大学	S16-4	山村 織生	北海道大学大学院水産 科学研究院
S10-4	森元 良太	北海道医療大	P2-152	山本 彩華	首都大学東京
P3-146	森脇 大樹	東京農業大学	T12-3	山本 誉士	Nagoya University
P1-290	両角 友喜	北海道大学	P3-123	山本 知紗	明大・農
P3-093	門田 有佳子	京都大学	P2-176	山本 智子	鹿児島大・水産
P3-195	矢井田 友暉	神戸大学	G02-08	山本 裕基	長崎大学
W10	八木浩樹	筑波大・生物科学	P1-041	山本 悠人	信州大・農
P2-155	八嶋 桜子	東京大学	A02-04	油田 照秋	新大 朱鷺・自然再生
P1-110 W21	安岡 法子	奈良女子大院	A02-10	袖原 剛	東北大・院・生命
P2-090	安田 柚里	京都工芸繊維大学	P2-032	湯本 原樹	京大・生態研セ
P1-129	矢田部 空弥	北大・院・水産	W22	横井 智之	筑波大・院・保全生態
B02-07	谷内 茂雄	京大生態研	P2-293	横川 昌史	大阪自然史博
P3-245	柳川 亜季	東京工業大学	B01-10	横溝 裕行	国環研
P3-011	柳沢 直	森林文化アカデミー	P3-235	横山 真弓	兵庫県立大学
P1-102	柳澤 海大	新潟大・農	P2-158	横山 雄一	東京大学
P1-171	柳田 ゆきの	千葉大・理	P2-084	吉 鴻一	東京大学・院・理
P2-021	矢野 梓水	千葉大・園芸	P3-231	吉岡 明良	国立環境研究所
P3-203	矢納 早紀子	京大・農・森林生態	P3-155	吉川 徹朗	京都大学
W05	矢原 徹一	九大院理学研究院	P3-154	吉川 正人	東京農工大学
S12-6	藪原 佑樹	徳島大学	P2-109	吉田 琴音	千葉大学
S13-3	矢部 淳	国立科博	P1-009	吉田 幸子	東北大・生命
			S15-3	吉田 丈人	東京大学・地球研
			P3-044	吉田 智弘	東京農工大学

講演・ 企画番号	名前	所属
P2-232	吉田 誠	東大大海研
P2-079	吉田 雅理	京都大学
P2-311	吉竹 晋平	岐阜大・流圏セ
P3-102 W16	吉村 謙一	山形大・農
S18-4	吉村 仁	静岡大学大学院創造科 学技術研究部
B01-07	吉村 正志	OIST
T17-1	米倉 佑亮	横浜国大・環境情報
P1-234	米澤 悟	京大農
P2-275	米村 惣太郎	清水建設(株)
P2-173	米谷 衣代	近大・農学部
P2-260	米山 晃弘	玉川大学 農学部
B01-01	頼末 武史	北大・FSC・厚岸
P1-165	櫛村 祐喜	九州大学 理・生
P2-188	若林 紘子	北海道大学
P3-004	若松 伸彦	横浜国大・環境情報
P1-202	若森 参	京都大 霊長所
P3-035	和久井 彬実	北海道大学
F02-10 W21	和田 哲	北海道大学
T16-6	和田 慎一郎	首都大学東京 大阪市立自然史博物 館, 大阪鳥類研究グル ープ
P3-267	和田 岳	富山大学
B02-02	和田 直也	富山大学
P3-234 W13	渡辺 修	さっぽろ自然調査館
J02-03	渡邊 和希	龍谷大院・理工
S05-2	渡辺 勝敏	京都大学
P3-056	渡邊 謙太	沖縄工業高等専門学校
S18-3	渡邊 紗織	北海道大学大学院、農 学院
P3-008 W26	渡部 俊太郎	京都大・フィールド研
E02-08	渡辺 伸一	Kyoto Univ.
P3-030	渡邊 仁志	岐阜県森林研究所
PH-32	渡部 真衣	愛媛県立今治西高校
P2-157	渡辺 充	北大・地球環境
P2-283	渡部 陽介	清水建設(株)
P1-209	渡辺 黎也	筑波大・生物学類
S03-2	綿貫 豊	北大院・水産
P1-089	我孫子 尚斗	筑波大・院・保全生態
P3-073	王 慶偉	東北大学, 森林総合研 究所

本大会は下記の企業・団体の皆様から、広告・展示協賛、ランチオンフォーラム共催のご協力をいただきました。ここに名前を掲載し、御礼を申し上げます。(敬称略、五十音順)



## 広告

---

株式会社 建設環境研究所  
株式会社 生物技研  
株式会社 地人書館  
株式会社 日本ヴォーグ社  
株式会社 ハイク  
株式会社 ファスマック  
共立出版株式会社  
パナック株式会社  
メイワフォーシス株式会社

## ランチオンフォーラム共催

---

シュプリンガー・ネイチャー

## 展示

---

一般財団法人 東京大学出版会  
一般社団法人 京都大学学術出版会  
一般社団法人 農山漁村文化協会  
株式会社 朝倉書店  
株式会社 海游舎  
株式会社 加速器分析研究所  
株式会社 キウイラボ  
株式会社 紀伊國屋書店 札幌本店  
株式会社 生物技研  
株式会社 ニホン・ミック  
株式会社 ハイク  
株式会社 ファスマック  
株式会社 文一総合出版  
株式会社 ラスポンチャス  
共立出版株式会社  
クリマテック株式会社  
包み屋  
シュプリンガー・ネイチャー  
東海大学出版部  
栃木屋工房  
日本長期生態学研究ネットワーク (JaLTER)  
認定特定非営利活動法人 大阪自然史センター  
パナック株式会社  
有限会社 さくま書店  
ワイリー・ジャパン株式会社

# 66

## 日本生態学会大会（2019年神戸）のご案内

2019年3月15日(金)～19日(火)  
神戸国際会議場  
神戸市中央区港島中町6-9-1

第66回日本生態学会大会は2019年3月15日から19日までの5日間、神戸国際会議場で開催されます。会議場はポートアイランドにあり、神戸の中心・三宮から新交通ポートライナーで約10分です。

港町として発展してきた国際都市・神戸は、和洋中、新旧が融合した独自の文化を育んできました。大阪や京都など、他の関西の都市とは異なる街並みを満喫していただければと思います。日本の三大中華街の一つである南京町や旧居留地、北野の異人館街、神戸ハーバーランドは、某NHK番組よろしく、ぶらぶら歩くのに最適です。標高932mの六甲山も街のすぐ背後にあり、公共交通機関だけでなく、いくつもの登山ルートがあってアクセスにも恵まれています。少し足を延ばせば、六甲山北側の田園景観を楽しめ、神戸の奥座敷と言われる有馬温泉でゆっくりすることもできます。

神戸といえば高価な神戸牛が有名ですが、パンや洋菓子、コーヒーなど、ひと味違う名品が楽しめます。灘の酒蔵めぐりも日本酒ファンには楽しみかも知れません。

第66回日本生態学会大会は兵庫県下の会員で大会実行委員会を結成し、大会企画委員会と協力して充実した大会になるよう準備を進めております。昨年話題になったヒアリなど、外来種の問題についての公開講演会も企画中です。皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

大会会長 角野康郎  
大会実行委員長 丑丸敦史

### To join the Ecological Society of Japan, please contact the ESJ office:

358-5, Yamabuki-cho Shinjuku-ku, Tokyo 162-0801, Japan  
Email: esj-post@bunken.co.jp Tel: +81-3-5937-2721

The annual fee for an individual, due on 1 January, regular member is 9,500 JPY and student member is 6,500 JPY.  
Consult with the ESJ web site  
<<http://www.esj.ne.jp/esj/English/join.html>> for details.

### 一般社団法人 日本生態学会 入会・会誌購読案内

会費は前納制で、学会の会計年度は1月～12月です。新規入会希望の方は下記ウェブサイトより入会申し込みの後、次の口座にお振込み下さい。退会のお届けのない限り、基本的に入会は継続となります。学会誌購読希望の方はウェブサイトよりご連絡ください。

郵便振替口座番号 01070-6-19256 口座名：一般社団法人日本生態学会

#### 区分と会費・購読費

正会員●一般9500円・学生6500円

冊子体配布の追加費用●日本生態学会誌600円・Ecological Research8000円・保全生態学研究2000円  
(※保全生態学研究的のオンライン購読は発行の2年後から可能です。最新号は冊子体で購読して下さい)

年間購読●各和文誌配布（大会講演発表は不可）生態誌9000円 保全誌5000円

詳細については下記ウェブサイトの入会案内をご覧ください。

一般社団法人 日本生態学会事務局 会員業務窓口

〒162-0801東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター  
TEL&FAX: 03-5937-2721 <http://www.esj.ne.jp/esj/Nyukai.html>

# 日本生態学会 大会企画委員会 (○は部会長)

- 委員長 長： 山本智子(鹿児島大)
- 副委員長 長： 土居秀幸(兵庫県立大)
- 大会運営部会： ○小池伸介(東京農工大)、幸田良介(大阪環農水研)、竹中明夫(国立環境研)、田邊晶史(神戸大)、直江将司(森林総研)、關義和(玉川大)、立木祐弥(京都大)、中川弥智子(名古屋大)、長谷川成明(北海道大)、末次健司(神戸大)、陶山佳久(東北大)、岸本(莫)文紅(農環研)
- 発表編成部会： ○小泉逸郎(北海道大)、下野綾子(東邦大)、吉岡明良(国立環境研)、西廣淳(東邦大)、土松隆志(千葉大)、福井大(東京大)、北西滋(大分大)
- シンポジウム部会： ○加茂将史(産総研)、吉田勝彦(国立環境研)、東樹宏和(京都大)、及川真平(茨城大)、熊野了州(帯広畜産大)、佐藤拓哉(神戸大)、清野達之(筑波大)、若松伸彦(東京農業大)、上田実希(岩手大)、小柳知代(東京学芸大)、西嶋翔太(中央水研)、伊藤江利子(森林総研)、川西亮太(北海道大)、境優(中央大)
- ポスター一部会： ○池田紘士(弘前大)、近藤美由紀(国立環境研)、小口理一(東北大)、永松大(鳥取大)、岡本朋子(岐阜大)、加藤知道(北海道大)、野田響(国立環境研)、北條賢(関西学院大)、赤坂宗光(東京農工大)、伊藤健彦(鳥取大)、末次健司(神戸大)、竹内勇一(富山大)、内海俊介(北海道大)
- 高校生ポスター一部会： ○栗和田隆(鹿児島大)、水澤玲子(福島大)、深澤遊(東北大)、小口理一(東北大)、山村靖夫(茨城大)、内海俊介(北海道大)、宮田理恵(神戸女学院中・高)、三宅崇(岐阜大)、岡本朋子(岐阜大)、栗山武夫(兵庫県立大)、馬場友希(農研機構)、高原輝彦(島根大)、細将貴(京都大)、高橋佑磨(千葉大)、塩尻かおり(龍谷大)
- 英語口頭発表部会(WG)： ○仲澤剛史(国立成功大)、黒川紘子(森林総研)、韓慶民(森林総研)、杉浦真治(神戸大)、前野ウルド浩太郎(JIRCAS)、彦坂幸毅(東北大)、潮雅之(科学技術振興機構/京都大)、飯田佳子(森林総研)、石川尚人(海洋研究開発機構)

# 日本生態学会 第65回大会実行委員会

- 大会会長 長： 日浦勉(北海道大)
- 大会実行委員 長： 工藤岳(北海道大)
- 事務補佐 長： 谷川真弓子
- 会 計： 中路達郎(北海道大)
- プログラム 長： 小泉逸郎(北海道大)、川西亮太(北海道大)
- 会 場： 野田隆史(北海道大)、伊藤江利子(森林総研)、関剛(森林総研)、根岸淳二郎(北海道大)
- ポスター発表 長： 内海俊介(北海道大)、加藤知道(北海道大)
- 広 報： 岸田治(北海道大)、永光輝義(森林総研)
- 受 付： 小野清美(北海道大)、隅田明洋(北海道大)、大館智志(北海道大)
- ク ロ ー ク： 滝谷美香(道総研)、速水将人(道総研)
- 公開講演会 長： 小林真(北海道大)、石塚航(道総研)、木塚俊和(道総研)
- 懇 親 会： 柴田英昭(北海道大)、石橋靖幸(森林総研)
- 託 児 室： 森本淳子(北海道大)
- アルバイト 長： 高木昌興(北海道大)、荒木仁志(北海道大)
- ウ エ ブ： 長谷川成明(北海道大)
- 危機管理 長： 日浦勉(北海道大)、工藤岳(北海道大)
- アドバイザー 長： 齊藤隆(北海道大)
- プログラム表紙デザイン： 小泉絢花

## 第65回日本生態学会大会プログラム

2018年1月31日発行

編集・発行 ● 日本生態学会大会企画委員会

〒603-8148 京都市北区小山西花池町1-8 一般社団法人日本生態学会内

TEL&FAX: 075-384-0250

<http://www.esj.ne.jp/esj/>

印刷・製本 ● (株) 国際文献社

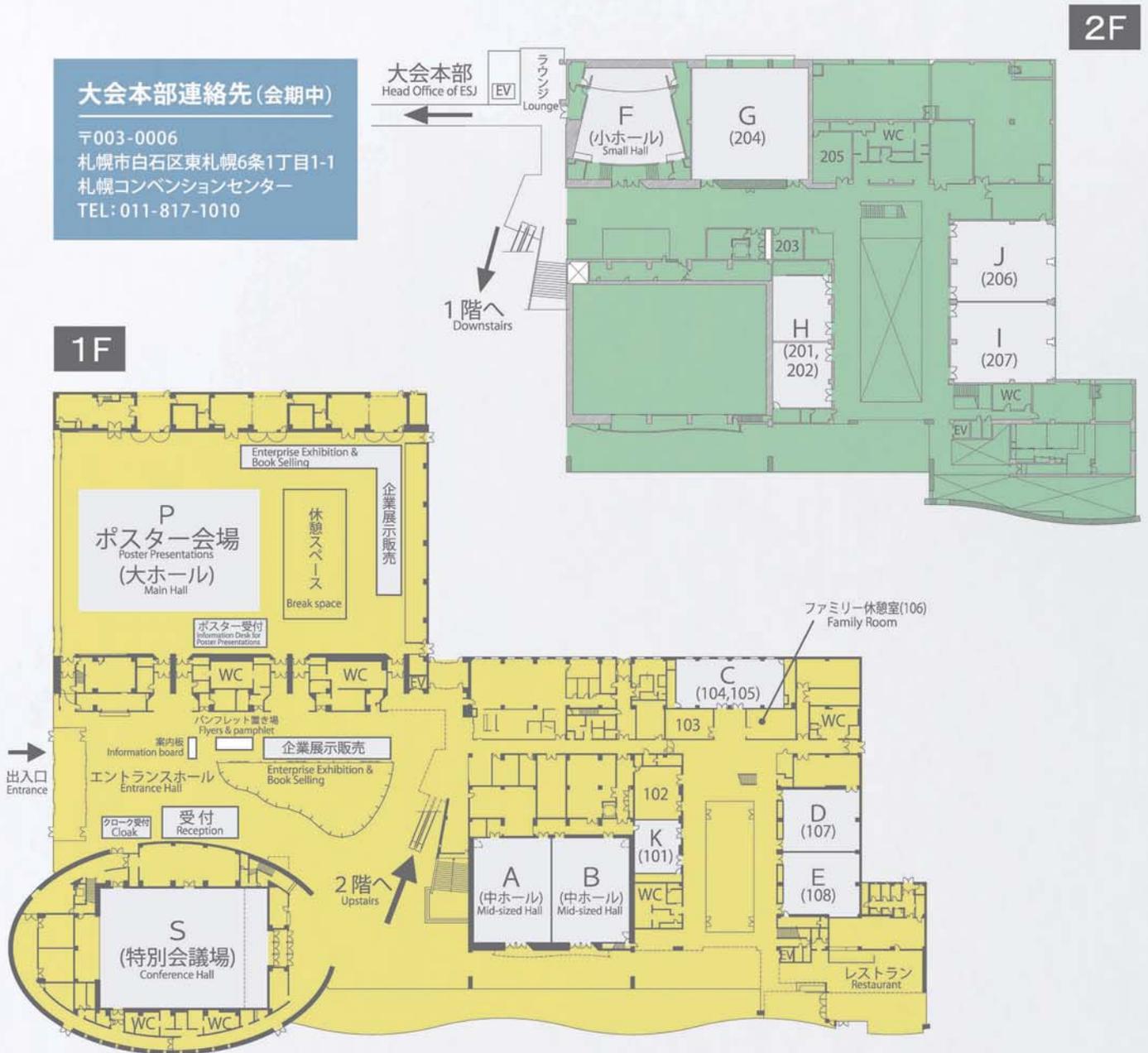
〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5

TEL: 03-3362-9743



Sapporo Convention Center Floor Map

札幌コンベンションセンター会場案内図



第65回日本生態学会大会実行委員会

大会会長：日浦 勉 (北海道大学)

実行委員長：工藤 岳 (北海道大学)

大会公式ホームページ：<http://www.esj.ne.jp/meeting/65/>

本大会に関するお問い合わせは、大会公式ホームページの「問い合わせページ」からお願いします。

Please send your inquiry to the Organizing Committee of the ESJ65

via the "inquiry page" in the official website: <http://www.esj.ne.jp/meeting/65/>.



# 環境DNA解析

水中を泳ぐ生物から分泌される体液や鱗、排せつされる糞便由来の「環境DNA」を解析することが近年可能になり、注目を集めています。生物技研では次世代シーケンサーとリアルタイムPCRを用いて高解像度での解析を行い、環境サンプルに含まれている生物の痕跡を見つけ出します。



どんな生物がいるかな？

## 網羅的解析

40,000円/サンプル(税別)

＜解析例＞動物、魚類、哺乳類、節足動物、鳥類、有尾目、線虫など



この生物はいるかな？

## 種特異的解析

35,000円/サンプル(税別)

＜解析例＞アユ、ブルーギル、オオクチバス、オオサンショウウオ、ヤマメなど

### サービスの特徴

- ・水のろ過から承っています。
- ・1サンプルからOK!
- ・魚類以外に、哺乳類や節足動物、鳥類、有尾目なども可能。

# 野生生物の食性解析

糞や胃内容物に含まれる「餌生物由来のDNA」を解析することで、餌生物を推定します。糞などに含まれているDNAは宿主由来のDNAが圧倒的に多いため、弊社では宿主由来の増幅を抑制するブロッキングする方法を生物種ごとにご用意します。これを用いると餌生物由来のリードの割合が飛躍的に向上し、より信頼性の高いデータが得られます。

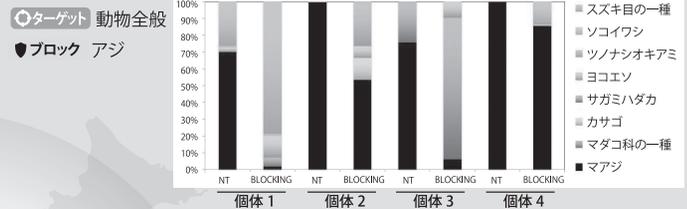
## 解析

40,000円/サンプル(税別)

ブロッキングプライマーの設計・合成  
20,000円/生物種(税別)



＜解析例＞アジの餌生物の推定



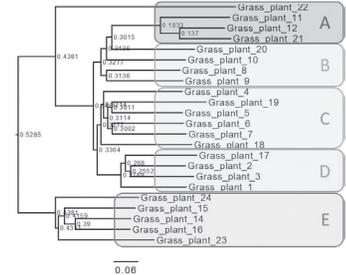
スーパーで購入したアジの内臓を用いて、食性解析を行いました。検出された生物由来のリード数を棒グラフで示したものです。

どんどんサービスアップ中!

# 生物調査に活用できるDNA解析

＜解析例＞植物の地域個体群を解析

【系統発生解析】



## 価格例

48サンプルの場合 500,000円(税別) @10,417円

96サンプルの場合 800,000円(税別) @8,333円

塩基多型を検出し、得られたSNPマーカーを用いて、系統発生解析を行います。

解析内容(目的や対象生物、サンプル数など)をお知らせください。最適なプランをご提案いたします。

### サービスの特徴

次世代シーケンス解析による種同定を行っています。



従来のサンガー法では同定困難だった、野生生物の糞便のような複雑なサンプルにおいても種同定が可能です。

## 解析

10,000円/サンプル(税別)

系統樹の作成  
30,000円/回(税別)

＜解析例＞

- ・魚類の卵稚仔の種同定
- ・タナゴ属とバラタナゴ属の種同定(サンプル:ヒレ)
- ・スナヤツメの北方・南方種の判別(サンプル:ヒレ)
- ・イタチ属の種同定(サンプル:糞)
- ・魚粉に使われている魚の種同定
- ・トノサマガエルとトウキョウダルマガエルの判別



# MIG-seq解析

# 生物種の同定

弊社は、次世代シーケンス解析をコア技術として、大学や公的研究機関、民間企業を顧客としたDNA解析サービスを提供している会社です。DNAの抽出からデータの解析まで自社で行っていますので、総合的な技術力に自信があります。

生態学会に出展していますので、お気軽にお立ち寄りください。

株式会社 生物技研

〒243-0022 神奈川県厚木市酒井 3068 天幸第7ビル5階  
TEL 046-280-4118 FAX 046-280-4148  
＜見積り依頼・お問合せ＞ dna@gikenbio.com



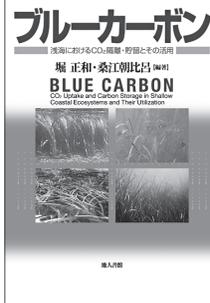
www.gikenbio.com

大好評発売中!

# ブルーカーボン

—浅海におけるCO<sub>2</sub>隔離・貯留とその活用

堀正和・桑江朝比呂 編著  
A5判 / 276頁 / 本体3200円

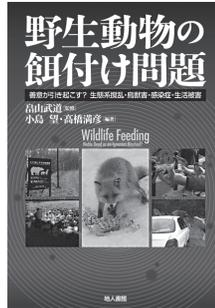


2009年、国連環境計画(UNEP)は、海草などの海洋生物によって海中に取り込まれる炭素を「ブルーカーボン」と名づけた。近年、日本沿岸のアマモ場などが二酸化炭素の吸収源であること、海底砂泥で数千年もの間、有機物が分解されずに貯留されることなどが解明されつつあり、ブルーカーボンへの期待が高まっている。本書は二酸化炭素が大気から取り込まれ堆積物となるまでの物理化学的・生物学的プロセス、社会実装の実例、国際社会への展開までを報告。

# 野生動物の餌付け問題

—善意が引き起こす? 生態系攪乱・鳥獣害・感染症・生活被害  
Wildlife Feeding—Noble Deed or an Ignorant Mischief?

島山武道 監修  
小島望・高橋満彦 編著  
A5判 / 336頁 / 本体3500円



野生動物への餌付け行為は、個人の趣味やモラルの問題とされてきたが、近年、餌付け行為は野生動物を人間の生活圏へ接近させ、感染症の蔓延や動物の行動変化、鳥獣害などの様々な問題を引き起こす原因となってきた。本書は餌付けが起こした問題事例を集め、自然環境のみならず人間社会への影響についても議論を行い、餌付け規制への取組みと展望を述べる。「無秩序な餌付けは社会問題である」との共通認識にまで高めようとする画期的な書。

# アリを操る植物、アカメガシワ

—あなたの隣の密かな策略家  
(仮題)

山尾僚 著 / 四六判 / 頁数・価格未定

開けた場所にいち早く生える「パイオニア植物」として知られるアカメガシワ。昔から日本人の身近に生育し、民間薬や健康茶として利用されてきたが、今一つマイナーで認知度は低い。そんなアカメガシワの葉にたかるアリに興味を持ち、研究テーマとした著者は、観察と実験から、アカメガシワがアリを利用しながら自分の身を守っている様子を明らかにしていく。葉の縁にある蜜腺から出る蜜でアリを誘引し、集まったアリは葉の上をパトロールさせられ、蛾の幼虫などの植食者を攻撃するボディーガードとしてしまう。さらに、自身が生育している環境条件や成長段階に応じて、自分の身の守り方を柔軟に変えているらしい。ローテク研究が次々に明らかにしたアカメガシワのユニークで意外な生態を紹介。

# カッコウの托卵

—進化論的だましのテクニク

ニック・デイヴィス 著 / 中村浩志・永山淳子 訳  
四六判 / 344頁 / 本体2800円

カッコウによる托卵はアリストテレスの時代から知られているが、その詳細については写真やハイテク機器を用いて個体の同定や追跡、巣内の観察が行われる最近まで不明だった。観察方法の進歩につれ、どのように托卵し、それに対し宿主がどのように托卵を回避するか、共進化の様相が明らかになってきた。宿主の防衛をすり抜け、托卵し、宿主の気を引き、自分の雛を養わせるために、カッコウはどのようなテクニクを用いるのか。

## 海と湖の貧栄養化問題

水清ければ魚棲まず  
山本民次・花里孝幸 編著  
A5判 / 208頁 / 本体2400円

## 深海魚のレシピ

釣って、拾って、食べてみた  
平坂寛 著  
四六判 / 192頁 / 本体2000円

## 外来魚のレシピ

捕って、さばいて、食べてみた  
平坂寛 著  
四六判 / 212頁 / 本体2000円

## 鮭鱈鱒鮭 食べる魚の未来

最後に残った天然食料資源と養殖漁業への提言  
ポール・グリーンバーク 著 / 夏野徹也 訳  
四六判 / 352頁 / 本体2400円

## ミジンコ先生の水環境ゼミ

生態学から環境問題を視る  
花里孝幸 著 / 四六判 / 272頁 / 本体2000円

## 世界自然遺産と生物多様性保全

吉田正人 著 / A5判 / 272頁 / 本体2800円

## ダム湖の中で起こること

ダム問題の議論のために  
村上哲生 著 / 四六判 / 208頁 / 本体1800円

## 川と湖を見る・知る・探る

陸水学入門  
日本陸水学会 編 / 村上哲生・花里孝幸・吉岡崇仁・森和紀・小倉紀雄 監修  
A5判 / 204頁 / 本体2400円

## テントウムシの島めぐり

ゲッチョ先生の楽園昆虫記  
盛口満 著  
四六判 / 232頁 / 本体2000円

## 唐沢流 自然観察の愉しみ方

自然を見る目が一変する  
唐沢孝一 著  
四六判 / 200頁 / 本体1800円

## パラサイト

寄生虫の自然史と社会史  
ローズマリー・ドリスデル 著 / 神山恒夫・永山淳子 訳  
四六判 / 376頁 / 本体2600円

## 樹木葬和尚の自然再生

久保川イーハトブ世界への誘い  
千坂崎峰 著 / 四六判 / 196頁 / 本体1800円

## ミジンコ先生の諏訪湖学

水質汚濁問題を克服した湖  
花里孝幸 著 / 四六判 / 224頁 / 本体2000円

## 野生との共存

行動する動物園と大学  
羽山伸一・土居利光・成島悦雄 編著 / A5判 / 160頁 / 本体1800円

## 残しておきたいふるさとの野草

稲垣栄洋 著 / 三上修 絵 / 四六判 / 240頁 / 本体1800円

## 海はめぐる

人と生命を支える海の科学  
日本海洋学会 編 / A5判 / 232頁 / 本体3200円

●大会期間中、さくま書店にて、特別割引価格で販売中!

〒162-0835  
東京都新宿区中町15番地  
TEL 03-3235-4422  
FAX 03-3235-8984

# 地人書館

※価格は税別価格です。  
郵便振替 00160-6-1532  
http://www.chijinshokan.co.jp

Botanical  
x  
Display

## 植物標本

Botanical Specimen

### スターターキット

Starter Kit

最大 300×230 mmサイズの  
植物標本が一度に5個つくれるキットです。  
何度でも繰り返し使えます。

2017年12月1日新発売

希望小売価格 ¥6,400 (税別)



Botanical  
x  
Display

## 植物標本

Botanical Specimen

### シリンダーディスプレイキット

Cylinder Display Kit

シリンダーに専用硬化樹脂を  
流し込んでつくる  
試験管風ディスプレイキット。  
2本つくれます。

2017年12月1日新発売

希望小売価格 ¥5,400 (税別)

<http://www.plantart.jp/botanicaldisplay>

数量をまとめてのご注文に関しましては卸価格がございます。お気軽にお問い合わせください。



日本ヴォーグ社

〒164-8705 東京都中野区弥生町 5-6-11 株式会社 日本ヴォーグ社  
TEL:03-3383-0659 FAX:03-3383-0672 (受付時間 9:30 ~ 18:00 土日祝休)  
MAIL:plantart@plantart.jp

商品についての詳細は  
専用サイトをご覧ください

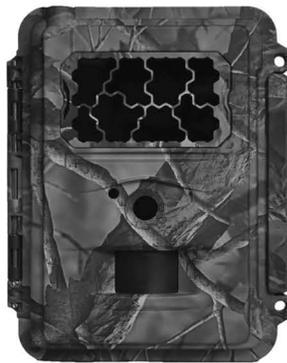


## ハイカム 自動撮影カメラ

単3電池12本で動作するハイカム SP2は1200万画素の静止画、フルHD動画を撮影できる自動撮影カメラです。動体検知によるセンサー撮影および設定した間隔で定時撮影するタイムラプス撮影で静止画・動画を記録します。夜間も赤外線照射が目に見えにくいノーグローモデルで明るい映像を撮影することができます。

### ハイカム SP2

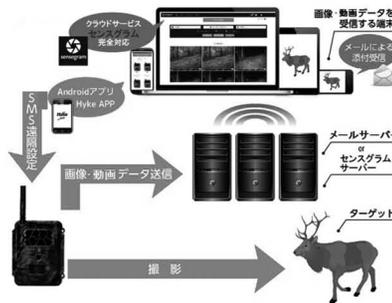
フルHD動画  
1200万画素静止画  
0.65秒トリガー  
2秒リカバリー  
ノーグロー  
静止画+動画モード  
タイムラプス  
2通りスケジュール



## ハイカム SP4G IoT自動撮影カメラ

ハイカム SP4Gは高速通信モジュールを搭載し、NTT ドコモ Fomaサービスエリア内であれば静止画・動画を遠隔送信することができます ※要 SIM 契約

最長 30 秒間動画を  
センスグラムやメールで送信  
高速通信モジュール搭載  
フル HD 動画撮影  
1200 万画素  
トリガー 0.65 秒、  
リカバリー 2 秒  
さらにファームウェアに  
より「進化する」



### Sensegram(センスグラム)

画像も動画もクラウド上で再生、コピー、保存、消去。他のユーザーとの共有、グループ化、組織化(Pro版)まで。プランは業務規模に応じて3つから選択できます。クラウドの特徴を生かしたカメラ、データ管理をオンライン上でいつでも、どこでも、見たい時に、見たい画像だけ

用途に応じて選べる4プラン  
＜無料トライアル＞

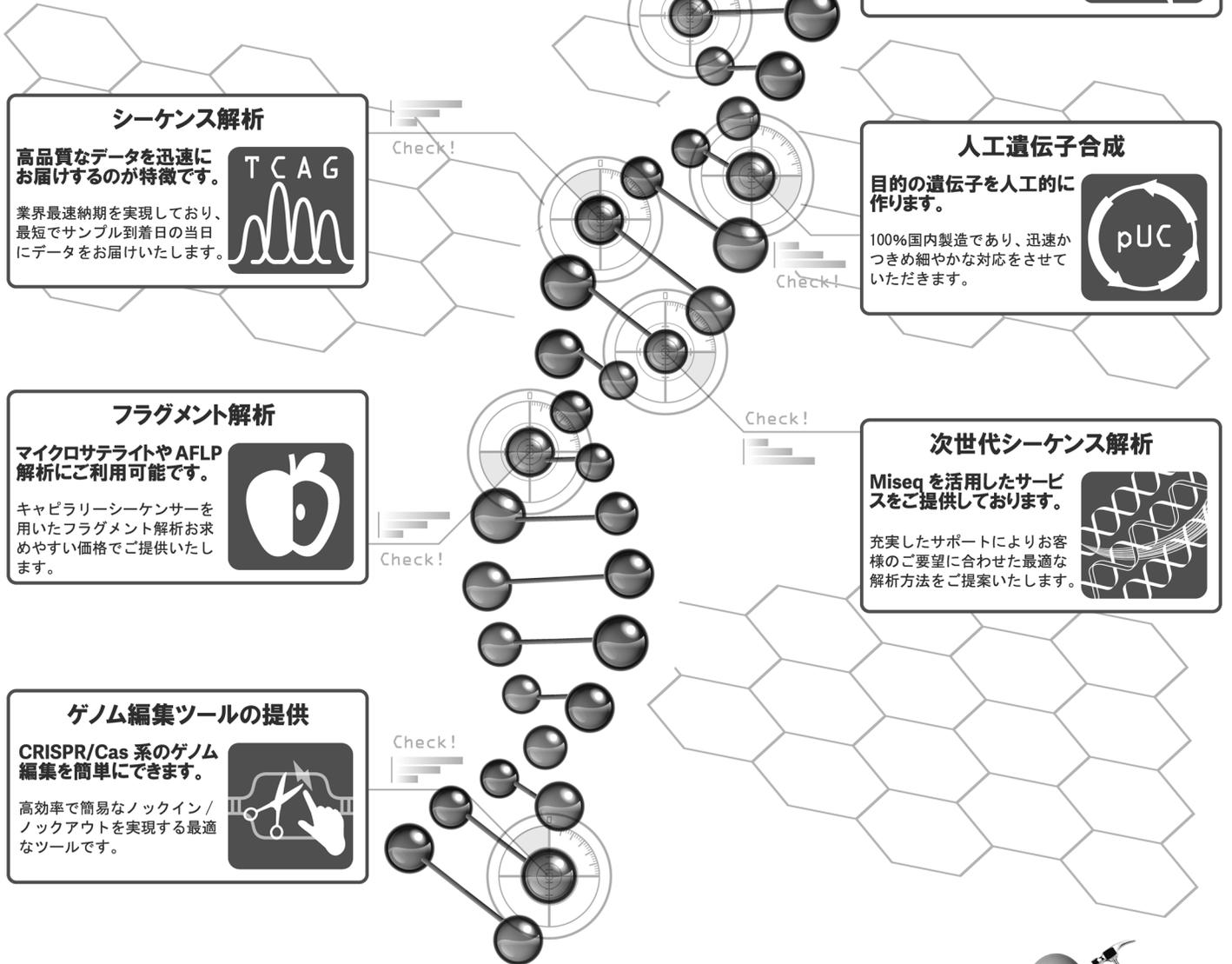
＜Basicプラン 6000円/年＞ カメラ1台および画像100枚を管理	＜Premiumプラン 18000円/年＞ カメラ10台および画像5000枚を管理	＜Superプラン 36000円/年＞ カメラ100台および画像15000枚を管理
---	--	--

全ての機能を3ヶ月間無料でお試しください

詳細は [ハイクストア](#) で検索

# 私たちはこんなことやっています。 今抱えている課題を私たちと解決しませんか？

お客様のお仕事の一部を承ることにより、  
お客様により早く、より良い成果を得ていただくことが、  
ファスマックの使命と考えております。



**シーケンス解析**

高品質なデータを迅速にお届けするのが特徴です。

TCAG

業界最速納期を実現しており、最短でサンプル到着日の当日にデータをお届けいたします。

**フラグメント解析**

マイクロサテライトやAFLP解析にご利用可能です。

キャピラリーシーケンサーを用いたフラグメント解析お求めやすい価格でご提供いたします。

**ゲノム編集ツールの提供**

CRISPR/Cas 系のゲノム編集を簡単にできます。

高効率で簡易なノックイン/ノックアウトを実現する最適なツールです。

**オリゴDNA・RNA合成**

徹底した品質管理を行っております。

1本1本がオーダーメイドである受託合成に必要なシステムを自社開発しております。

**人工遺伝子合成**

目的の遺伝子を人工的に作ります。

100%国内製造であり、迅速かつきめ細やかな対応をさせていただきます。

pUC

**次世代シーケンス解析**

Miseqを活用したサービスをご提供しております。

充実したサポートによりお客様のご要望に合わせた最適な解析方法をご提案いたします。

私たちのサービスは、  
あなたの発想から生まれます。

**YOU × FASMAC =**



詳しいサービス情報はWebで

FASMAC

<http://www.fasmac.co.jp>

**株式会社ファスマック**

バイオ研究支援事業部

神奈川県厚木市岡田ケーオービルA棟4階

TEL 046-281-9901

Email customersupport@fasmac.co.jp



次世代に残す11冊の教科書！ 新進気鋭の生態学者が考える生態学の体系をシリーズ化！！



# シリーズ現代の生態学

日本生態学会 [編] / 全11巻



今日の生態学に求められる学術的・社会的ニーズはきわめて高く、かつ多様化している。これらのニーズに応えるべく、多様化する生態学の第一線で活躍している研究者を執筆陣に迎えた教科書シリーズとして企画した。時代を越えて変わらない普遍的な生態学原理から、近年めざましく発展した新しい分野までを大きくまとめ、さらなる生態学の普及と啓蒙を推進する。単に最新の知見を網羅するのではなく、研究の基盤となる原理から重要な研究が着想されるに至った経緯までを分かり易く解説することを目指す。現在における生態学の中心的な動向をスナップショット的に切り取り、今後の方向性を探る道標としての役割を果たすシリーズである。

各巻：A5判・並製・税別価格(価格は変更される場合がございます)

## ① 集団生物学

担当編集委員：巖佐 庸・館田英典 生物の人口論／適応戦略／系統と進化／生態系と群集／他……404頁・本体3,600円

## ② 地球環境変動の生態学

担当編集委員：原 登志彦 地球環境変動と陸域生態系／陸域生態系研究における現地観測／他……296頁・本体3,400円

## ③ 人間活動と生態系

担当編集委員：森田健太郎・池田浩明 人間活動の歴史／生物多様性の危機／都市の自然環境／他……270頁・本体3,400円

## ④ 生態学と社会科学の接点

担当編集委員：佐竹暁子・巖佐 庸 生物の適応戦略と協力／環境問題解決の考え方／他……216頁・本体3,200円

## ⑤ 行動生態学

担当編集委員：沓掛展之・古賀庸憲 行動生態学の基礎／社会行動／信号・コミュニケーション／他 292頁・本体3,400円

## ⑥ 感染症の生態学

担当編集委員：川端善一郎・吉田丈人・古賀庸憲・鏡味麻衣子 基礎知識／感染症事例／対策と管理／他 380頁・本体3,600円

## ⑦ エコゲノミクス—遺伝子からみた適応—

担当編集委員：森長真一・工藤 洋 遺伝変異と適応研究／適応遺伝子の探索／他……322頁・本体3,400円

## ⑧ 森林生態学

担当編集委員：正木 隆・相場慎一郎 森林の分布と環境／森林の分布と気候変動／他……316頁・本体3,400円

## ⑨ 淡水生態学のフロンティア

担当編集委員：吉田丈人・鏡味麻衣子・加藤元海 淡水における空間個体群動態／河川の炭素循環／他 290頁・本体3,400円

## ⑩ 海洋生態学

担当編集委員：津田 敦・森田健太郎 海洋生態学への招待／海洋生物の多様性／海中生態系／他……324頁・本体3,400円

## ⑪ 微生物の生態学

担当編集委員：大園享司・鏡味麻衣子 微生物生態学の基礎知識／微生物の多様性／他……276頁・本体3,000円

## 生態学フィールド調査法シリーズ

占部城太郎・日浦 勉・辻 和希 [編]

本シリーズは個体から生態系までを対象に、最新のフィールド調査法とその分析・解析手法を、学生や研究者のみならずコンサルタントや技術者等、生態学に携わる多くの読者へ向けて丁寧に解説する。読者がそれぞれの立場で生態学の多様な現象を深く捉え、正しく理解していくための道しるべとなるだろう。

1. 森林集水域の物質循環調査法  
柴田英昭著……120頁・本体2,000円
2. 送粉生態学調査法  
酒井章子著……124頁・本体2,000円
3. 植物群集の構造と多様性の解析  
佐々木雄大・小山明日香・小柳知代・古川拓哉・内田 圭著……224頁・本体3,000円

4. 植物の光合成・物質生産の測定とモデリング  
彦坂幸毅著……144頁・本体2,000円
5. DNA情報で生態系を読み解く—環境DNA・大規模群集調査・生態ネットワーク—  
東樹宏和著……224頁・本体2,800円
6. 安定同位体を用いた餌資源・食物網調査法  
土居秀幸・兵藤不二夫・石川尚人著……162頁・本体2,200円
7. 海鳥のモニタリング調査法  
綿貫 豊・高橋晃周著……162頁・本体2,200円
8. 動物-植物相互作用調査法  
内海俊介・中村誠宏著……154頁・本体2,200円
9. 大型陸上哺乳類の調査法  
小池伸介・山崎晃司・梶 光一著……186頁・本体2,600円

【各巻：A5判・並製・税別価格・以下続刊】

〒112-0006 東京都文京区小日向4-6-19  
TEL.03-3947-2511/FAX.03-3947-2539

共立出版

<http://www.kyoritsu-pub.co.jp/>  
<https://www.facebook.com/kyoritsu.pub>

# 光合成を「正確」に測定するための、 完成されたシステム

## ● 完全自在制御 ●

葉温度、湿度、CO<sub>2</sub>濃度、光強度

## ● 同時測定 ●

同一面積でのガス交換とクロロフィル  
蛍光を同時測定



LI-6800  
植物光合成総合解析システム

## LI-6800用アクセサリ続々新登場!!

**NEW** 6800-03

大型RGBW光源チャンバー

直径7cmで、赤・緑・青・白の  
4色のLEDを搭載。



**NEW** 6800-17L

個体光合成測定チャンバー

高さ3.5cmまでの小型個体植物全般の光合成計測が可能。



**NEW** 6800-24L

苔光合成測定チャンバー

苔類のガス交換速度の解析が可能。



◆ 針葉樹光合成測定チャンバー ◆ 土壌呼吸測定チャンバーもございます。

meiwafosis.com

メイワフォーシス 株式会社

東京

TEL (03) 5379-0051 メール infot@meiwanet.co.jp  
〒160-0022 新宿区新宿1-14-2 KI御苑前ビル

名古屋

TEL (052) 686-4794 メール infon@meiwanet.co.jp  
〒464-0075 名古屋市千種区内山3-10-18 PPビル

大阪

TEL (06) 6674-2222 メール infoh@meiwanet.co.jp  
〒558-0047 大阪市住吉区千株2-4-25

仙台

TEL (022) 218-0560 メール infos@meiwanet.co.jp  
〒981-3133 仙台市泉区泉中央3-4-1



水 生生物調査



自 動カメラによる営巣調査

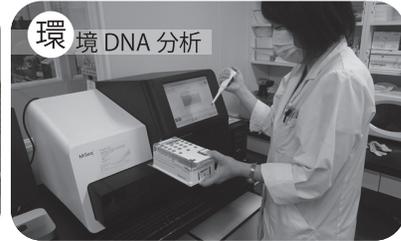


再 生可能エネルギー・環境アセスメント

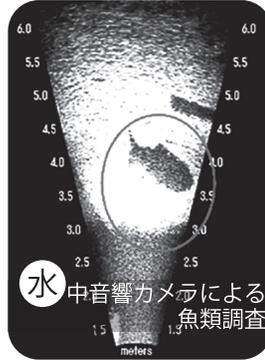
「自然と共生」をテーマに豊富な経験と最新のテクノロジーのもと未来へつなげます。



ドローンを使った調査



環 境 DNA 分析



水 中音響カメラによる魚類調査



コウノトリ野生復帰に係る取り組みの広がり  
分析と評価

地 方創生と自然再生



ヒアリの緊急対策

WANTED ヒアリ  
外来種対策



鳥 獣害対策

株式会社  
**建設環境研究所**  
Civil Engineering & Eco-Technology Consultants Co., Ltd.  
〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2-23-2 03-3988-1818  
<https://www.kensetsukankyo.co.jp/> FAX 03-3988-2018

国際特許取得済 機能性フィルム「プロガード®」  
**標本 専用 保管袋** ドイツ型標本箱用  
インロー型標本箱用

# ARCHIVE KEEPER

アーカイブキーパー  
MADE IN JAPAN



大切な標本を守ります。 標本箱をそのまま保管袋に入れるだけ!  
脱酸素状態にすることで簡易燻蒸も可能!



**防虫剤不要**  
健康被害の心配が高いナフタレン不要  
UVカット機能付き

- 害虫
- カビ
- 湿気
- 変色

販売元: パナック株式会社 〒108-0014 東京都港区芝5-31-19 オーエックス田町ビル / TEL. 03-5442-8761 / [proguard@panac.co.jp](mailto:proguard@panac.co.jp)  
製造元: ジェイケミカル株式会社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-6 日健総本社ビル3階 / TEL.03-3868-6100 / [info@j-chemical.jp](mailto:info@j-chemical.jp)